

令和 3 年度

人権に関する県民意識調査報告書

令和 4 年(2022 年) 3 月

滋 賀 県

はじめに

滋賀県では、平成 13 年(2001 年)4 月に「滋賀県人権尊重の社会づくり条例」を施行し、すべての人の人権が尊重される豊かな社会の実現をめざして、人権意識の高揚を図るための教育・啓発をはじめとする様々な人権施策を推進しています。

近年、社会情勢が急速に変化する中で人々の価値観や生き方も多様化し、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題（部落差別）、外国人、患者、犯罪被害者等にかかる人権課題に加え、性の多様性（性的指向・性自認）に関わる問題やインターネット・SNS 上の誹謗中傷、ヘイトスピーチなど、人権課題もますます複雑化・多様化しています。

また、令和 2 年（2020 年）から国内においても感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に関しても、感染者等への誹謗中傷などの様々な人権侵害の発生が大きな問題となっています。

このたび、県民の皆様の人権に関する考え方を把握し、人権教育・啓発をはじめとする今後の人権に関する施策を推進する上での基礎資料とするため、「人権に関する県民意識調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

調査の内容は、これまでの調査と同様に、人権全般および人権の個別分野に関する幅広い内容としていますが、過去の調査結果と比較するための設問だけでなく、最近の課題や施策動向を踏まえたものとしています。

この調査結果が、人権が尊重される社会の実現に向けて、各方面でも御活用いただけることを願っています。

おわりに、調査に御協力いただきました県民の皆様や関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

令和 4 年(2022 年)3 月

滋賀県総合企画部

目次

I. 調査概要	1
1. 調査の概要	1
2. 報告書を読む際の留意点	2
3. 回答者の属性について	4
II. 調査結果	6
1. 人権についての考え方	6
(1) 「人権が尊重される」ということについて	6
(2) 滋賀県における人権尊重の状況	8
(3) 人権に関わる法律や条例について	10
2. 人権侵害を受けた経験および対応	16
(1) 人権侵害を受けた経験	16
(2) 人権侵害を受けた場面	18
(3) 人権侵害を受けた内容	20
(4) 人権侵害を受けたときの対応	22
3. 人権侵害を見聞きした経験および対応	24
(1) 人権侵害を見聞きした経験	24
(2) 人権侵害を見聞きしたときの対応	26
4. 人権の個別分野ごとの課題	28
(1) 女性の人権について	28
(2) 子どもの人権について	30
(3) 高齢者の人権について	32
(4) 障害者の人権について	34
(5) 外国人の人権について	36
(6) ヘイトスピーチについて	38
(7) エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について	40
(8) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について	42
(9) 医療の現場における患者の人権について	44
(10) 犯罪被害者等の人権について	46
(11) L G B T等の人権について	48
(12) インターネット上の人権侵害について	50
5. 同和問題(部落差別)について	52
(1) 同和問題を知ったきっかけ	52
(2) インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験	54
(3) インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容	56
(4) 部落差別の現状	58
(5) 部落差別が残っている原因	60
(6) 被差別部落の出身者への認識	62
(7) 同和問題の解決方法についての考え方	66

(8) 同和問題解決に向けての思い.....	87
6. 人権の尊重や侵害についての考え方	89
(1) 古くからの言い伝えや考え方などについて	89
(2) 住宅を選ぶ際に忌避する条件.....	96
7. 人権啓発について	105
(1) 啓発活動への接触状況	105
(2) 講演会・研修会等への参加状況	124
8. 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方	126
(1) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方	126
(2) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由.....	128
9. 自由記述.....	130
10. 質問間クロス分析	135
III. 集計表.....	148
IV. 調査票.....	215

I. 調査概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

県民の人権に関する考え方等を調査し、人権教育・啓発をはじめとする今後の人権施策を推進するうえでの基礎資料とする。

(2) 調査期間

令和3年9月22日（水）～10月31日（日）

（当初は調査期間を令和3年10月12日（火）までとしていたが、調査開始後に10月31日（日）までに変更）

(3) 調査対象

調査地域	滋賀県全域
調査対象	県内に在住する18歳以上の者（外国人住民を含む。）
標本数	3,000人
抽出方法	県内の18歳以上の住民基本台帳人口に基づき3,000人を全市町に配分し、市町別に無作為抽出
抽出台帳	選挙人名簿および住民基本台帳

(4) 調査方法

郵送法、オンライン調査法（回答者がどちらかを選択）

※郵送法は、自記式アンケート調査（無記名方式）、調査対象者全員にハガキによる再依頼2回。

なお、外国人対象者に対しては、やさしい日本語に配慮して作成した調査票と5か国語の翻訳調査票（ポルトガル語・タガログ語・中国語・ベトナム語・英語）を送付した。

※オンライン調査法は、調査票とともに配布したID・パスワードを用い、しがネット受付サービスにより回答。（個人は特定されない。）

(5) 調査項目(概要)

① 人権についての考え方

② 人権侵害を受けた経験および対応

③ 人権侵害を見聞きした経験および対応

④ 人権の個別分野ごとの課題

・女性 ・子ども ・高齢者 ・障害者 ・外国人 ・患者

・新型コロナウイルス感染症 ・犯罪被害者等 ・性の多様性（性的指向・性自認）

・インターネット上の人権侵害

⑤ 同和問題（部落差別）について

⑥ 人権の尊重や侵害についての考え方

⑦ 人権啓発について

⑧ 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方

⑨ 自由記述

(6) 標本割当計画

住民基本台帳 人口(日本人)	住民基本台帳 人口(外国人)	合計	日本人 住民標本数	外国人 住民標本数	標本総数
1,151,146	28,900	1,180,046	2,927	73	3,000

注) 住民基本台帳人口は、令和2年1月1日現在

(7) 回収結果

割当 標本数	到着 標本数	未到達 標本数	有効回収 調査票数	無効 調査票数	有効回収率	割当標本数 に対する 回収率
3,000	2,949	51	1,560	2	52.9%	52.0%

2. 報告書を読む際の留意点

(1) 質問文・選択枝等

本文中の質問文および選択枝の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化している場合がある。

(2) 信頼区間

今回の調査は、標本調査であるので、標本による測定値（調査の結果）に基づいて、母集団値を推定できる。信頼度95%における測定値(%)の信頼区間1/2幅（標準誤差）は、次の式で算出される。

$$\text{標準誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N：母集団数（本調査では1,180,046）、n：標本数（同1,560）、P：測定値（%）

【 信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅 】

	n	P(%)									
		5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
全体	1,560	1.1	1.5	1.8	2.0	2.1	2.3	2.4	2.4	2.5	2.5
男性	647	1.7	2.3	2.7	3.1	3.3	3.5	3.7	3.8	3.8	3.9
女性	851	1.5	2.0	2.4	2.7	2.9	3.1	3.2	3.3	3.3	3.4
18~29歳	160	3.4	4.6	5.5	6.2	6.7	7.1	7.4	7.6	7.7	7.7
30歳代	154	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.9	7.9
40歳代	261	2.6	3.6	4.3	4.8	5.3	5.6	5.8	5.9	6.0	6.1
50歳代	255	2.7	3.7	4.4	4.9	5.3	5.6	5.9	6.0	6.1	6.1
60歳代	275	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.9	5.9
70歳以上	431	2.1	2.8	3.4	3.8	4.1	4.3	4.5	4.6	4.7	4.7

【信頼度 95%における主要な%の信頼区間の 1/2 幅】

この表は、例えば、「問 2 今の滋賀県は「人権が尊重される社会」になっていると思いますか。」の結果を見ると、「1.そう思う」は、7.8%であり、“全体”の場合の最も近い値(10%)は「1.5」となっている。母集団を対象にこの調査を行えば、「1.そう思う」と回答する方が 7.8%の前後 1.5%の区間内、すなわち 6.3%～9.3%の区間内にあることが 95%の確率で期待されることを意味している。

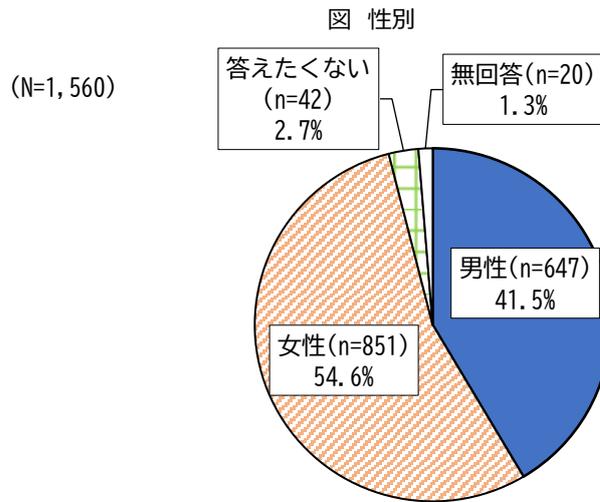
(3) 結果数値

- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、比率の合計が 100%にならないことがある。
- 複数回答が可能な質問では、その質問の回答者数を分母とし、それぞれの項目を選択した人の割合を算出した。そのため、各項目の比率を合計しても 100%とはならない。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものとしている。
- 図表中の「N (number of case) 」は、集計対象者数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表している。
- 問 4 (2) ～ (4) 、問 5 (2) ～問 10 (1) 、問 11～問 17、問 19 (2) 、問 27 (2) の性別・年齢別のグラフについては、表示上の都合で原則 5.0%未満は表示していない。（必要な場合は集計表を参照）
- 報告書にて比較される前回（平成 28 年度）の標本数は 3,000（回収数：1,575）であった。また、前々回（平成 23 年度）の標本数は 3,000（回収数：1,618）で、湖西地域の抽出率を他の地域の 2 倍に設定して抽出を行い、集計時に他の地域を 2 倍して集計するという補正処理をしている。

3. 回答者の属性について

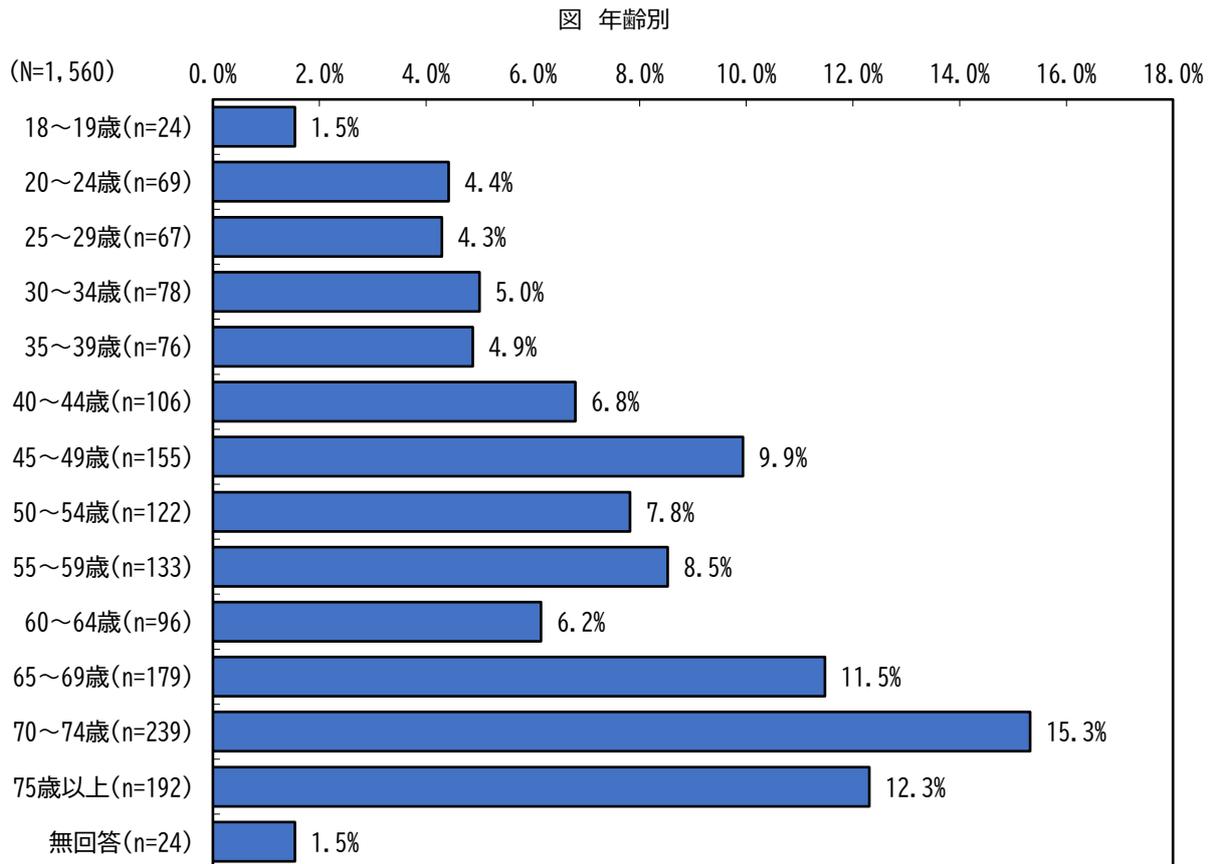
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が41.5%、「女性」が54.6%、「答えたくない」が2.7%となっている。



(2) 年齢別

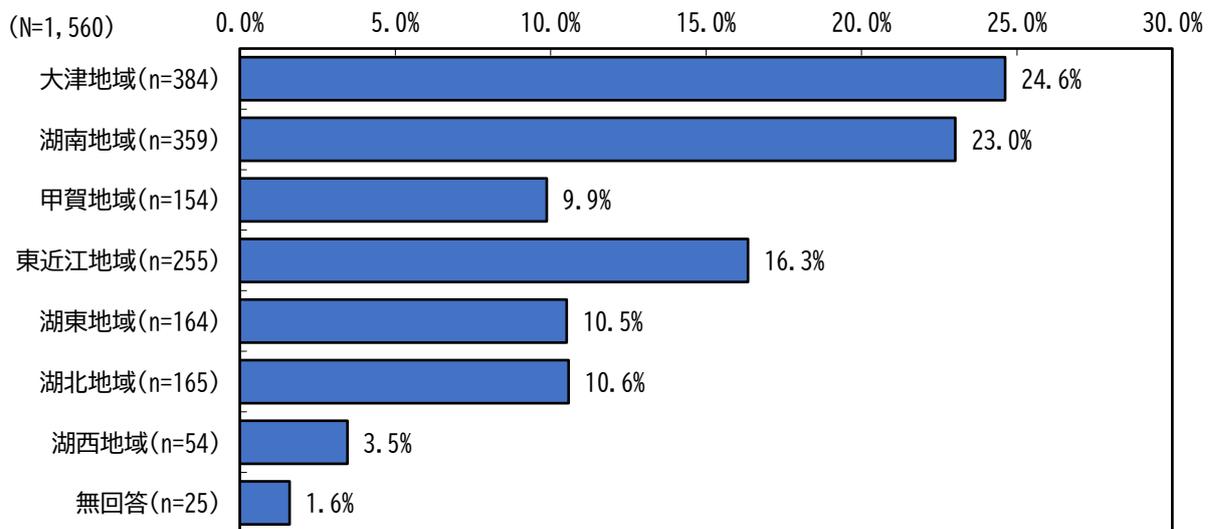
回答者の年齢階層は、「70～74歳」が15.3%で最も高く、次いで「75歳以上」が12.3%となっている。



(3) 居住地域別

回答者の居住地域は、「大津地域」が 24.6%で最も高く、以下「湖南地域」の 23.0%、「東近江地域」の 16.3%となっている。

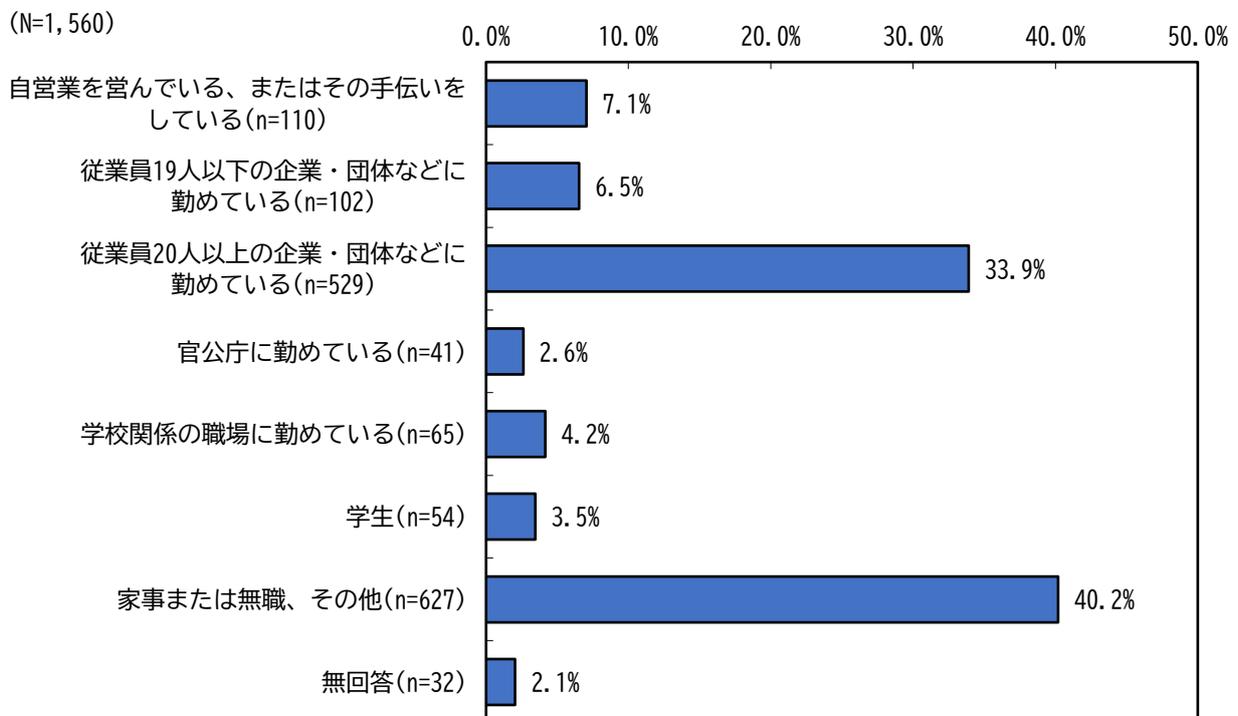
図 居住地域別



(4) 職業別

回答者の職業別は、「家事または無職、その他」が 40.2%で最も高く、次いで「従業員 20 人以上の企業・団体などに勤めている」の 33.9%、「自営業を営んでいる、またはその手伝いをしている」の 7.1%となっている。

図 職業別



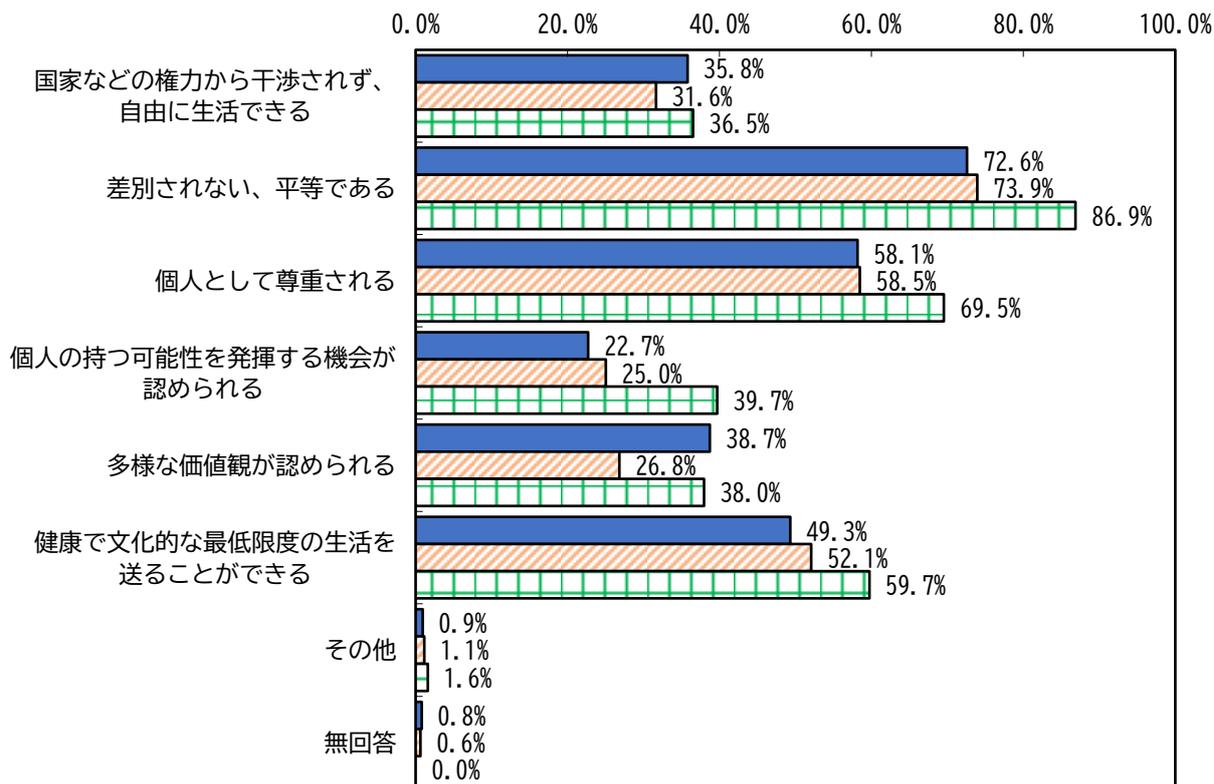
II. 調査結果

1. 人権についての考え方

(1) 「人権が尊重される」ということについて

問1 「人権が尊重される」ということはどういうことだと思いますか。あなたが特に大切だと思うことを3つまで選んで○をつけてください。

図「人権が尊重される」ということについて

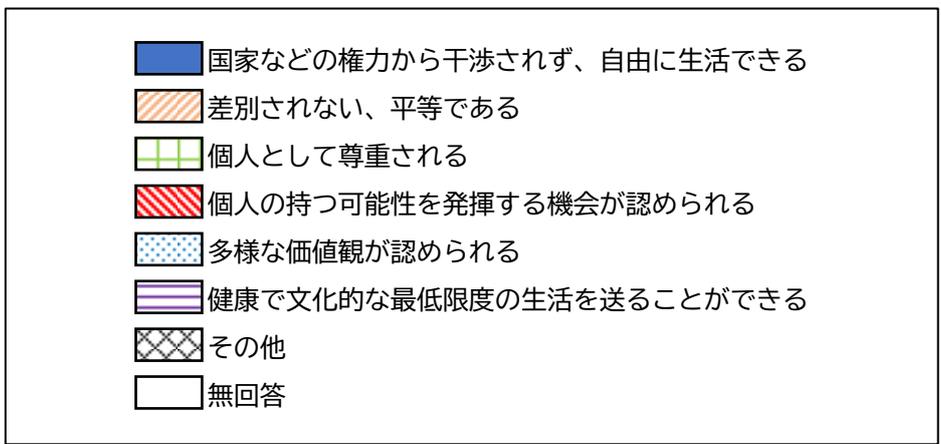
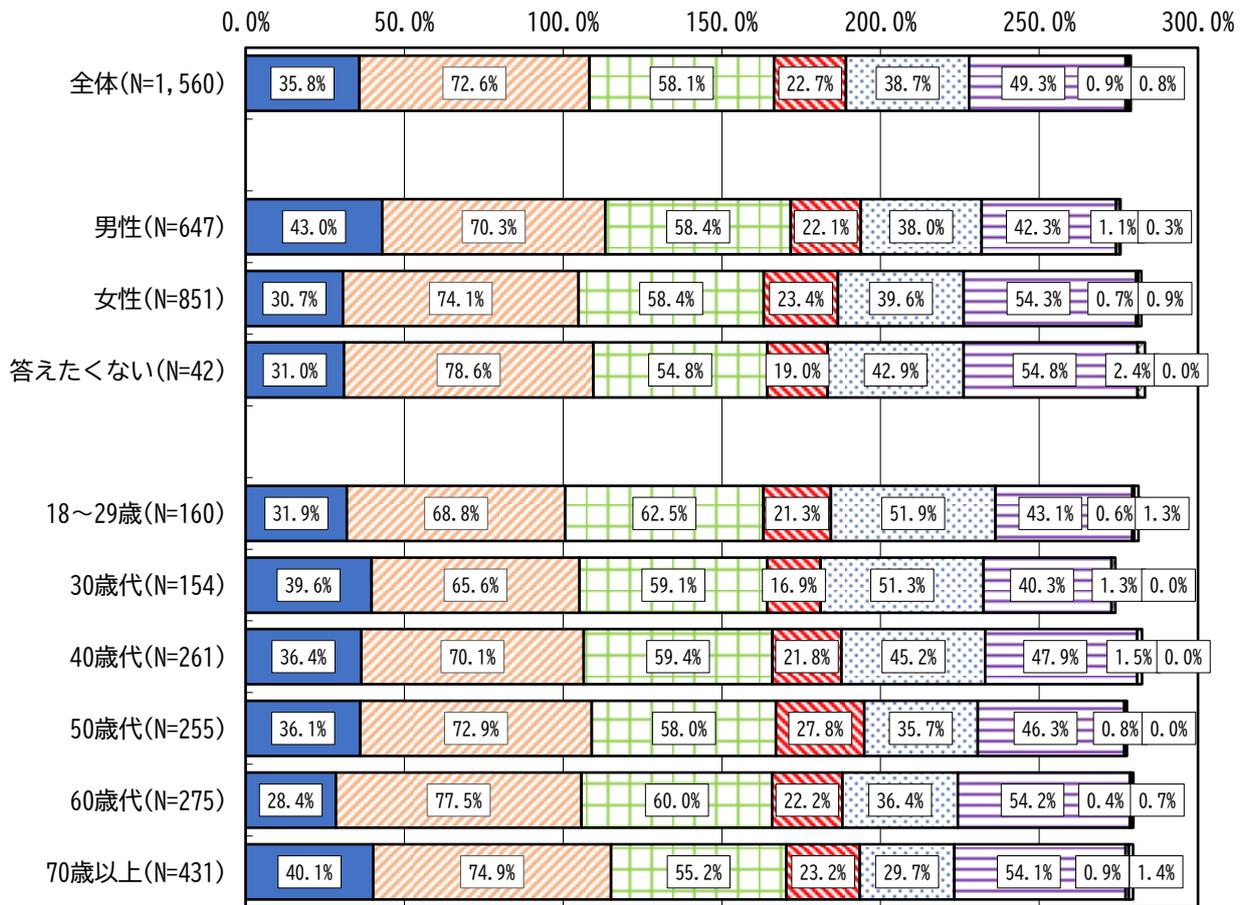


■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575) ■ 平成23年度(N=3,111)

「人権が尊重される」ということについてたずねたところ、「差別されない、平等である」と答えた人の割合が72.6%で最も高くなっている。次いで「個人として尊重される」（58.1%）、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」（49.3%）の順となっている。

質問形式（今回・前回：3つまで選択、前々回：いくつでも選択可）を変更しているため単純比較はできないが、過去の調査と比較しても同様の傾向を示している。

図「人権が尊重される」ということについて一性別・年齢別



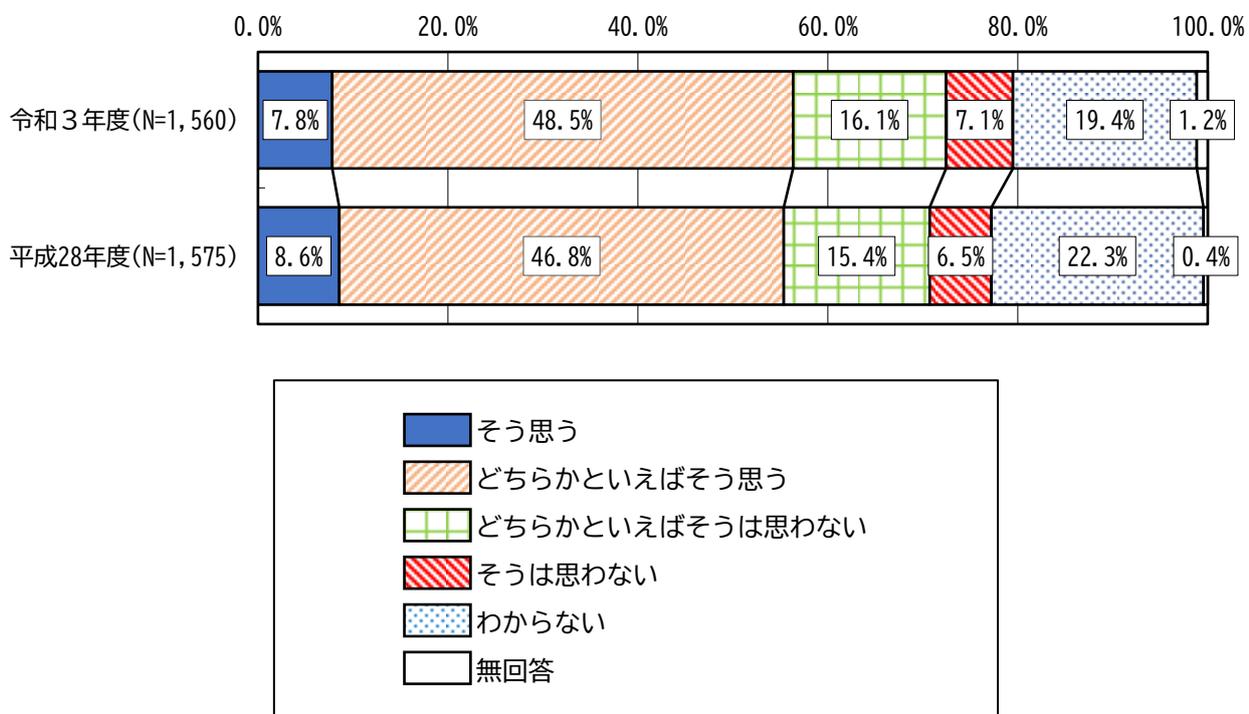
性別で見ると、「国家などの権力から干渉されず、自由に生活できる」と答えた人の割合は、男性の方が 12.3 ポイント高くなっている。また、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」は、女性の方が 12.0 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「差別されない、平等である」と答えた人の割合が最も高く、次いで「個人として尊重される」が高くなっている。また、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」と答えた人の割合は、年代が高くなるほど高くなる傾向があり、逆に「多様な価値観が認められる」は、年代が高くなるほど低くなる傾向がある。

(2) 滋賀県における人権尊重の状況

問2 今の滋賀県は「人権が尊重される社会」になっていると思いますか。あなたの思いに近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

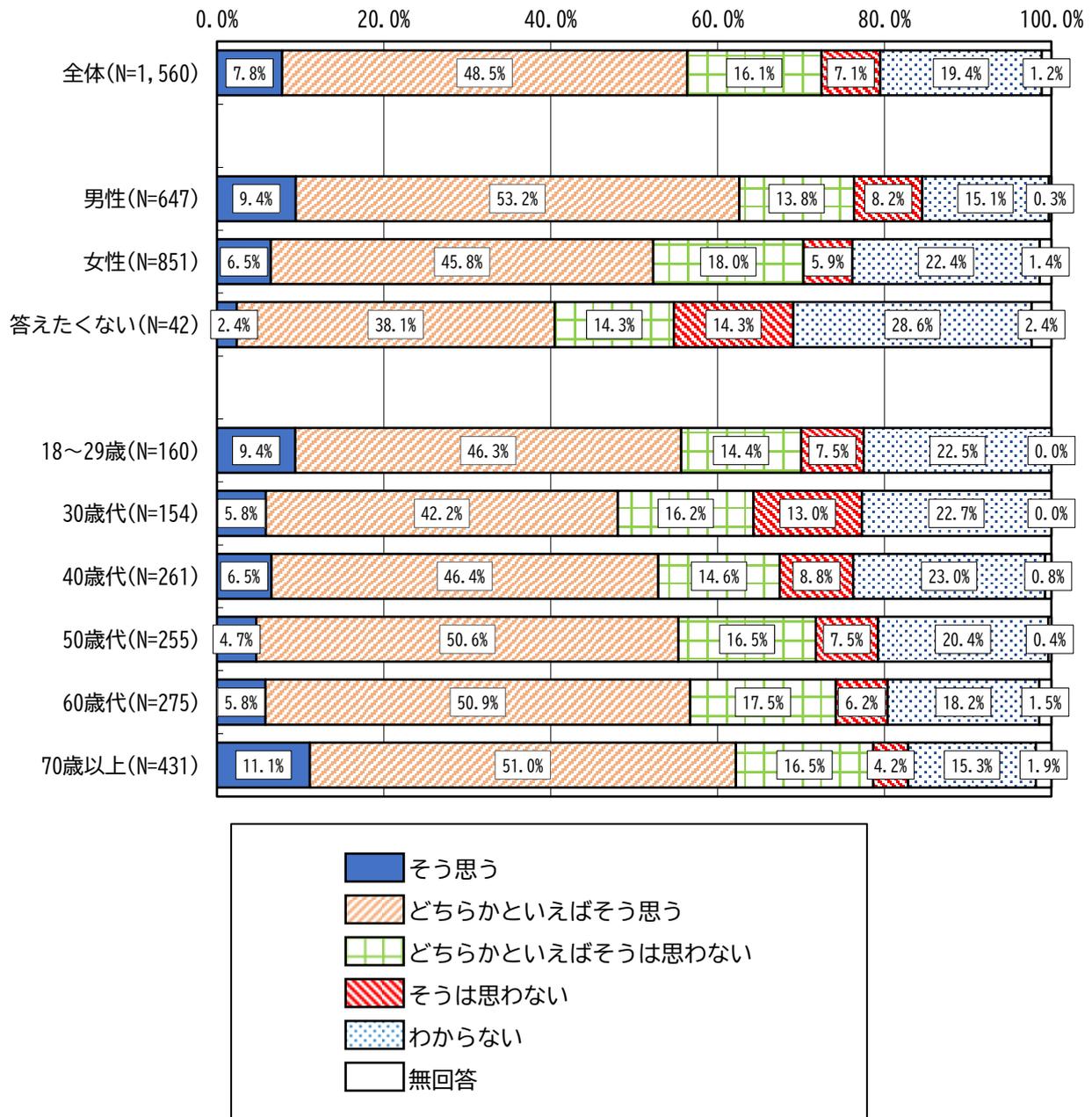
図 令和3年度・平成28年度 滋賀県における人権尊重の状況



滋賀県における人権尊重の状況についてたずねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 56.3%となっている。逆に「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”は 23.2%となっている。

前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

図 滋賀県における人権尊重の状況—性別・年齢別



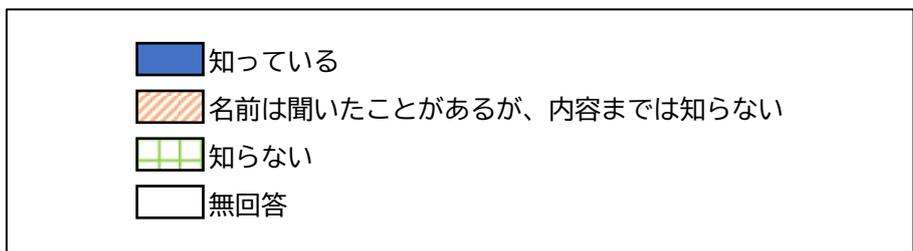
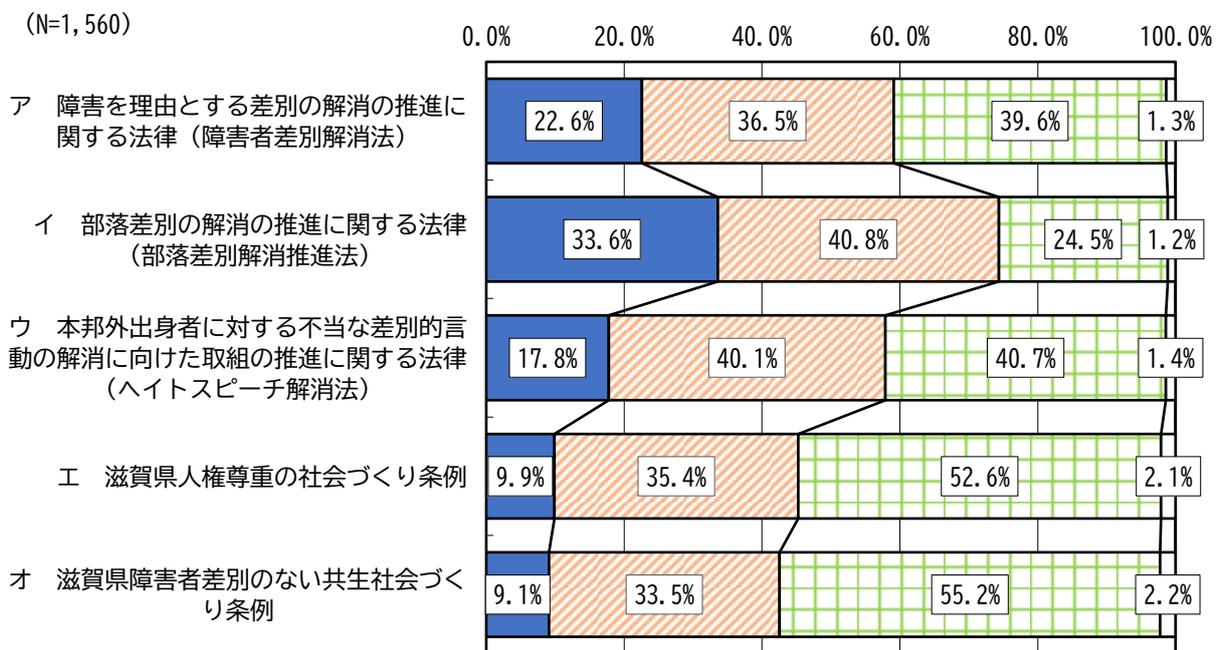
性別で見ると、“そう思う”と答えた人の割合は男性の方が 10.3 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、“そう思う”と答えた人の割合は、70 歳以上が 62.1%で最も高く、次いで 60 歳代の 56.7%となっている。逆に、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”と答えた人の割合は、30 歳代が 29.2%で最も高くなっている。

(3) 人権に関わる法律や条例について

問3 あなたは、次の人権に関わる法律や条例についてご存じですか。アからオのそれぞれについて、1つずつ選んで○をつけてください。

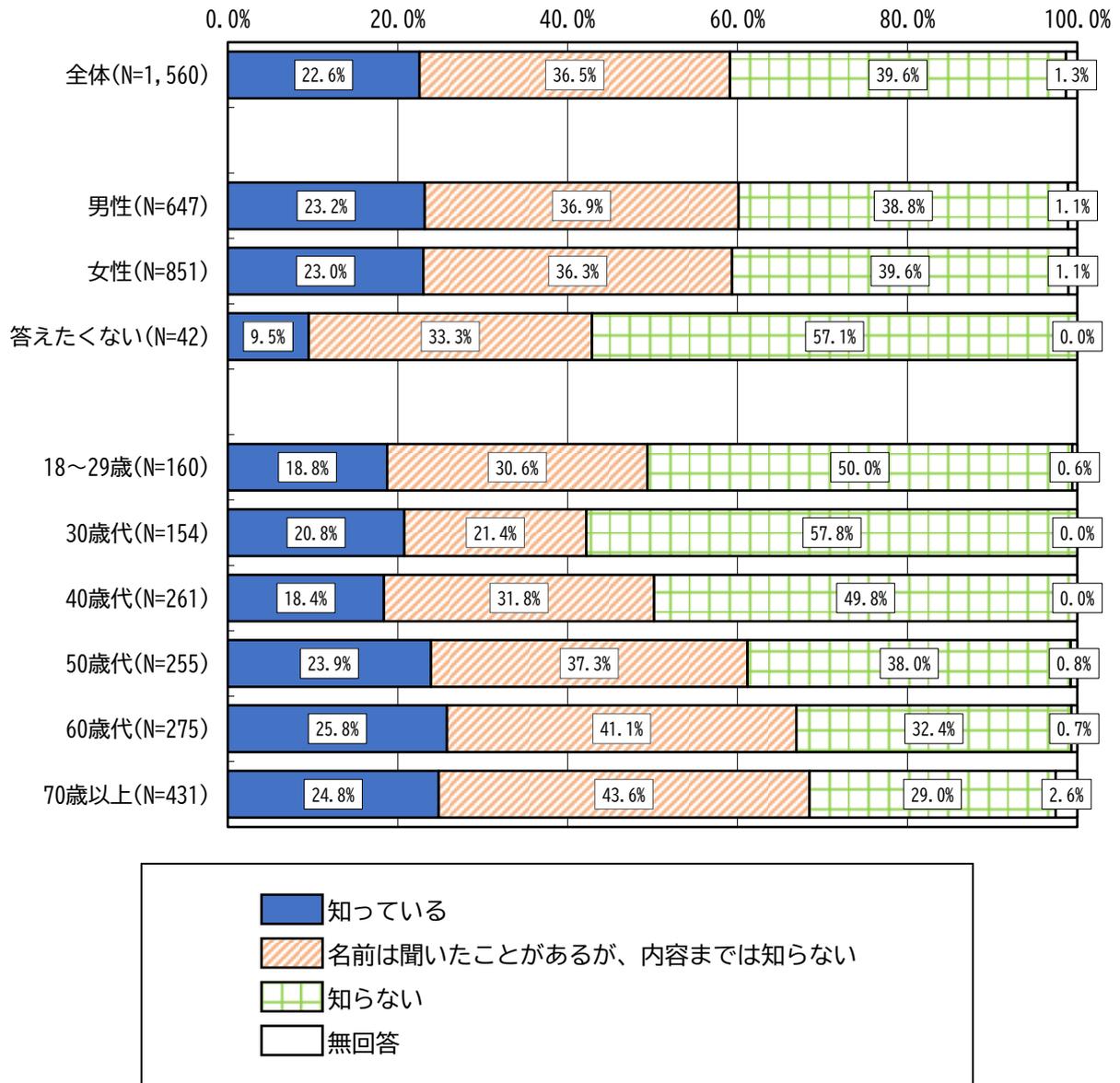
図 人権に関わる法律や条例の認知度



人権に関わる法律や条例の認知状況についてたずねたところ、「知っている」と答えた人の割合は「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」（33.6%）、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」（22.6%）、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」（17.8%）、「滋賀県人権尊重の社会づくり条例」（9.9%）、「滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例」（9.1%）の順となっている。

(ア) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）

図 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）—性別・年齢別

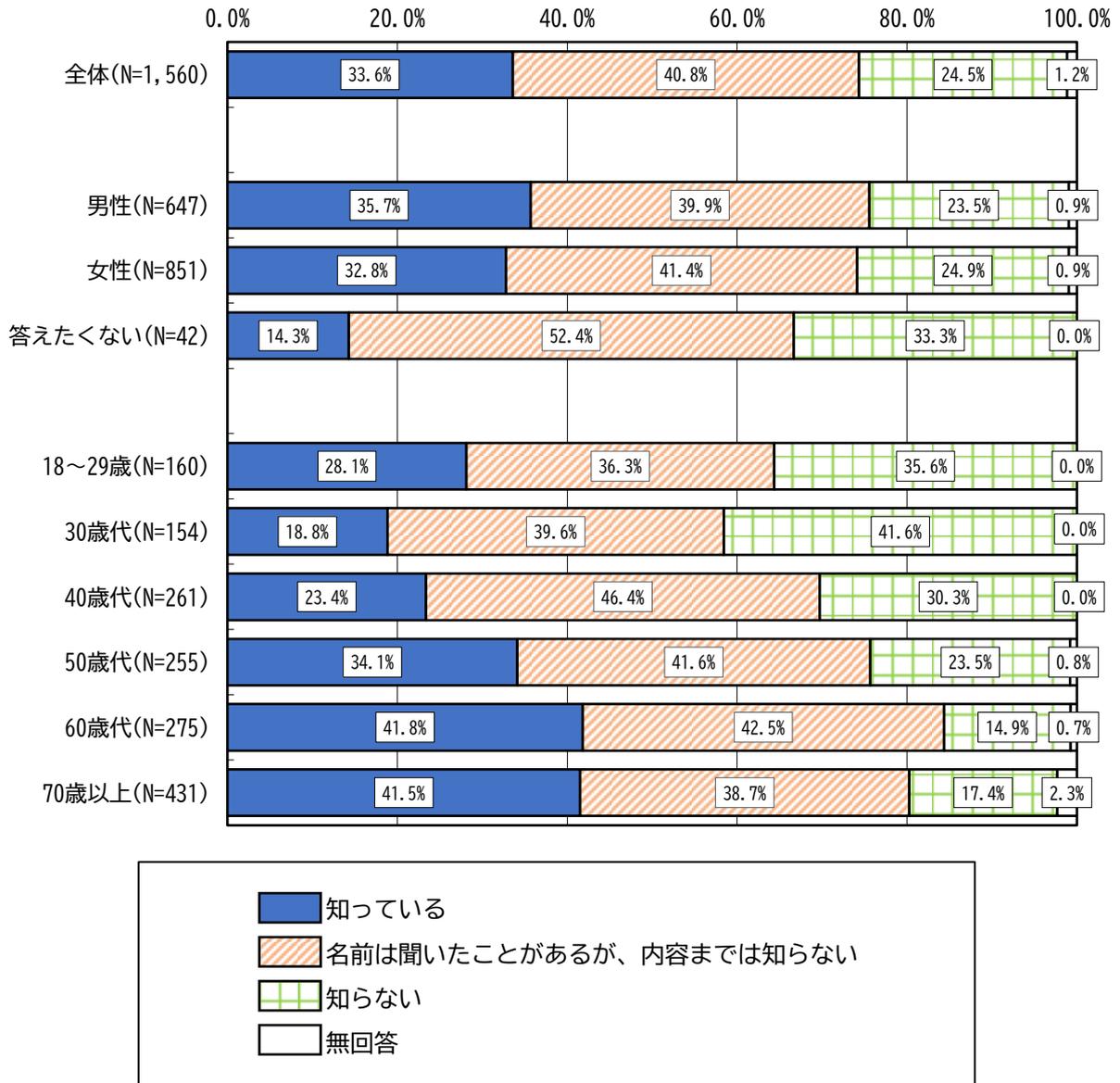


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人は60歳代が25.8%で最も高く、次いで70歳以上が24.8%となっている。

(イ) 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）

図 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）—性別・年齢別

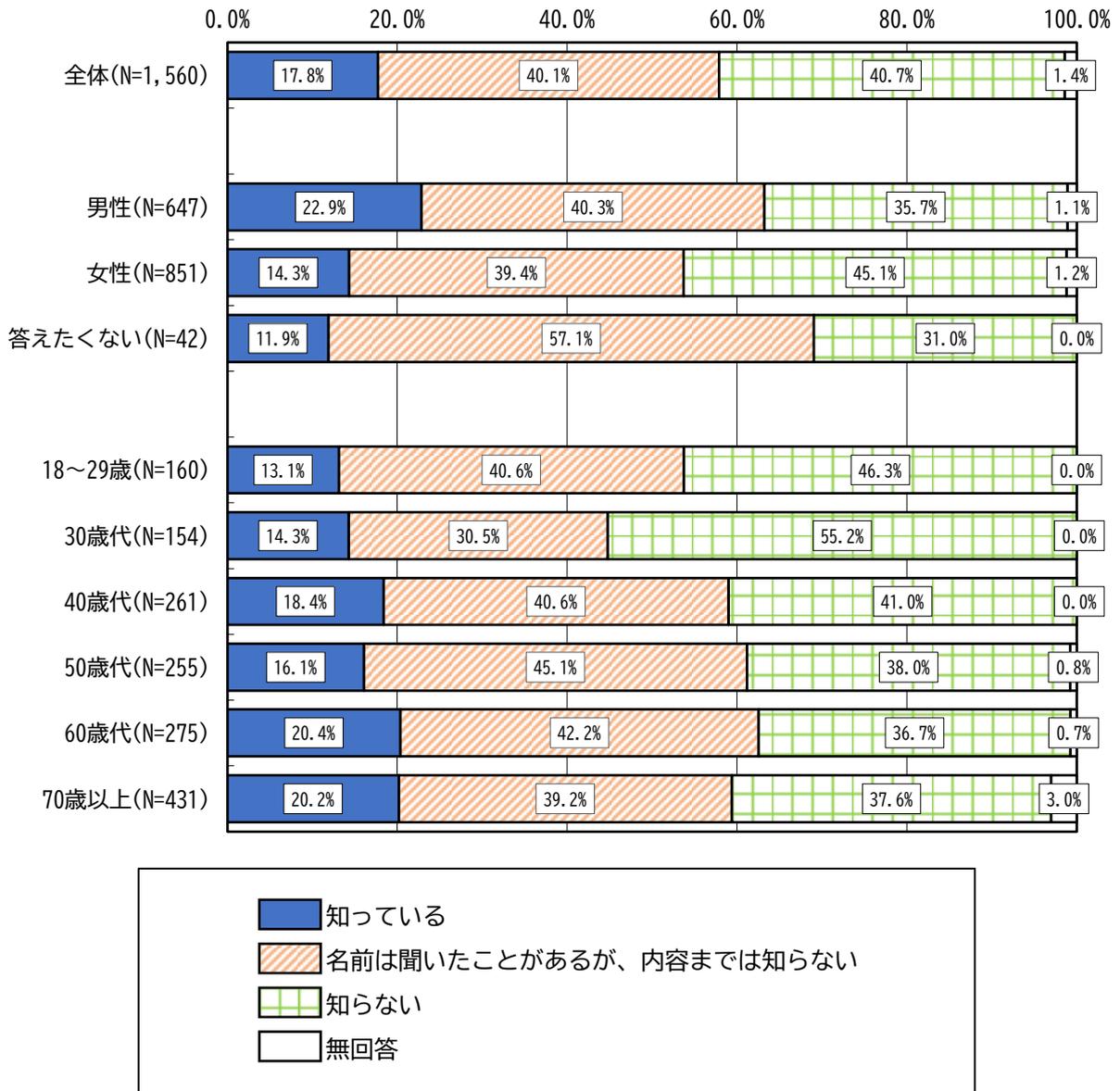


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人は60歳代が41.8%で最も高く、次いで70歳以上が41.5%となっている。

(ウ) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）

図 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）—性別・年齢別

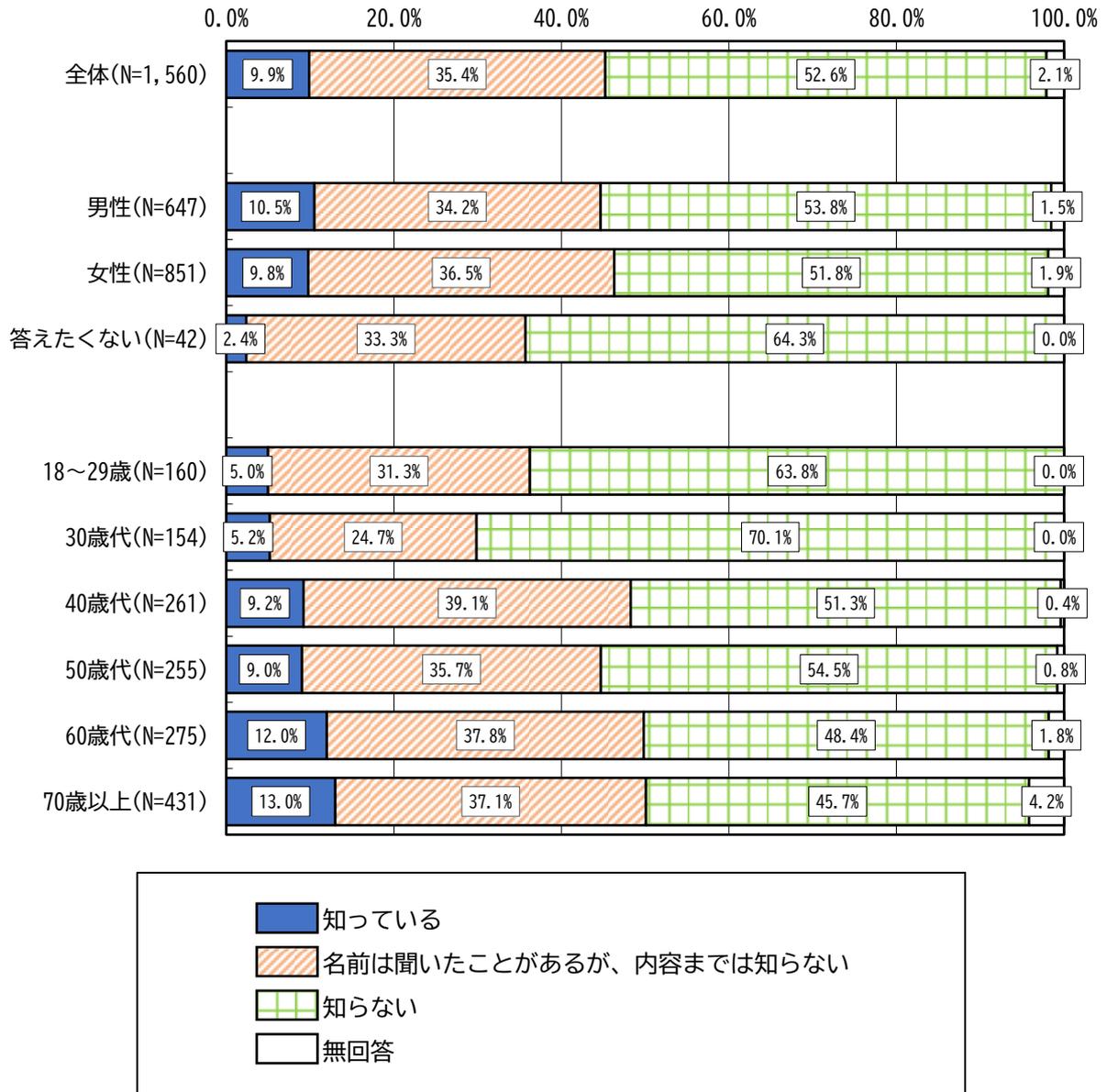


性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は男性の方が 8.6 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人は 60 歳代が 20.4% で最も高く、次いで 70 歳以上が 20.2% となっている。

(工) 滋賀県人権尊重の社会づくり条例

図 滋賀県人権尊重の社会づくり条例—性別・年齢別

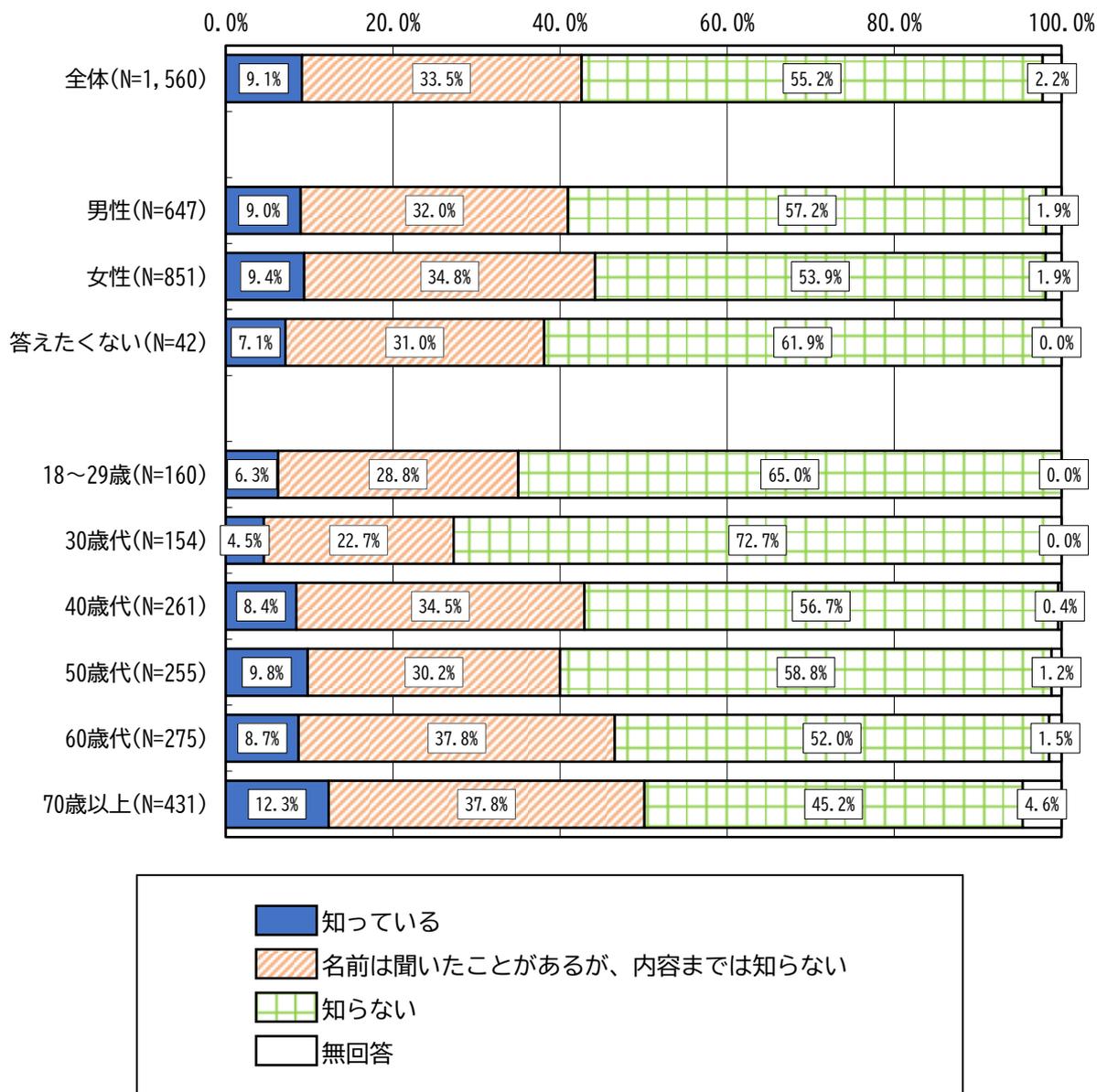


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「知っている」と答えた人は70歳以上が13.0%で最も高く、次いで60歳代が12.0%となっている。

(オ) 滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例

図 滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

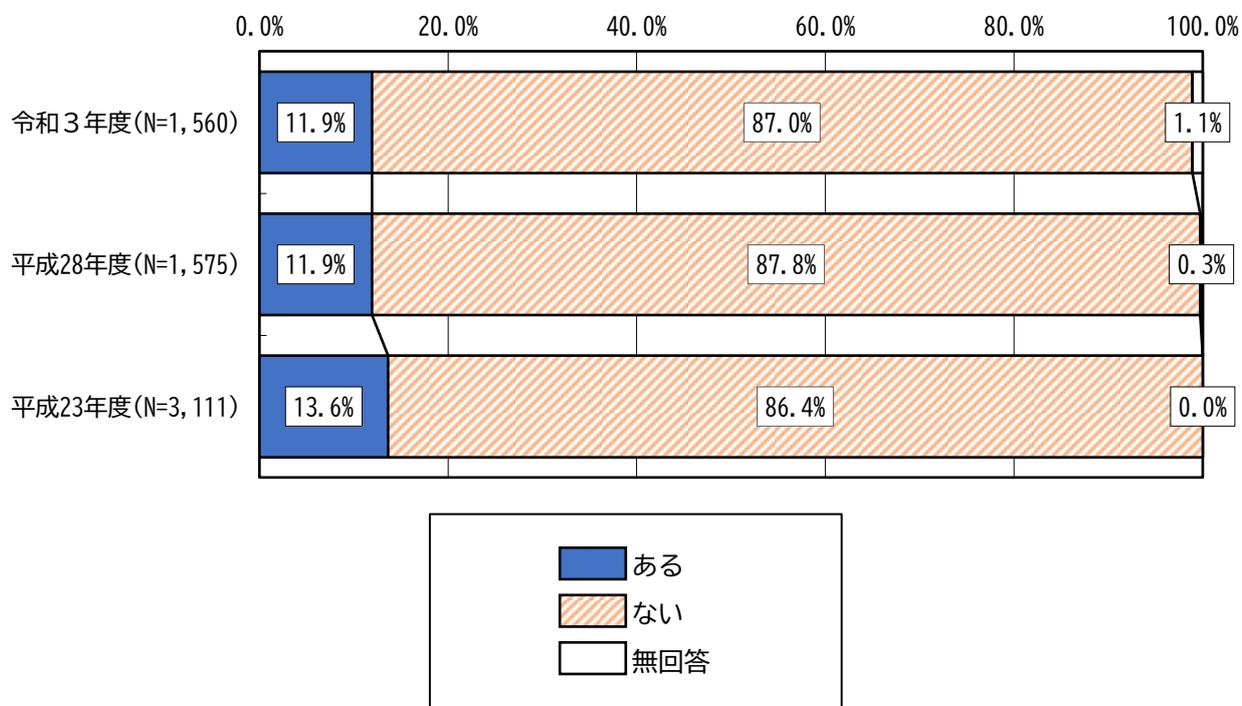
年齢別で見ると、「知っている」と答えた人は70歳以上が12.3%で最も高く、次いで50歳代が9.8%となっている。

2. 人権侵害を受けた経験および対応

(1) 人権侵害を受けた経験

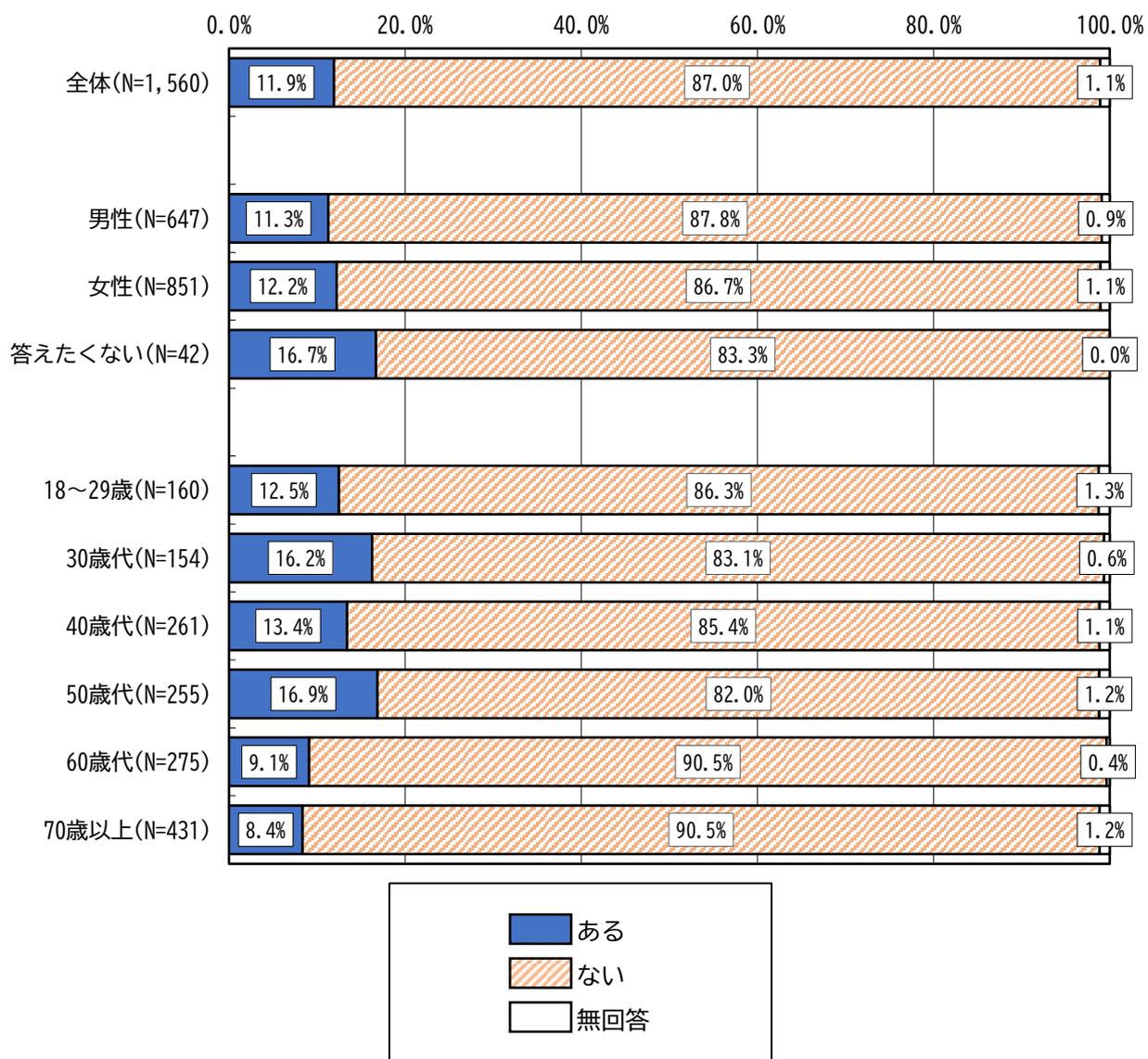
問4(1) あなたは、ここ5年以内で差別や人権侵害を受けたことがありますか。いずれかを選んで○をつけてください。

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 人権侵害を受けた経験



人権侵害を受けた経験についてたずねたところ、「ある」と答えた人が11.9%、「ない」と答えた人が87.0%となっている。前回、前々回の調査結果から大きな変化は見られない。

図 人権侵害を受けた経験—性別・年齢別



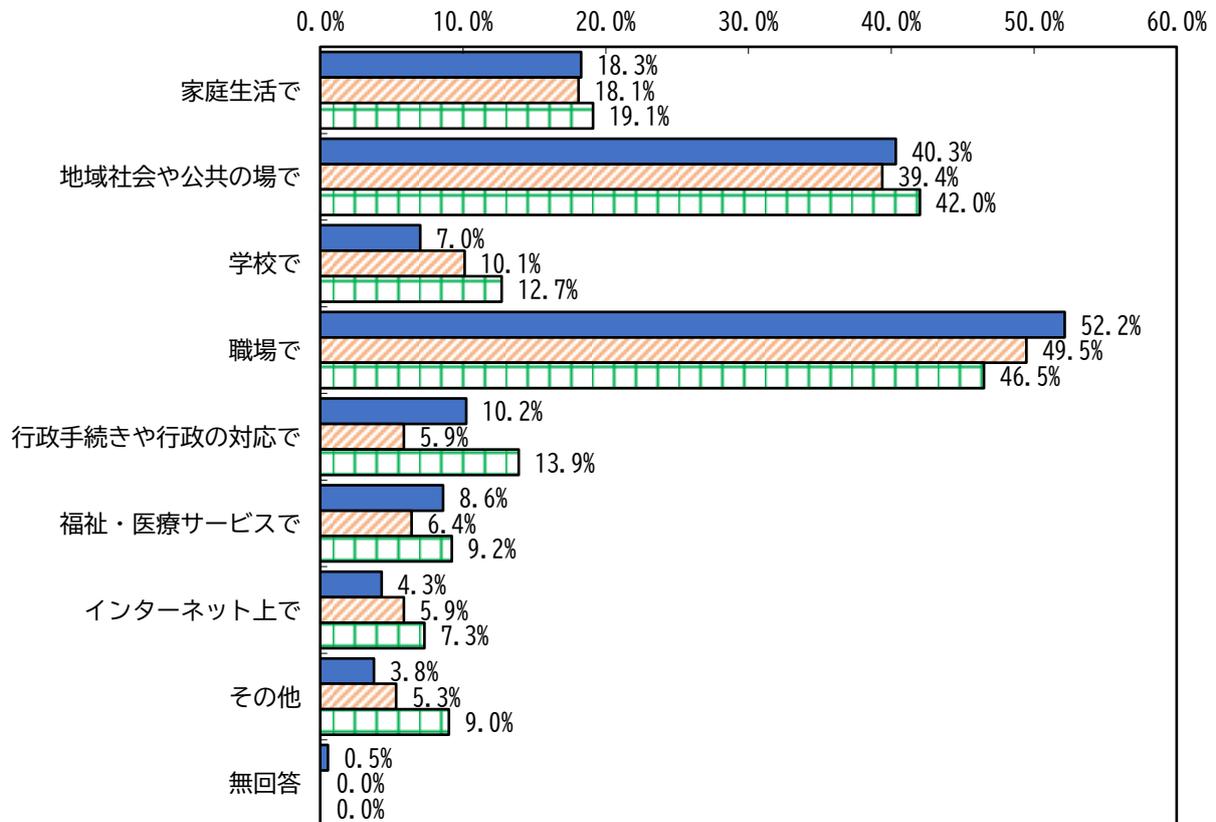
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「ある」と答えた人は50歳代が16.9%で最も高く、次いで30歳代が16.2%となっている。

(2) 人権侵害を受けた場面

問 4(2) (1)で、「1.ある」とお答えになった方におたずねします。それは、どのような生活の場面でしたか。以下の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

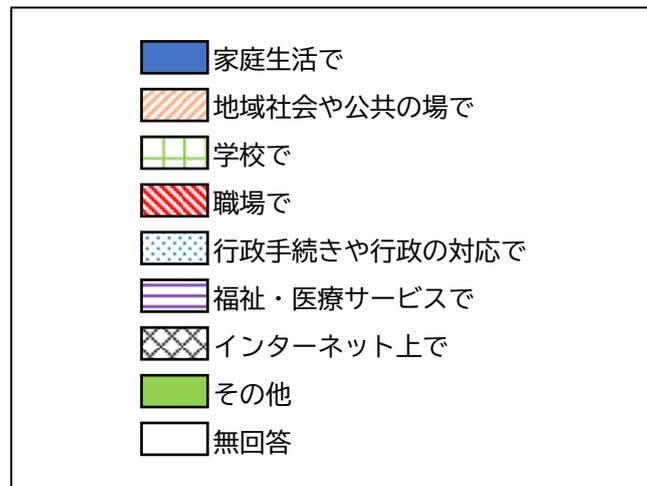
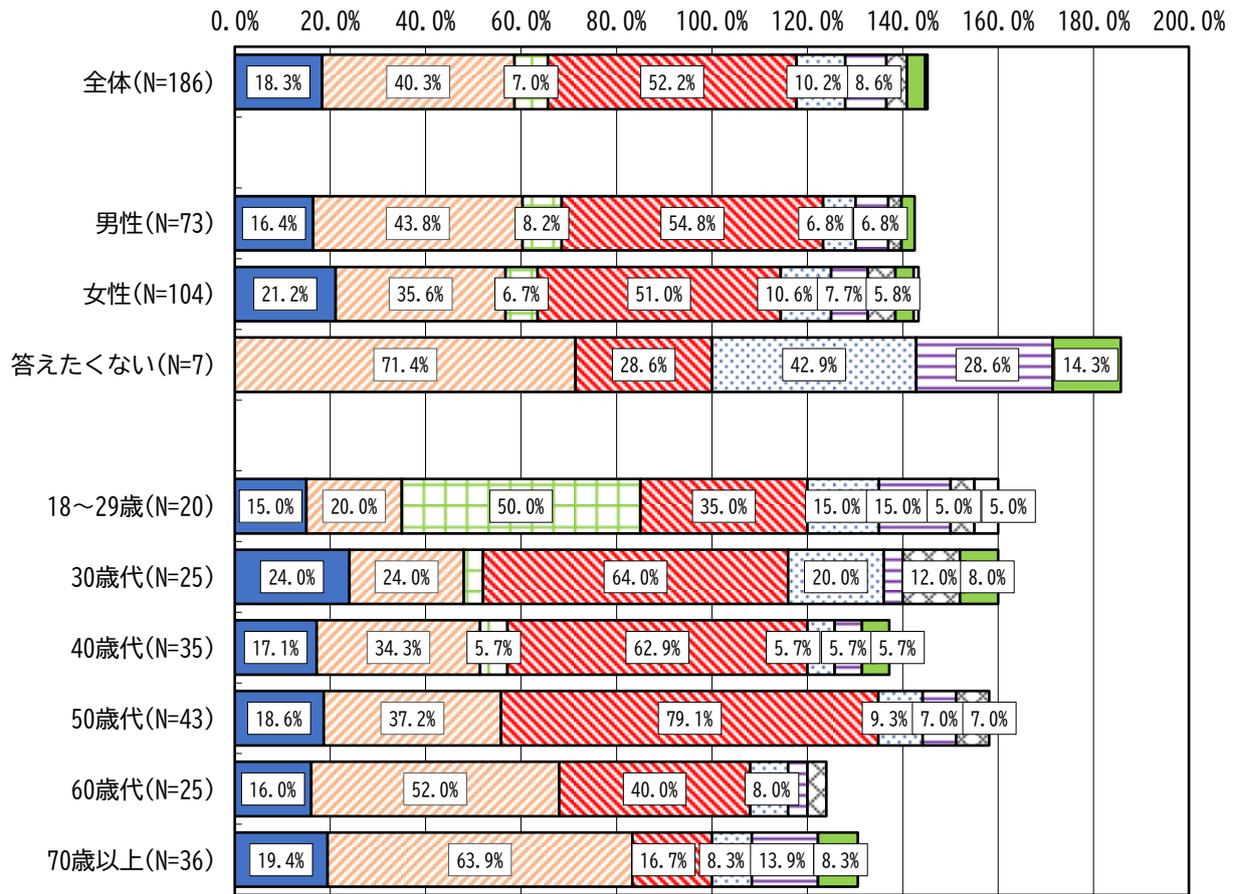
図 人権侵害を受けた場面



■ 令和3年度(N=186) ■ 平成28年度(N=188) ■ 平成23年度(N=424)

問 4(1)で、人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた人に、人権侵害を受けた場面についてたずねたところ、「職場で」が 52.2%で最も高く、次いで「地域社会や公共の場で」(40.3%)、「家庭生活で」(18.3%)の順となっている。前回、前々回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 人権侵害を受けた場面—性別・年齢別



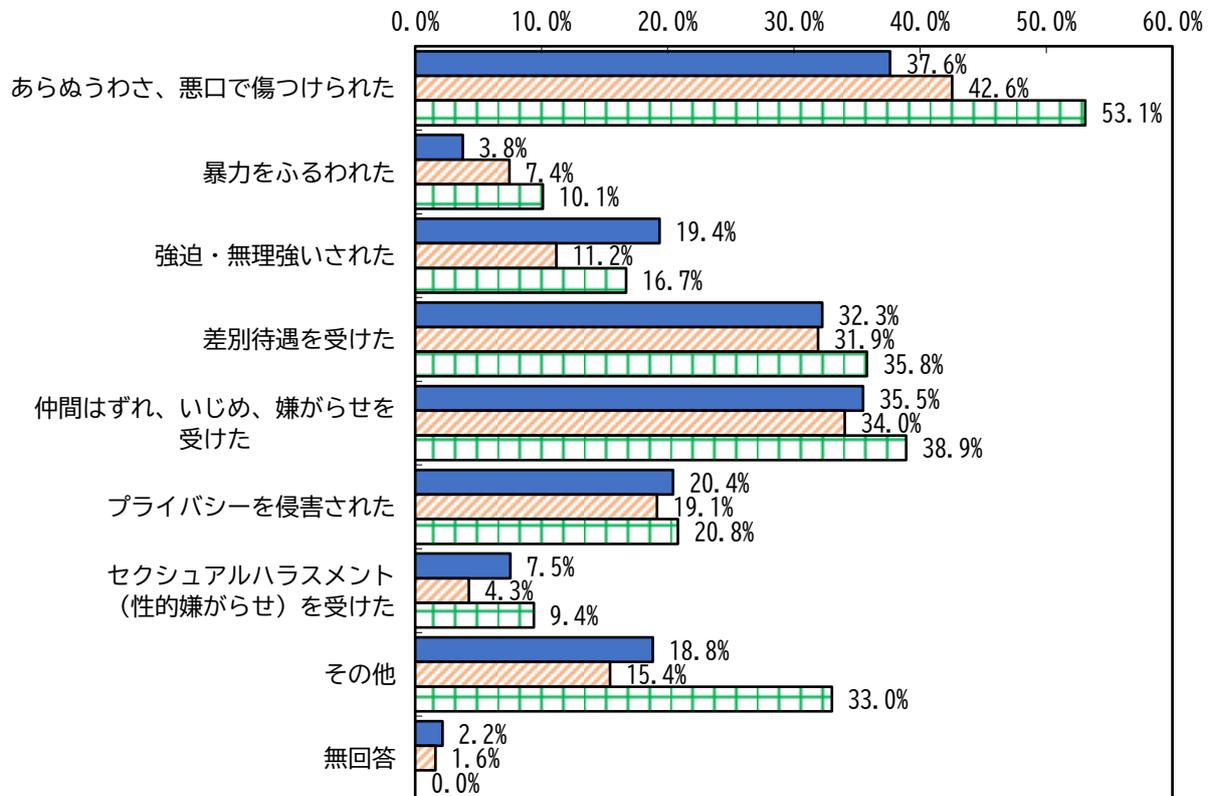
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、18歳～29歳は「学校で」と答えた人の割合が最も高く、30歳代から50歳代は「職場で」が最も高くなっている。また、「地域社会や公共の場で」と答えた人の割合は、年代が高くなるほど高くなる傾向がある。

(3) 人権侵害を受けた内容

問 4(3) (1)で、「1.ある」とお答えになった方におたずねします。それは、どのような内容でしたか。下の
中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

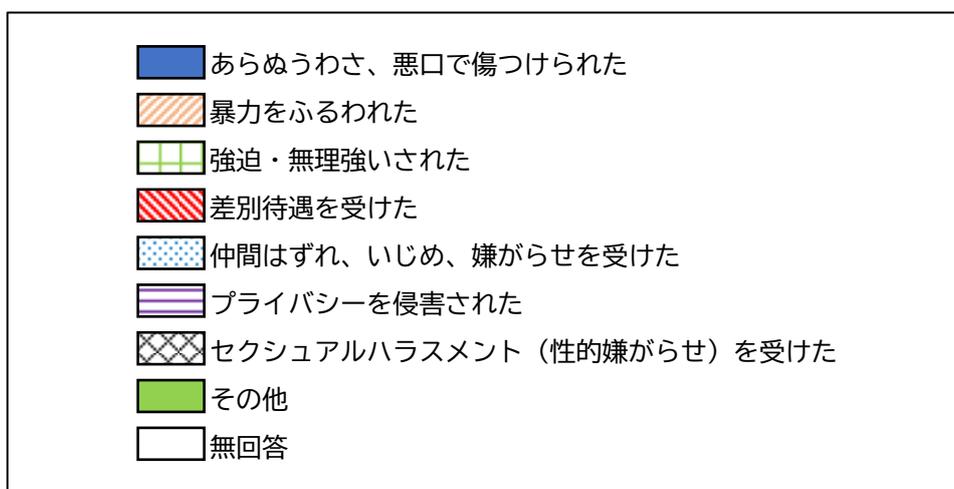
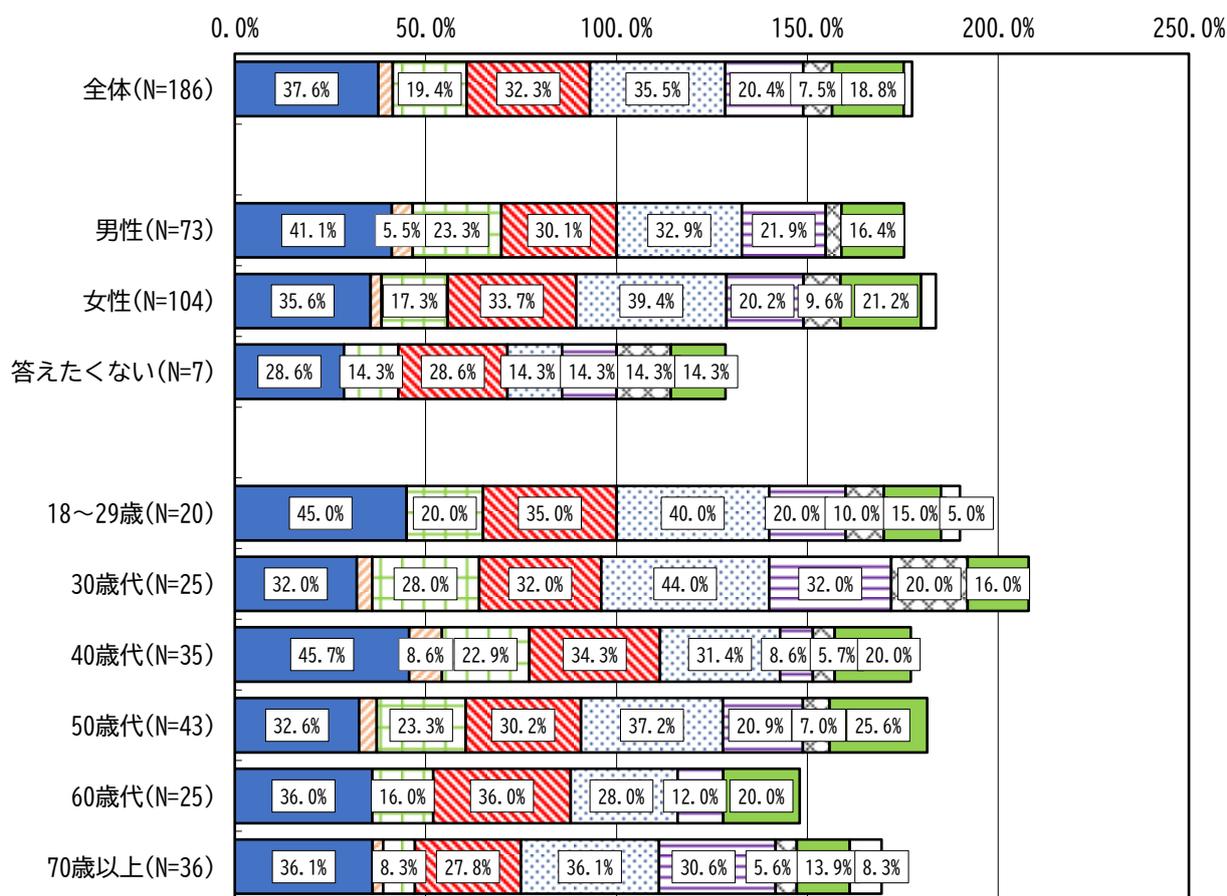
図 人権侵害を受けた内容



■ 令和3年度(N=186) ■ 平成28年度(N=188) ■ 平成23年度(N=424)

問 3(1)で、人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた人に、人権侵害を受けた内容についてたずねたところ、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」と答えた人の割合が 37.6%で最も高く、次いで「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」(35.5%)、「差別待遇を受けた」(32.3%)の順となっている。前回、前々回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 人権侵害を受けた内容—性別・年齢別



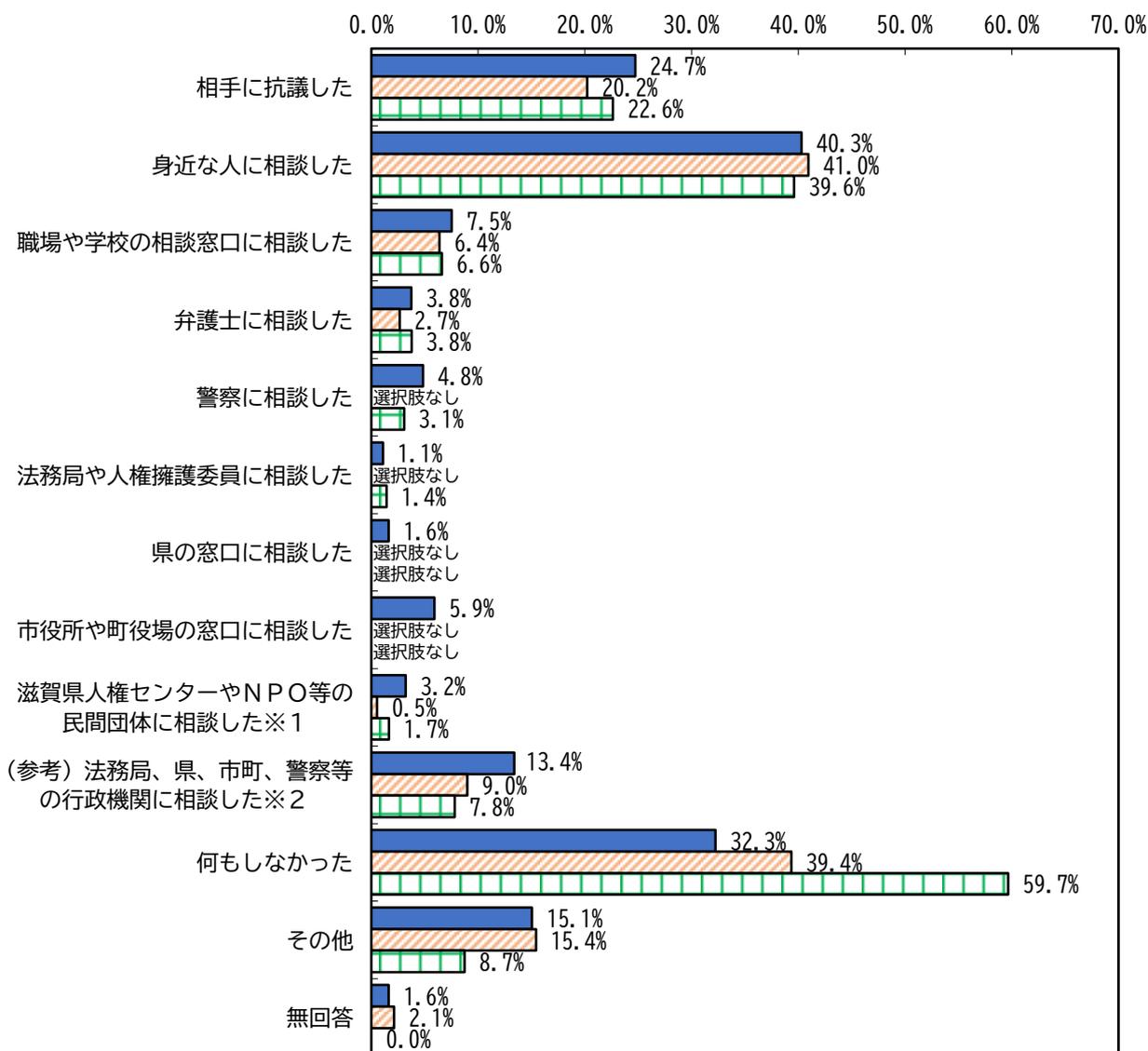
性別で見ると、男性は「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」と答えた人の割合が41.1%で最も高く、次いで「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」（32.9%）、「差別待遇を受けた」（30.1%）の順となっている。女性は「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」と答えた人の割合が39.4%で最も高く、次いで「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」（35.6%）、「差別待遇を受けた」（33.7%）の順となっている。

年齢別で見ると、18~29歳と40歳代は「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」、30歳代と50歳代は「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(4) 人権侵害を受けたときの対応

問 4(4) (1) で、「1.ある」とお答えになった方におたずねします。差別や人権侵害を受けたときに、どのような対応をされましたか。いくつでも選んで○をつけてください。

図 人権侵害を受けたときの対応



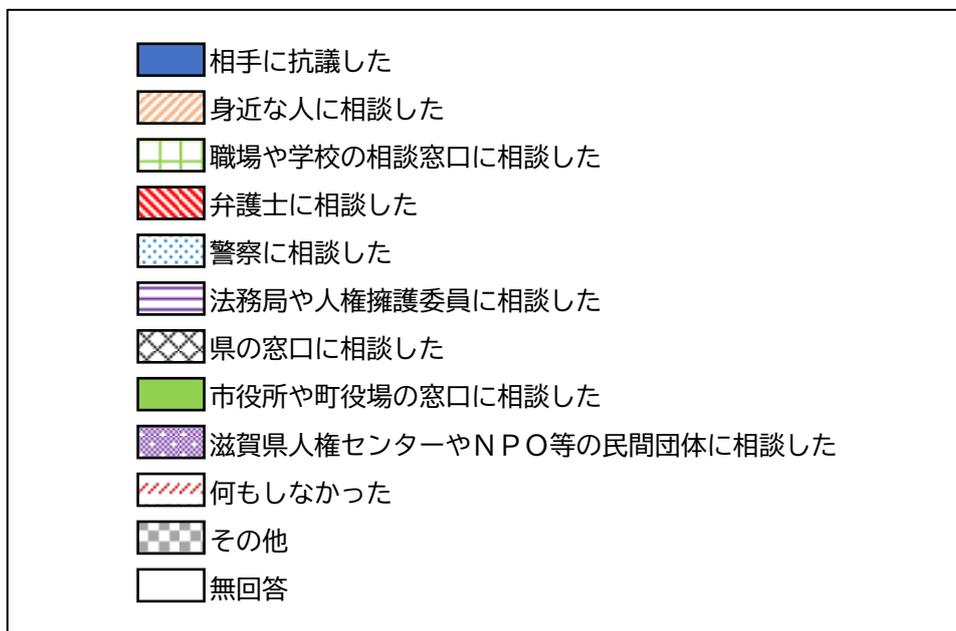
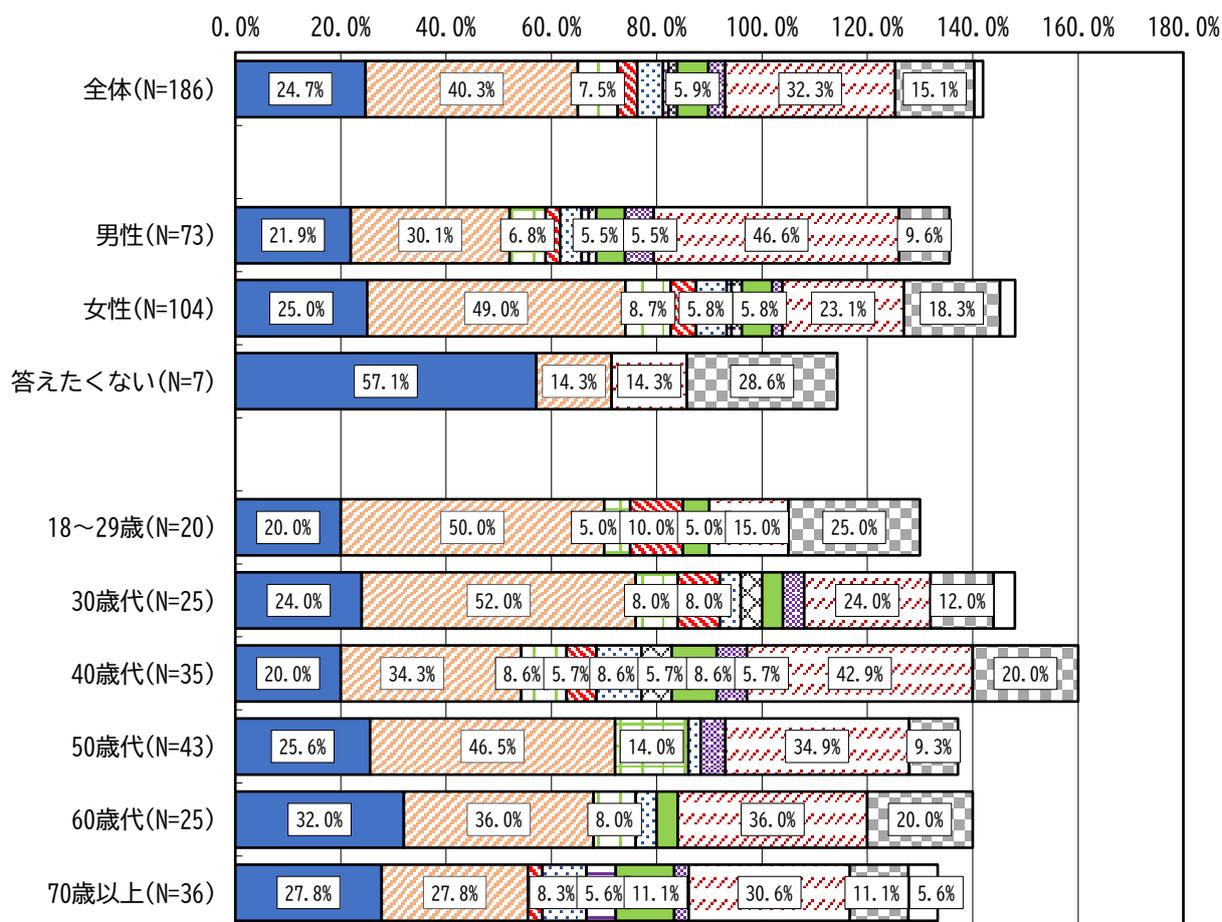
■ 令和3年度(N=186) ■ 平成28年度(N=188) ■ 平成23年度(N=424)

※1 平成23年度、28年度の「NPO等の民間団体に相談した」は、令和3年度の「滋賀県人権センターやNPO等の民間団体に相談した」として整理算出している。

※2 平成23年度の「警察に相談した」、「法務局、人権擁護委員に相談した」、「県の機関、市役所、町役場に相談した」および令和3年度の「警察に相談した」、「法務局や人権擁護委員に相談した」、「県の窓口に相談した」、「市役所や町役場の窓口に相談した」は、平成28年度の「(参考)法務局、県、市町、警察等の行政機関に相談した」として整理算出している。

問 3(1)で、人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた人に、人権侵害を受けたときの対応についてたずねたところ、「身近な人に相談した」と答えた人の割合が40.3%で最も高く、次いで「何もしなかった」(32.3%)、「相手に抗議した」(24.7%)の順となっている。前回、前々回の調査結果と続いて「何もしなかった」と答えた人の割合が減少しており、「法務局、県、市町、警察等の行政機関に相談した」と答えた人の割合が増加している。

図 人権侵害を受けたときの対応—性別・年齢別



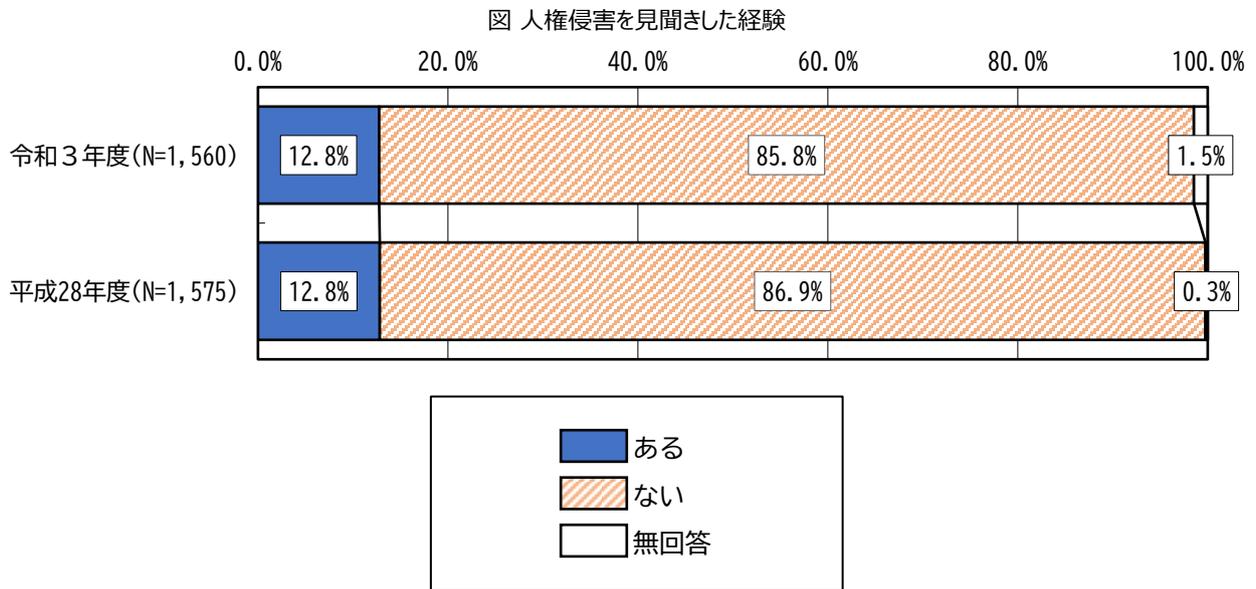
性別で見ると、男性は「何もしなかった」と答えた人の割合が 46.6%で最も高く、次いで「身近な人に相談した」が 30.1%となっている。女性は「身近な人に相談した」と答えた人の割合が 49.0%で最も高く、次いで「相手に抗議した」が 25.0%となっている。

年齢別で見ると、18~29歳から30歳代と50歳代は「身近な人に相談した」と答えた人の割合が最も高く、40歳代と70歳以上は「何もしなかった」が最も高くなっている。60歳代は「身近な人に相談した」と「何もしなかった」が同率で最も高くなっている。

3. 人権侵害を見聞きした経験および対応

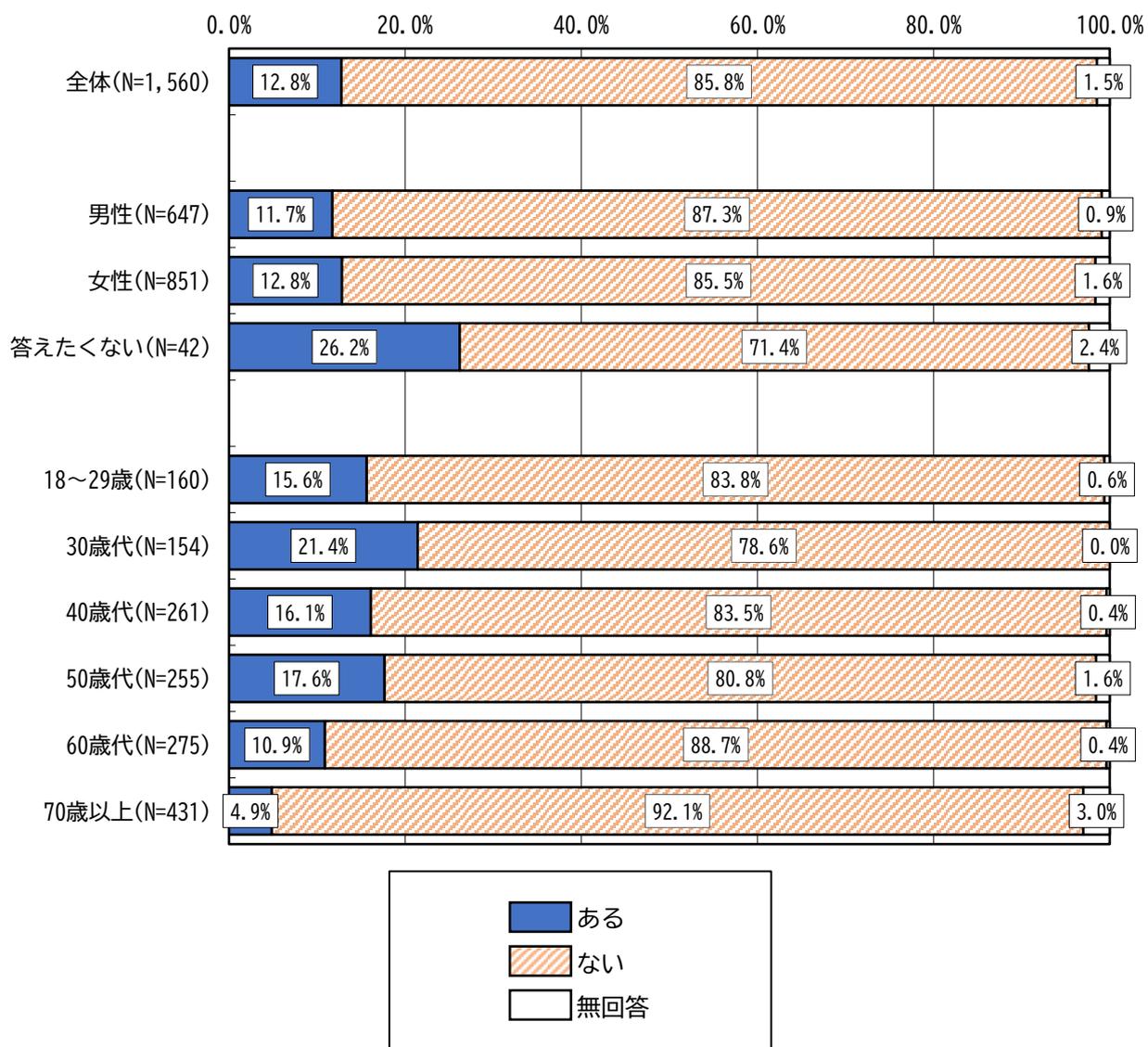
(1) 人権侵害を見聞きした経験

問 5 (1) あなたは、ここ5年以内に他人が差別や人権侵害を受けている場面に居合わせたことがありますか。いずれかを選んで○をつけてください。



人権侵害を見聞きした経験についてたずねたところ、「ある」と答えた人が 12.8%、「ない」と答えた人が 85.8%となっている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

図 人権侵害を見聞きした経験—性別・年齢別



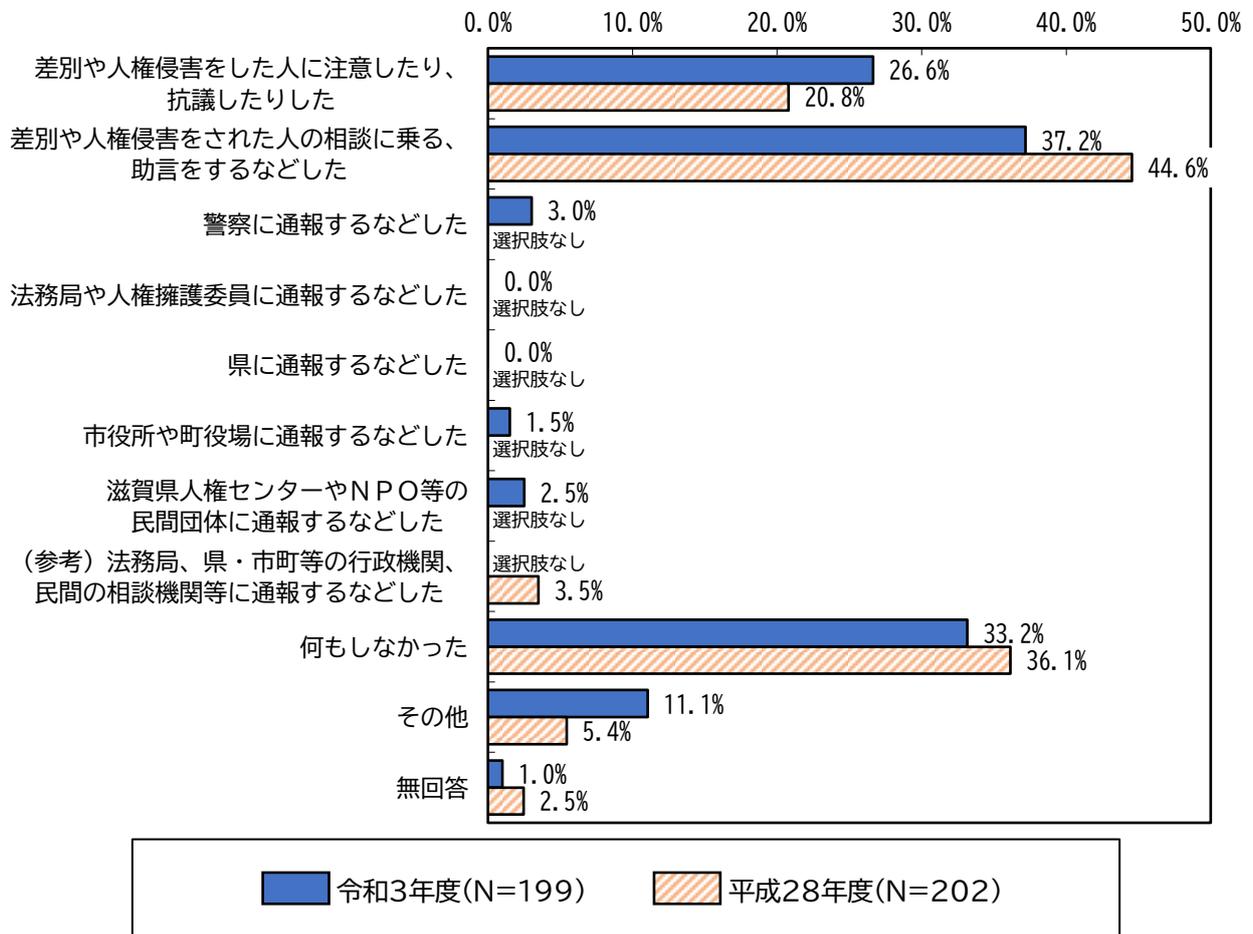
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「ある」と答えた人の割合は30歳代が21.4%で最も高く、次いで50歳代が17.6%となっている。

(2) 人権侵害を見聞きしたときの対応

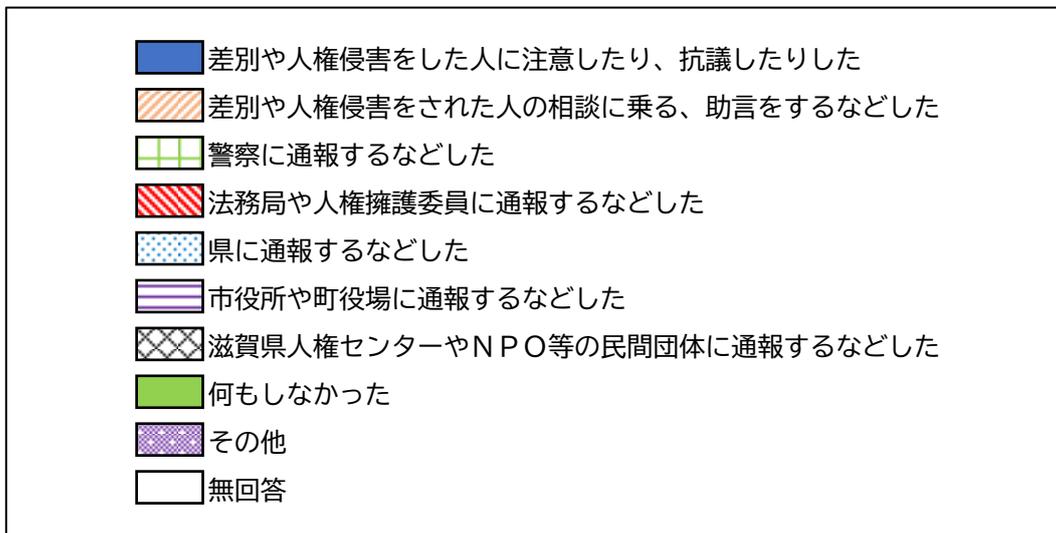
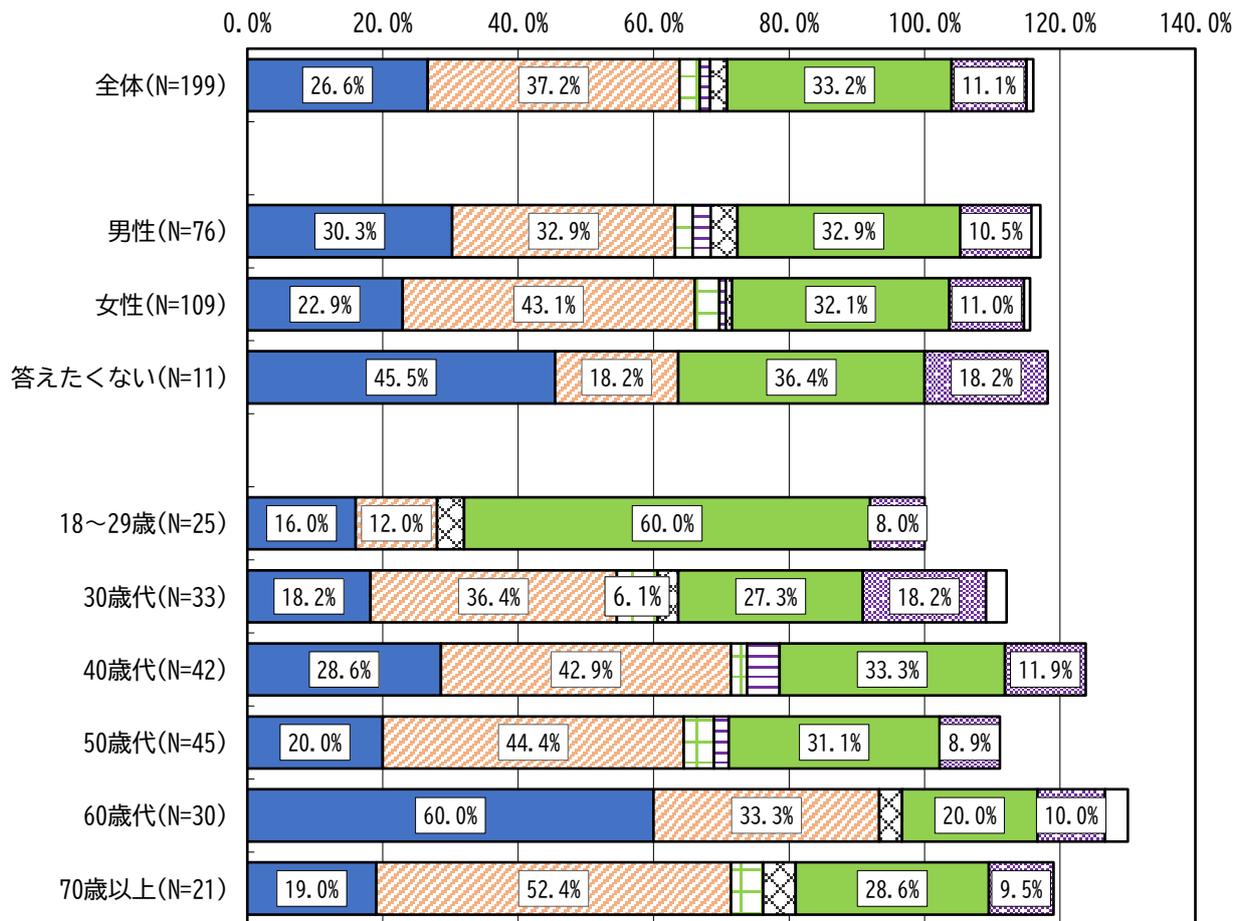
問 5(2) (1)で、「1.ある」とお答えになった方におたずねします。あなたは、そのときにどのような対応をされましたか。いくつでも選んで○をつけてください。

図 人権侵害を見聞きしたときの対応



問 5(1)で、人権侵害を見聞きした経験が「ある」と答えた人に、そのときの対応についてたずねたところ、「差別や人権侵害をされた人の相談に乗る、助言をするなどした」と答えた人の割合が 37.2%で最も高く、次いで「何もしなかった」(33.2%)、「差別や人権侵害をした人に注意したり、抗議したりした」(26.6%)の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 人権侵害を見聞きしたときの対応—性別・年齢別



性別で見ると、「差別や人権侵害をした人に注意したり、抗議したりした」は男性の方が7.4ポイント、「差別や人権侵害をされた人の相談に乗る、助言をするなどした」と答えた人の割合は女性の方が10.2ポイント高くなっている。

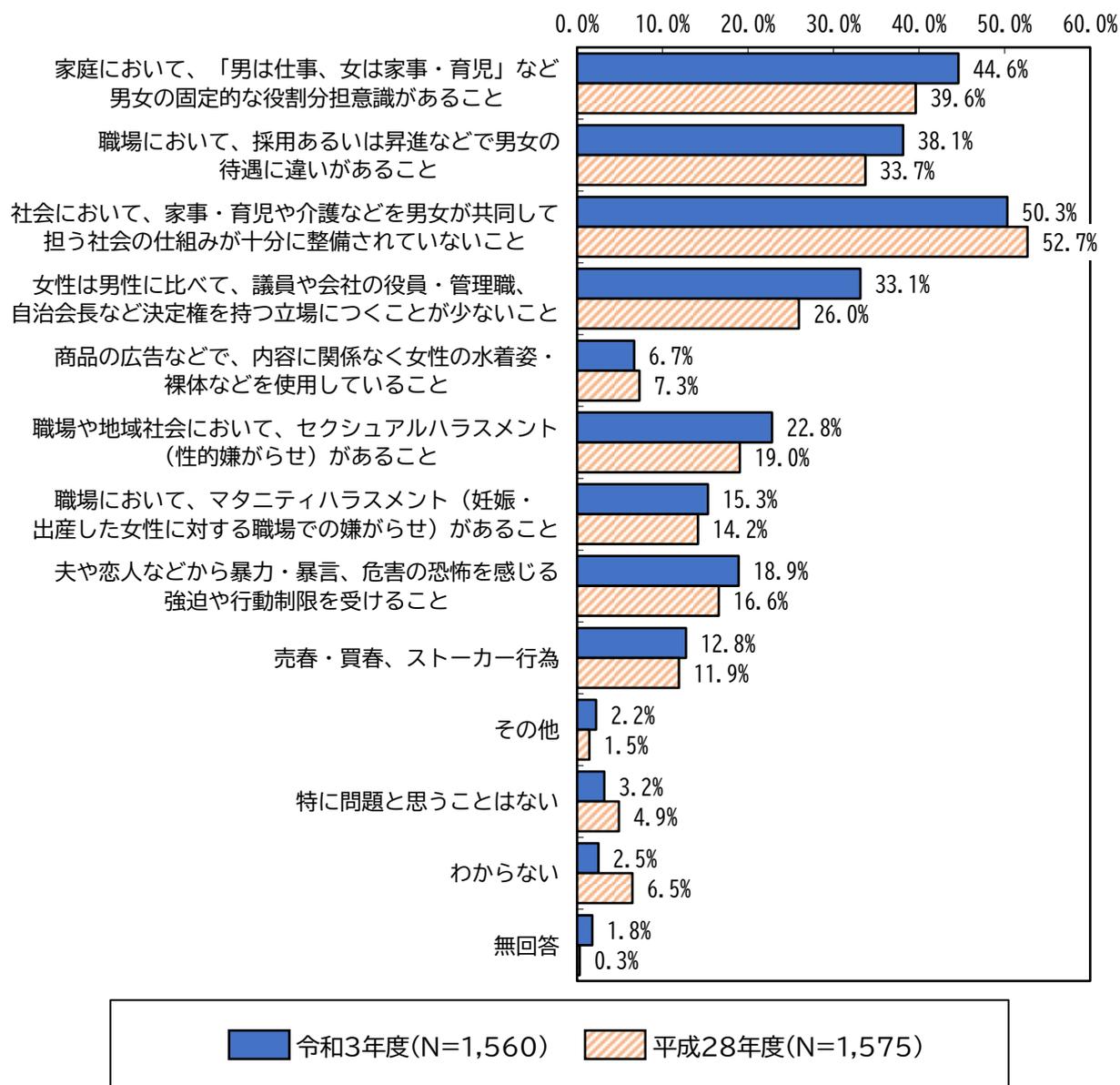
年齢別で見ると、30歳代から50歳代と70歳以上は「差別や人権侵害をされた人の相談に乗る、助言をするなどした」が最も高くなっている。18～29歳は「何もしなかった」が最も高く、60歳代は「差別や人権侵害をした人に注意したり、抗議したりした」が最も高くなっている。

4. 人権の個別分野ごとの課題

(1) 女性の人権について

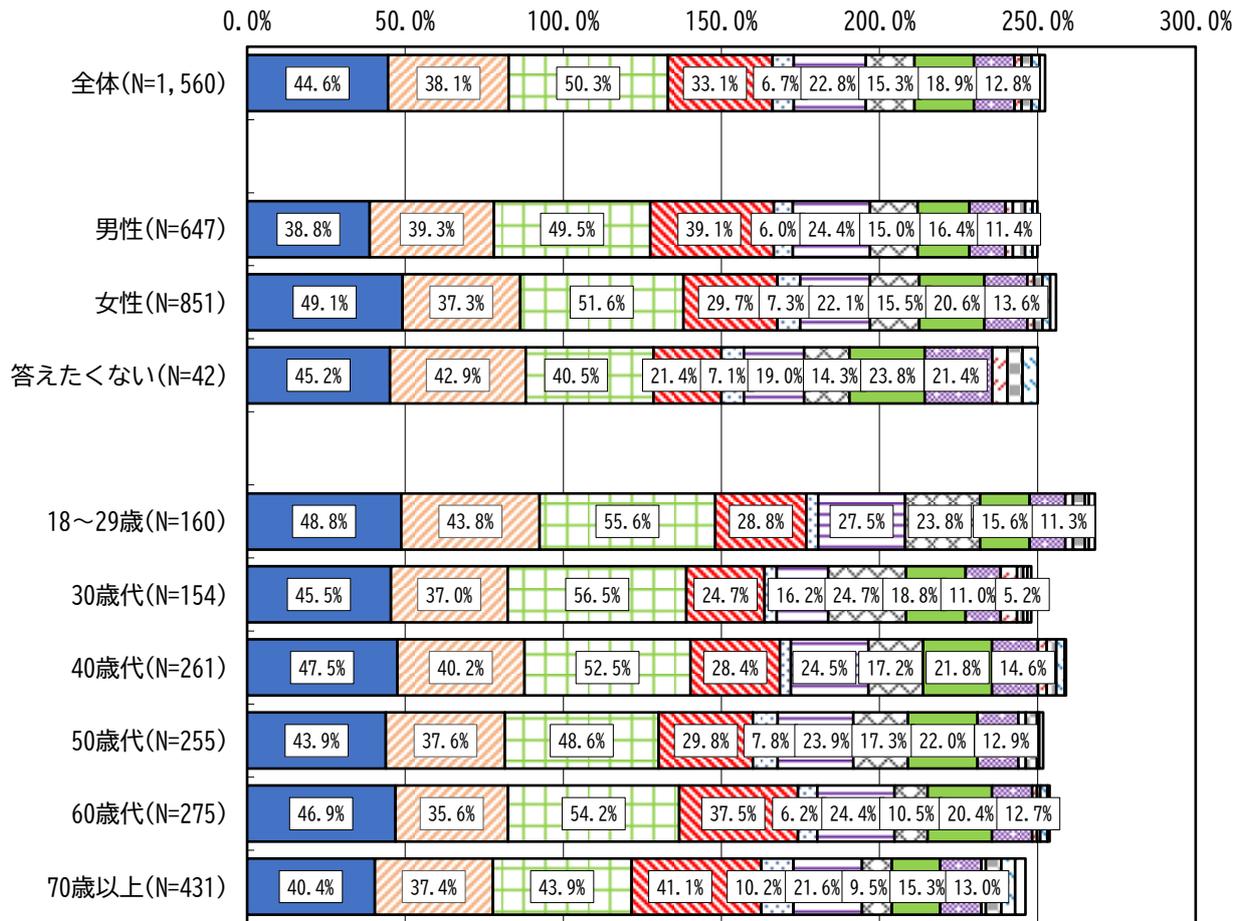
問6 女性に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

図 女性の人権について



女性の人権についてたずねたところ、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」と答えた人の割合が50.3%で最も高く、次いで「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」など男女の固定的な役割分担意識があること」(44.6%)、「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」(38.1%)の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 女性の人権について一性別・年齢別



- 家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」など男女の固定的な役割分担意識があること
- 職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること
- 社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと
- 女性は男性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ないこと
- 商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などを使用していること
- 職場や地域社会において、セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）があること
- 職場において、マタニティハラスメント（妊娠・出産した女性に対する職場での嫌がらせ）があること
- 夫や恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる強迫や行動制限を受けること
- 売春・買春、ストーカー行為
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

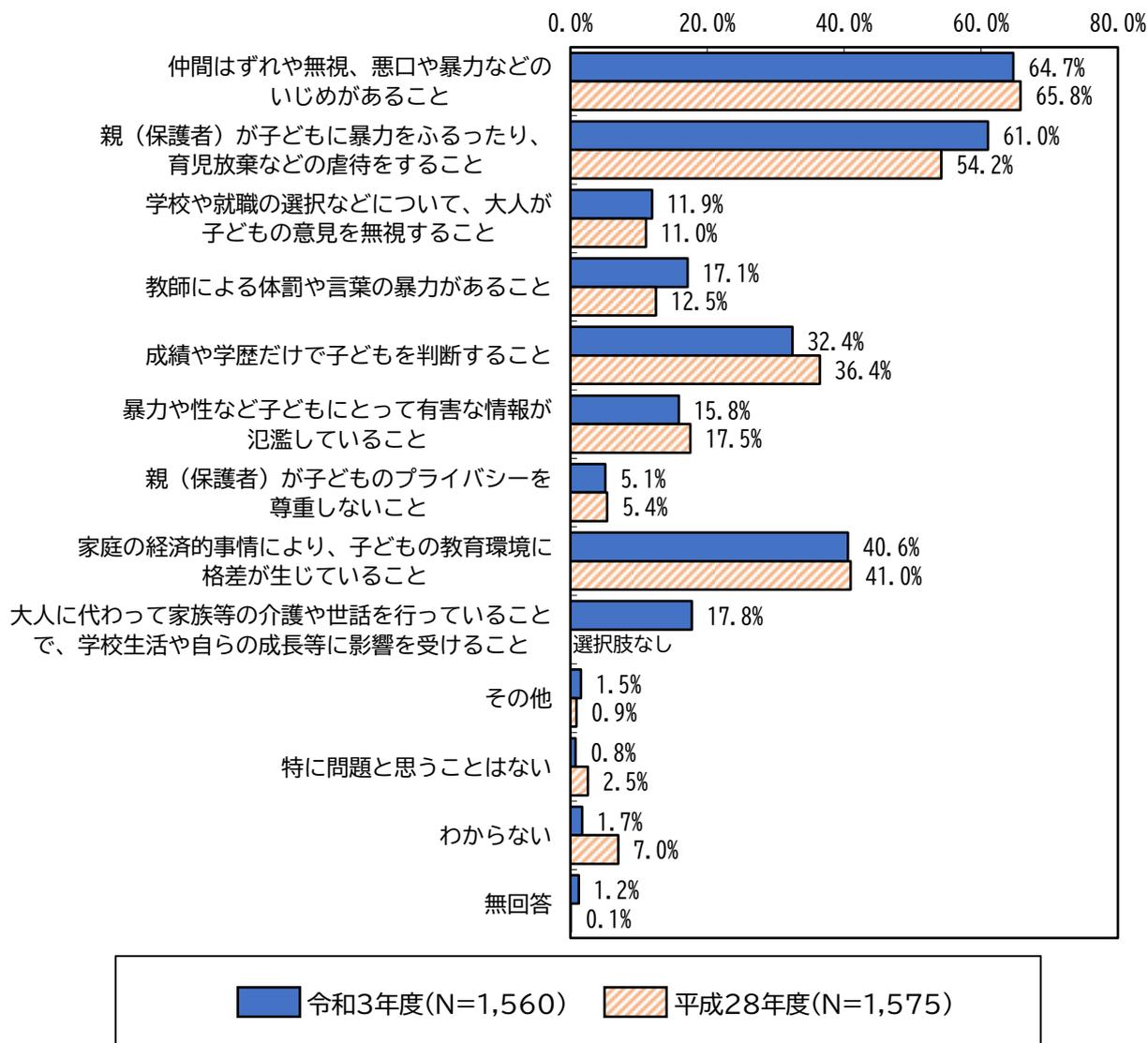
性別で見ると、「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」など男女の固定的な役割分担意識があること」と答えた人の割合は女性の方が 10.3 ポイント、「女性は男性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ないこと」は男性の方が 9.4 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(2) 子どもの人権について

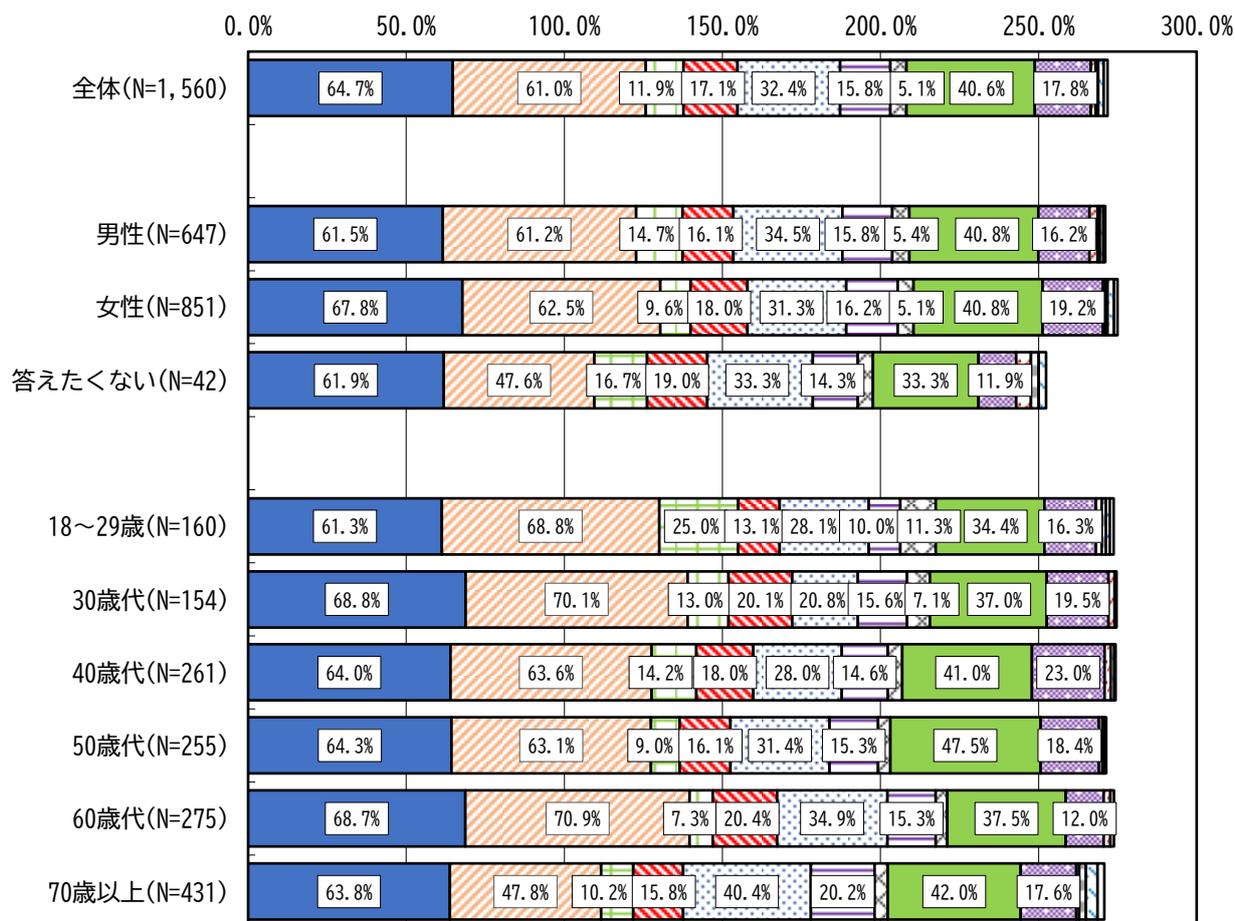
問7 子どもに関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

図 子どもの人権について



子どもの人権についてたずねたところ、「仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること」と答えた人の割合が 64.7%で最も高く、次いで「親（保護者）が子どもに暴力をふるったり、育児放棄などの虐待をすること」が 61.0%、「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること」（40.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 子どもの人権について—性別・年齢別



- 仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること
- 親（保護者）が子どもに暴力をふるったり、育児放棄などの虐待をすること
- 学校や就職の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること
- 教師による体罰や言葉の暴力があること
- 成績や学歴だけで子どもを判断すること
- 暴力や性など子どもにとって有害な情報が氾濫していること
- 親（保護者）が子どものプライバシーを尊重しないこと
- 家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること
- 大人に代わって家族等の介護や世話をやっていることで、学校生活や自らの成長等に影響を受けること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

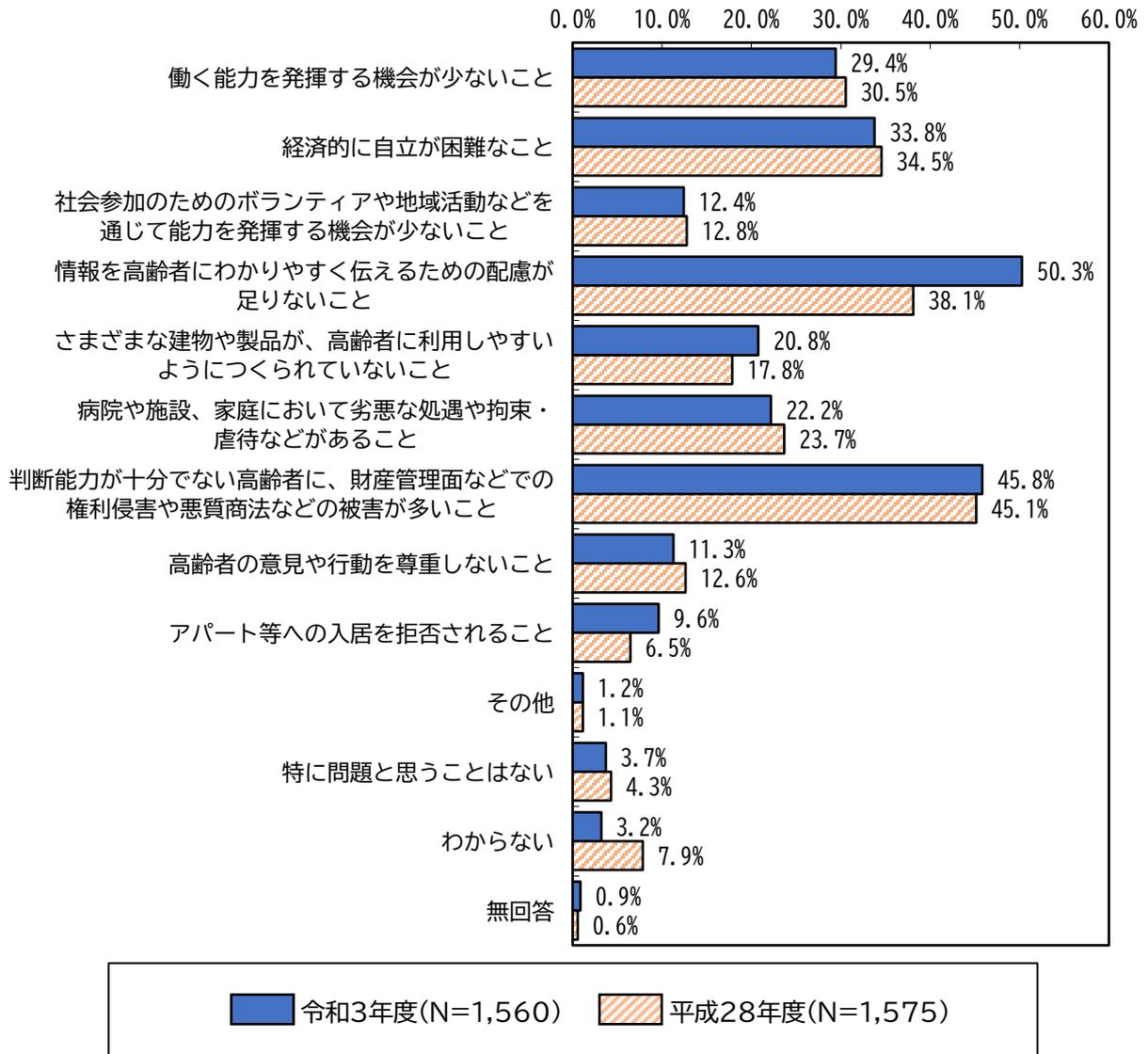
性別で見ると、「仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること」と答えた人の割合は女性の方が 6.3 ポイント、「学校や就職の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」は男性の方が 5.1 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること」、「親（保護者）が子どもに暴力をふるったり、育児放棄などの虐待をすること」と答えた人の割合が高くなっている。

(3) 高齢者の人権について

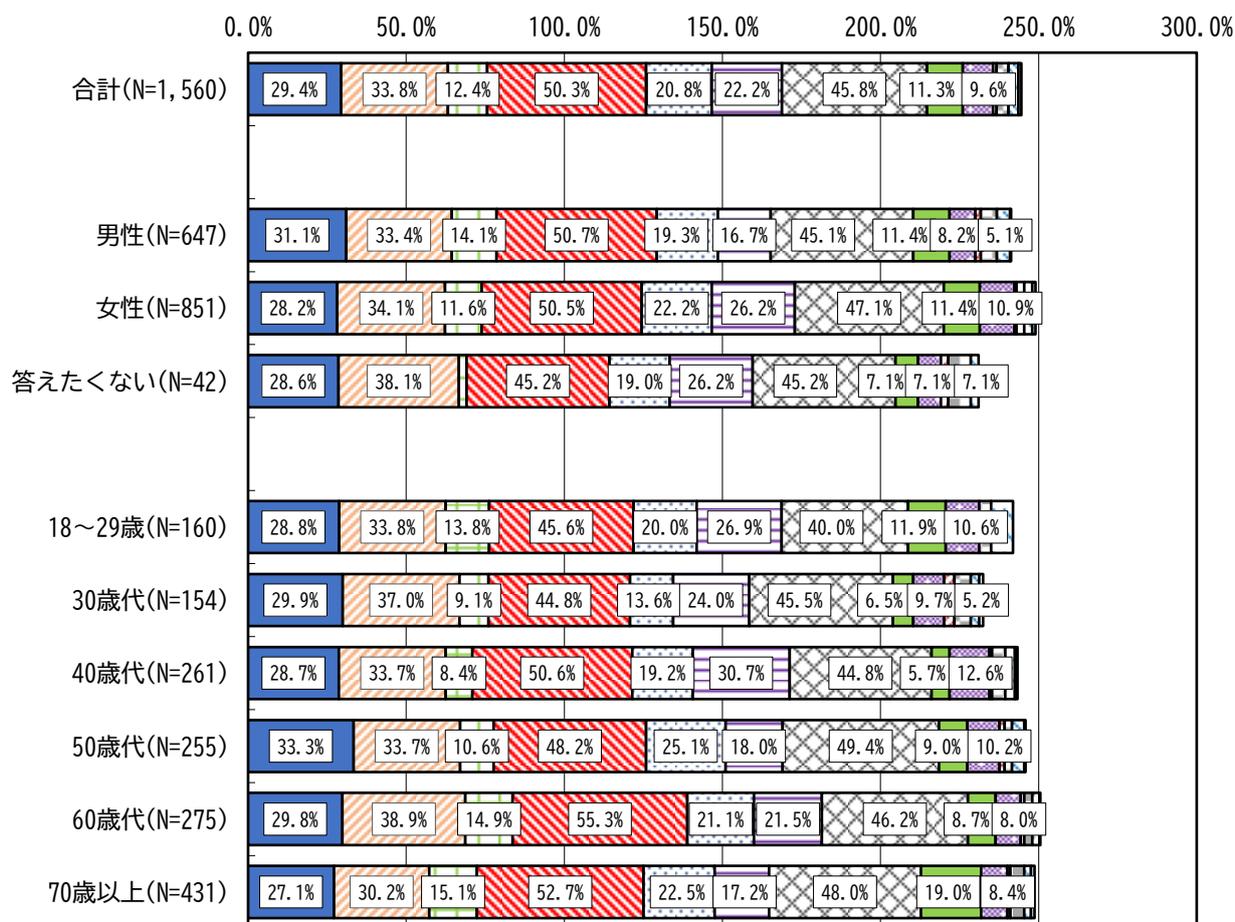
問8 高齢者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

図 高齢者の人権について



高齢者の人権についてたずねたところ、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」と答えた人の割合が50.3%で最も高く、次いで「判断能力が十分でない高齢者に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと」（45.8%）、「経済的に自立が困難なこと」（33.8%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」と答えた人の割合が高くなっている。

図 高齢者の人権について—性別・年齢別



- 働く能力を発揮する機会が少ないこと
- 経済的に自立が困難なこと
- 社会参加のためのボランティアや地域活動などを通じて能力を発揮する機会が少ないこと
- 情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと
- さまざまな建物や製品が、高齢者に利用しやすいようにつくられていないこと
- 病院や施設、家庭において劣悪な処遇や拘束・虐待などがあること
- 判断能力が十分でない高齢者に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと
- 高齢者の意見や行動を尊重しないこと
- アパート等への入居を拒否されること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

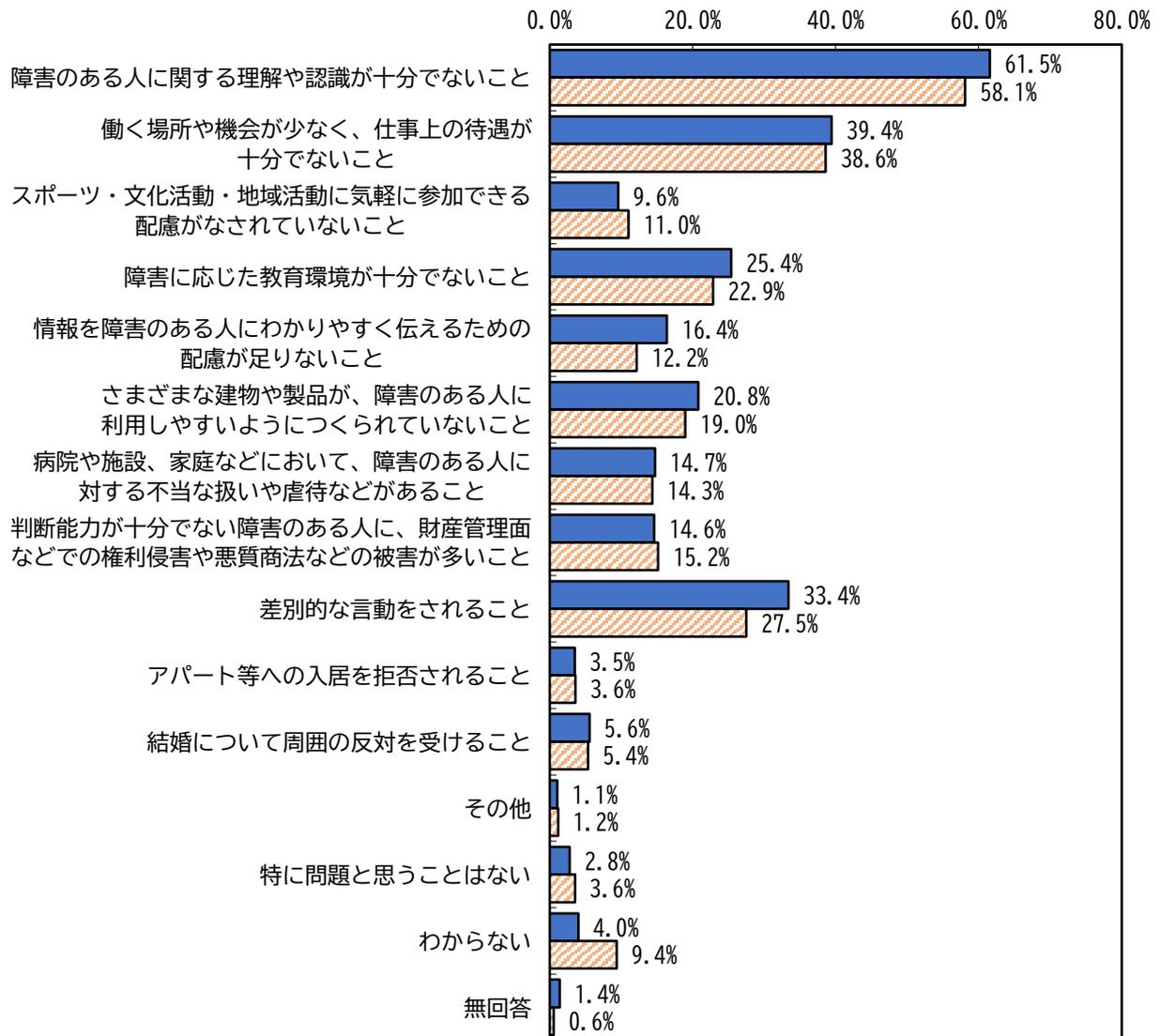
性別で見ると、「病院や施設、家庭において劣悪な処遇や拘束・虐待などがあること」と答えた人の割合は女性の方が9.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」、「判断能力が十分でない高齢者に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと」と答えた人の割合が高くなっている。

(4) 障害者の人権について

問9 障害のある人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

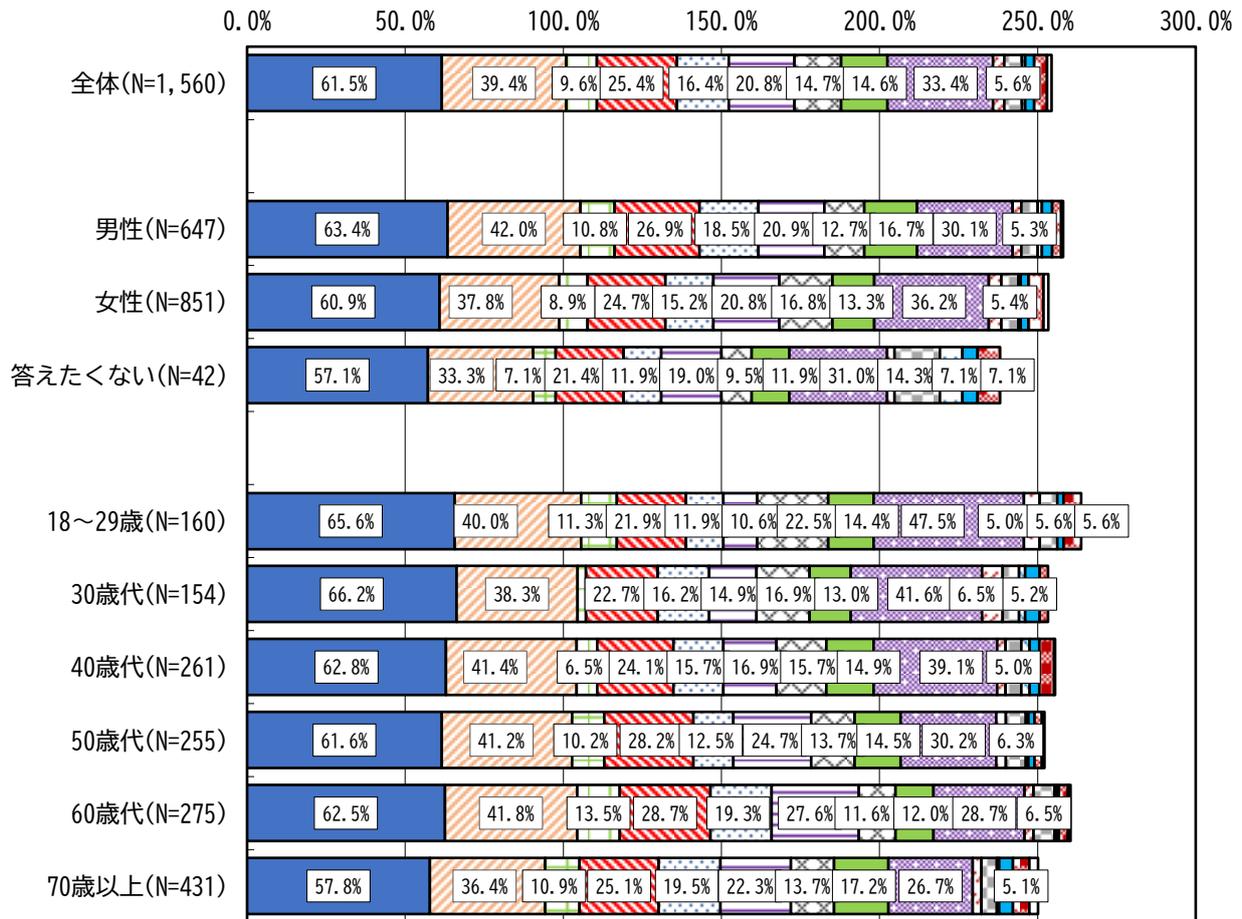
図 障害者の人権について



■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

障害者の人権についてたずねたところ、「障害のある人に関する理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が61.5%で最も高く、次いで「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」(39.4%)、「差別的な言動をされること」(33.4%)の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 障害者の人権について—性別・年齢別



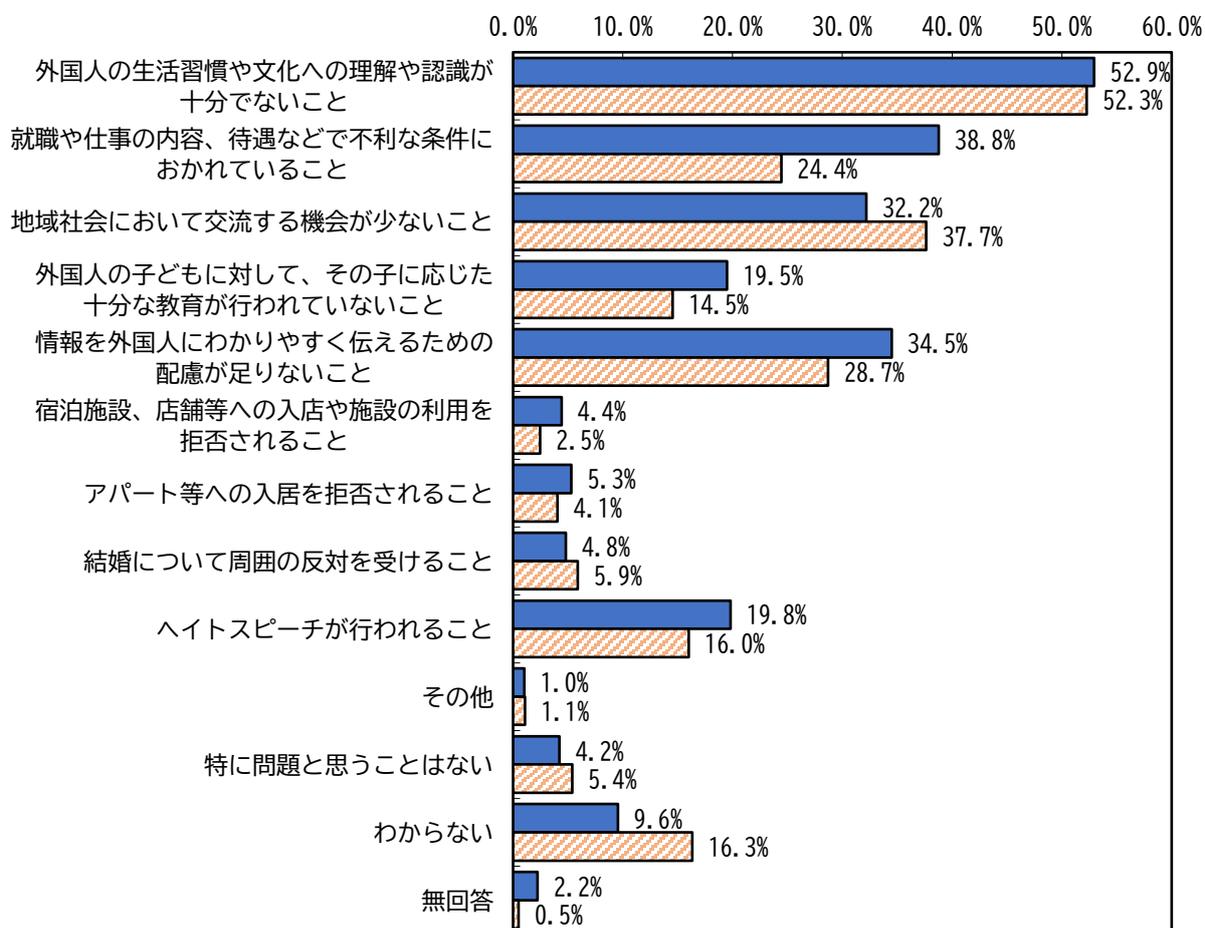
- 障害のある人に関する理解や認識が十分でないこと
- 働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと
- スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できる配慮がなされていないこと
- 障害に応じた教育環境が十分でないこと
- 情報を障害のある人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと
- さまざまな建物や製品が、障害のある人に利用しやすいようにつくられていないこと
- 病院や施設、家庭などにおいて、障害のある人に対する不当な扱いや虐待などがあること
- 判断能力が十分でない障害のある人に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと
- 差別的な言動をされること
- アパート等への入居を拒否されること
- 結婚について周囲の反対を受けること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

性別で見ると、「差別的な言動をされること」と答えた人の割合は女性の方が6.1ポイント高くなっている。
 年齢別で見ると、各年代とも「障害のある人に関する理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が最も高くなっており、「差別的な言動をされること」は年代が低くなるほど高くなっている。

(5) 外国人の人権について

問 10(1) 外国人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

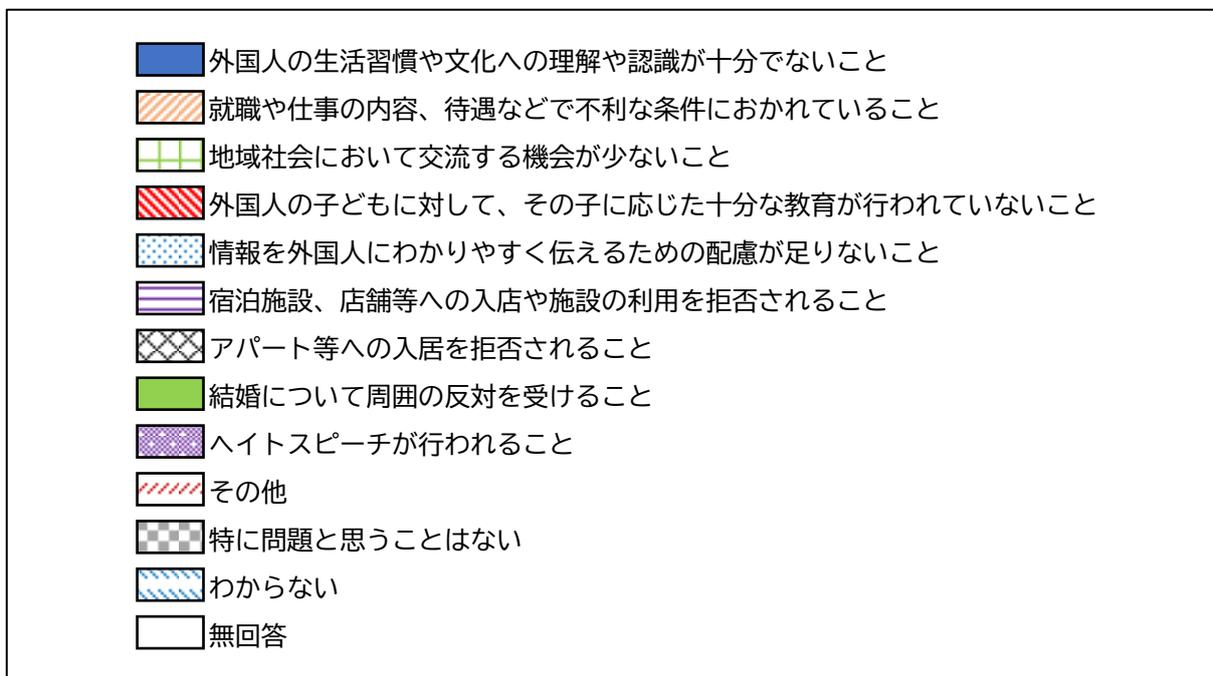
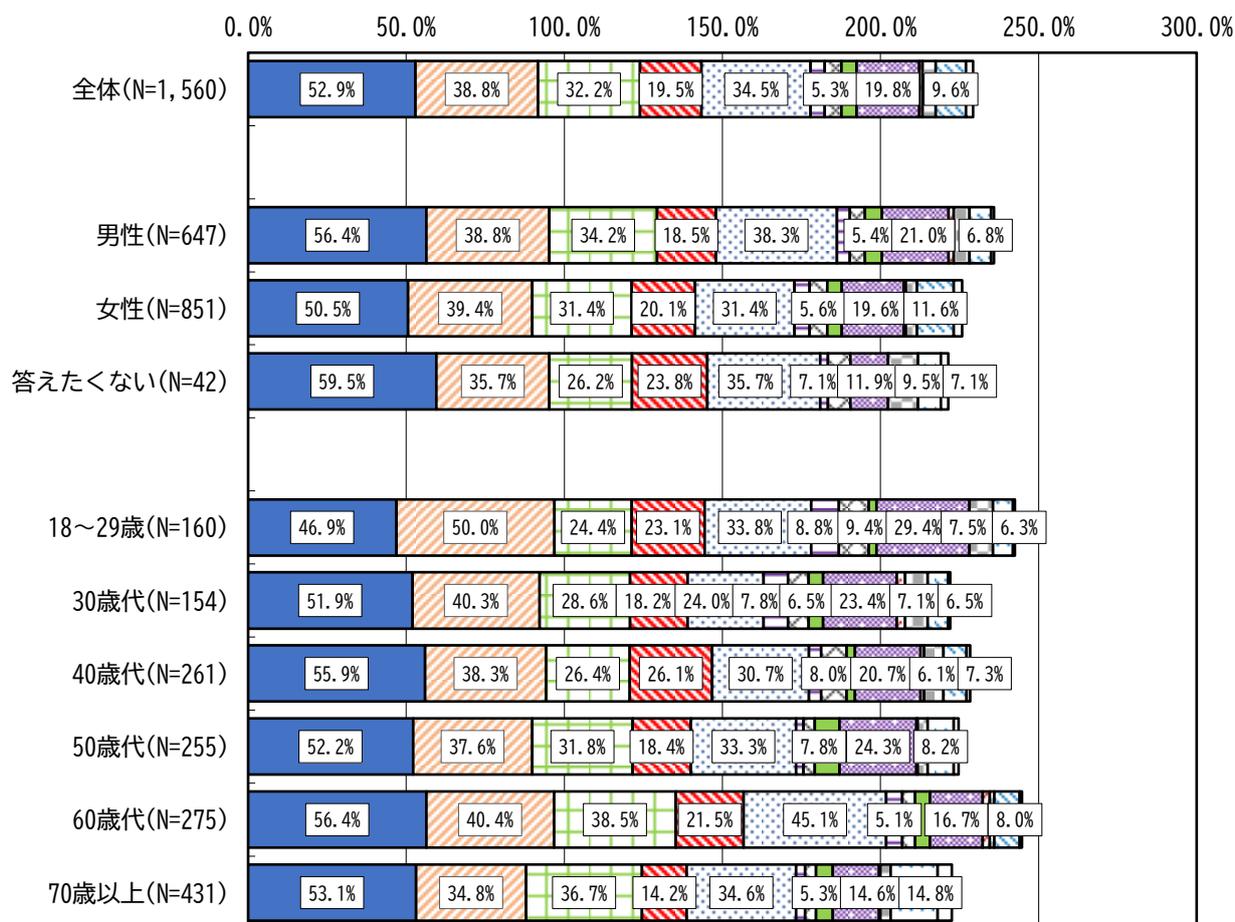
図 外国人の人権について



■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

外国人の人権についてたずねたところ、「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が 52.9%で最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」（38.8%）、「情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」（34.5%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」と答えた人の割合が高くなっている。

図 外国人の人権について一性別・年齢別



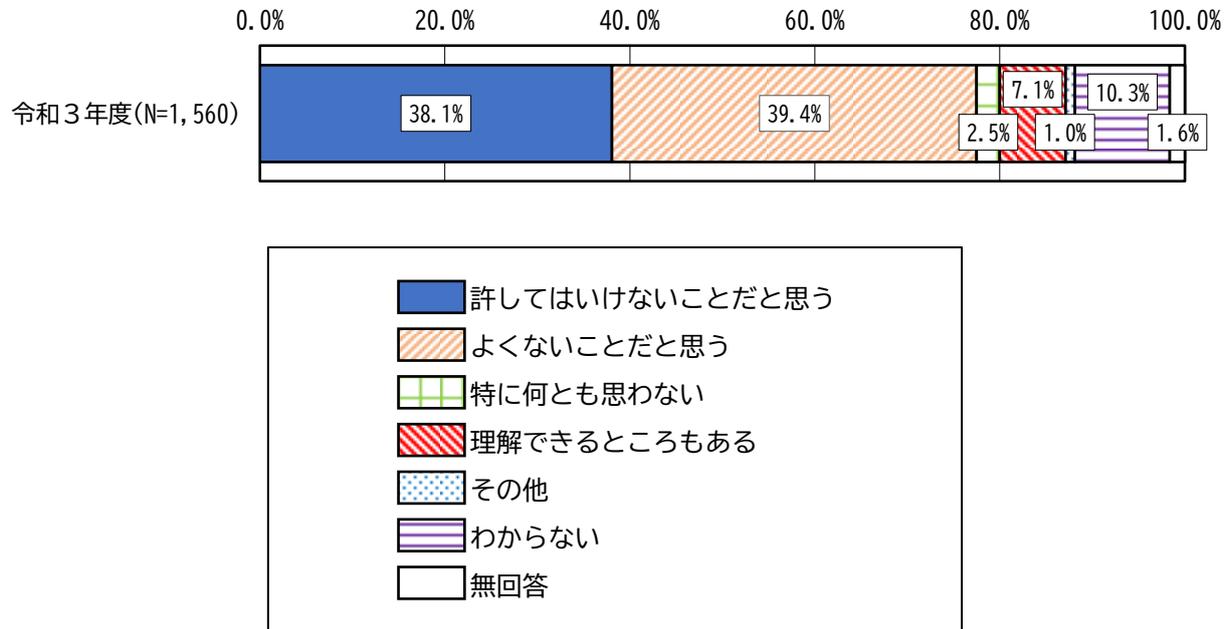
性別で見ると、「情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」と答えた人の割合は男性の方が6.9ポイント高く、「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」も男性の方が5.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳代以上は「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が最も高く、18~29歳は「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」が最も高くなっている。

(6) ヘイトスピーチについて

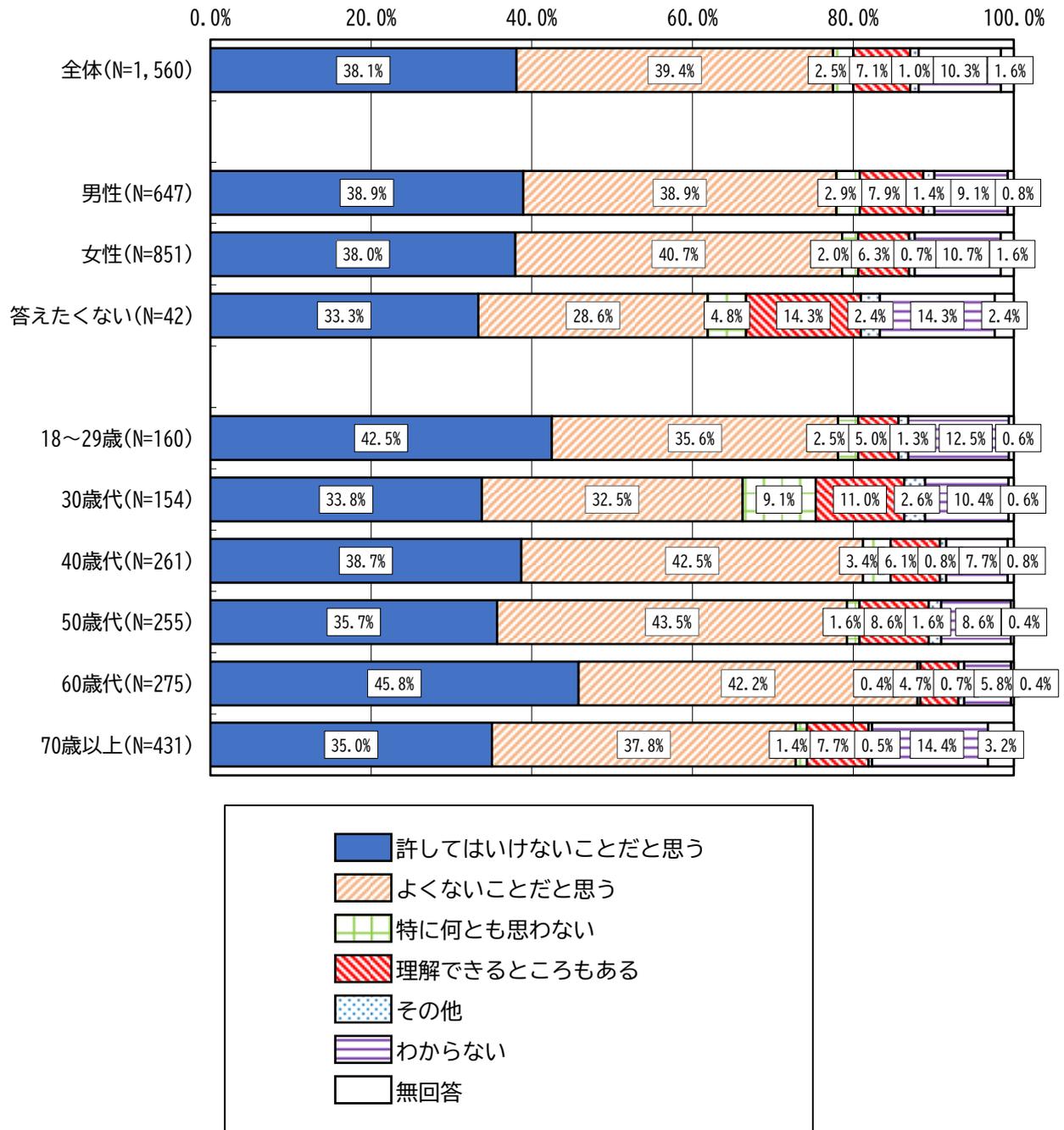
問 10(2) あなたは、ヘイトスピーチについてどう思いますか。あなたの思いに最も近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

図 ヘイトスピーチについて



ヘイトスピーチについてたずねたところ、「よくないことだと思う」と答えた人の割合が 39.4%で最も高く、次いで「許してはいけないことだと思う」(38.1%)、「わからない」(10.3%)の順となっている。また、「理解できるところもある」と答えた人の割合は 7.1%となっている。

図 ヘイトスピーチについて—性別・年齢別



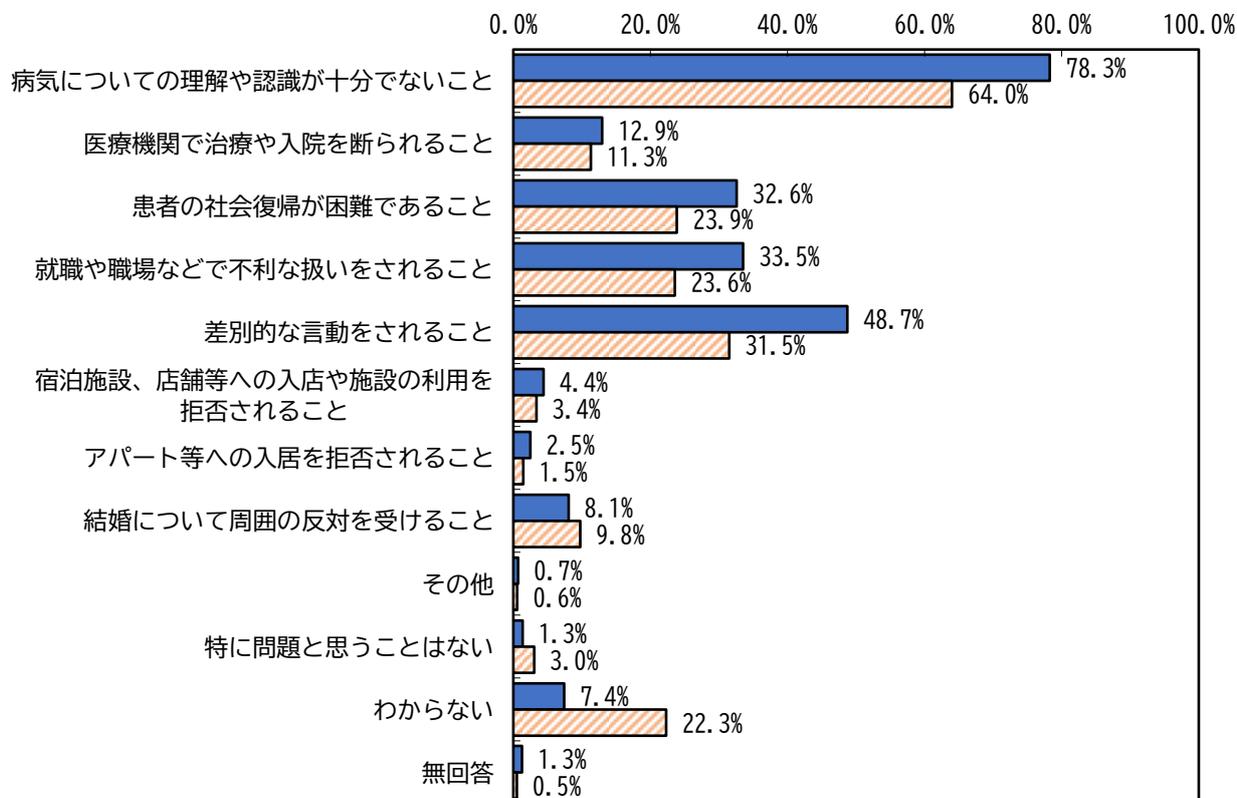
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、すべての年代で「許してはいけないと思う」「よくないことだと思う」を合わせた「よくないと思う」の割合が65%を超えている。中でも、60歳代は88.0%で最も高くなっている。

(7) エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について

問 11 エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。※

図 エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について

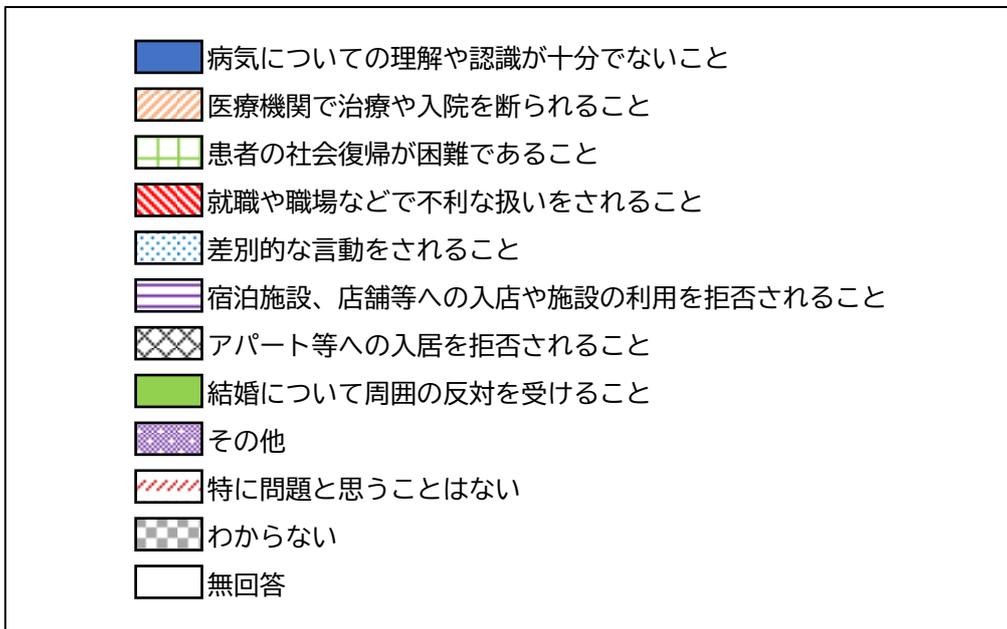
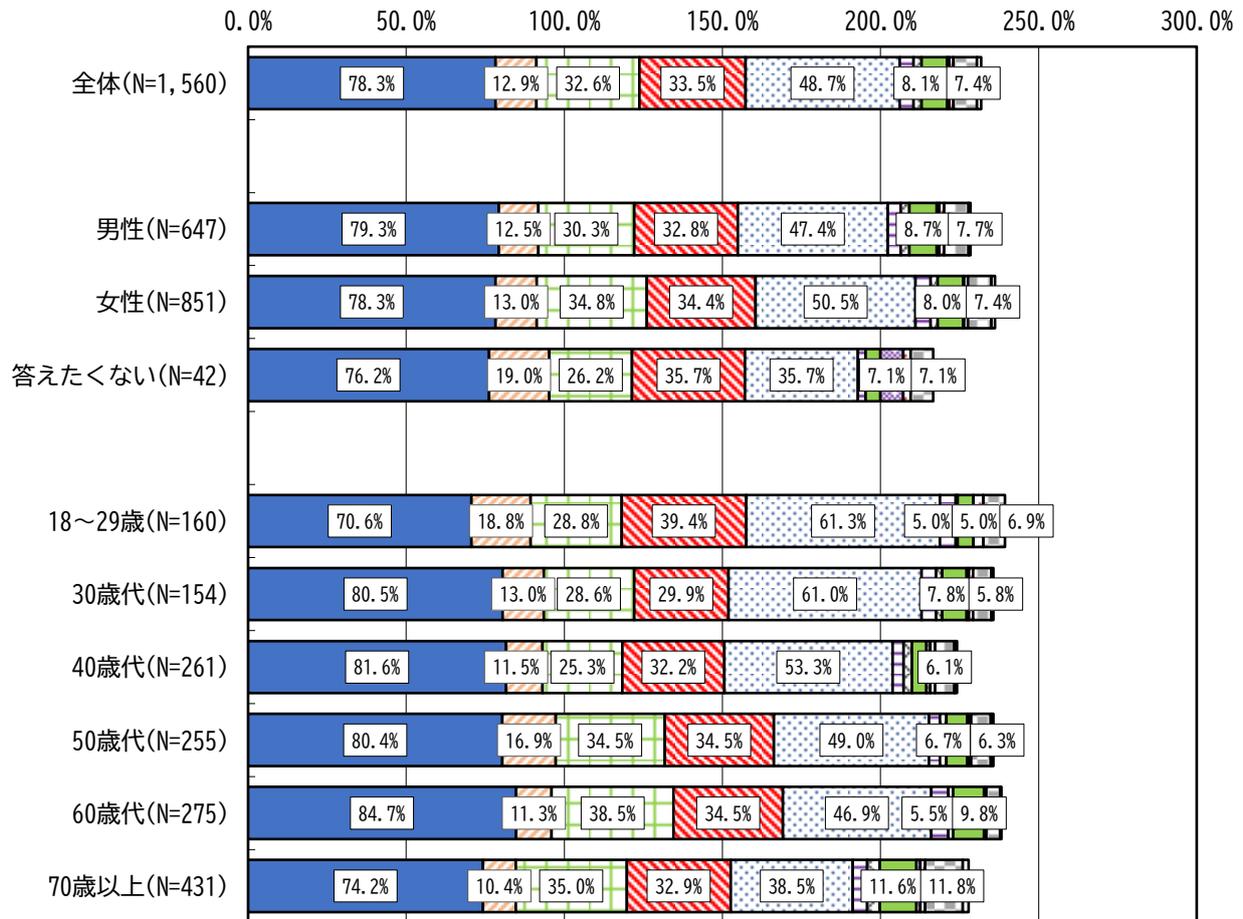


■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

※平成 28 年度は質問文を「エイズ患者・HIV 感染者やその家族等に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は質問文を変更した。

エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権についてたずねたところ、「病気についての理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が 78.3%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(48.7%)、「就職や職場などで不利な扱いをされること」(33.5%)の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位 2 項目は同じ結果となっている。

図 エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について一性別・年齢別



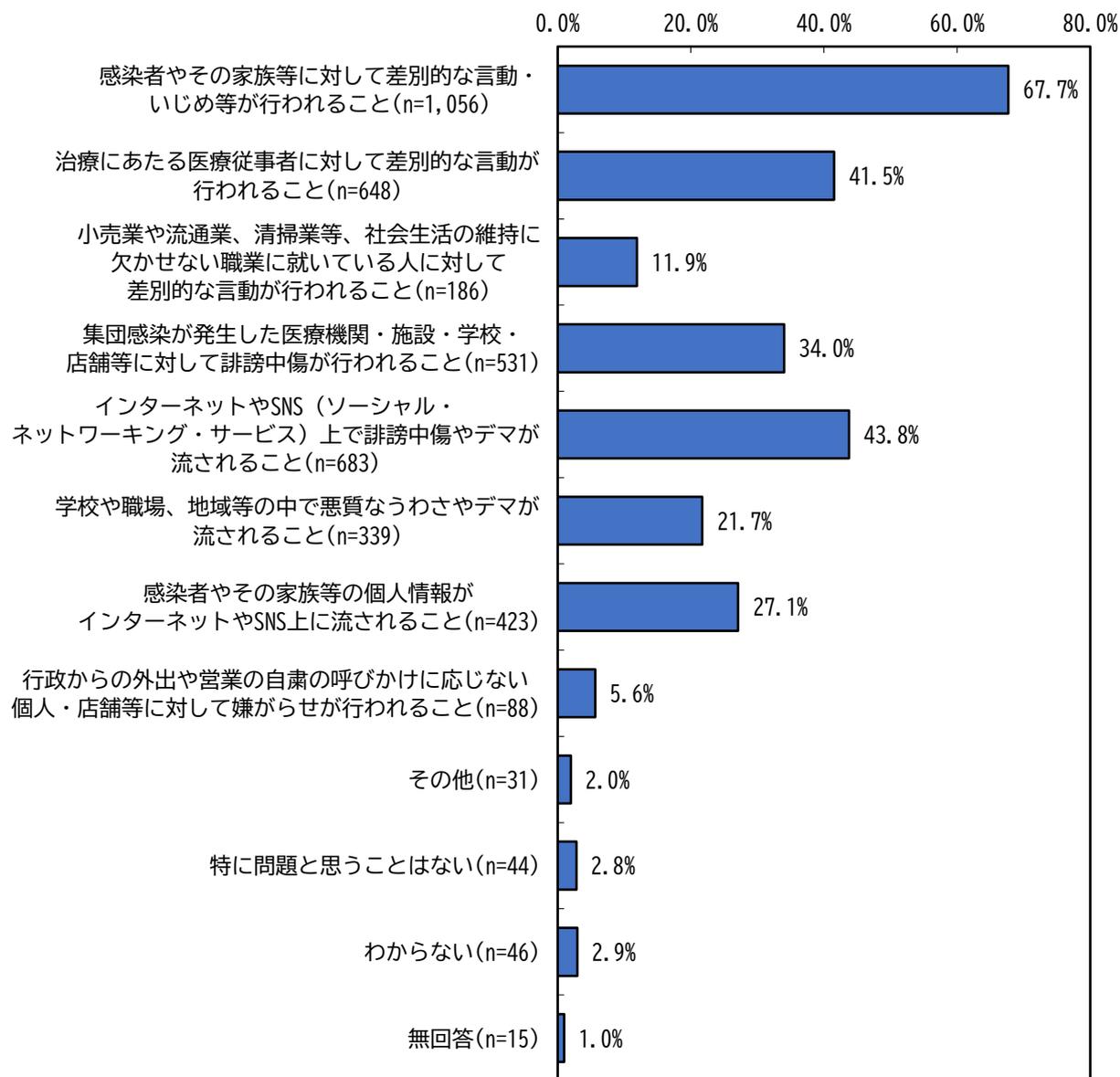
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも「病気についての理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(8) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について

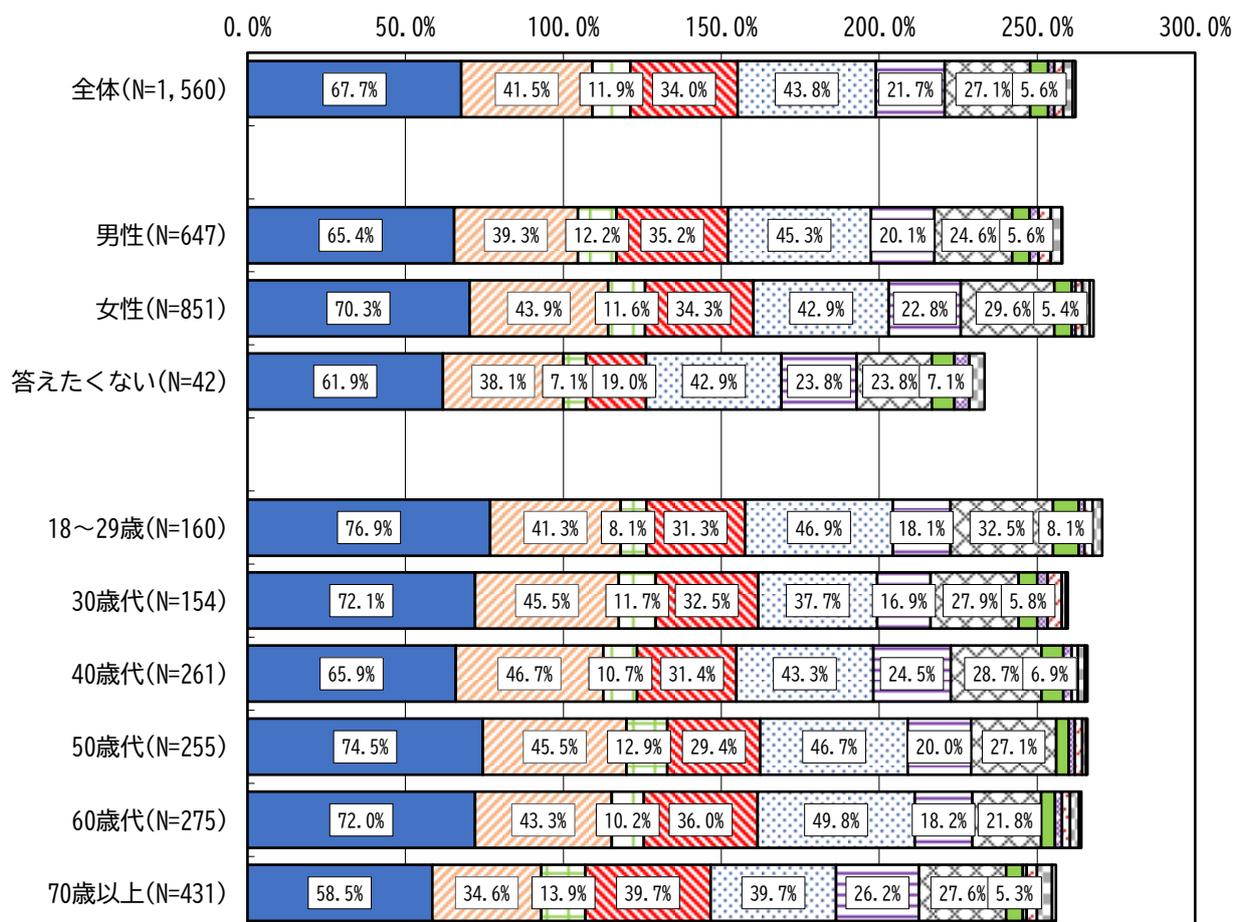
問 12 現在特に問題となっている感染症には新型コロナウイルス感染症がありますが、この感染症に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

図 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について



新型コロナウイルス感染症に関する人権問題についてたずねたところ、「感染者やその家族等に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」と答えた人の割合が67.7%で最も高く、次いで「インターネットやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)上で誹謗中傷やデマが流されること」(43.8%)、「治療にあたる医療従事者に対して差別的な言動が行われること」(41.5%)の順となっている。

図 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について—性別・年齢別



- 感染者やその家族等に対して差別的な言動・いじめ等が行われること
- 治療にあたる医療従事者に対して差別的な言動が行われること
- 小売業や流通業、清掃業等、社会生活の維持に欠かせない職業に就いている人に対して差別的な言動が行われること
- 集団感染が発生した医療機関・施設・学校・店舗等に対して誹謗中傷が行われること
- インターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）上で誹謗中傷やデマが流されること
- 学校や職場、地域等の中で悪質なうわさやデマが流されること
- 感染者やその家族等の個人情報がインターネットやSNS上に流されること
- 行政からの外出や営業の自粛の呼びかけに応じない個人・店舗等に対して嫌がらせが行われること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

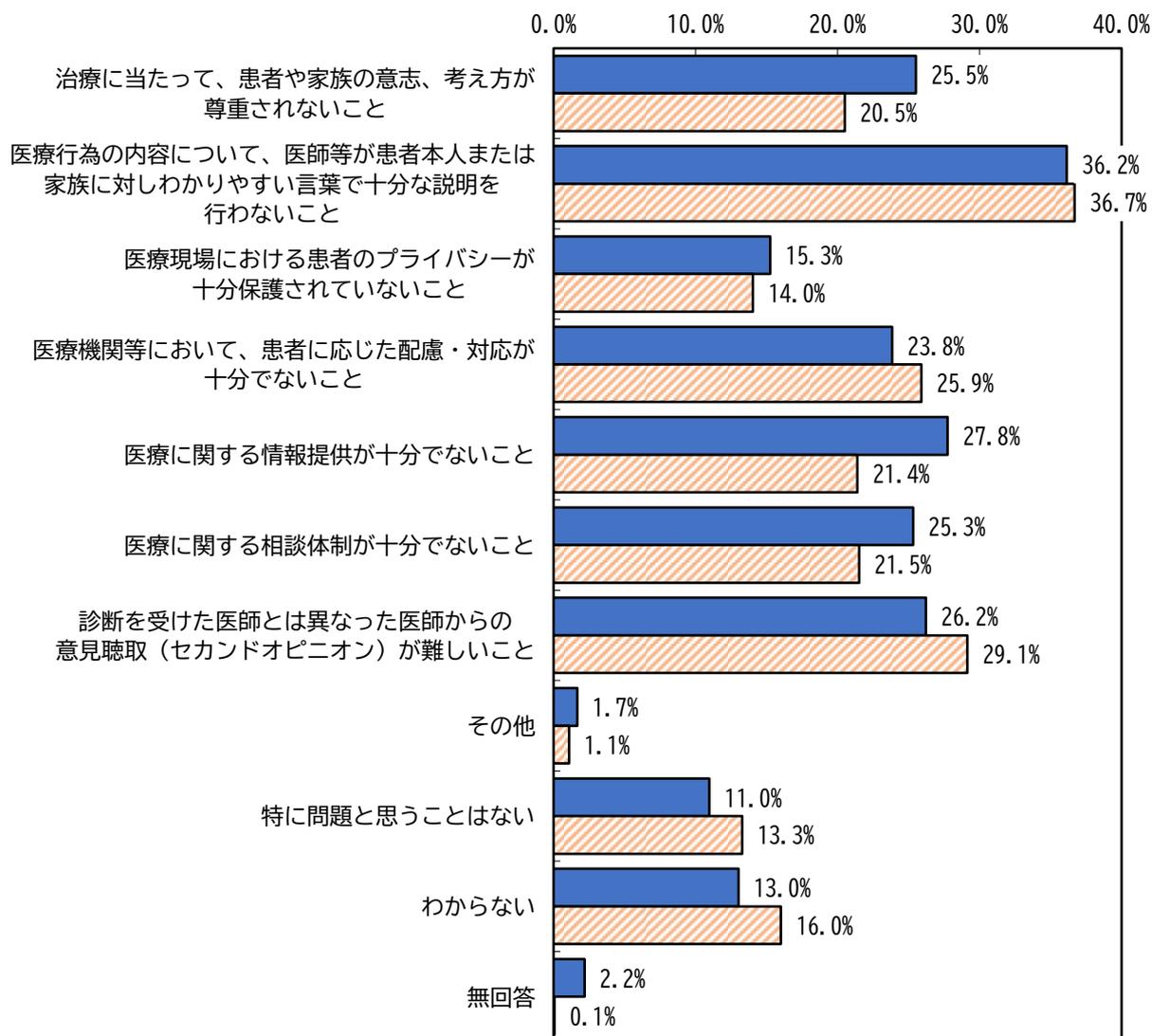
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも「感染者やその家族等に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(9) 医療の現場における患者の人権について

問 13 医療の現場における患者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

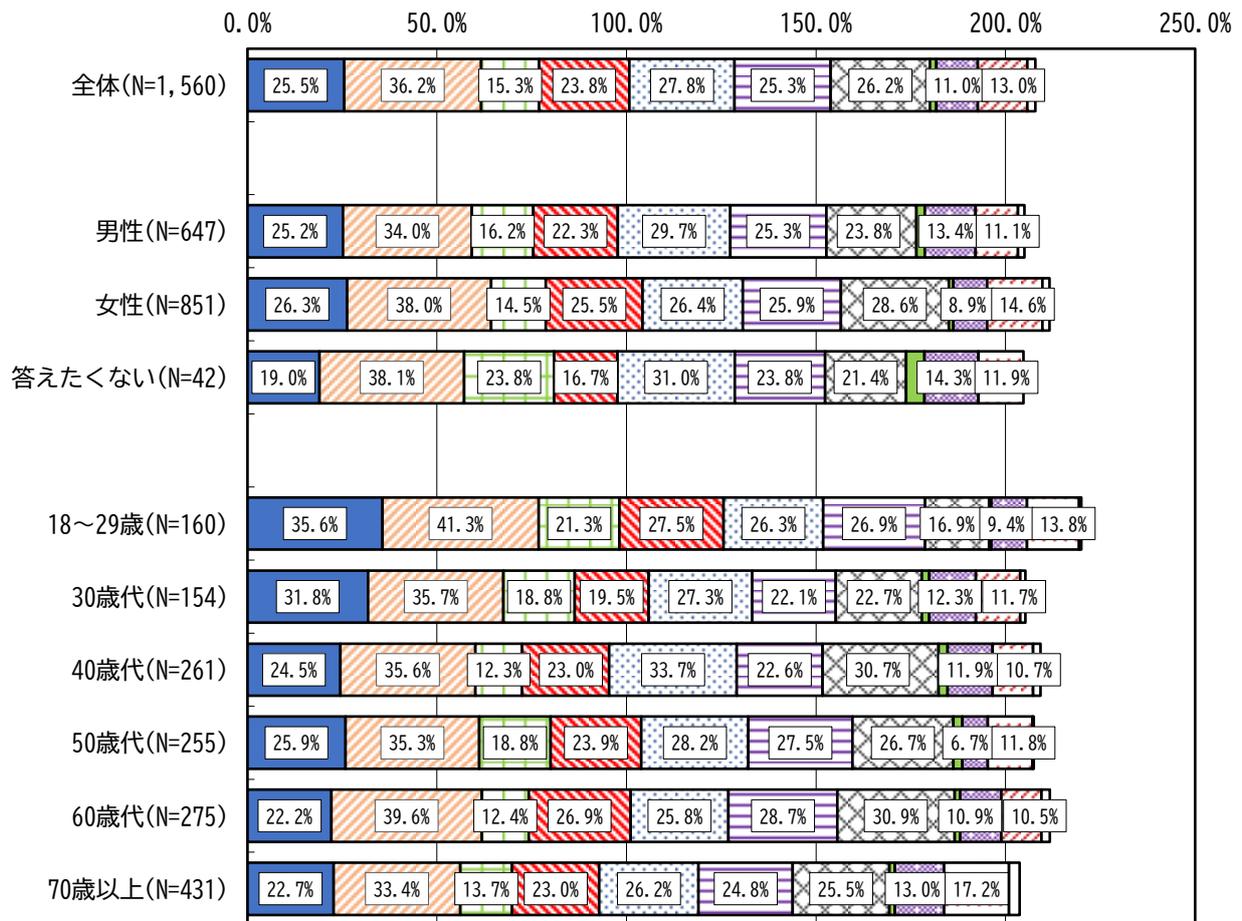
図 医療の現場における患者の人権について



■ 令和3年度(N=1,560) ▨ 平成28年度(N=1,575)

医療の現場における患者の人権についてたずねたところ、「医療行為の内容について、医師等が患者本人または家族に対しわかりやすい言葉で十分な説明を行わないこと」と答えた人の割合が 36.2%で最も高く、次いで「医療に関する情報提供が十分でないこと」(27.8%)、「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）が難しいこと」(26.2%)の順となっている。最上位の項目は前回の調査と同じ結果となっている。

図 医療の現場における患者の人権について—性別・年齢別



- 治療に当たって、患者や家族の意志、考え方が尊重されないこと
- 医療行為の内容について、医師等が患者本人または家族に対しわかりやすい言葉で十分な説明を行わないこと
- 医療現場における患者のプライバシーが十分保護されていないこと
- 医療機関等において、患者に応じた配慮・対応が十分でないこと
- 医療に関する情報提供が十分でないこと
- 医療に関する相談体制が十分でないこと
- 診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）が難しいこと
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

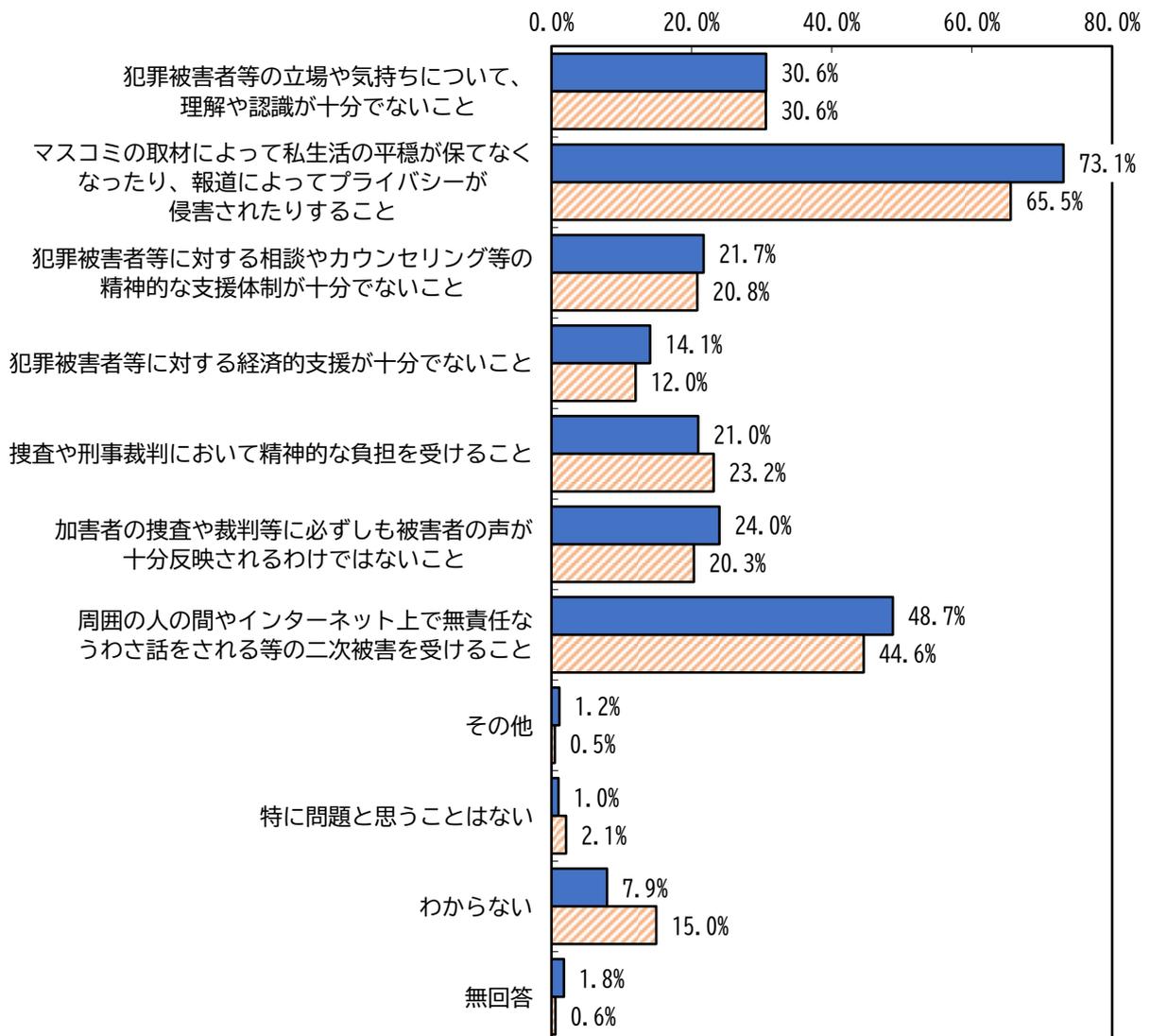
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも「医療行為の内容について、医師等が患者本人または家族に対しわかりやすい言葉で十分な説明を行わないこと」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(10) 犯罪被害者等の人権について

問 14 犯罪被害者等（犯罪によって被害を受けた人およびその家族等）に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

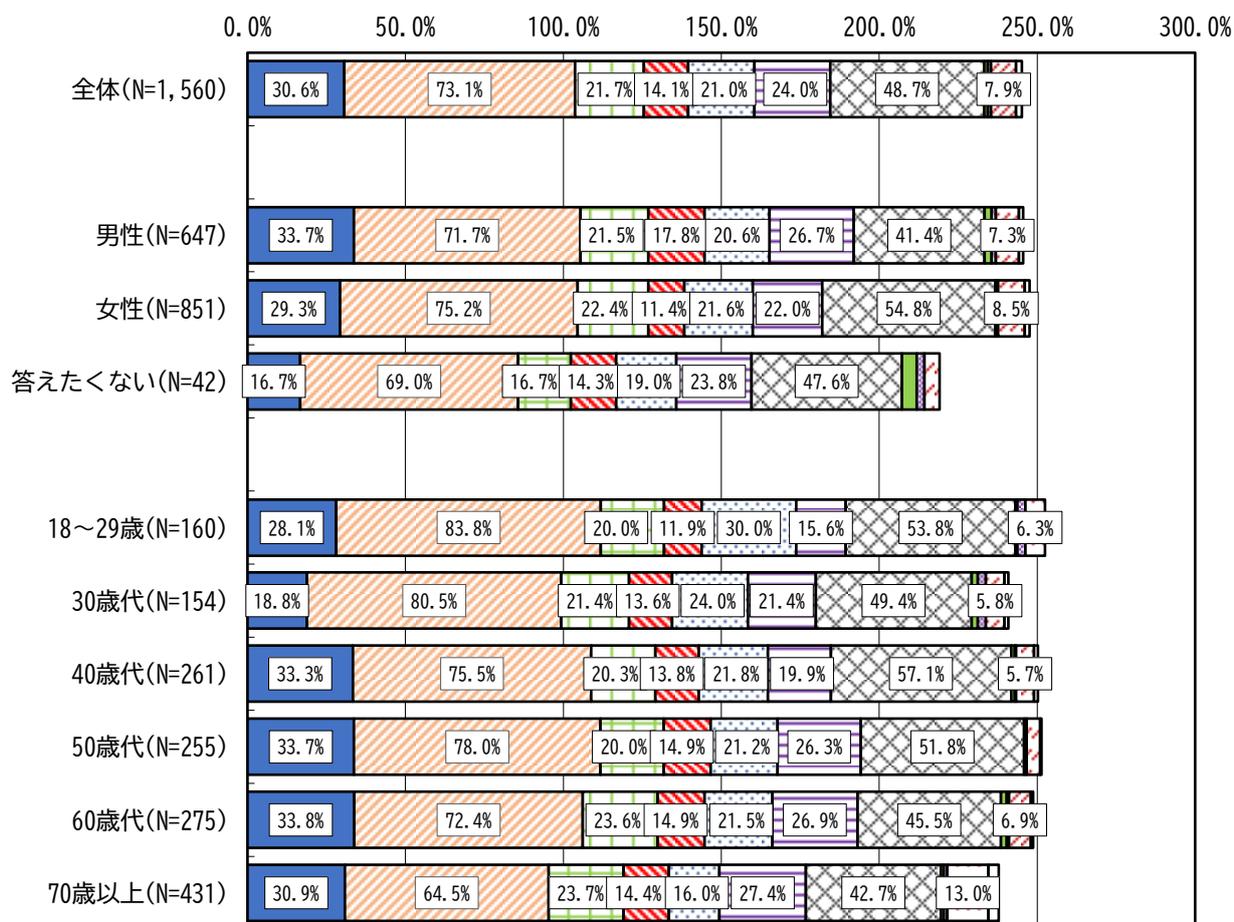
図 犯罪被害者等の人権について



■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

犯罪被害者等の人権についてたずねたところ、「マスコミの取材によって私生活の平穏が保てなくなったり、報道によってプライバシーが侵害されたりすること」と答えた人の割合が 73.1%で最も高く、次いで「周囲の間やインターネット上で無責任なうわさ話をされる等の二次被害を受けること」（48.7%）、「犯罪被害者等の立場や気持ちについて、理解や認識が十分でないこと」（30.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 犯罪被害者等の人権について—性別・年齢別



- 犯罪被害者等の立場や気持ちについて、理解や認識が十分でないこと
- マスコミの取材によって私生活の平穏が保てなくなったり、報道によってプライバシーが侵害されたりすること
- 犯罪被害者等に対する相談やカウンセリング等の精神的な支援体制が十分でないこと
- 犯罪被害者等に対する経済的支援が十分でないこと
- 捜査や刑事裁判において精神的な負担を受けること
- 加害者の捜査や裁判等に必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと
- 周囲の人の間やインターネット上で無責任なうわさ話をされる等の二次被害を受けること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

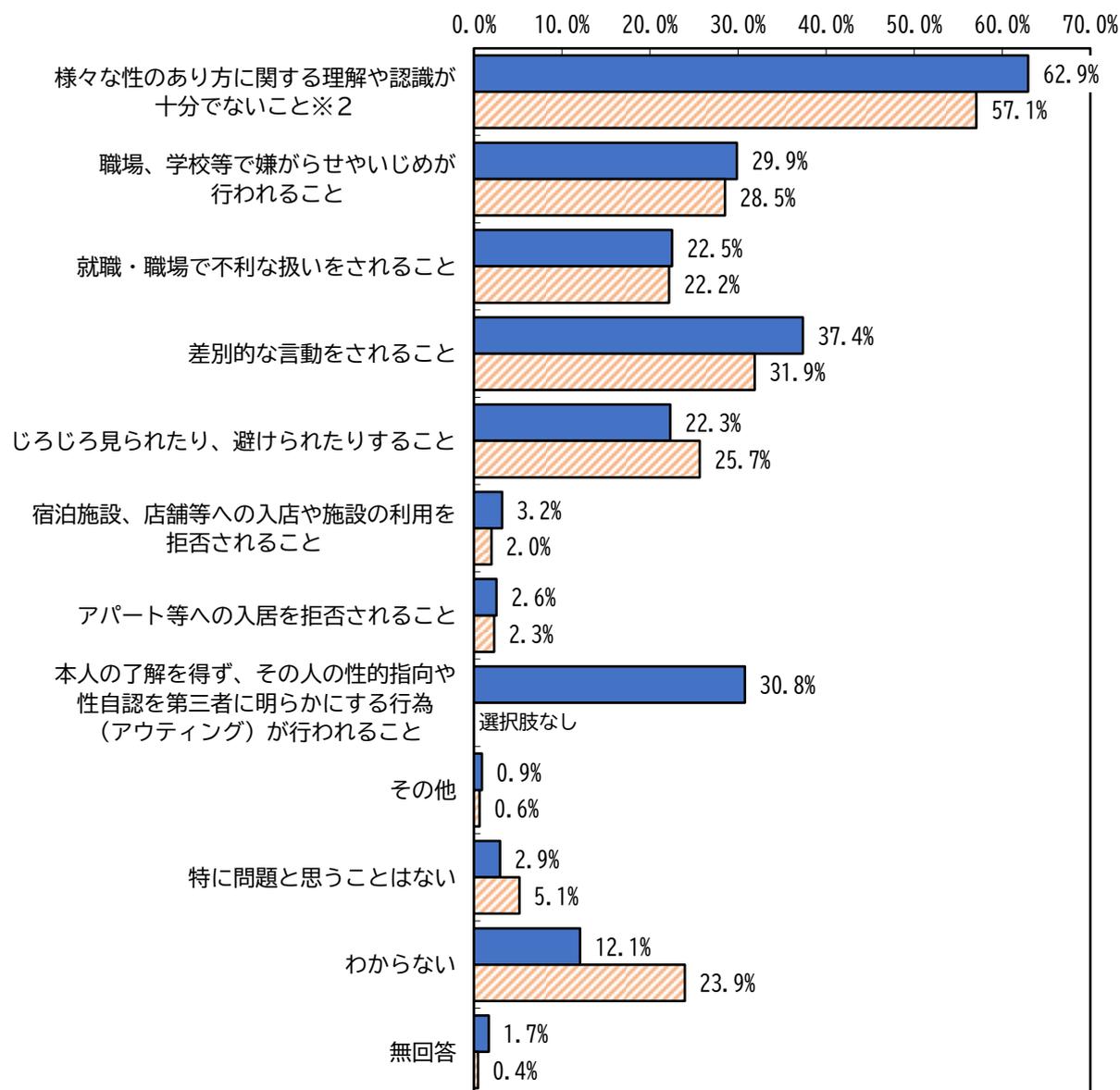
性別で見ると、「周囲の人の間やインターネット上で無責任なうわさ話をされる等の二次被害を受けること」と答えた人の割合は女性の方が13.4ポイント、「犯罪被害者等に対する経済的支援が十分でないこと」は男性の方が6.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「マスコミの取材によって私生活の平穏が保てなくなったり、報道によってプライバシーが侵害されたりすること」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(11) L G B T等の人権について

問 15 L G B Tなどに関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。※ 1

図 L G B T等の人権について



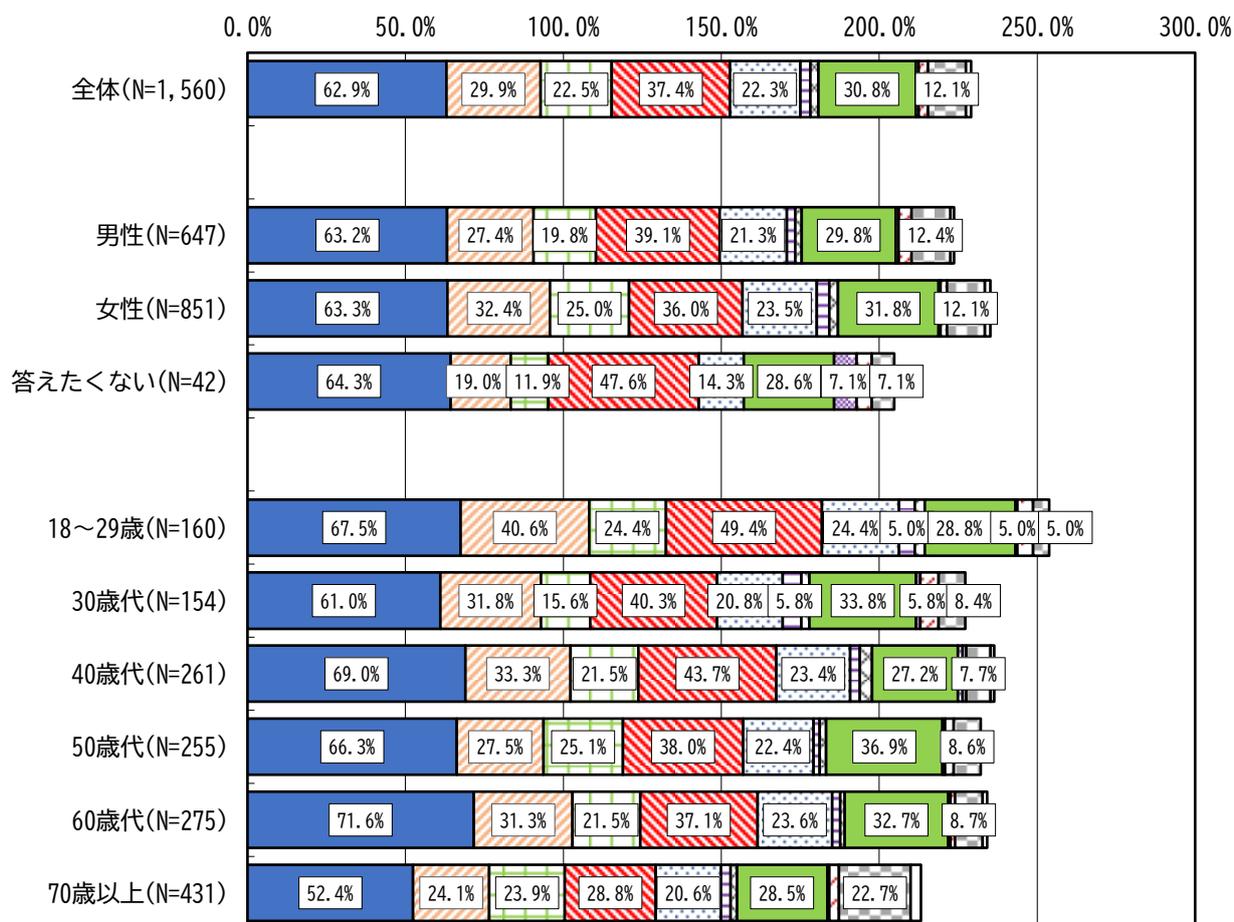
■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

※ 1 平成 28 年度は質問文を「性同一性障害者・同性愛者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は質問文を変更した。

※ 2 平成 28 年度は選択肢の文章を「性同一性障害者・同性愛者等に関する理解や認識が十分でないこと」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」と変更した。

LGBT 等の人権についてたずねたところ、「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が 62.9%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(37.4%)、「本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為(アウティング)が行われること」(30.8%)の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位 2 項目の順位は同じ結果となっている。

図 L G B T等の人権について—性別・年齢別



- 様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと
- 職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること
- 就職・職場で不利な扱いをされること
- 差別的な言動をされること
- じろじろ見られたり、避けられたりすること
- 宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否されること
- アパート等への入居を拒否されること
- 本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為（アウティング）が行われること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

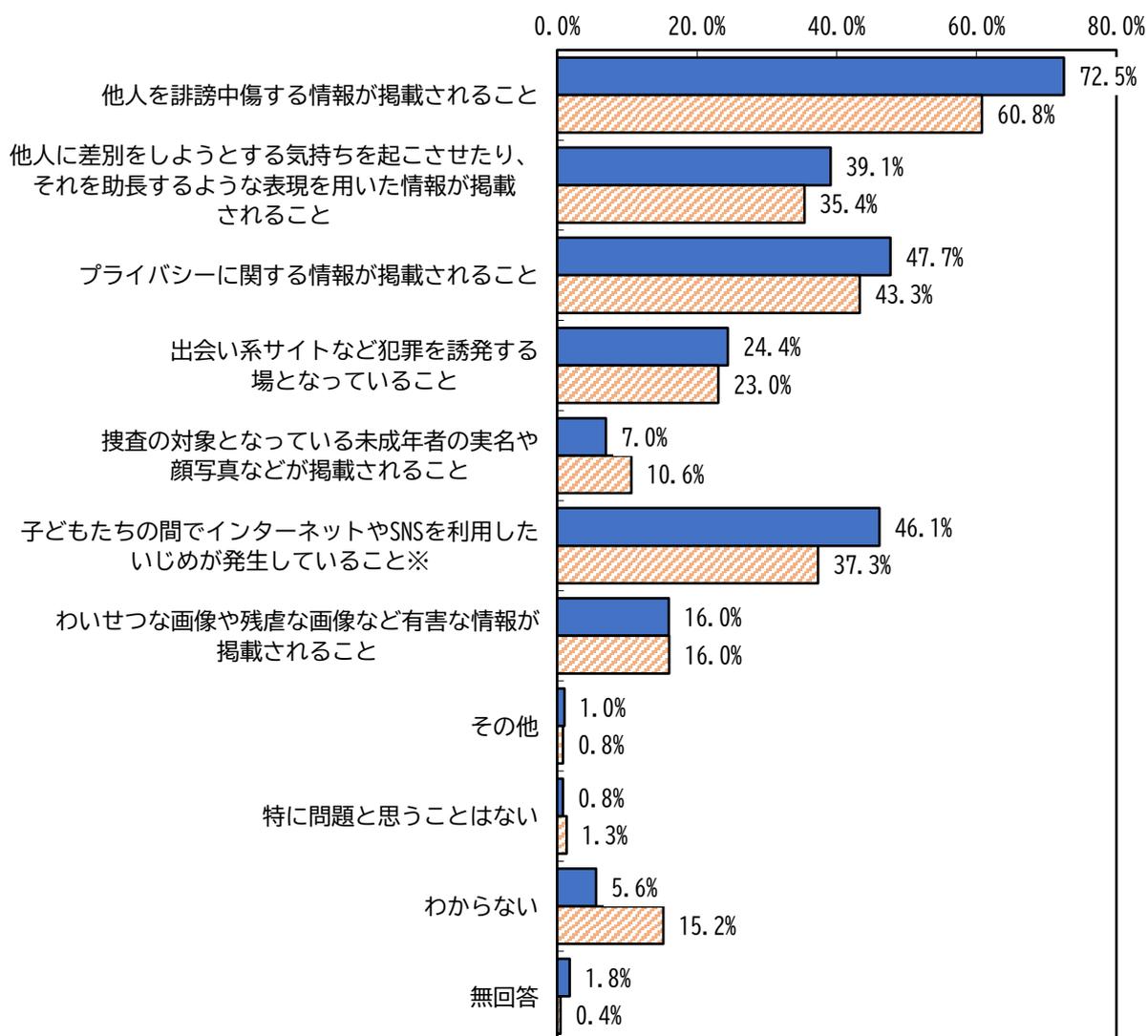
性別で見ると、「就職・職場で不利な扱いをされること」と答えた人の割合が女性の方が 5.2 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が最も高くなっており、「差別的な言動をされること」は概ね年代が高くなるほど低くなる傾向がある。

(12) インターネット上の人権侵害について

問 16 インターネット上の人権侵害について、特にどのようなことが問題だと思いますか。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。

図 インターネット上の人権侵害について

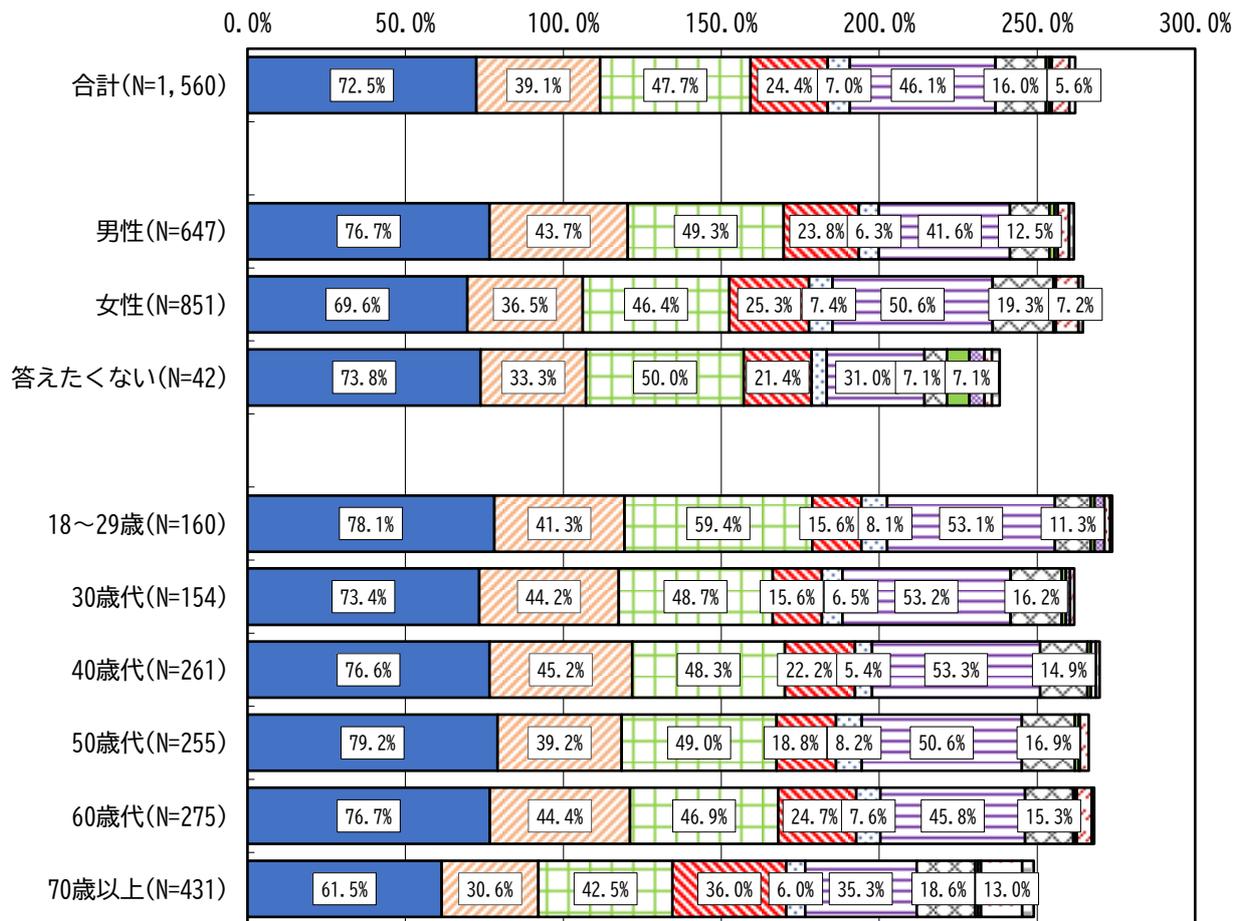


■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

※平成 28 年度は選択肢の文章を「子どもたちの間でインターネットを利用したいじめが発生していること」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は「子どもたちの間でインターネットや SNS を利用したいじめが発生していること」と変更した。

インターネット上の人権侵害についてたずねたところ、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」と答えた人の割合が 72.5%で最も高く、次いで「プライバシーに関する情報が掲載されること」(47.7%)、「子どもたちの間でインターネットや SNS を利用したいじめが発生していること」(46.1%) の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位 3 項目の順位は同じ結果となっている。

図 インターネット上の人権侵害について—性別・年齢別



- 他人を誹謗中傷する情報が掲載されること
- 他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載されること
- プライバシーに関する情報が掲載されること
- 出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること
- 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などが掲載されること
- 子どもたちの間でインターネットやSNSを利用したいじめが発生していること
- わいせつな画像や残虐な画像など有害な情報が掲載されること
- その他
- 特に問題と思うことはない
- わからない
- 無回答

性別で見ると、「子どもたちの間でインターネットを利用したいじめが発生していること」と答えた人の割合は女性の方が 9.0 ポイント、「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載されること」は男性の方が 7.2 ポイント高くなっている。また、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」も男性の方が 7.1 ポイント高くなっている。

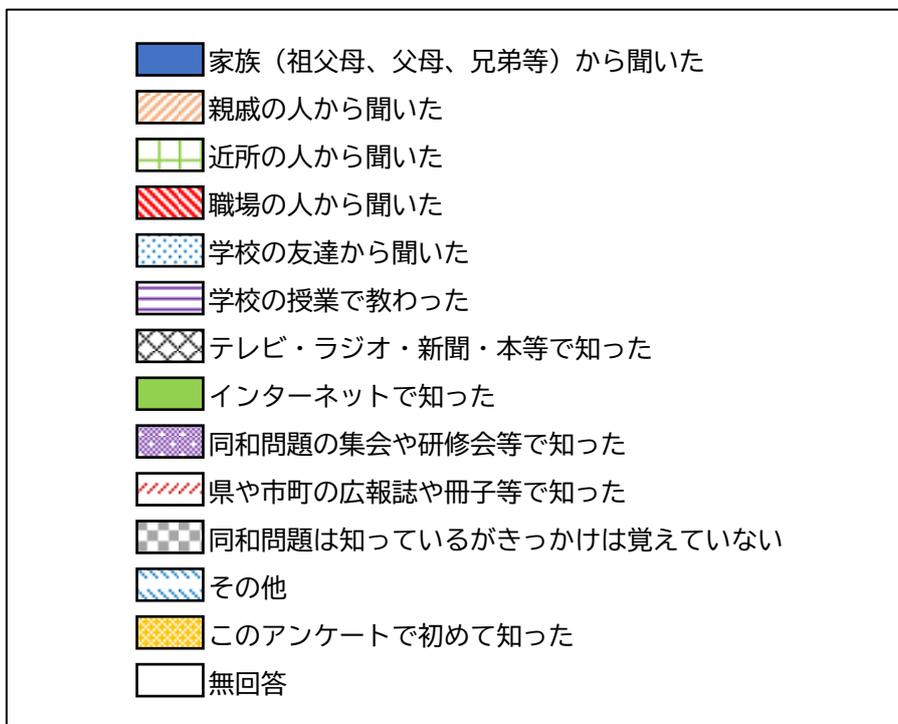
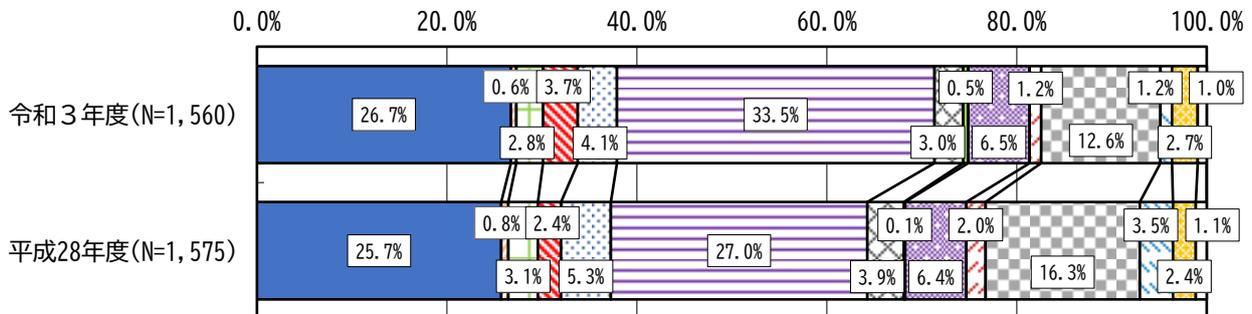
年齢別で見ると、各年代とも「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」と答えた人の割合が最も高くなっているが、年代による大きな差異は見られない。

5. 同和問題(部落差別)について

(1) 同和問題を知ったきっかけ

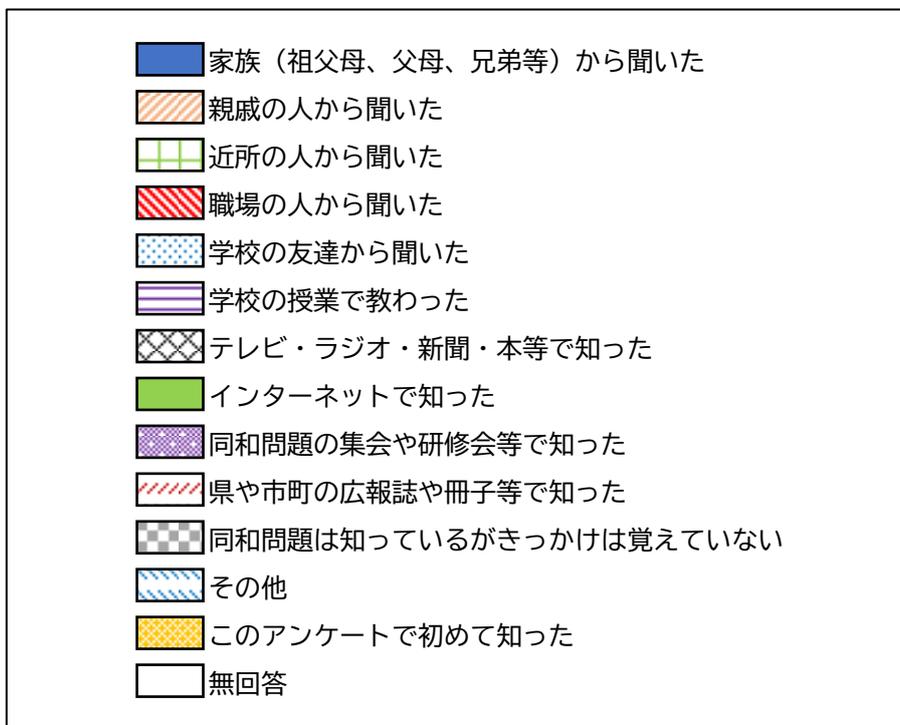
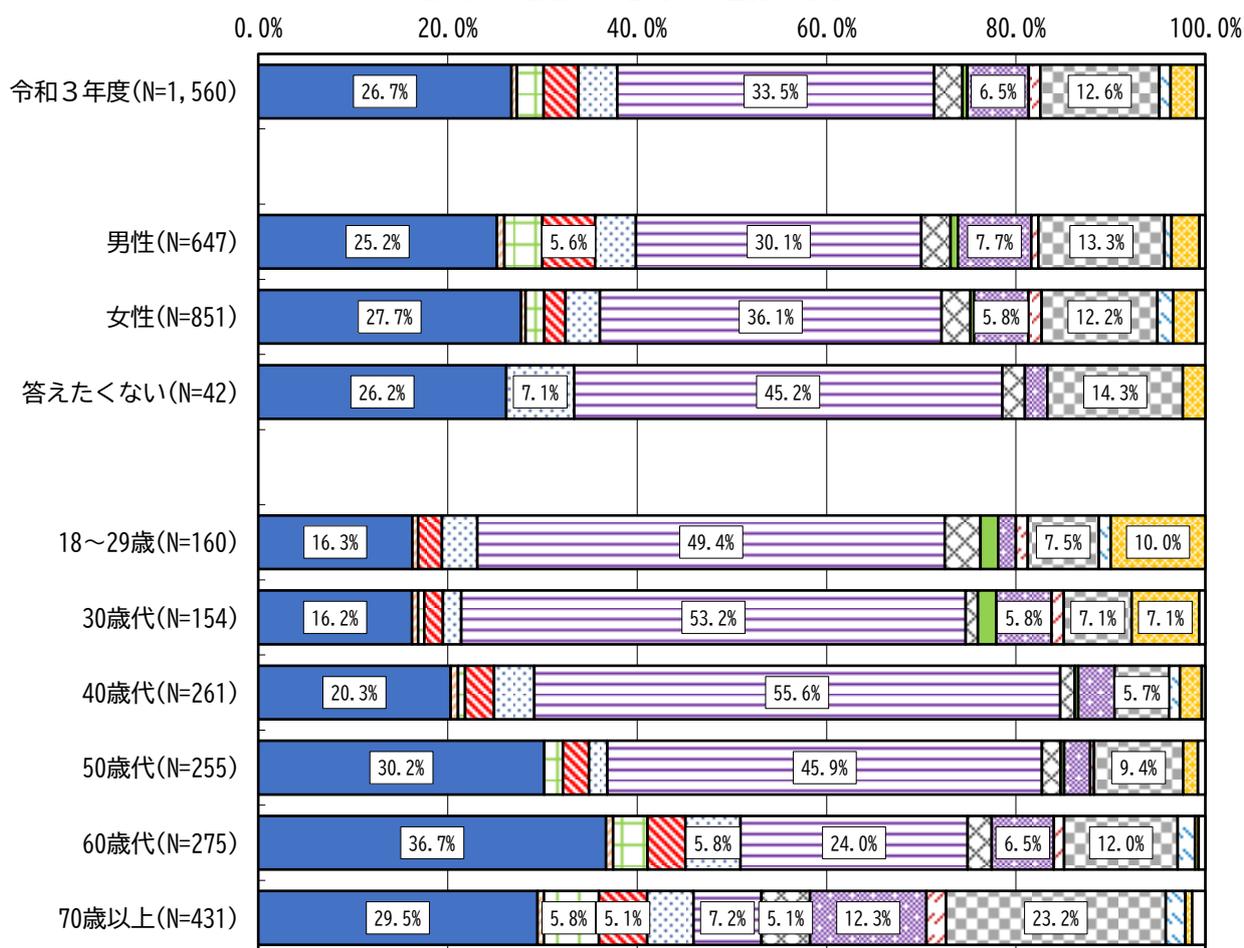
問 17 あなたが、同和問題について初めて知ったきっかけは何からですか。1つだけ選んで○をつけてください。

図 令和3年度・平成28年度 同和問題を知ったきっかけ



同和問題を知ったきっかけについてたずねたところ、「学校の授業で教わった」と答えた人の割合が 33.5%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」（26.7%）、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」（12.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

図 同和問題を知ったきっかけ—性別・年齢別



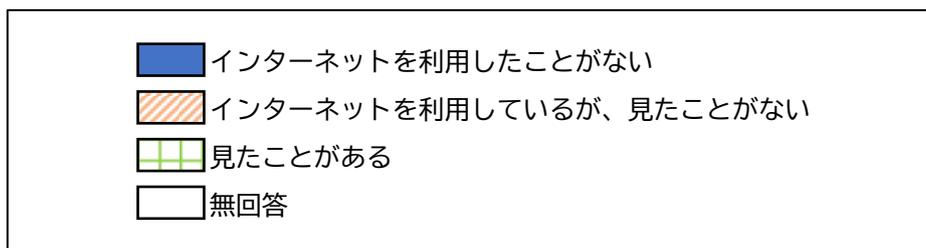
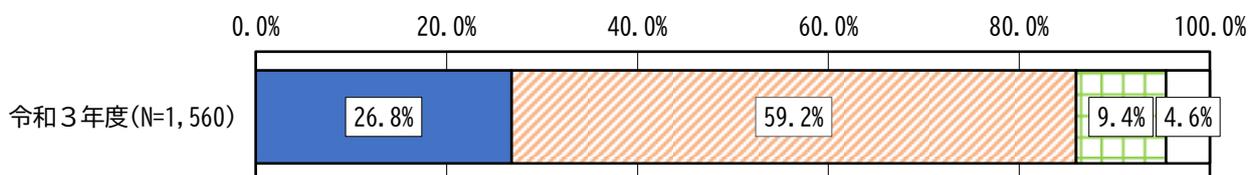
性別で見ると、「学校の授業で教わった」と答えた人の割合は女性の方が6.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、18~29歳から50歳代までは「学校の授業で教わった」と答えた人の割合が最も高く、60歳代から70歳以上では「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」が最も高くなっている。

(2) インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験

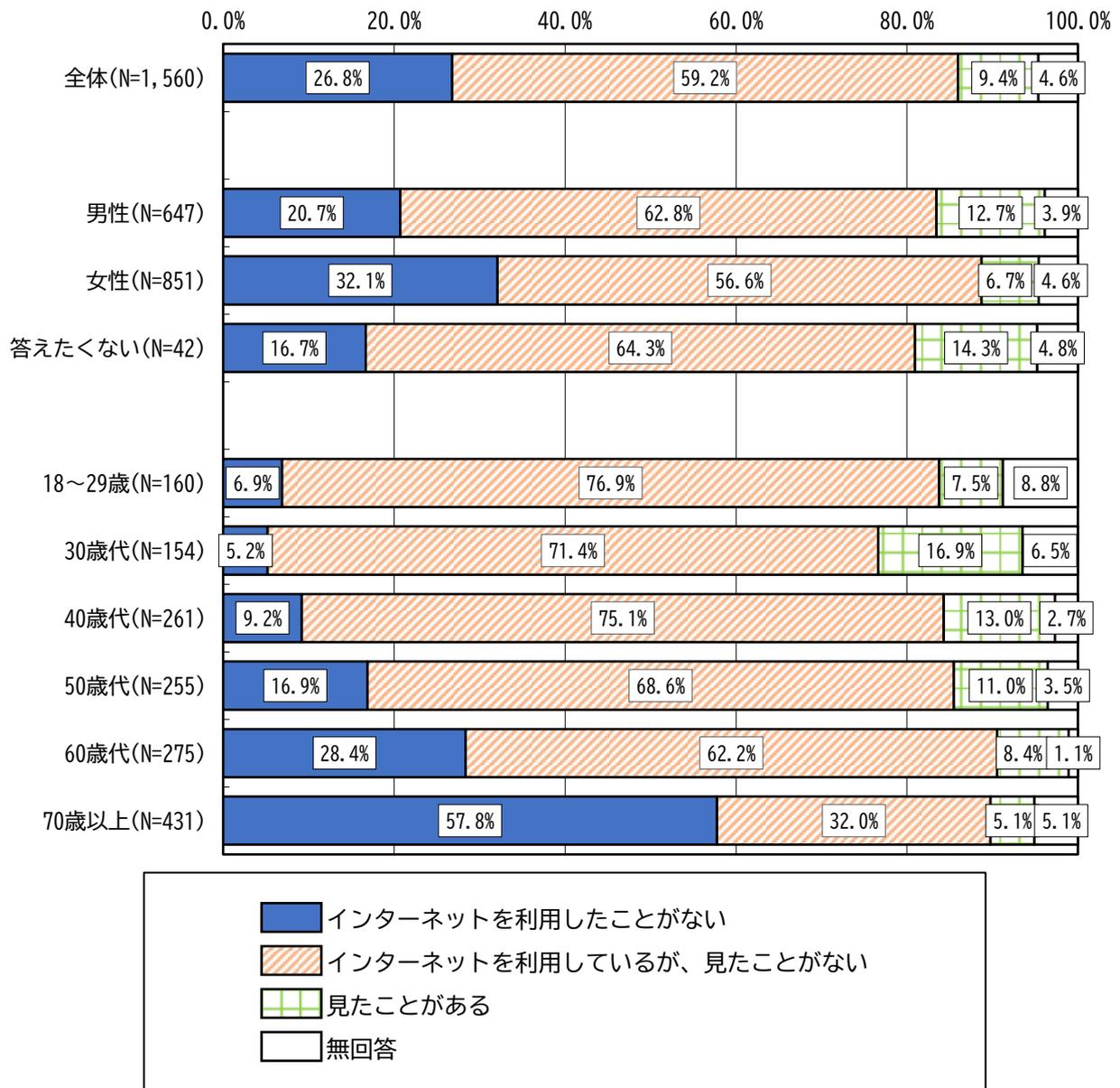
問 18(1) あなたは、部落差別に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがありますか。1つだけ選んで○をつけてください。

図 インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験



インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験についてたずねたところ、「見たことがある」は9.4%であり、「インターネットを利用しているが、見たことがない」と答えた人の割合は59.2%となっている。

図 インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験—性別・年齢別



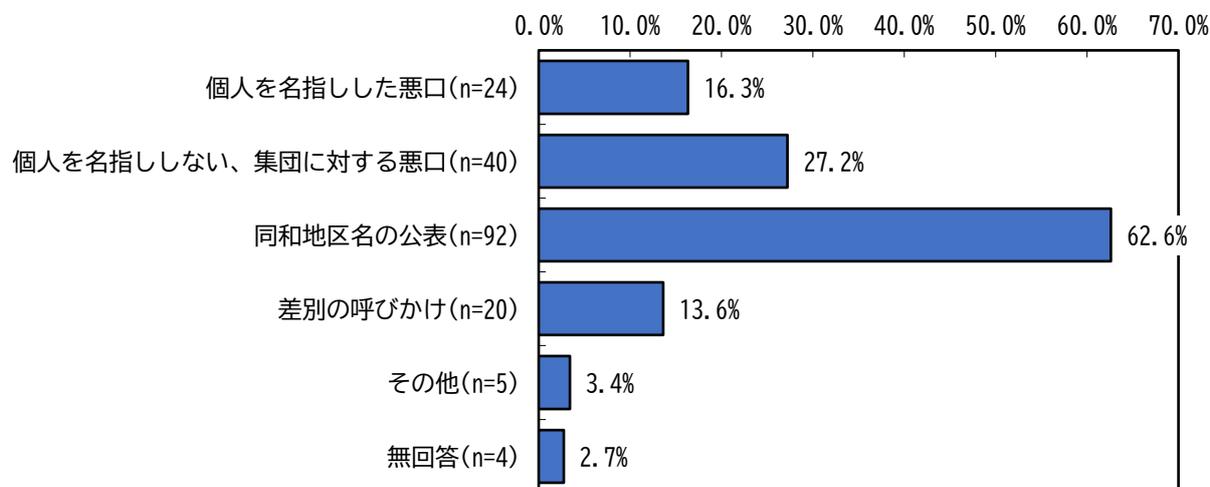
性別で見ると、「見たことがある」と答えた人の割合は男性の方が 6.0 ポイント、また、「インターネットを利用しているが、見たことがない」も男性の方が 6.2 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「見たことがある」は、30 歳代が 16.9%と最も高く、次いで 40 歳代（13.0%）、50 歳代（11.0%）の順となっている。また、「インターネットを利用しているが、見たことがない」と答えた人は 18～29 歳が 79.6%と最も高く、次いで 40 歳代（75.1%）、30 歳代（71.4%）の順となっている。

(3) インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容

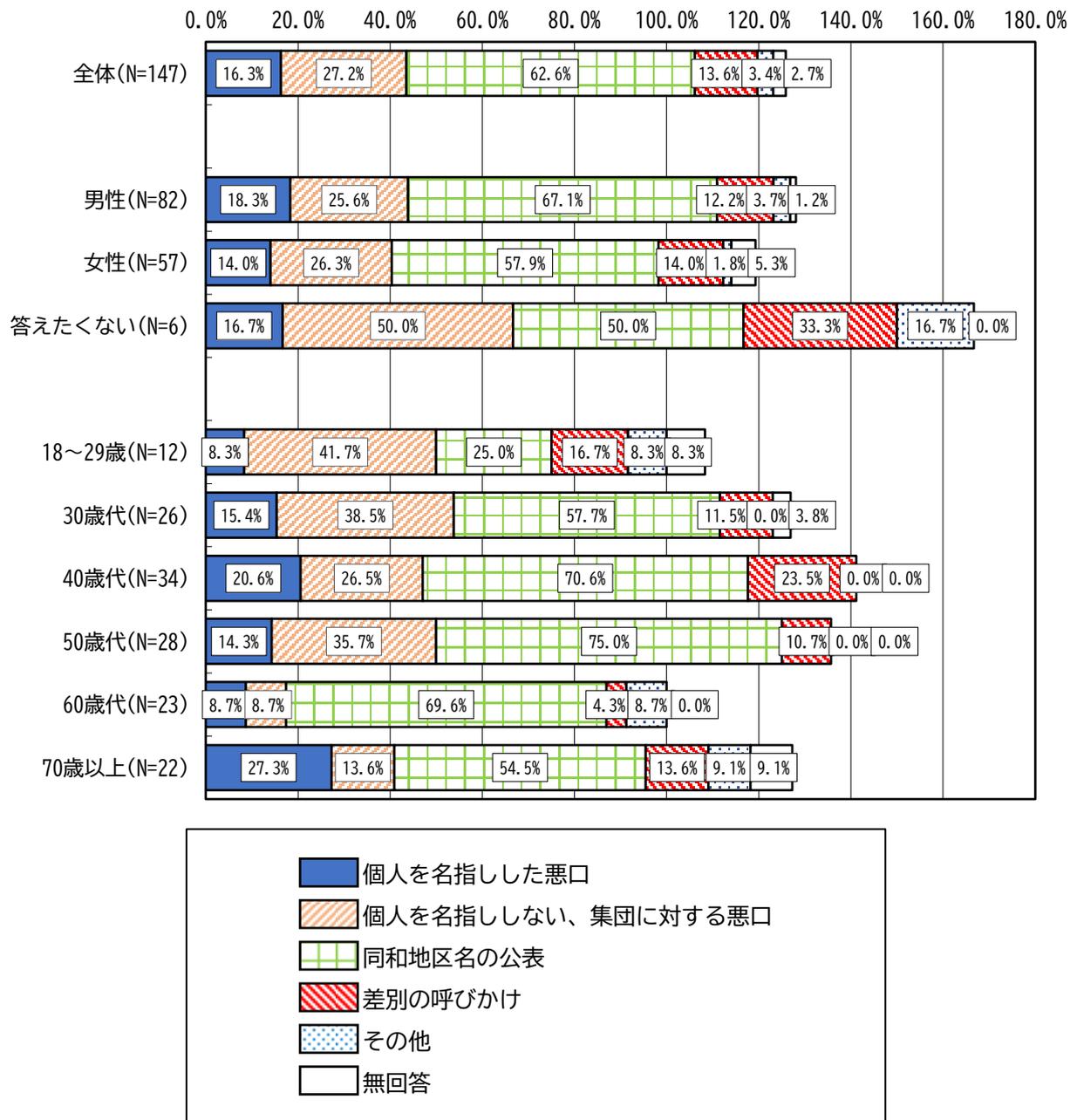
問 18(2) (1)で「3.見たことがある」とお答えになった方におたずねします。どのような内容のものを見ましたか。以下の中からあてはまるものをいくつでも選んで「○」をつけてください。

図 インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容



インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容についてたずねたところ、「同和地区名の公表」と答えた人の割合が62.6%と最も高く、次いで「個人を名指ししない、集団に対する悪口」(27.2%)、「個人を名指した悪口」(16.3%)の順となっている。

図 インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た内容—性別・年齢別



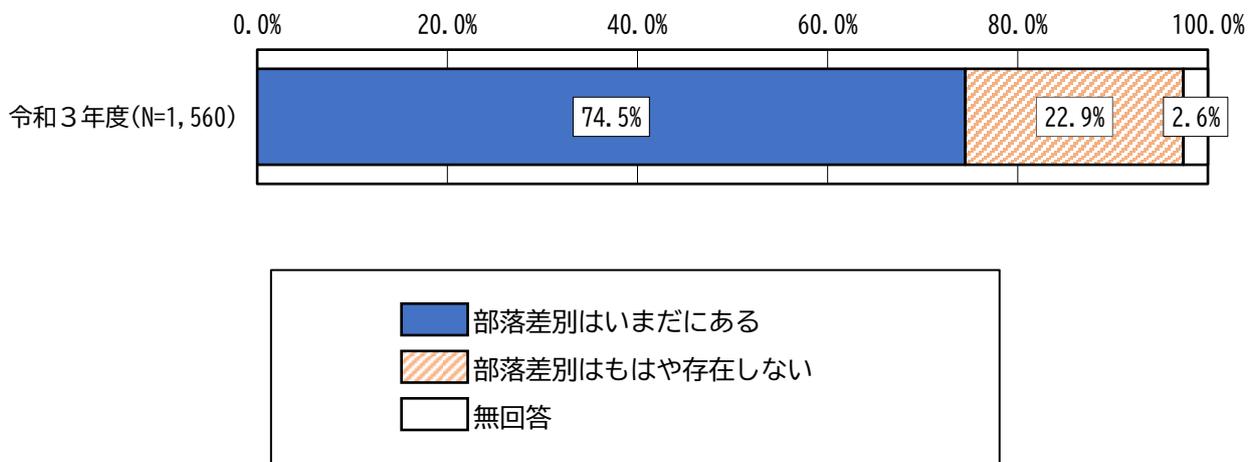
性別で見ると、「同和地区名の公表」と答えた人の割合は男性の方が9.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳代から70歳以上は「同和地区名の公表」と答えた人の割合が最も高く、18~29歳は「個人を名指ししない、集団に対する悪口」が最も高くなっている。

(4) 部落差別の現状

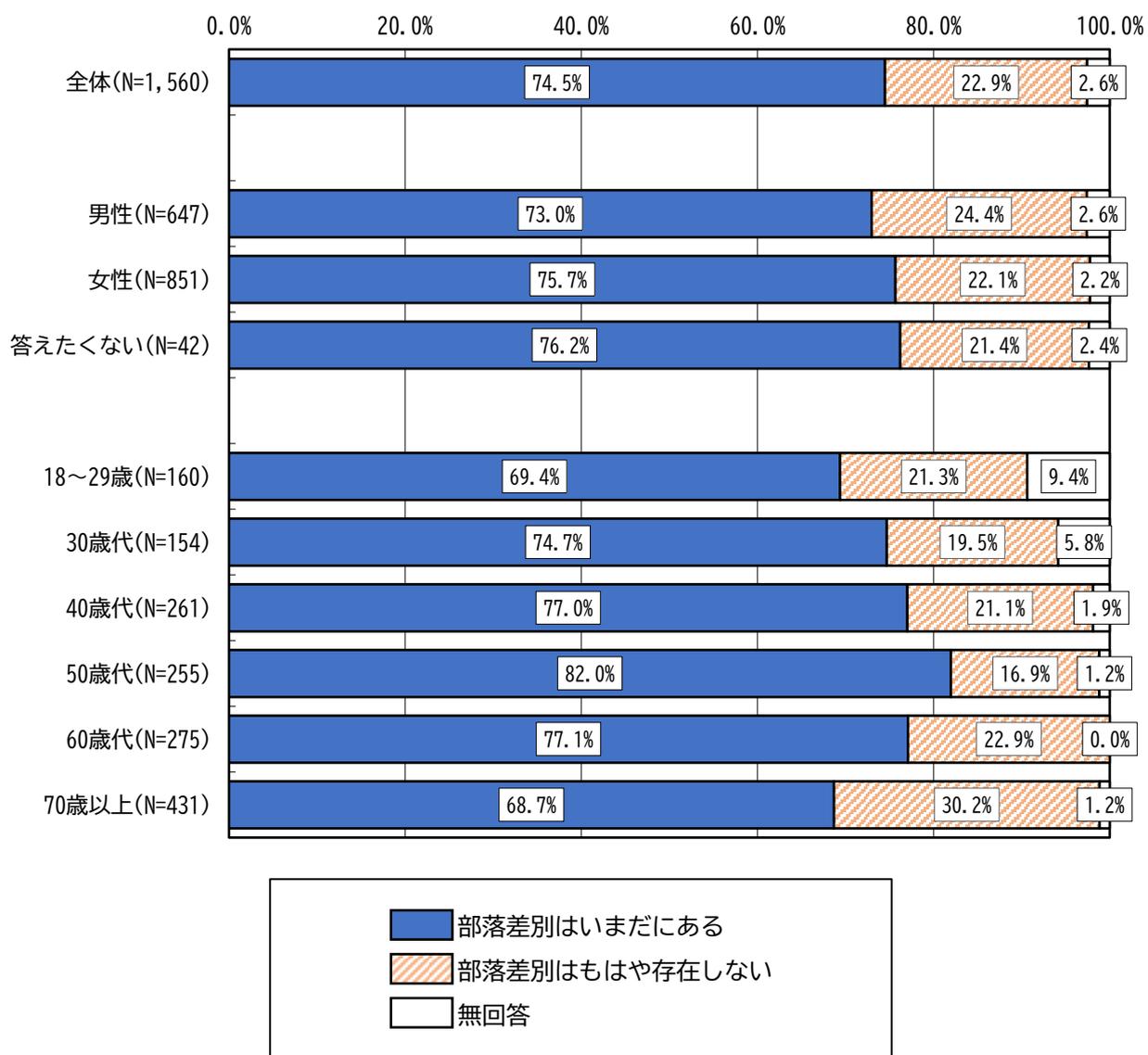
問 19(1) あなたは、現在でも部落差別があると思いますか。いずれかを選んで○をつけてください。

図 部落差別の現状



部落差別の現状についてたずねたところ、「部落差別はいまだにある」と答えた人の割合は 74.5%で、「部落差別はもはや存在しない」は 22.9%となっている。

図 部落差別の現状—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

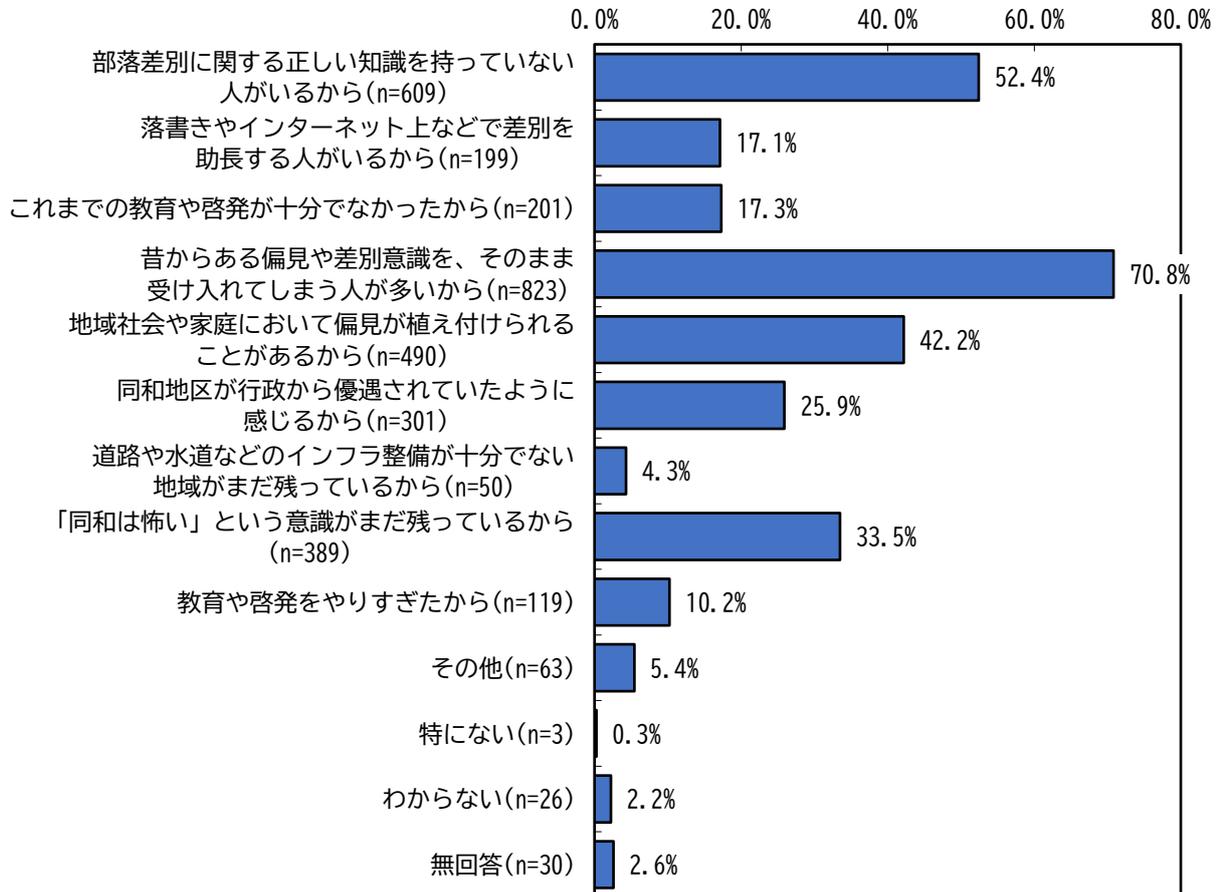
年齢別で見ると、「部落差別はいまだにある」と答えた人の割合は 50 歳代が 82.0%で最も高く、次いで 60 歳代（77.1%）、40 歳代（77.0%）の順となっており、70 歳以上が 68.7%で最も低くなっている。

(5) 部落差別が残っている原因

問 19(2) (1)で「1.部落差別はいまだにある」とお答えになった方におたずねします。

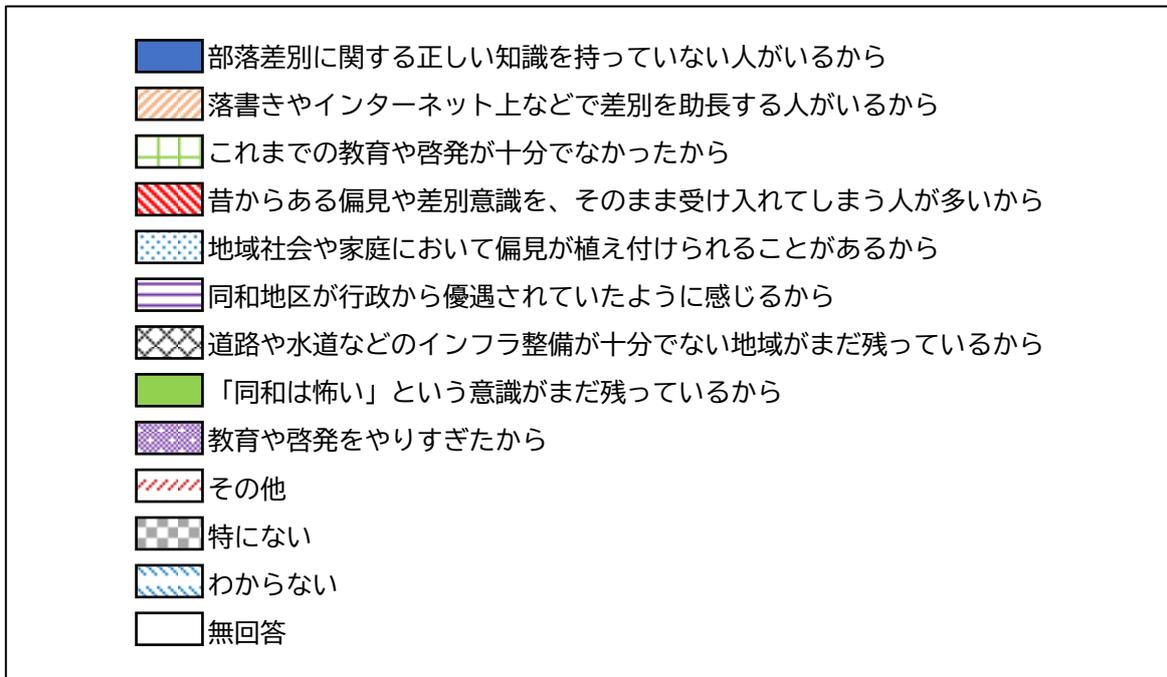
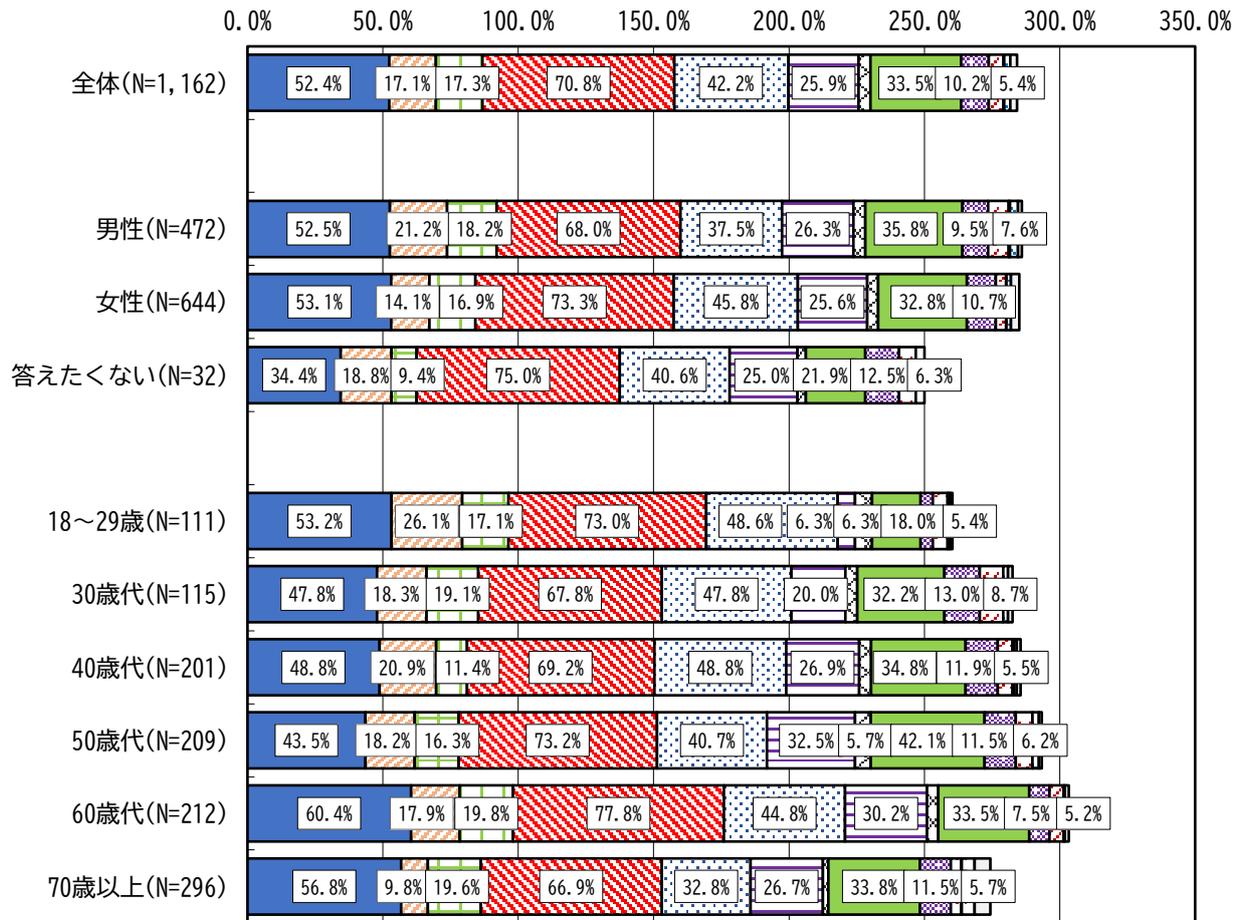
現在でも部落差別が残っているとすれば、その原因はどこにあると思いますか。以下の中からあてはまるものをいくつでも選んで「○」をつけてください。

図 部落差別が残っている原因



部落差別が残っている原因についてたずねたところ、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」と答えた人の割合が 70.8%と最も高く、次いで「部落差別に関する正しい知識を持っていない人がいるから」(52.4%)、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから」(42.2%)の順となっている。

図 部落差別が残っている原因—性別・年齢別



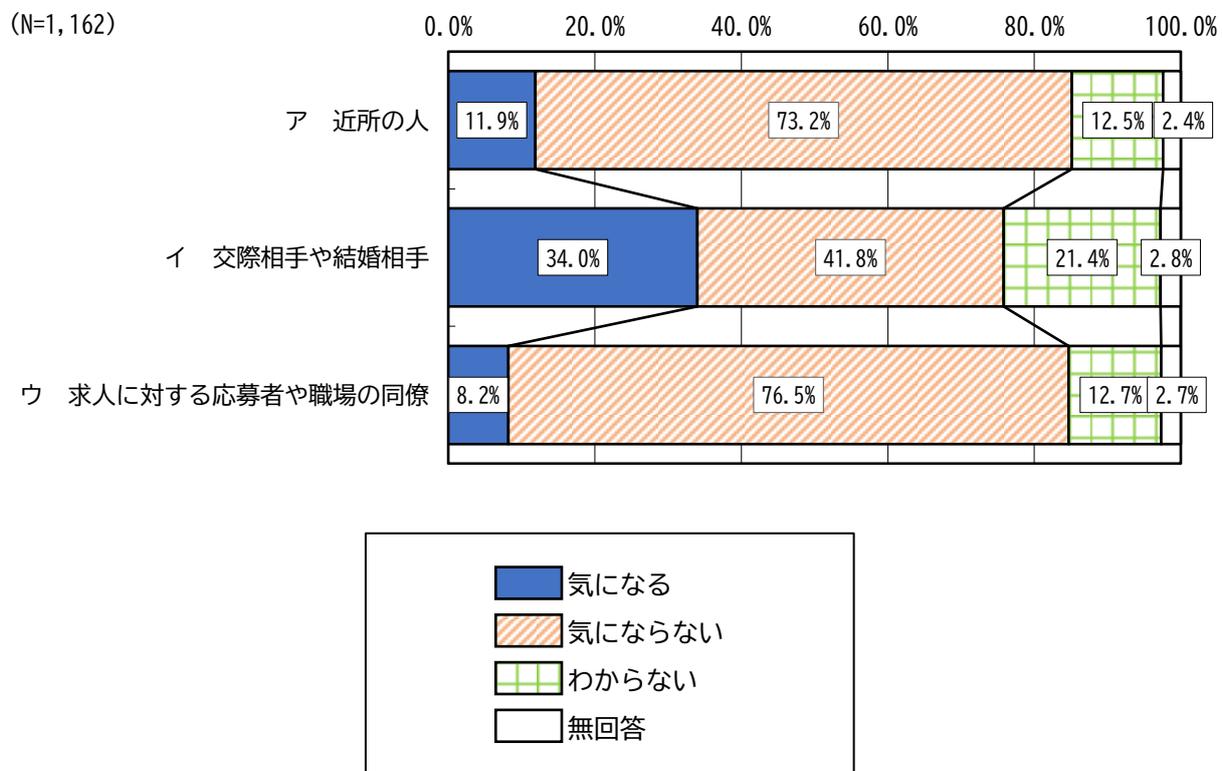
性別で見ると、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから」と答えた人の割合は女性の方が 8.3 ポイント高く、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」も女性の方が 5.3 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」と答えた人の割合が最も高くなっているが、年代による大きな差異は見られない。

(6) 被差別部落の出身者への認識

問 20 あなたは、次の人が被差別部落の出身者であるかどうか気になりますか。アからウのそれぞれについて、1つずつ選んで○をつけてください。

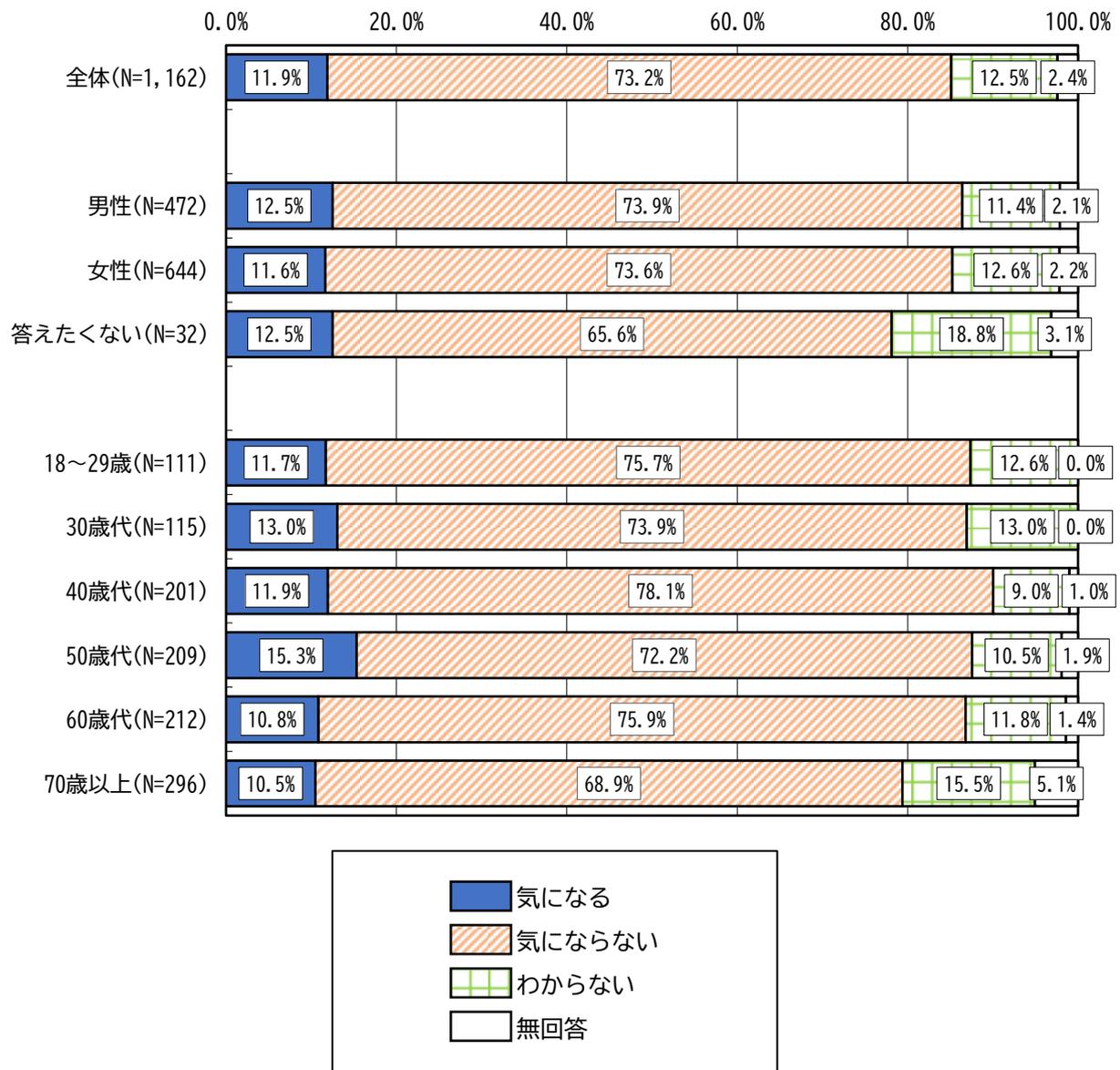
図 被差別部落の出身者への認識



被差別部落の出身者への認識についてたずねたところ、「気にならない」がどの項目においても最も高くなっているが、「気になる」と答えた人の割合は、「交際相手や結婚相手」が 34.0%で最も高く、次いで「近所の人」(11.9%)、「求人に対する応募者や職場の同僚」(8.2%)の順となっている。

(ア) 近所の人

図 近所の人—性別・年齢別

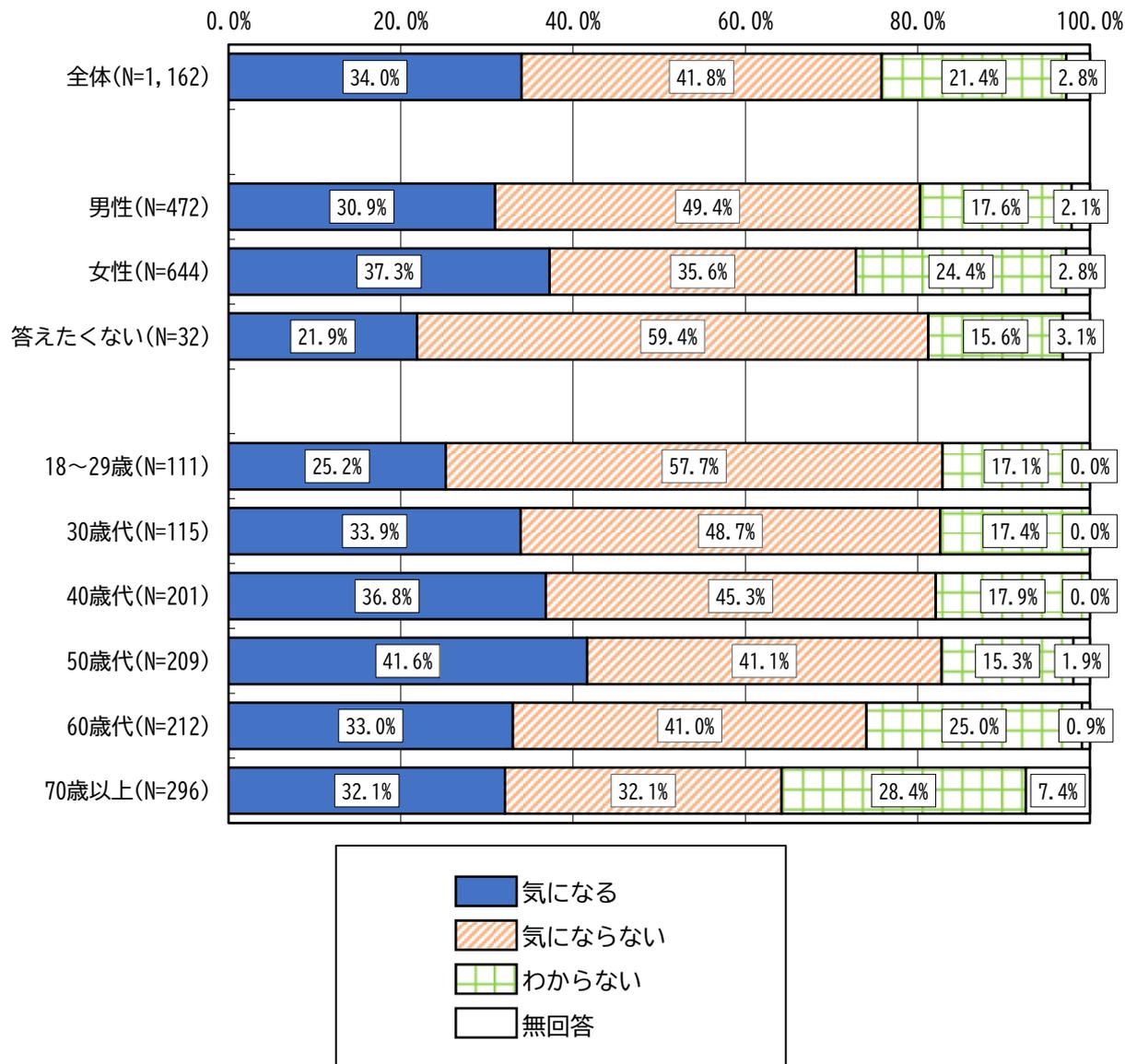


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ても、年代による大きな差異は見られない。

(イ) 交際相手や結婚相手

図 交際相手や結婚相手—性別・年齢別

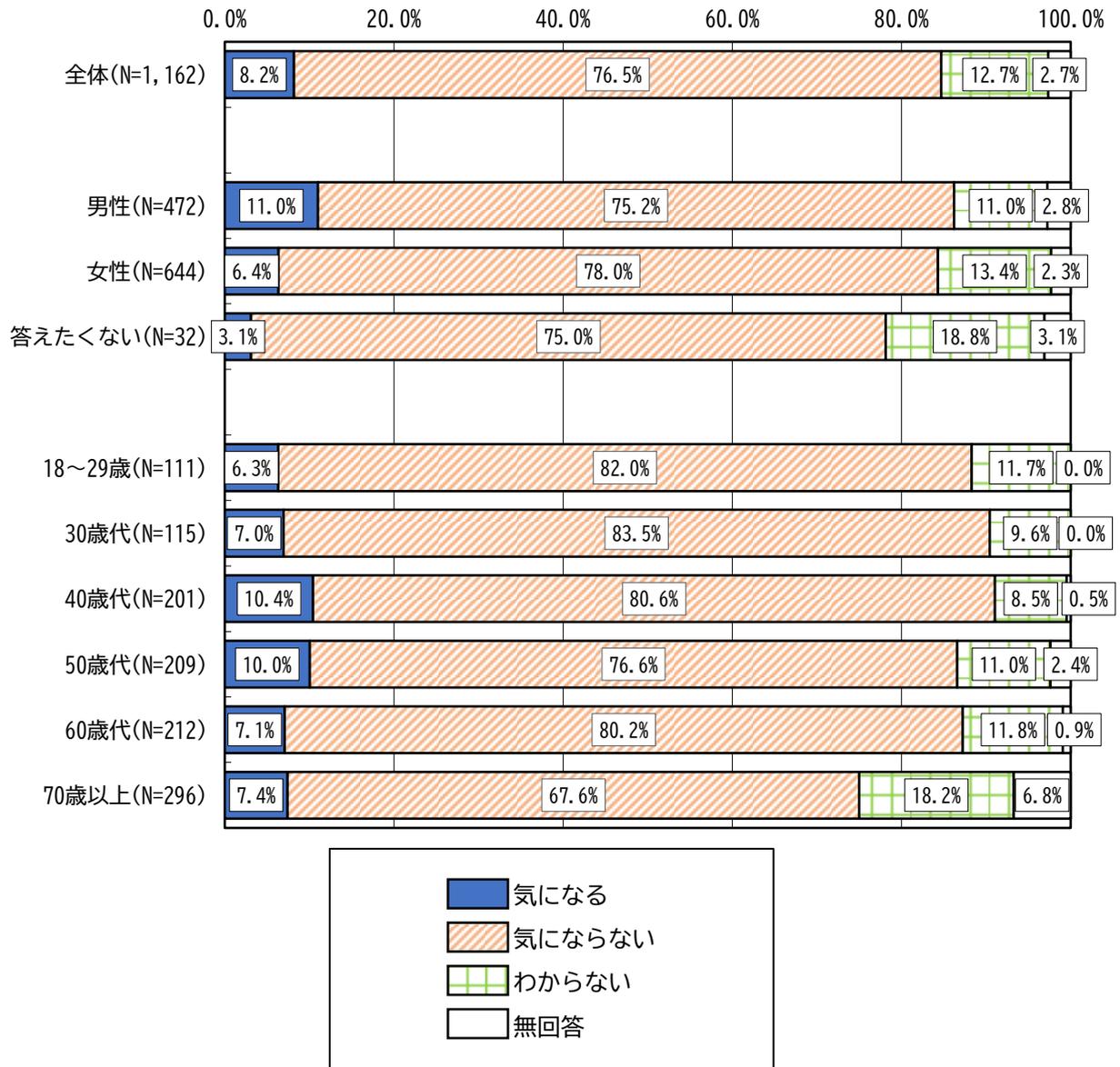


性別で見ると、「気にならない」と答えた人の割合は男性の方が 13.8 ポイント高く、「気になる」と答えた人の割合は女性の方が 6.4 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「気になる」と答えた人の割合は 50 歳代が 41.6%と最も高く、「気にならない」と答えた人の割合は 18～29 歳が 57.7%で最も低くなっている。

(ウ) 求人に対する応募者や職場の同僚

図 求人に対する応募者や職場の同僚—性別・年齢別



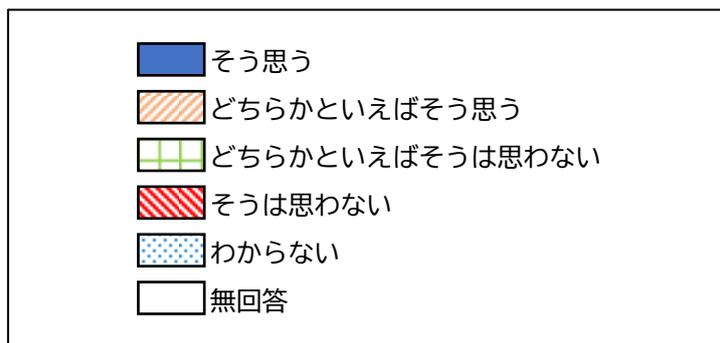
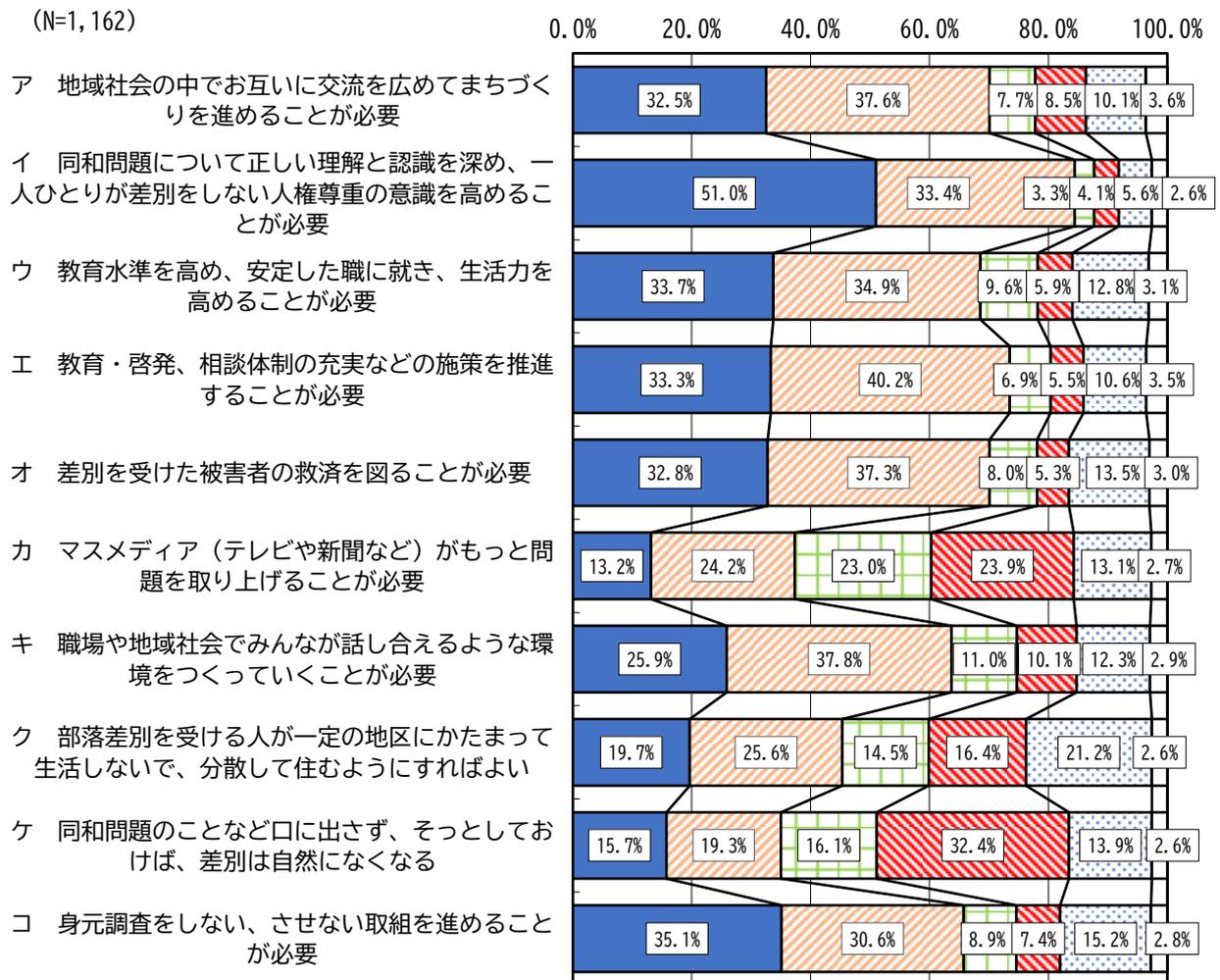
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ても、年代による大きな差異は見られない。

(7) 同和問題の解決方法についての考え方

問 21 同和問題を解決するための取組や対応に関する次のような考え方についてどう思いますか。アからコのそれぞれについて、1つずつ選んで○をつけてください。

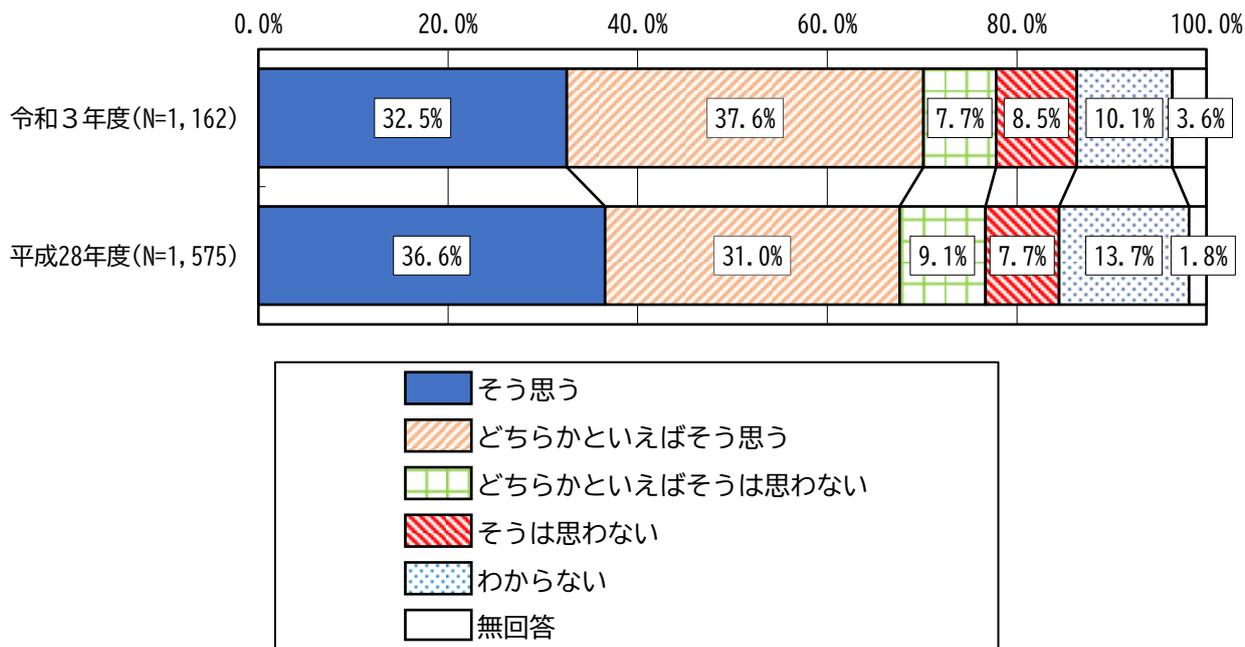
図 同和問題の解決方法についての考え方



同和問題の解決方法についての考え方をたずねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」と答えた人の割合は、「同和問題について正しい理解と認識を深め、一人ひとりが差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要」が 84.4%で最も高くなっている。次いで、「教育・啓発・相談体制の充実などの施策を推進することが必要」（73.5%）、「地域社会の中でお互いに交流を広めてまちづくりを進めることが必要」、「差別を受けた被害者の救済を図ることが必要」（いずれも 70.1%）の順となっている。

(ア)地域社会の中でお互いに交流を広めてまちづくりを進めることが必要

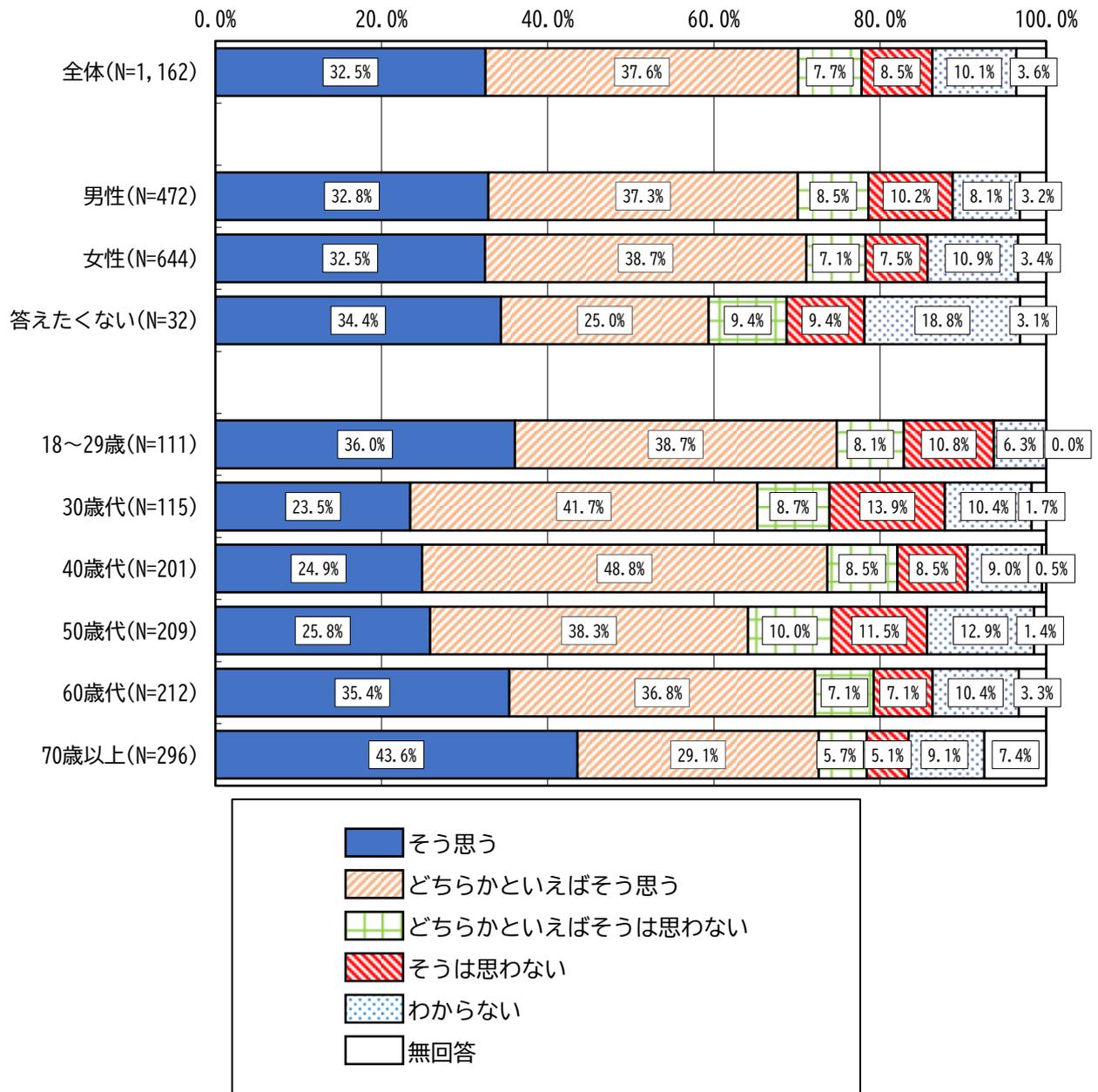
図 令和3年度・平成28年度 地域社会の中でお互いに交流を広めてまちづくりを進めることが必要※



「地域社会の中でお互いに交流を広めてまちづくりを進めることが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 70.1%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（16.2%）を大きく上回っている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

※平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和3年度は問19(1)で「部落差別はまだまだある」と回答した者のみが回答しているため、比較にあたっては注意を要する。

図 地域社会の中でお互いに交流を広めてまちづくりを進めることが必要※—性別・年齢別

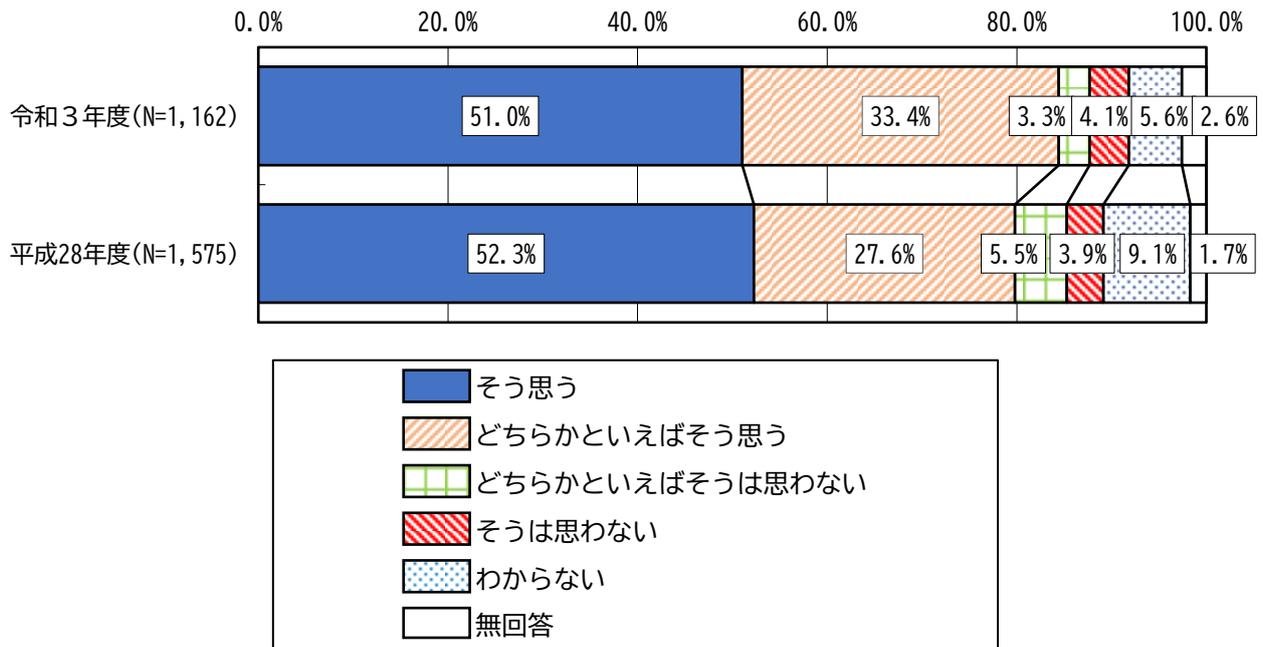


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、18～29歳は50歳代に比べ、10.6ポイント高くなっている。

(イ)同和問題について正しい理解と認識を深め、一人ひとりが差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要

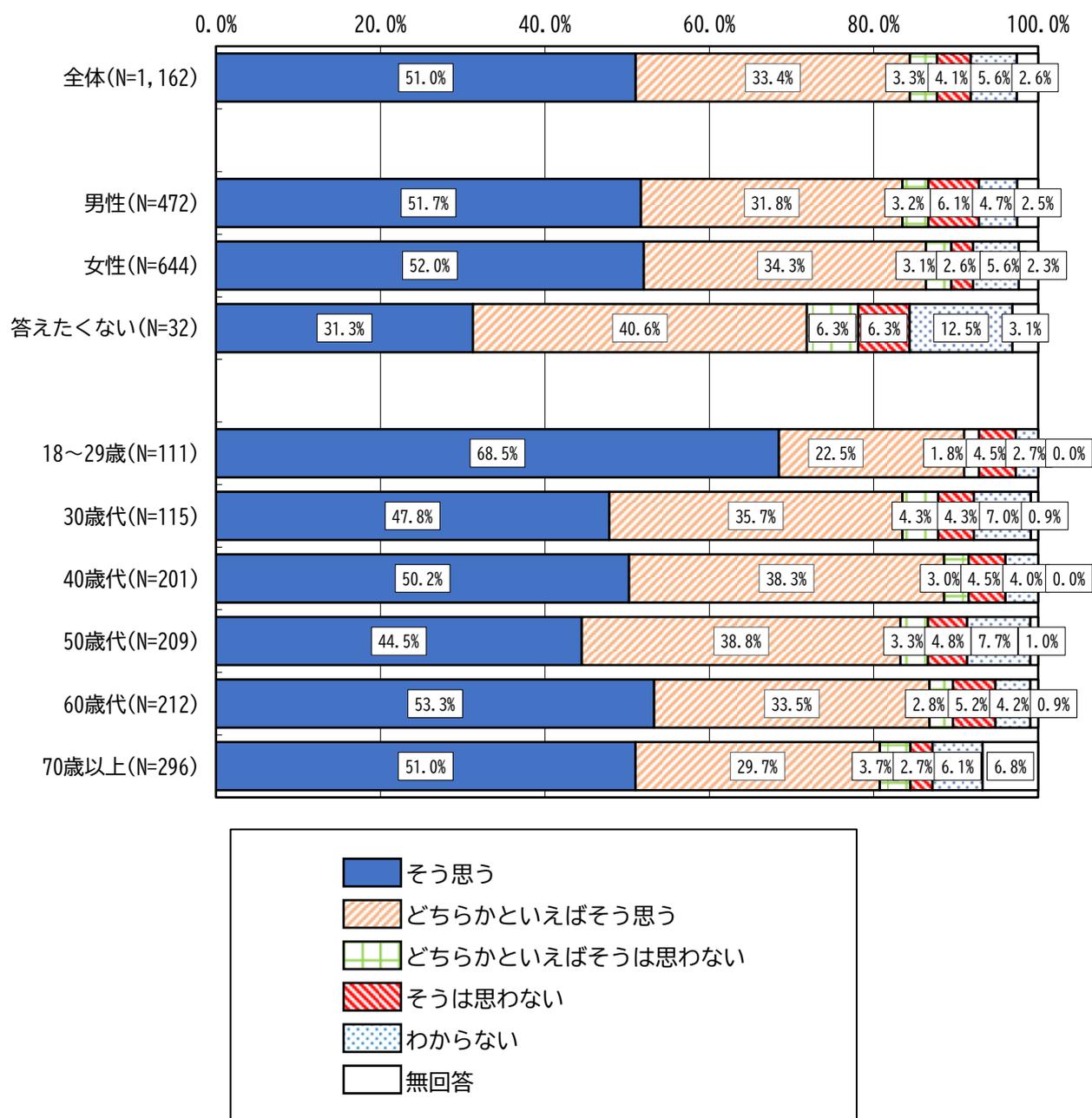
図 令和3年度・平成28年度 同和問題について正しい理解と認識を深め、一人ひとりが差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要※



「同和問題について正しい理解と認識を深め、一人ひとりが差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 84.4%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（7.4%）を大きく上回っている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

※平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和3年度は問19(1)で「部落差別はまだまだある」と回答した者のみが回答しているため、比較にあたっては注意を要する。

図 同和問題について正しい理解と認識を深め、一人ひとりが差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要—性別・年齢別

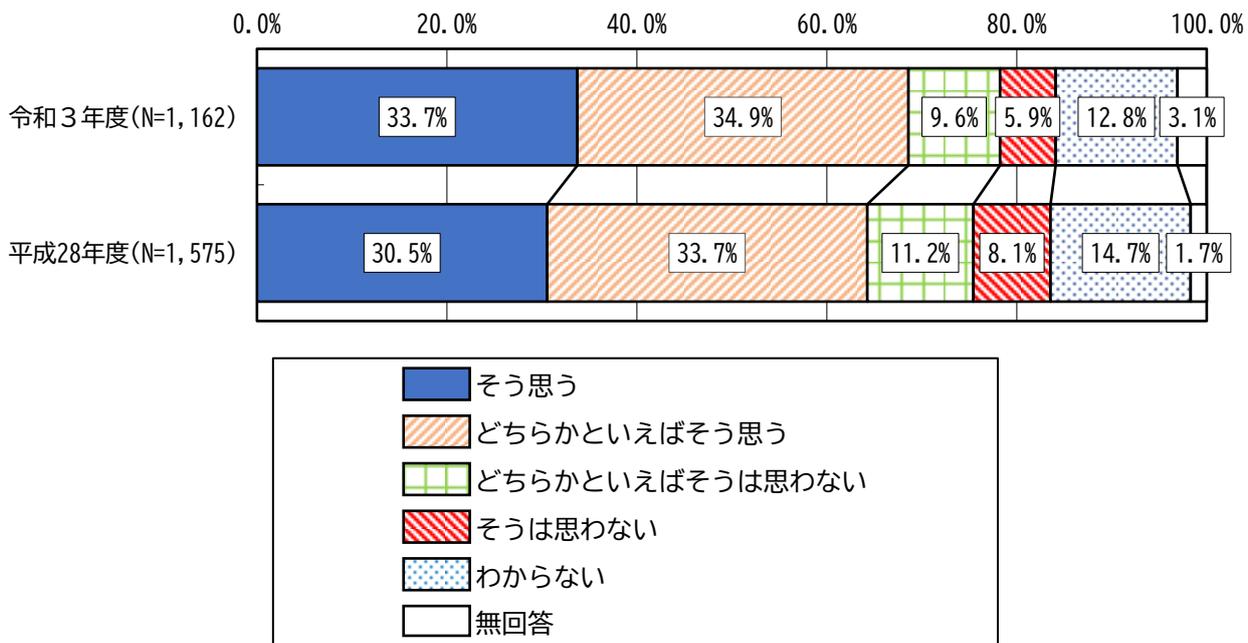


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、18～29歳は70歳以上に比べ、10.3ポイント高くなっている。

(ウ)教育水準を高め、安定した職に就き、生活力を高めることが必要

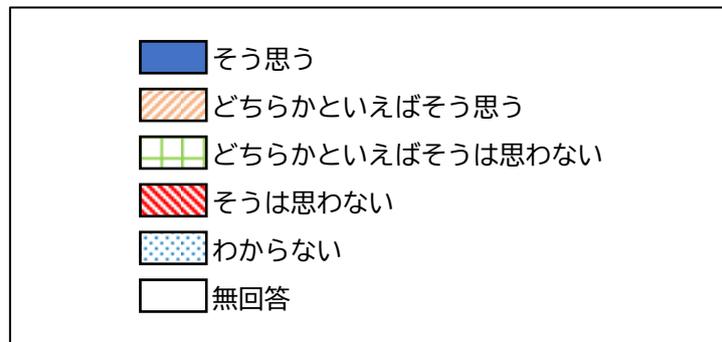
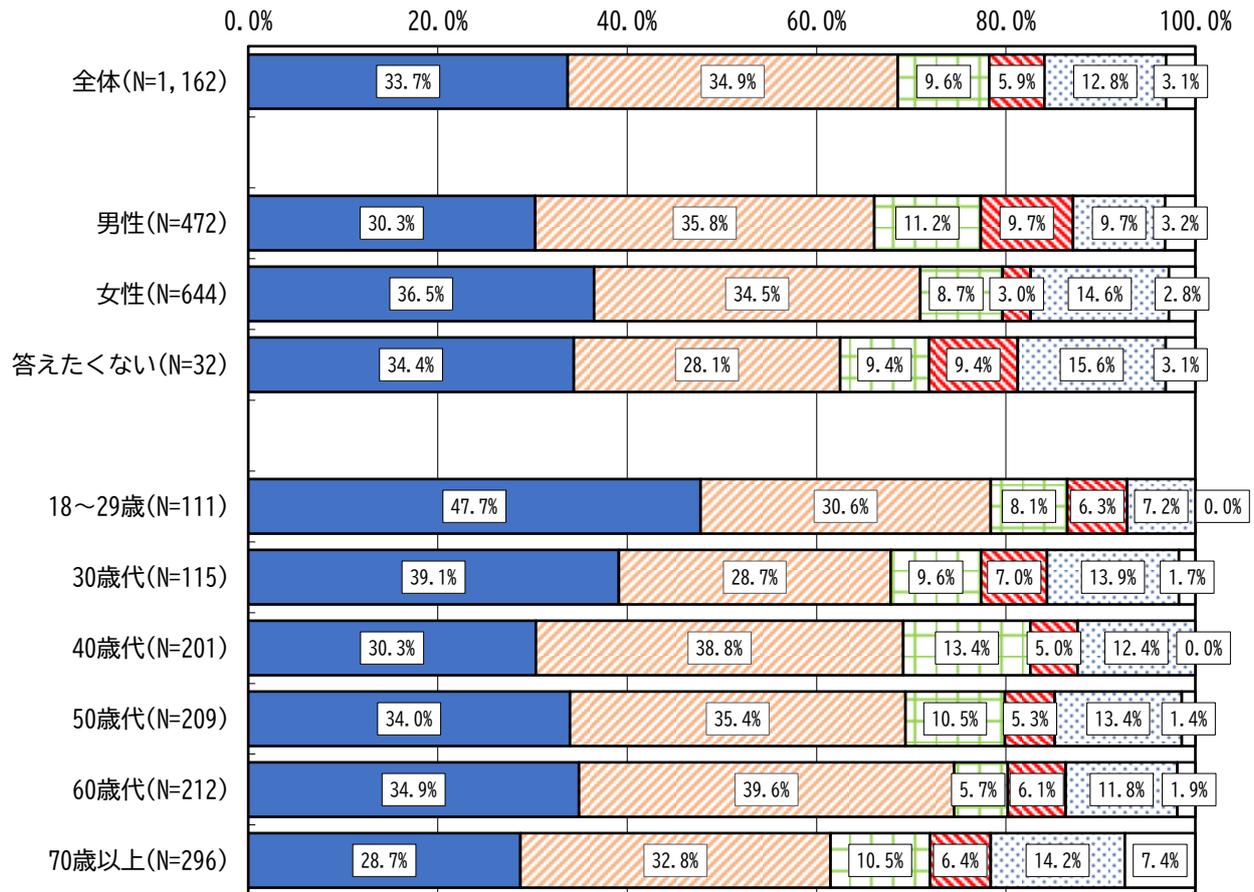
図 令和3年度・平成28年度 教育水準を高め、安定した職に就き、生活力を高めることが必要※



「教育水準を高め、安定した職に就き、生活力を高めることが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 68.6%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（15.5%）を大きく上回っている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

※平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、今回調査では問19(1)で「部落差別はいまだにある」と回答した者のみが回答しているため、比較にあたっては注意を要する。

図 教育水準を高め、安定した職に就き、生活力を高めることが必要—性別・年齢別

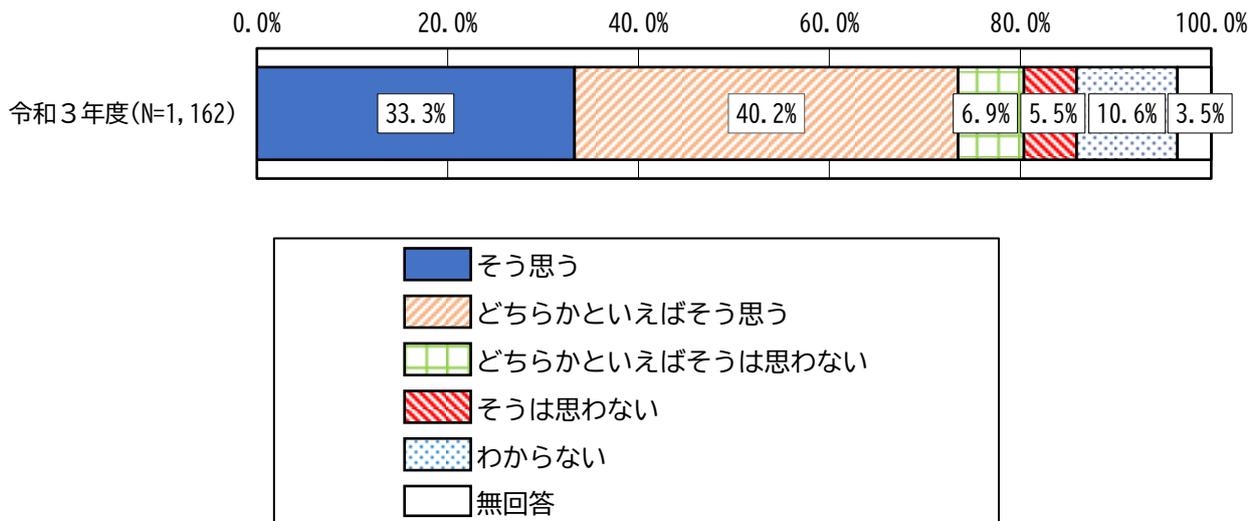


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、18～29歳は70歳以上に比べ16.8ポイント高くなっている。

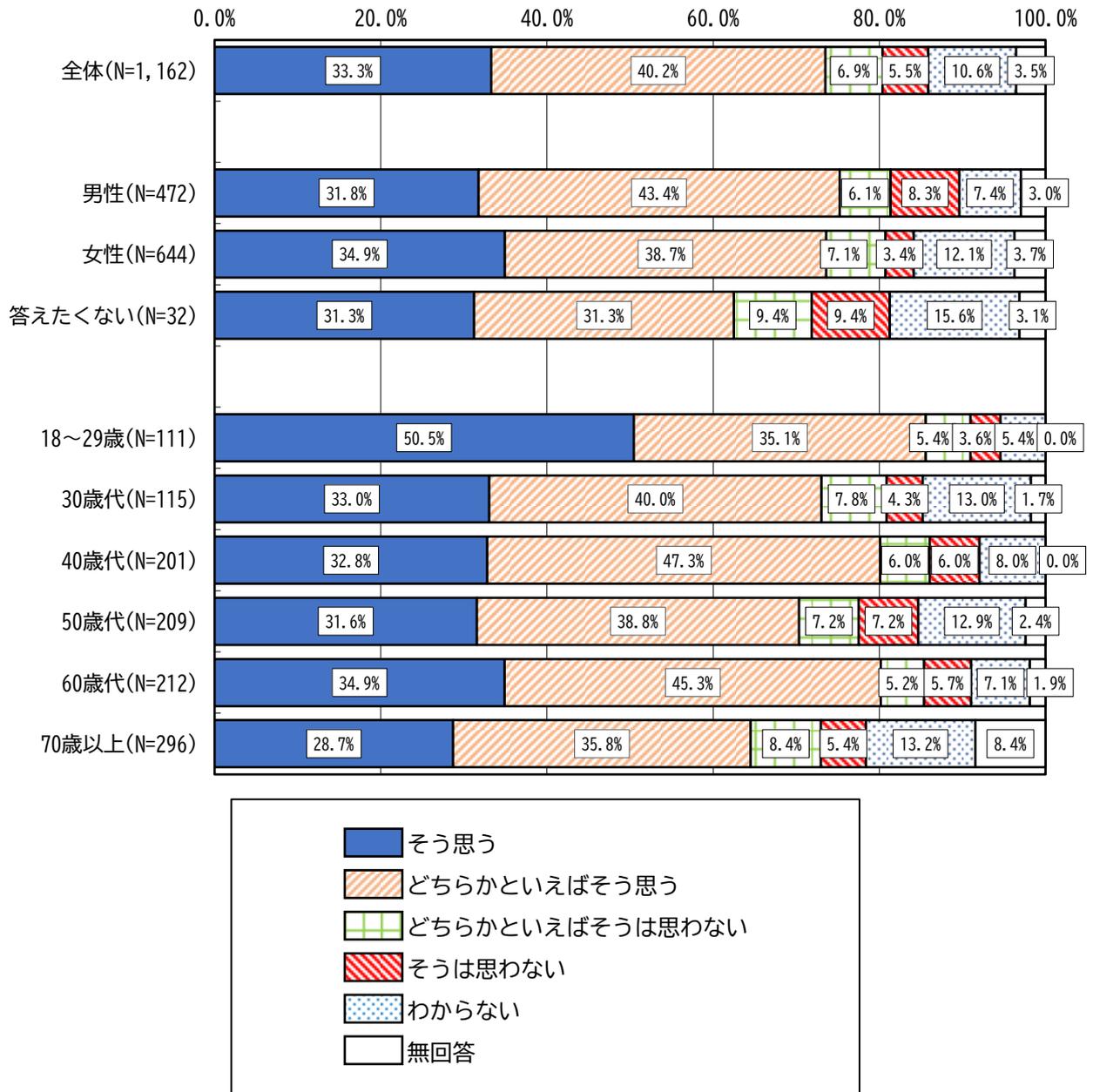
(エ)教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進することが必要

図 教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進することが必要



「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進することが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 73.5%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（12.4%）を大きく上回っている。

図 教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進することが必要—性別・年齢別

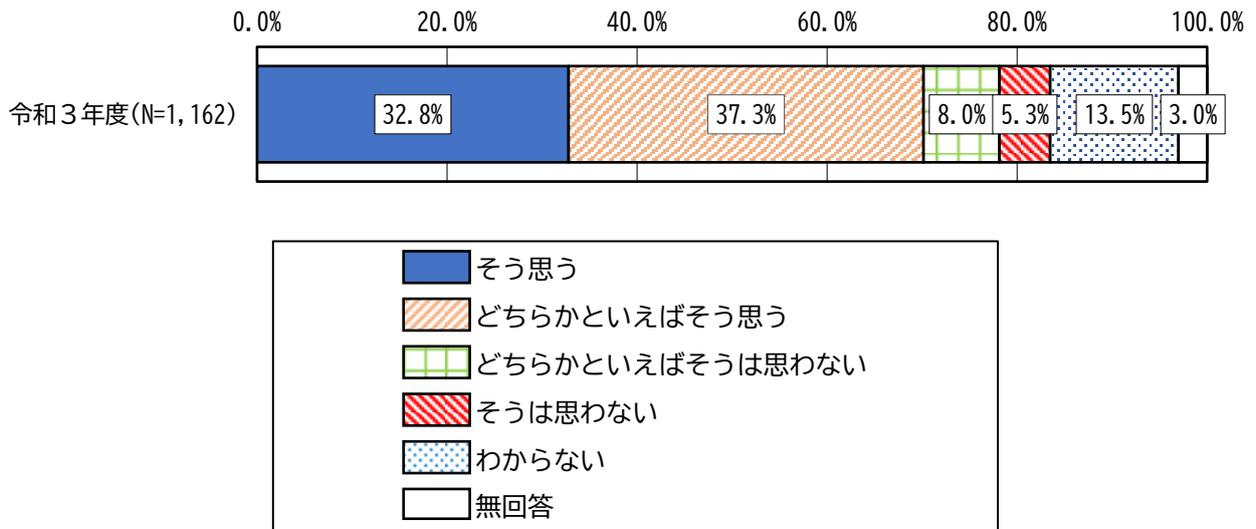


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、18～29歳は70歳以上に比べ、21.1ポイント高くなっている。

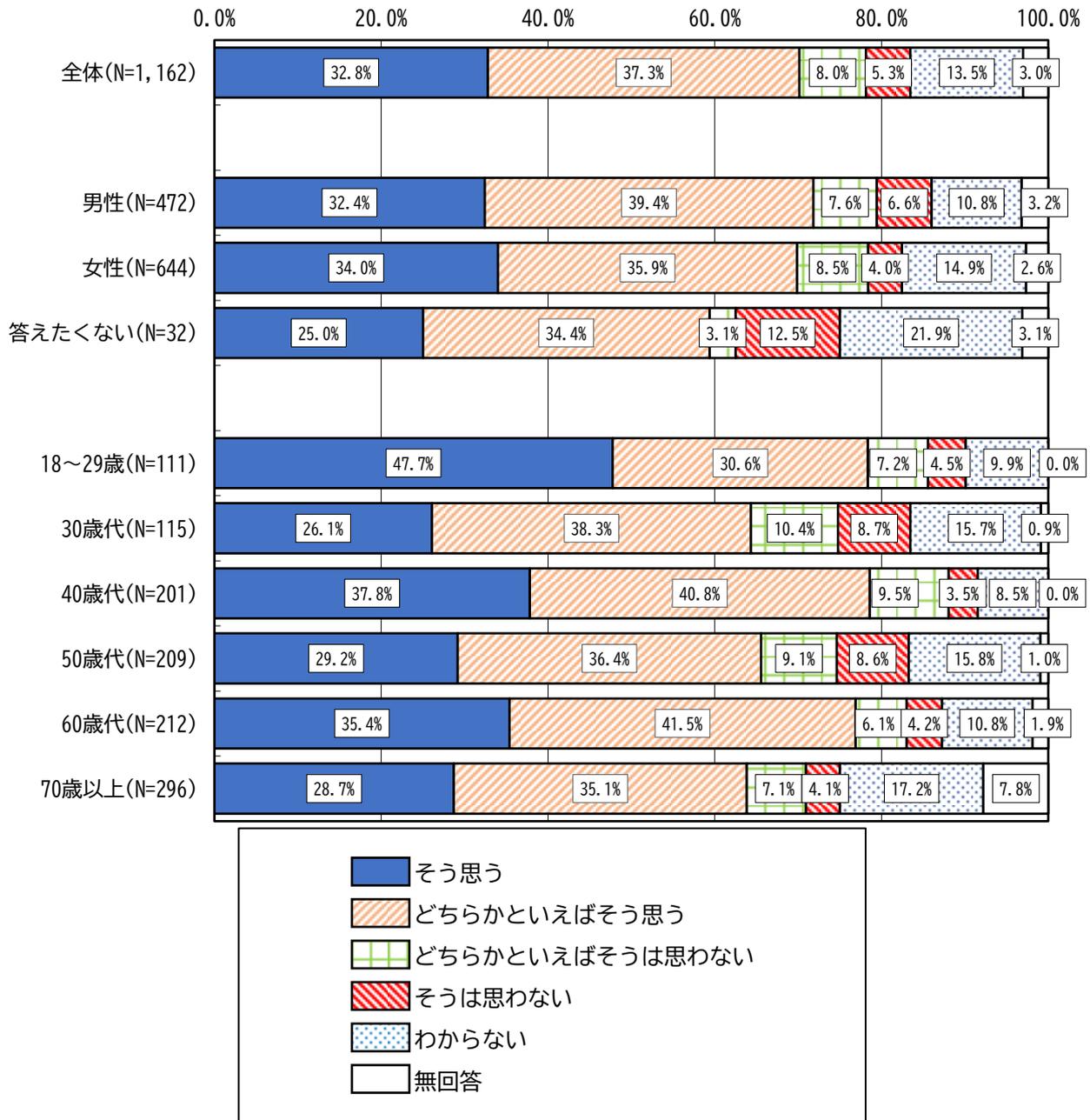
(オ)差別を受けた被害者の救済を図ることが必要

図 差別を受けた被害者の救済を図ることが必要



「差別を受けた被害者の救済を図ることが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 70.1%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（13.3%）を上回っている。

図 差別を受けた被害者の救済を図ることが必要—性別・年齢別

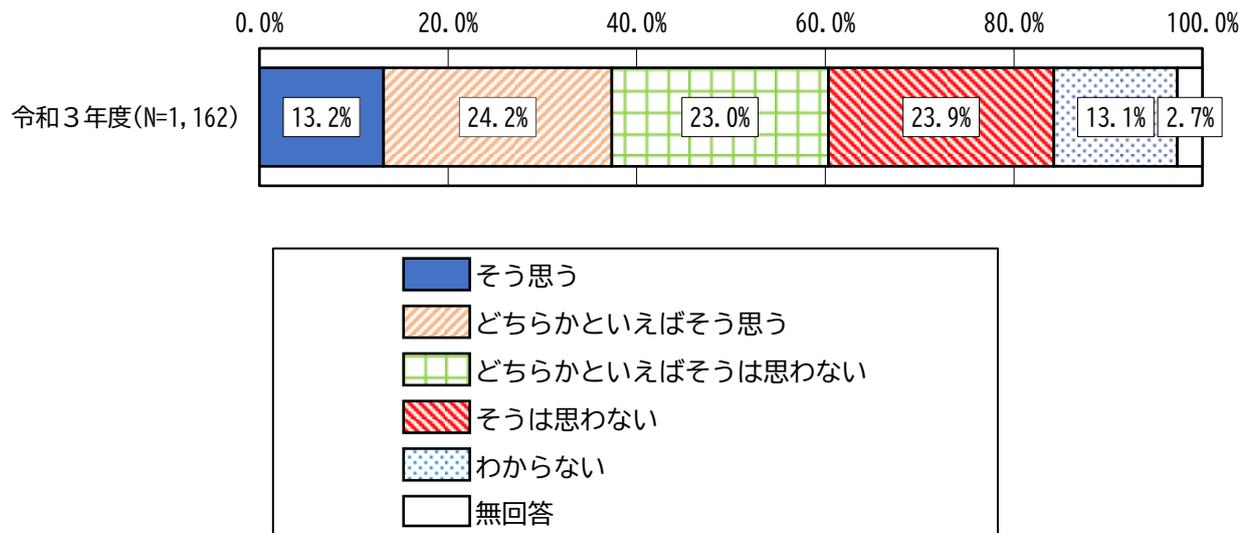


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、18～29歳は70歳以上に比べ14.5ポイント高くなっている。

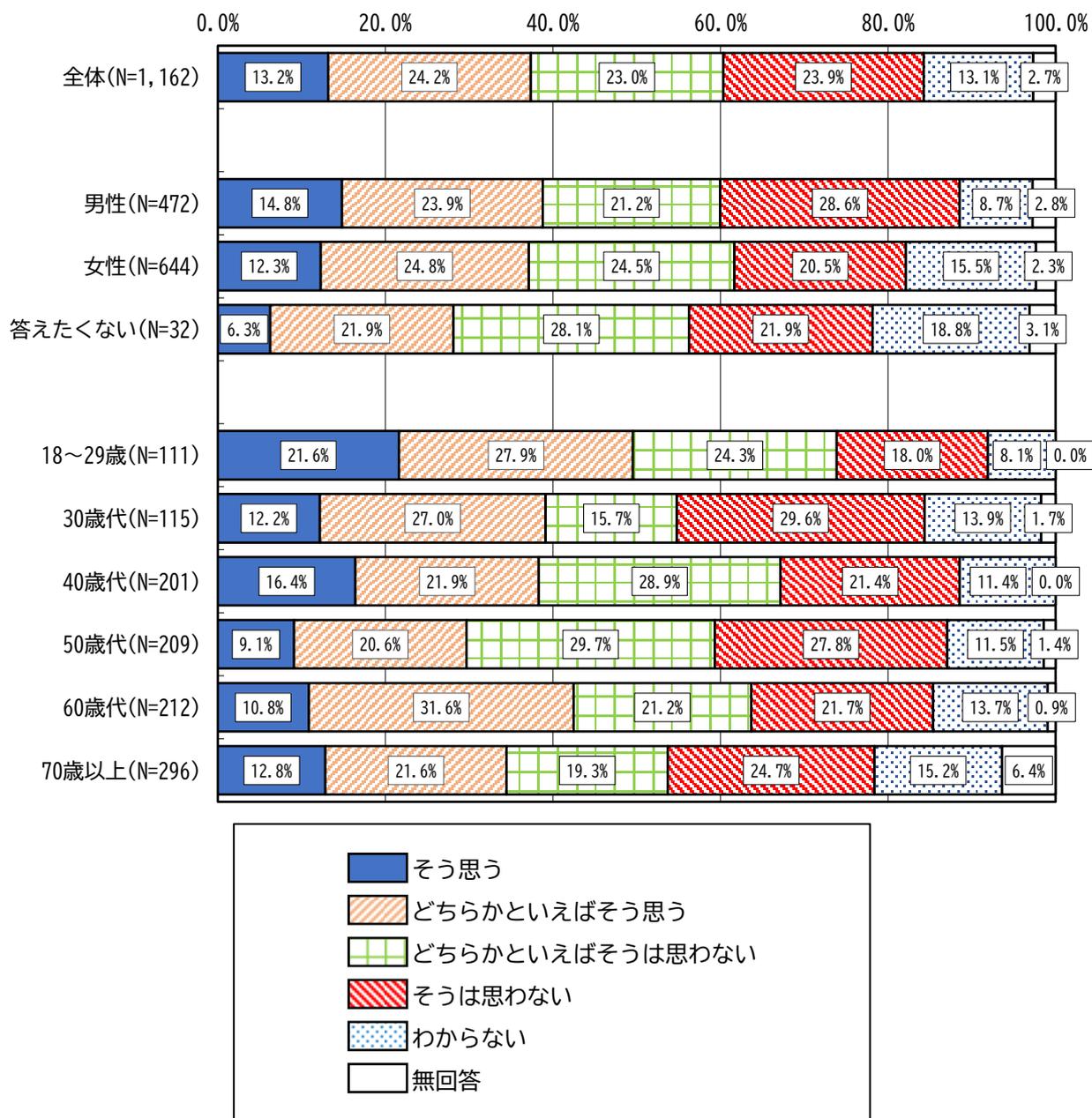
(カ) マスメディア（テレビや新聞など）がもっと問題を取り上げることが必要

図 マスメディア（テレビや新聞など）がもっと問題を取り上げることが必要



「マスメディア(テレビや新聞など)がもっと問題を取り上げることが必要」については「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”と答えた人の割合は 46.9%で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”（37.4%）を上回っている。

図 マスメディア（テレビや新聞など）がもっと問題を取り上げることが必要—性別・年齢別

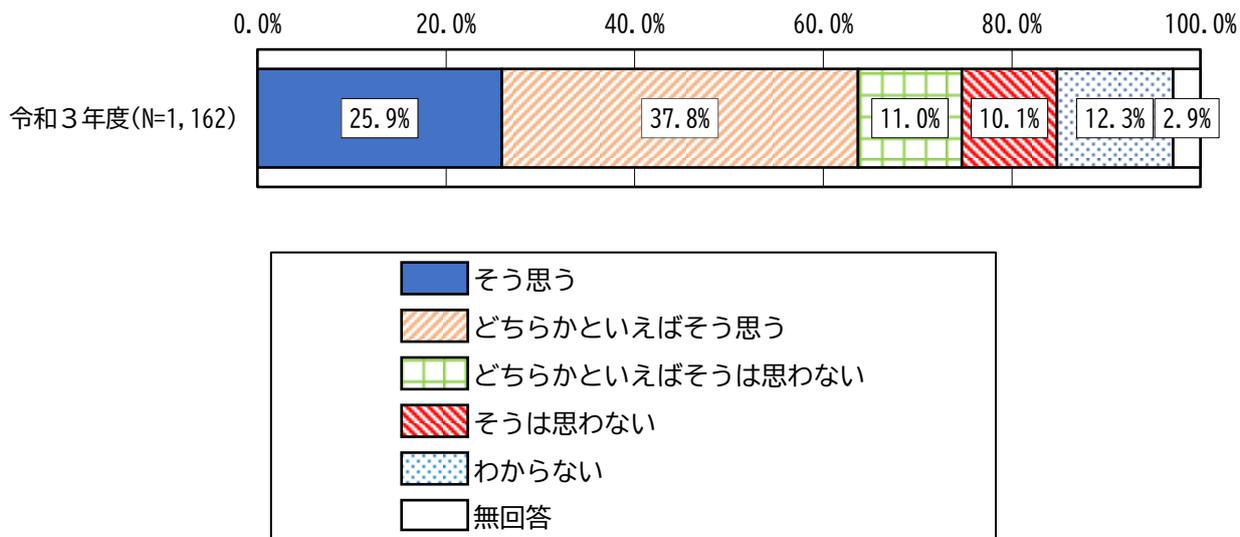


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、18～29歳は“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、30歳代から70歳以上は“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。特に50歳代は、“そう思わない”が“そう思う”の約2倍となっている。

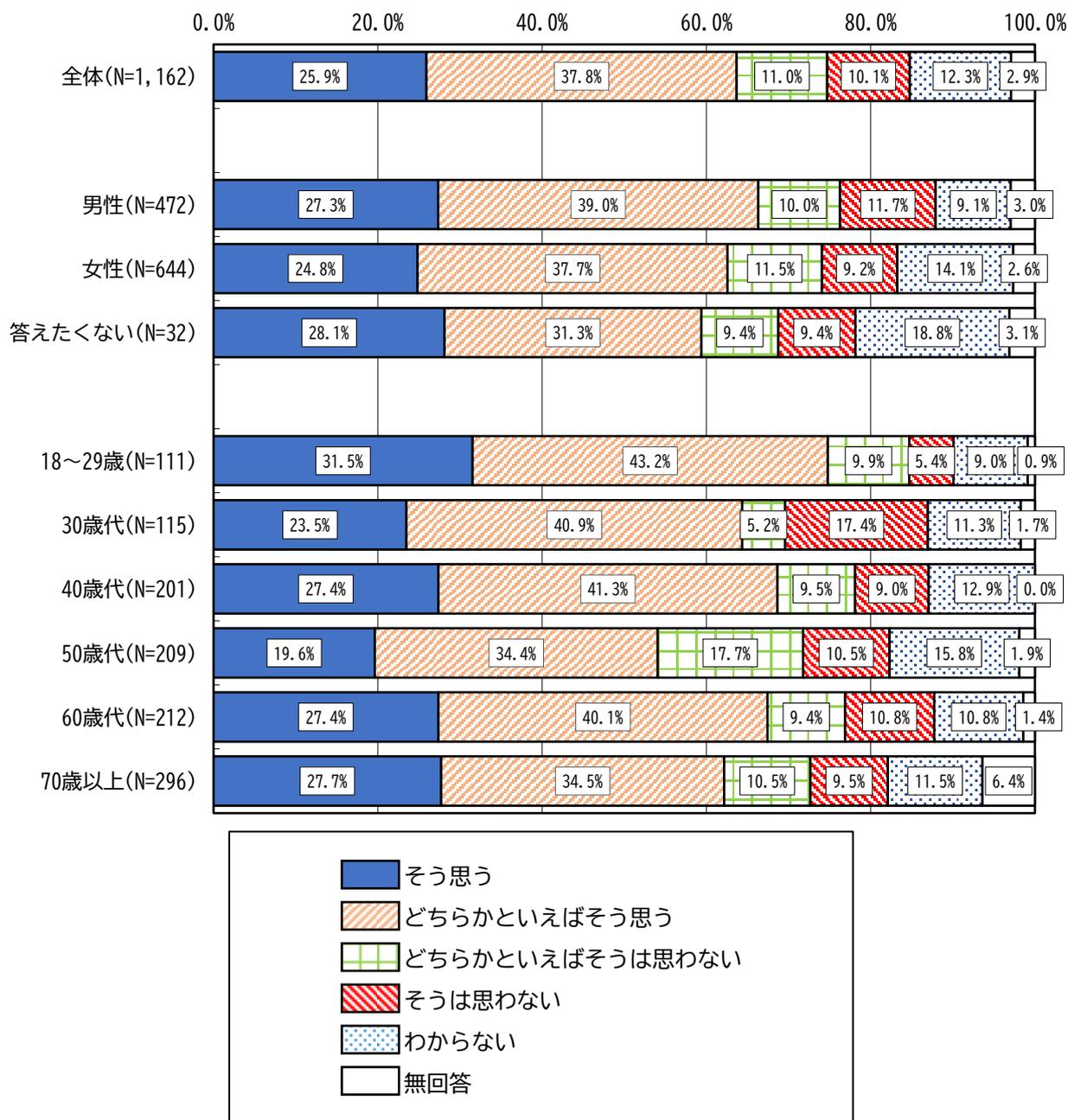
(キ)職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境をつくっていくことが必要

図 職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境をつくっていくことが必要



「職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境をつくっていくことが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 63.7%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（21.1%）を上回っている。

図 職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境をつくっていくことが必要—性別・年齢別

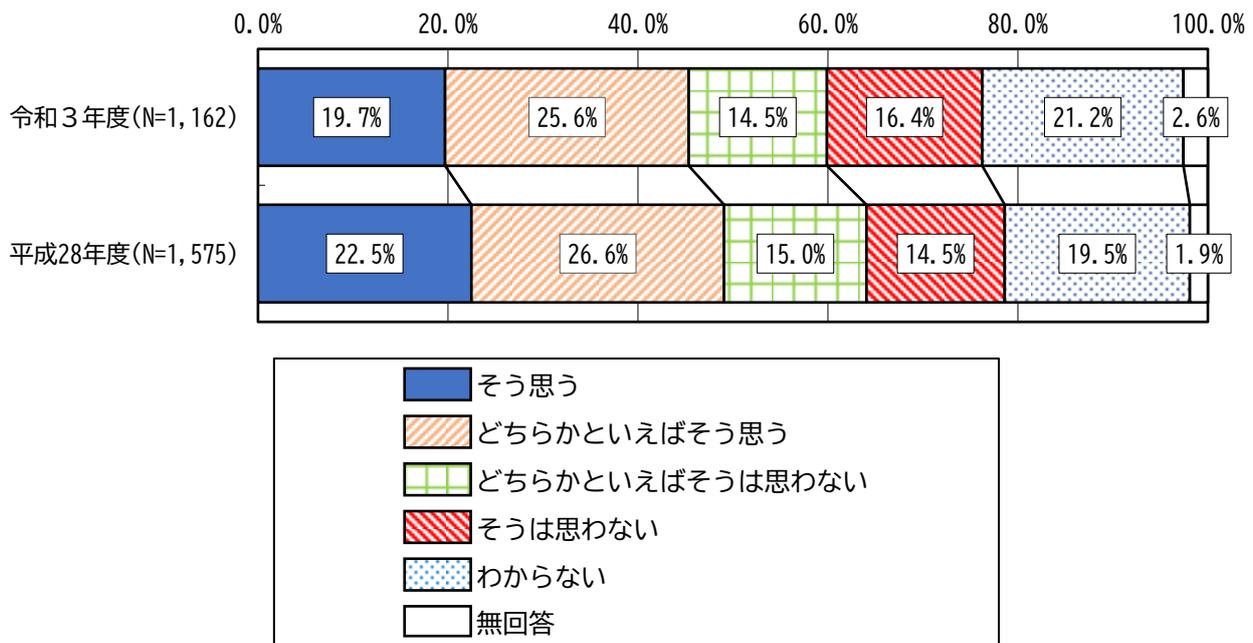


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、18～29歳は50歳代に比べ20.7ポイント高くなっている。

(ク)部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい

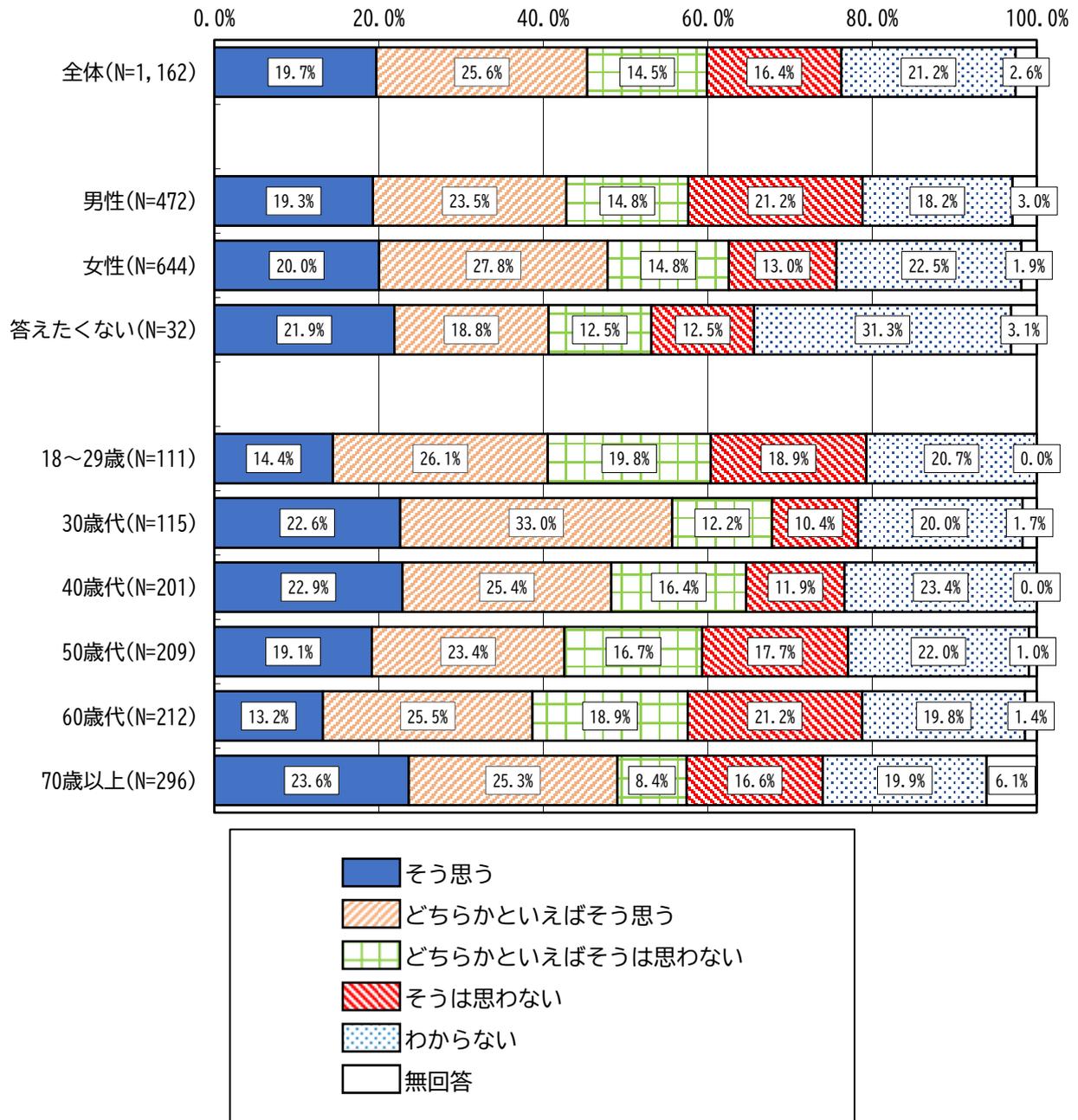
図 令和3年度・平成28年度 部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい※



「部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 45.3%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（30.9%）を上回っている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

※平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和3年度は問19(1)で「部落差別はいまだにある」と回答した者のみが回答しているため、比較にあたっては注意を要する。

図 部落差別を受ける人が一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにすればよい—性別・年齢別

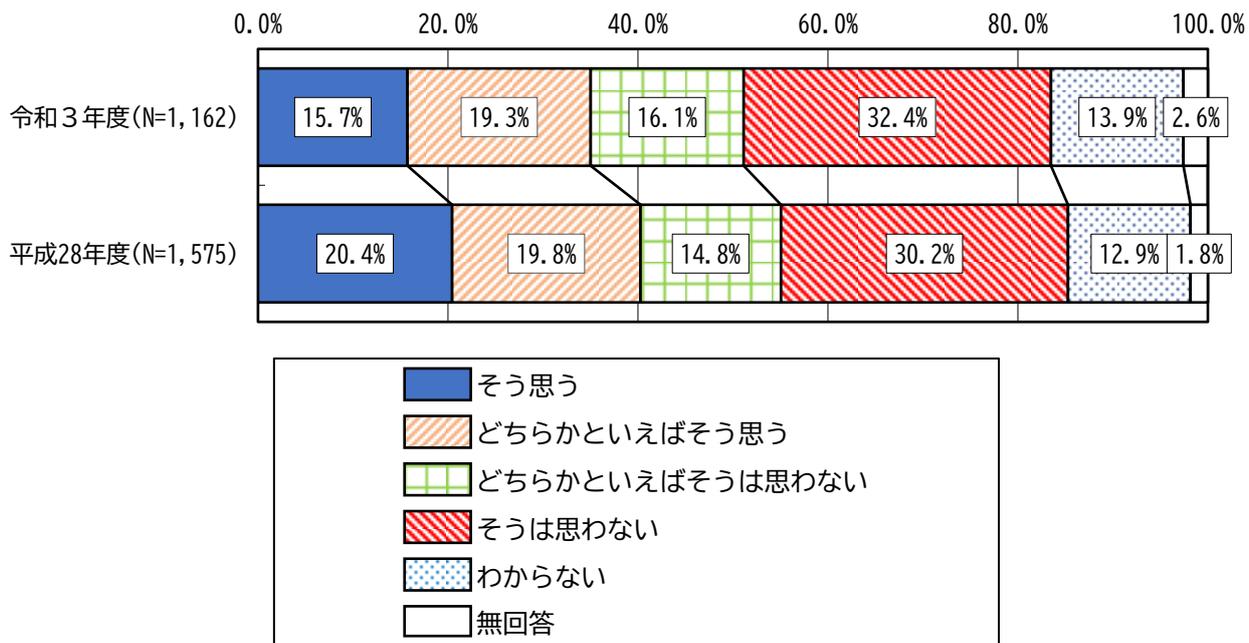


性別で見ると、“そう思う”と答えた人の割合は女性の方が 5.0 ポイント、“そう思わない”と答えた人の割合は男性の方が 8.2 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60 歳代は“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、その他の年代は“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。特に 30 歳代は、“そう思う”が“そう思わない”の約 2.5 倍となっている。

(ケ)同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる

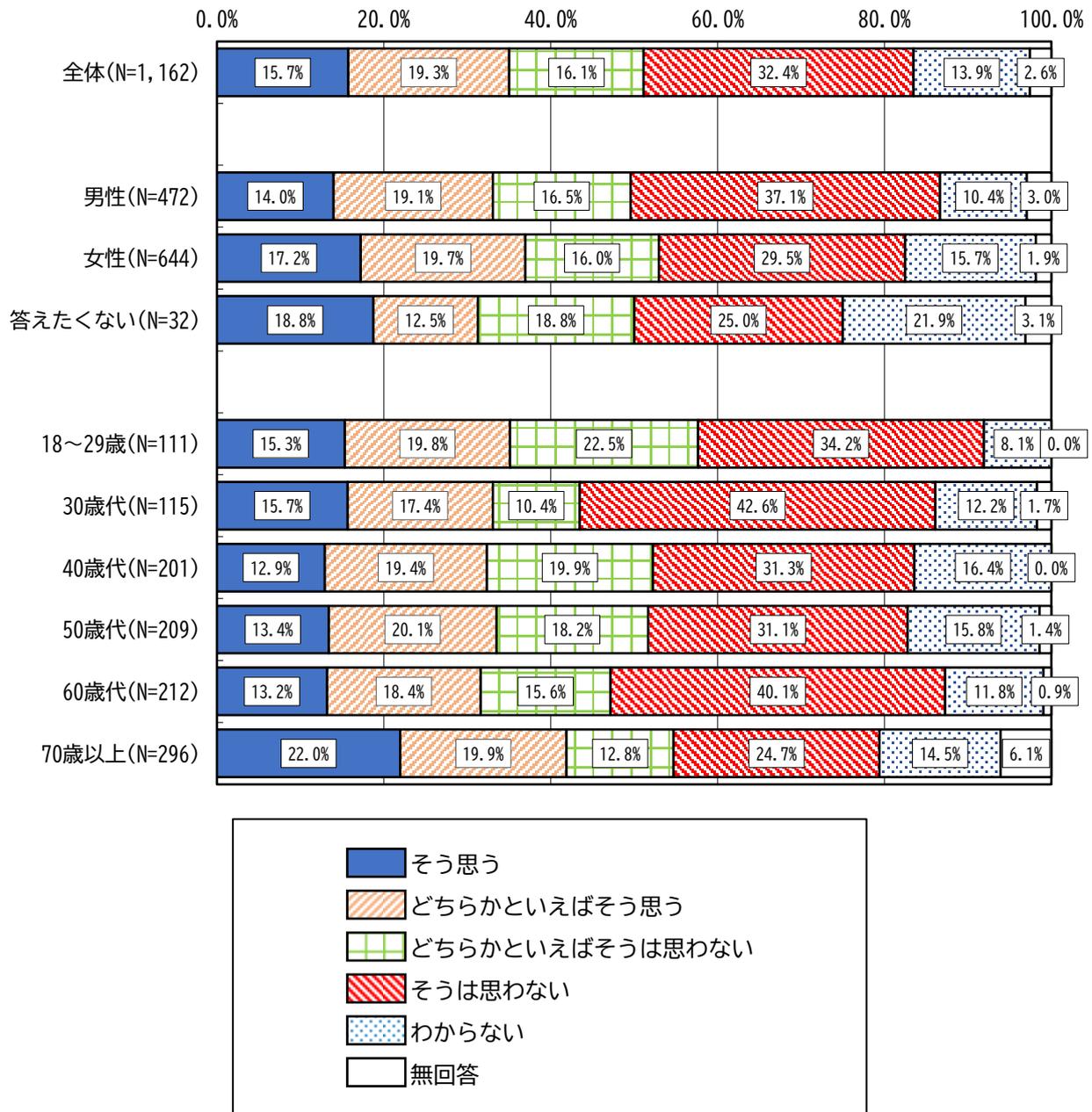
図 令和3年度・平成28年度 同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる※



「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」については、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”と答えた人の割合は 48.5%で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”（35.0%）を上回っている。前回の調査結果と比較すると、“そう思う”と答えた人の割合は 5.2 ポイント減少している。

※平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和3年度は問19(1)で「部落差別はいまだにある」と回答した者のみが回答しているため、比較にあたっては注意を要する。

図 同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる—性別・年齢別

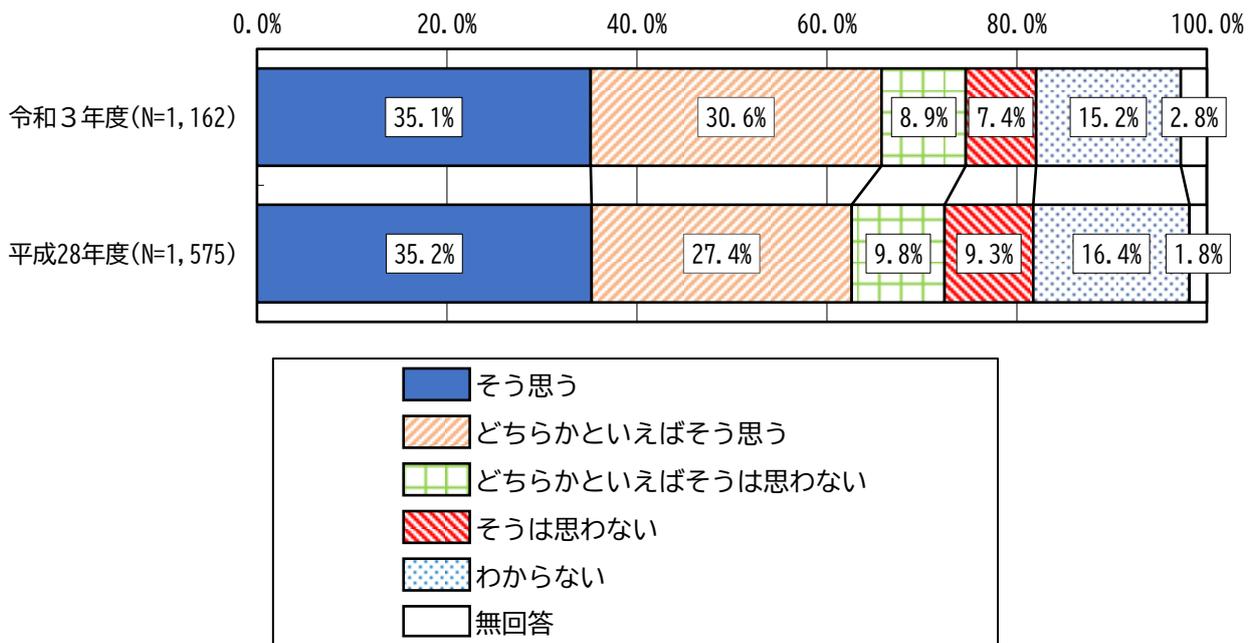


性別で見ると、“そう思わない”と答えた人の割合は男性の方が 8.1 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70 歳以上は“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、その他の年代は“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。特に 60 歳代は、“そう思わない”が“そう思う”の約 1.8 倍となっている。

(コ)身元調査をしない、させない取組を進めることが必要

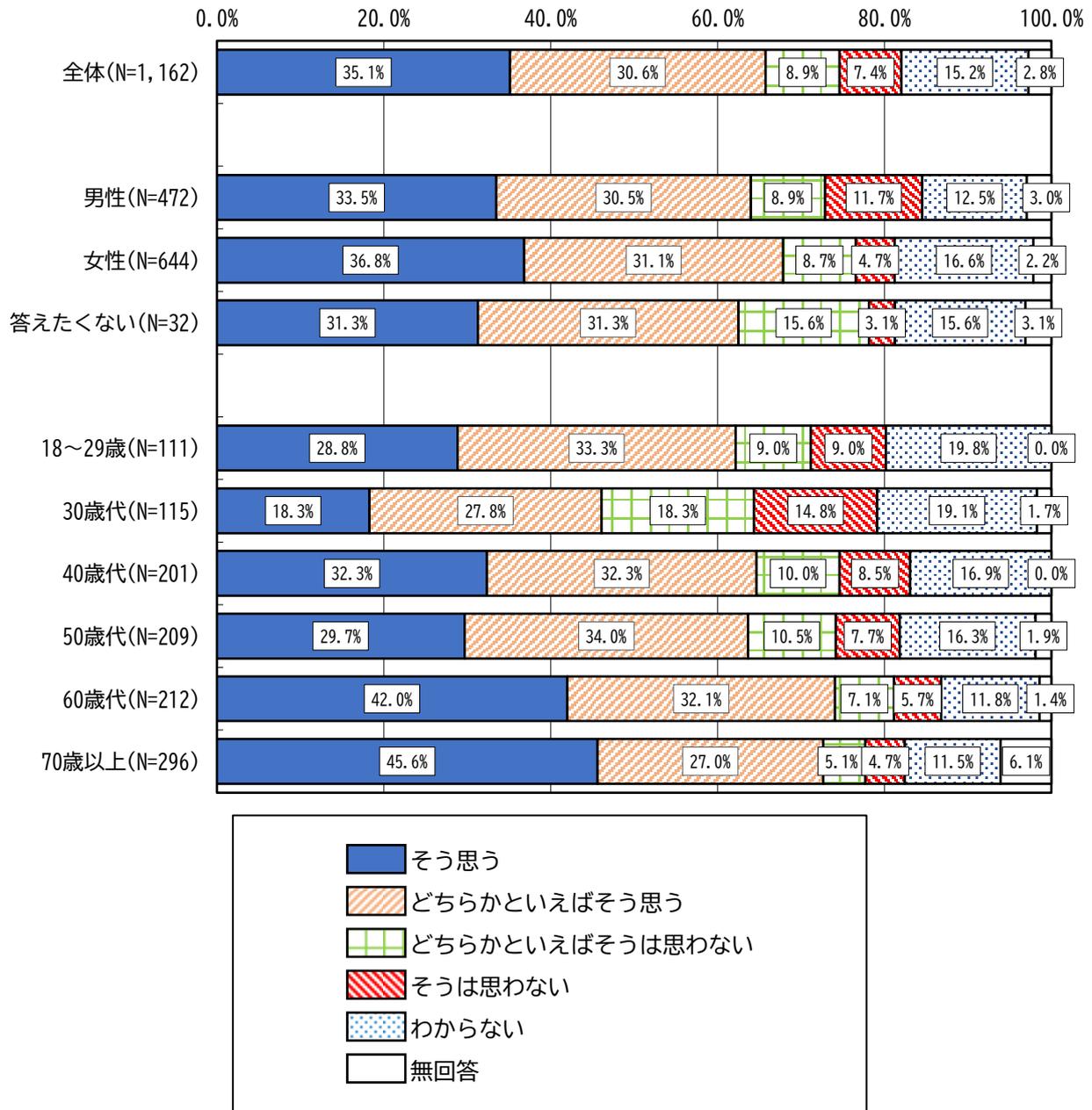
図 令和3年度・平成28年度 身元調査をしない、させない取組を進めることが必要※



「身元調査をしない、させない取組を進めることが必要」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 65.7%で、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”（16.3%）を大きく上回っている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

※平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和3年度は問19(1)で「部落差別はまだまだある」と回答した者のみが回答しているため、比較にあたっては注意を要する。

図 身元調査をしない、させない取組を進めることが必要—性別・年齢別



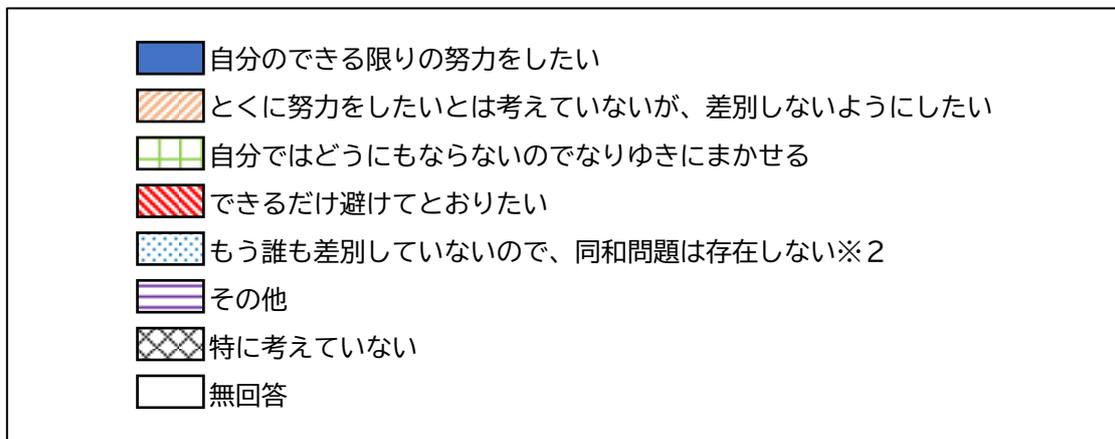
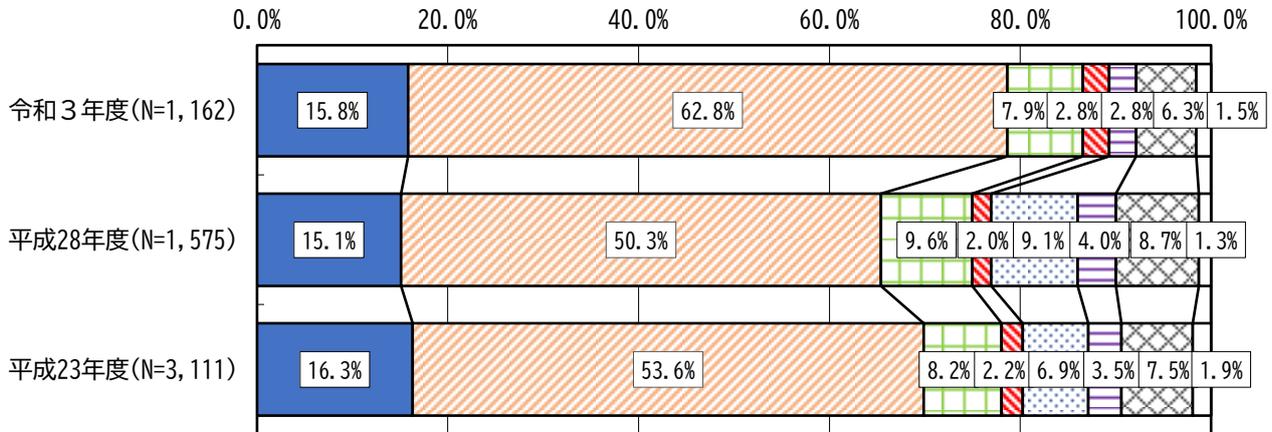
性別で見ると、“そう思わない”と答えた人の割合は男性の方が7.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、各年代とも“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、“そう思う”と答えた人の割合は、60歳代は30歳代に比べ28.0ポイント高くなっている。

(8) 同和問題解決に向けての思い

問 22 同和問題の解決に向けてあなたの思いに近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 同和問題解決に向けての思い※1

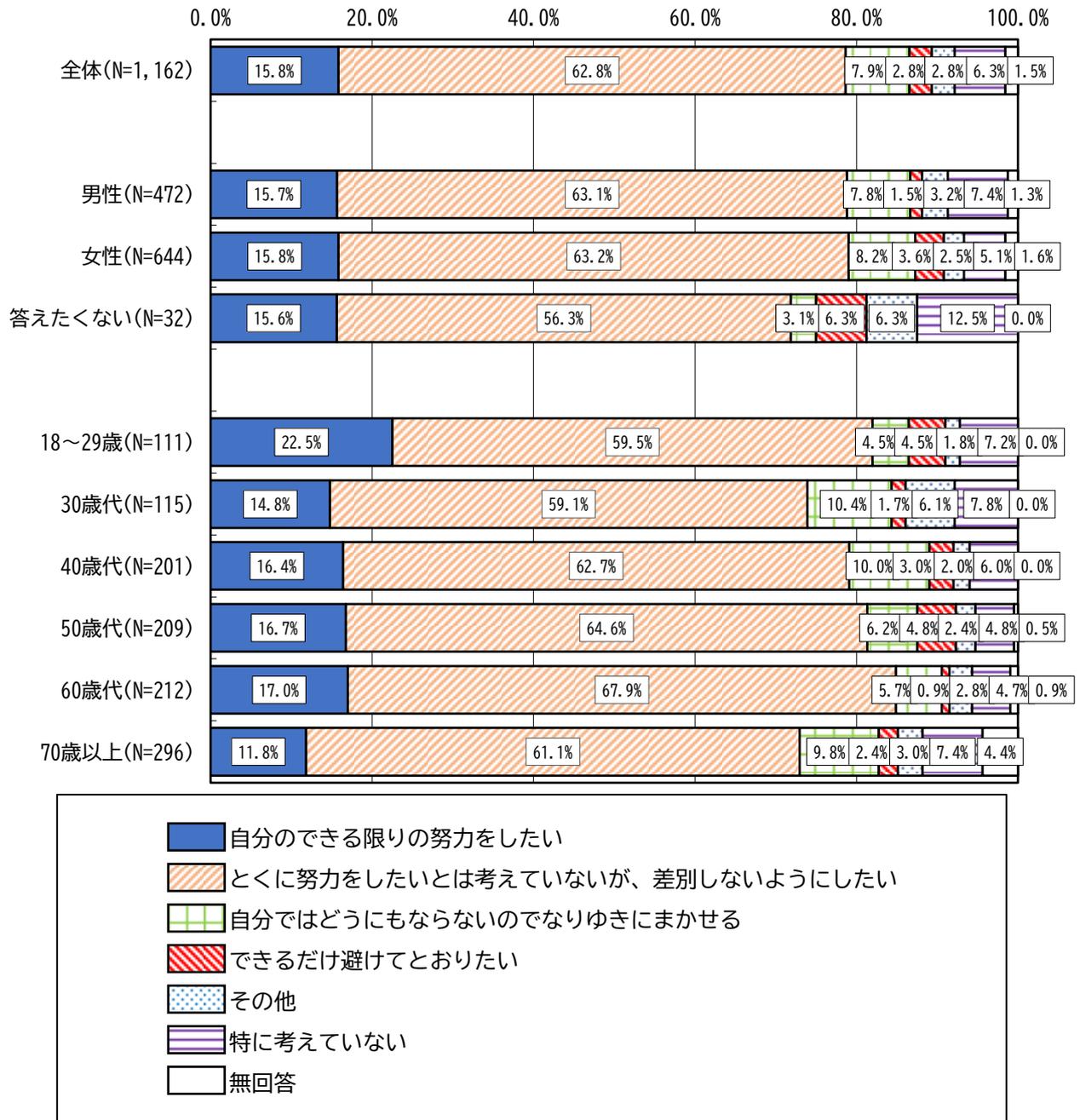


同和問題解決に向けての思いをたずねたところ、「とくに努力をしたいとは考えていないが、差別しないようにしたい」と答えた人の割合が62.8%で最も高く、次いで「自分のできる限りの努力をしたい」（15.8%）、「自分ではどうにもならないのでなりゆきにまかせる」（7.9%）の順となっており、前回、前々回の調査結果と比べると「とくに努力をしたいとは考えていないが、差別しないようにしたい」と答えた人の割合が増加している。

※1 平成28年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和3年度は問19(1)で「部落差別はいまだにある」と回答した者のみが回答しているため比較にあたっては注意を要する。

※2 令和3年度は「もう誰も差別していないので、同和問題は存在しない」を選択肢から外している。

図 同和問題解決に向けての思い—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

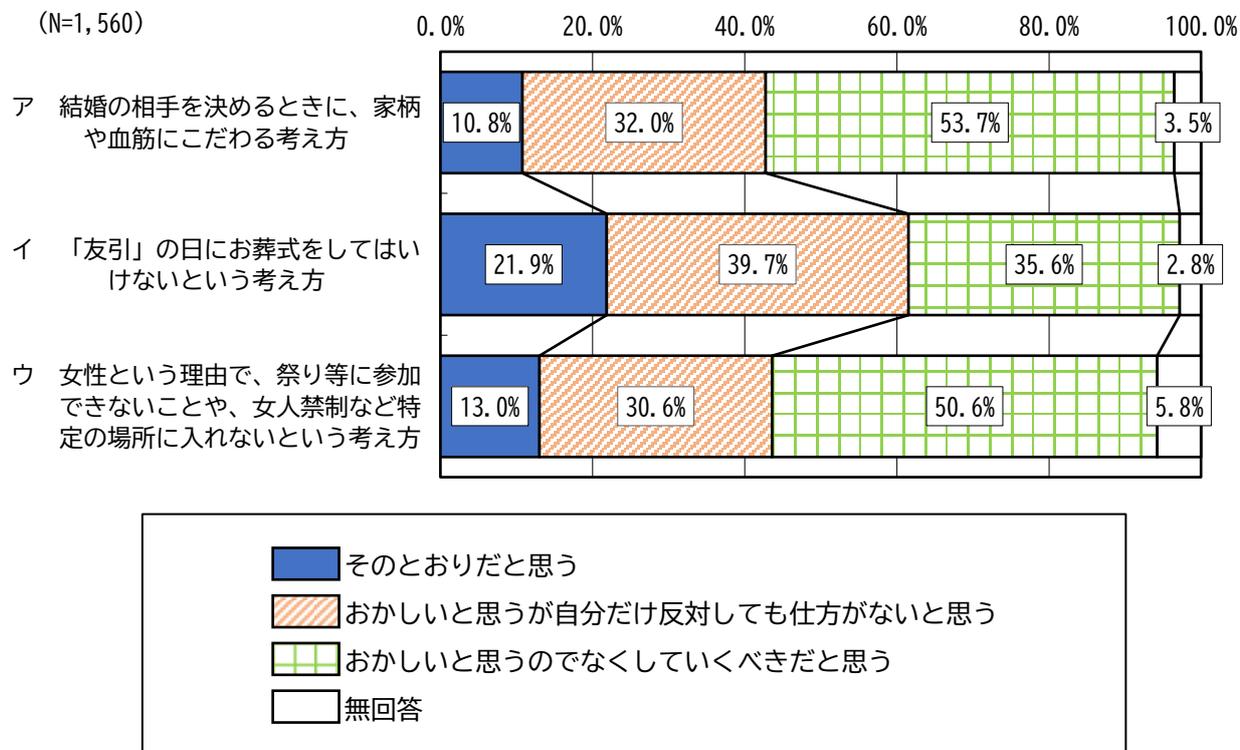
年齢別で見ると、各年代とも「とくに努力をしたいとは考えていないが、差別しないようにしたい」と答えた人の割合が最も高くなっており、「自分のできる限りの努力をしたい」は18～29歳が最も高く、70歳以上が最も低くなっている。

6. 人権の尊重や侵害についての考え方

(1) 古くからの言い伝えや考え方などについて

問 23 たとえば日常生活で次のような考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。アからウのそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んで○をつけてください。

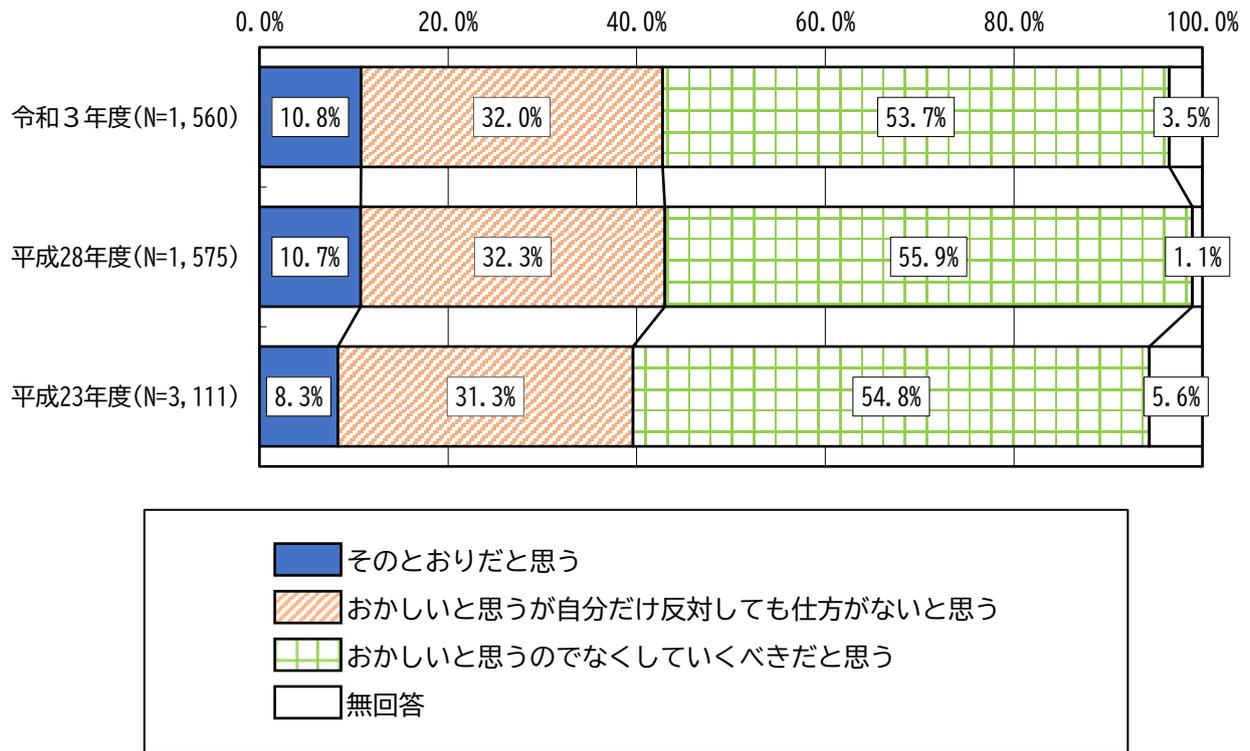
図 古くからの言い伝えや考え方



古くからの言い伝えや考え方についてたずねたところ、「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合は、「結婚の相手を決めるときに、家柄や血筋にこだわる考え方」が 53.7%で最も高くなっており、次いで「女性という理由で、祭り等に参加できないことや、女人禁制など特定の場所に入れないという考え方」が 50.6%となっている。「友引」の日にお葬式をしてはいけないという考え方は、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」が 39.7%で他の事例に比べ高くなっている。

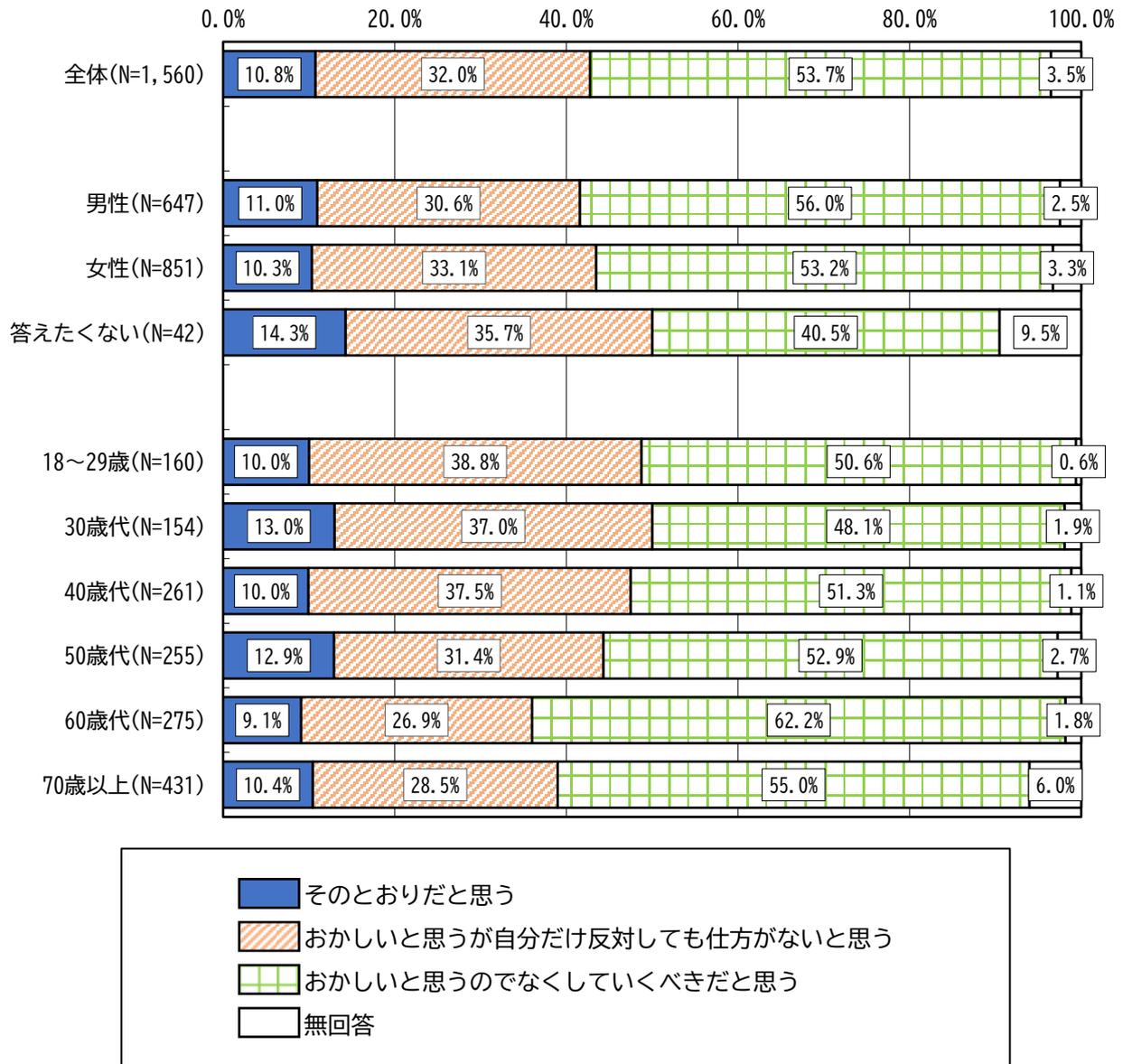
(ア)結婚の相手を決めるときに、家柄や血筋にこだわる考え方

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 結婚の相手を決めるときに、家柄や血筋にこだわる考え方



「結婚の相手を決めるときに、家柄や血筋にこだわる考え方」については、今回、前回、前々回の調査結果とも「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合が最も高くなっており、特に大きな変化は見られない。

図 結婚の相手を決めるときに、家柄や血筋にこだわる考え方—性別・年齢別

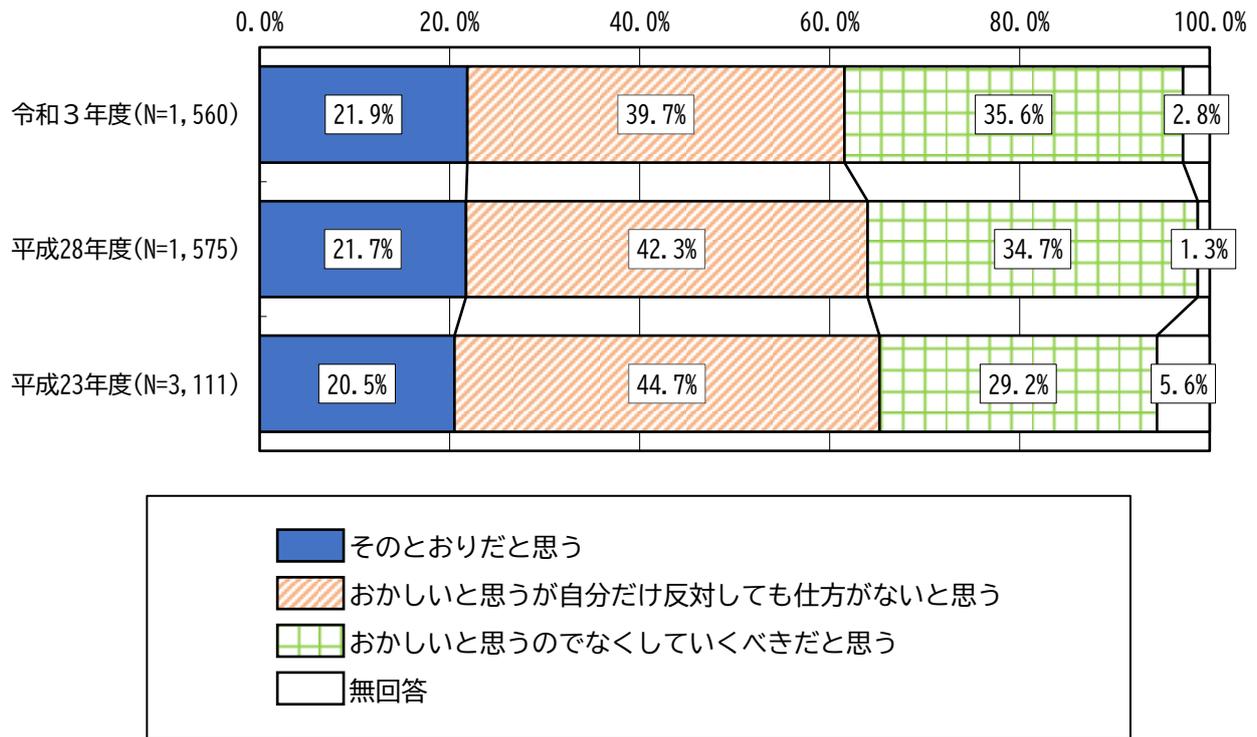


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合は 60 歳代が 62.2%で最も高くなっており、概ね年代が高くなるほど高くなる傾向がある。

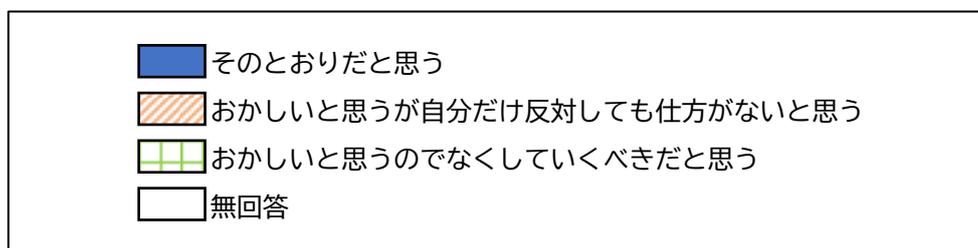
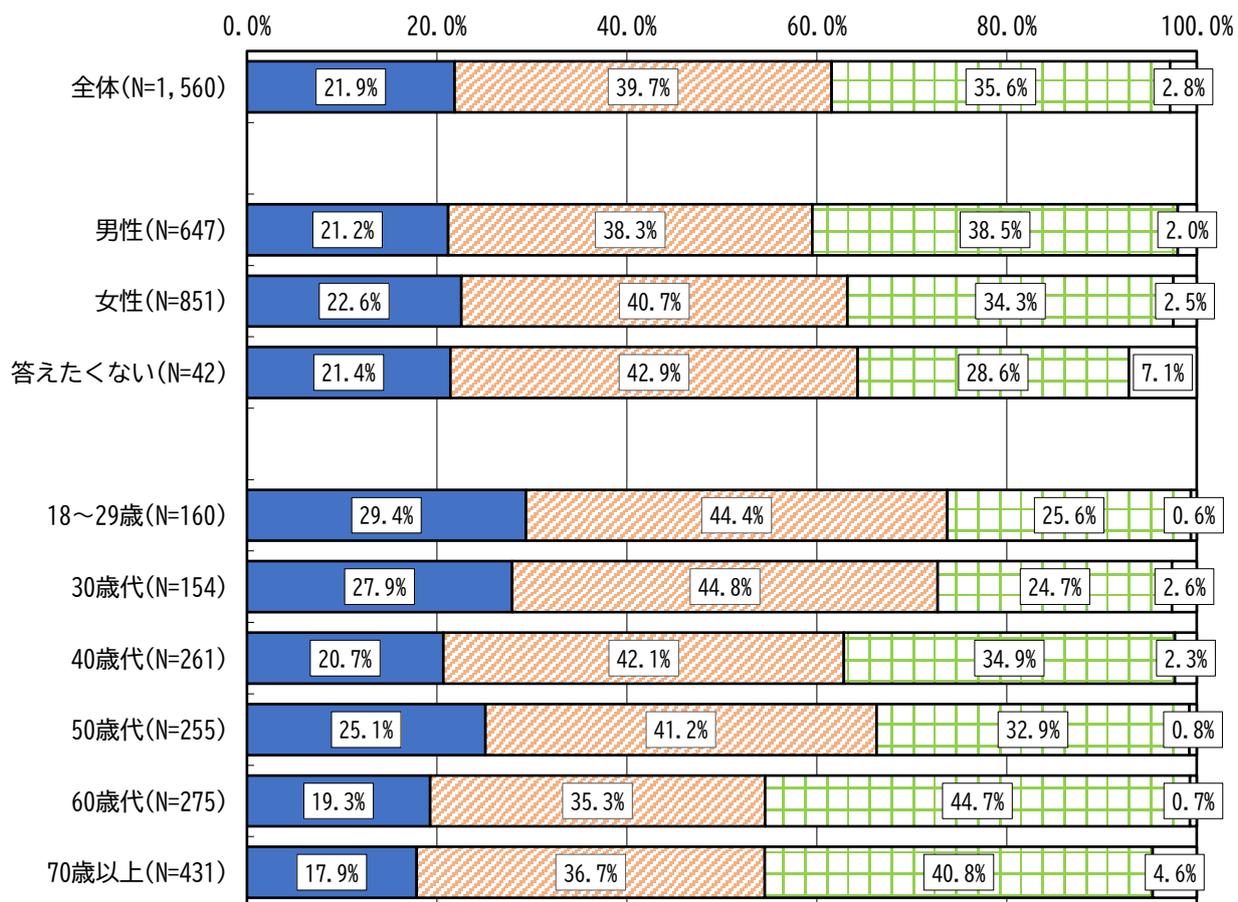
(イ)「友引」の日にお葬式をしてはいけないという考え方

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度「友引」の日にお葬式をしてはいけないという考え方



「「友引」の日にお葬式をしてはいけないという考え方」については、今回、前回、前々回の調査結果とも「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ないと思う」と答えた人の割合が最も高くなっており、「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」は徐々に増加している。

図「友引」の日にお葬式をしてはいけないという考え方—性別・年齢別

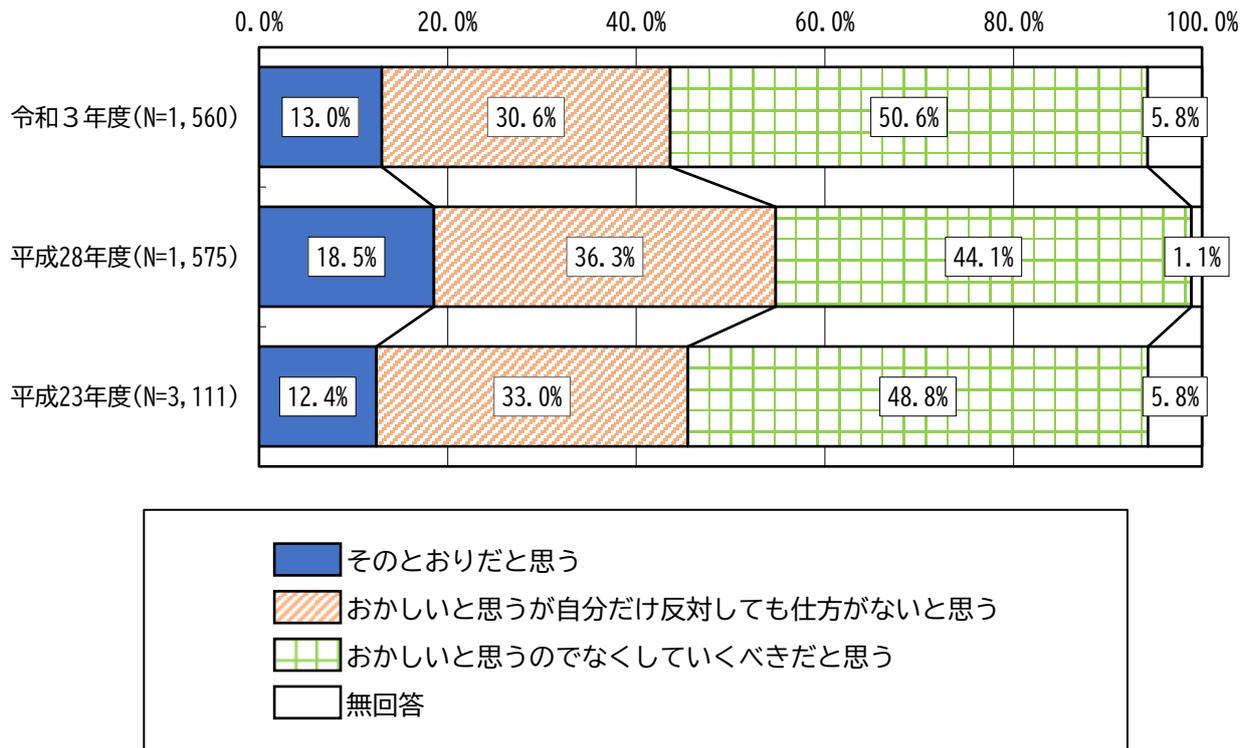


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、18～29歳から50歳代までは「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」と答えた人の割合が最も高く、60歳代から70歳以上は「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」が最も高くなっている。

(ウ) 女性という理由で、祭り等に参加できないことや、女人禁制など特定の場所に入れないという考え方

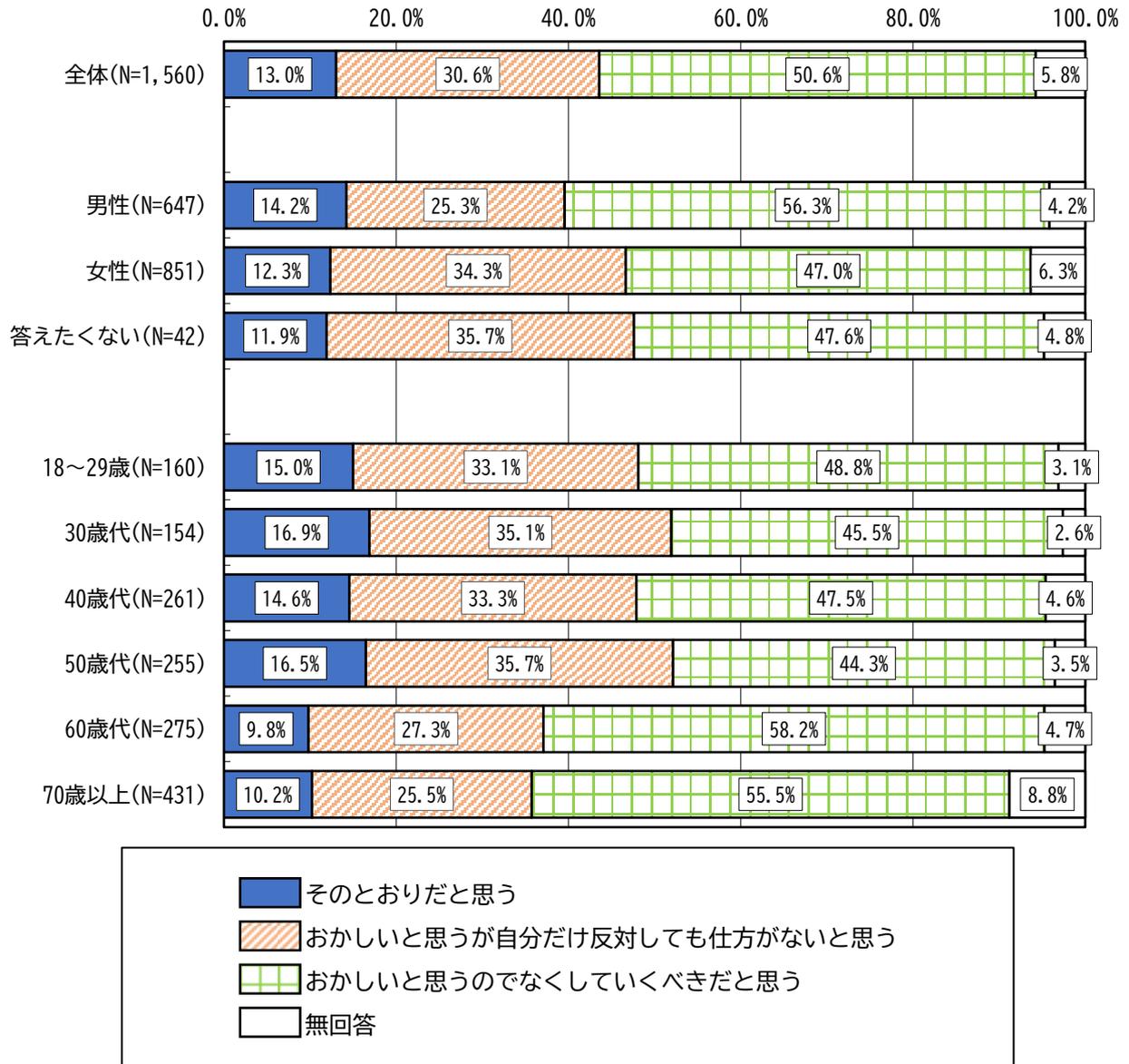
図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 女性という理由で、祭り等に参加できないことや、女人禁制など特定の場所に入れないという考え方※



※平成28年度では質問文を「祭り等の神事において女性という理由で参加させないことや、特定の場所に入れないという考え方」としていたが、同一の趣旨ではあるものの、令和3年度は「女性という理由で、祭り等に参加できないことや、女人禁制などの特定の場所に入れないという考え方」と変更した。

「女性という理由で、祭り等に参加できないことや、特定の場所に入れないという考え方」については、今回、前回、前々回の調査結果とも「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合が最も高くなっている。また、「そのとおりだと思う」「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」は、前回の調査結果から減少している。

図 女性という理由で、祭り等に参加できないことや、女人禁制など特定の場所に入れないという考え方—性別・年齢別



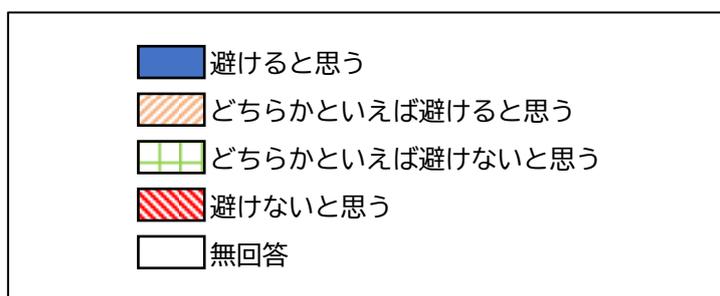
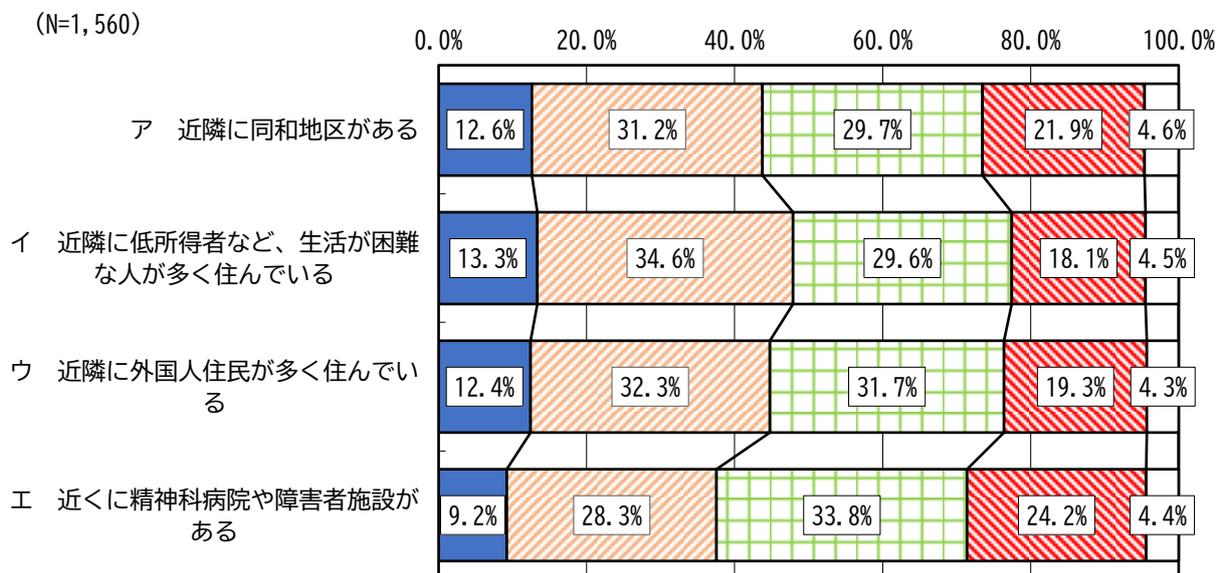
性別で見ると、「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合は男性の方が 9.3 ポイント、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」と答えた人の割合は女性の方が 9.0 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合は 60 歳代が 58.2%で最も高くなっている。

(2) 住宅を選ぶ際に忌避する条件

問 24 あなたは、家を購入したりマンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けると思いますか。アからエのそれぞれについて、1つずつ選んで○をつけてください。

図 住宅を選ぶ際に忌避する条件



「住宅を選ぶ際に忌避する条件」についてたずねたところ、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”と、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”と答えた人の割合を各事例で見ると、

(ア)近隣に同和地区がある (避ける 43.8% : 避けない 51.6%)

(イ)近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる (避ける 47.9% : 避けない 47.7%)

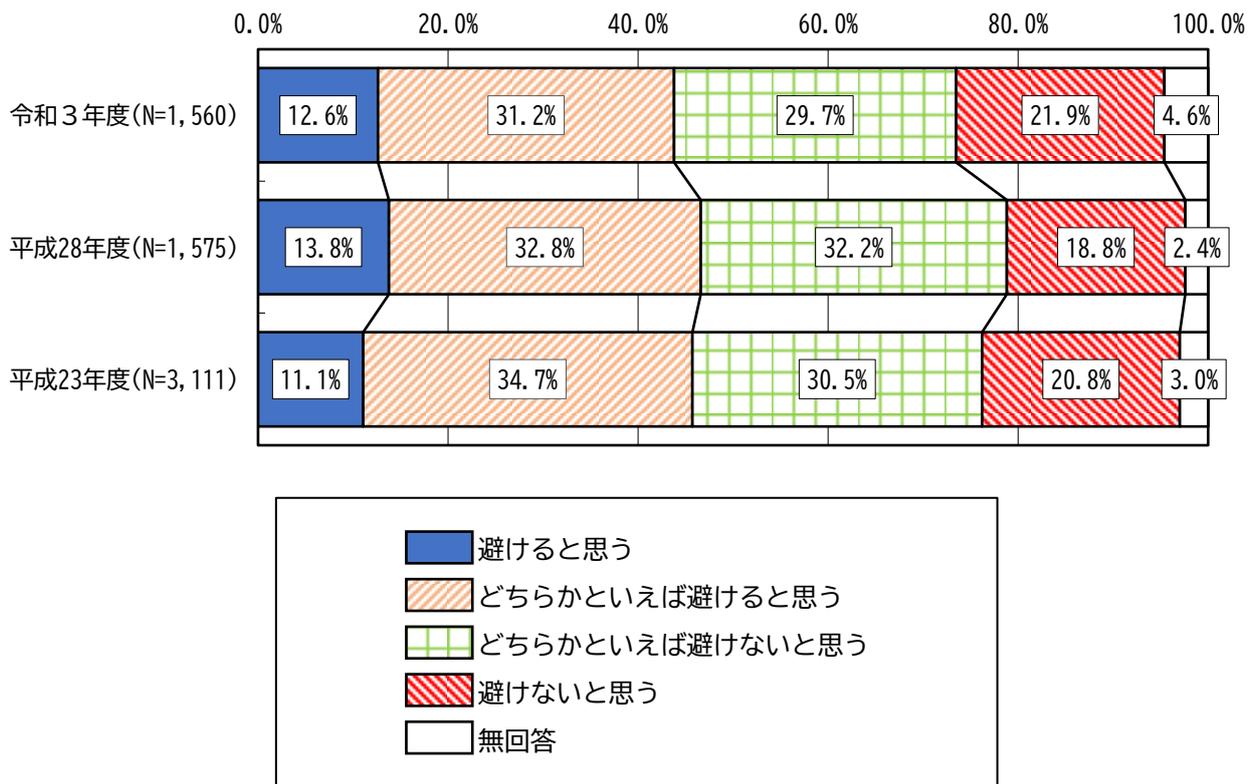
(ウ)近隣に外国人住民が多く住んでいる (避ける 44.7% : 避けない 51.0%)

(エ)近くに精神科病院や障害者施設がある (避ける 37.5% : 避けない 58.0%)

となっている。

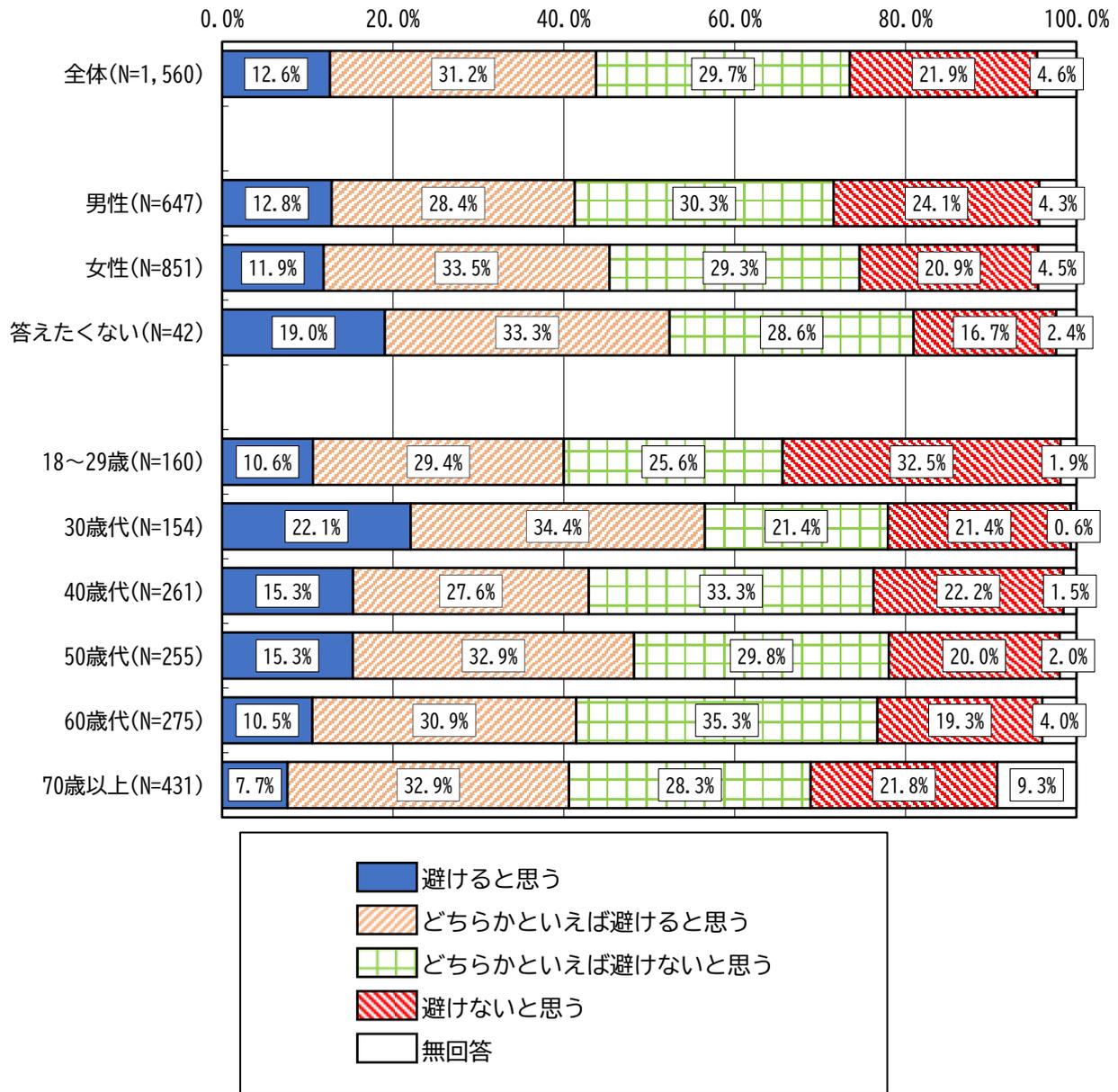
(ア)近隣に同和地区がある

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 近隣に同和地区がある



「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”（51.6%）が、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”（43.8%）を7.8ポイント上回っている。
 前回、前々回の調査結果と比べると、大きな変化は見られない。

図 近隣に同和地区がある—性別・年齢別

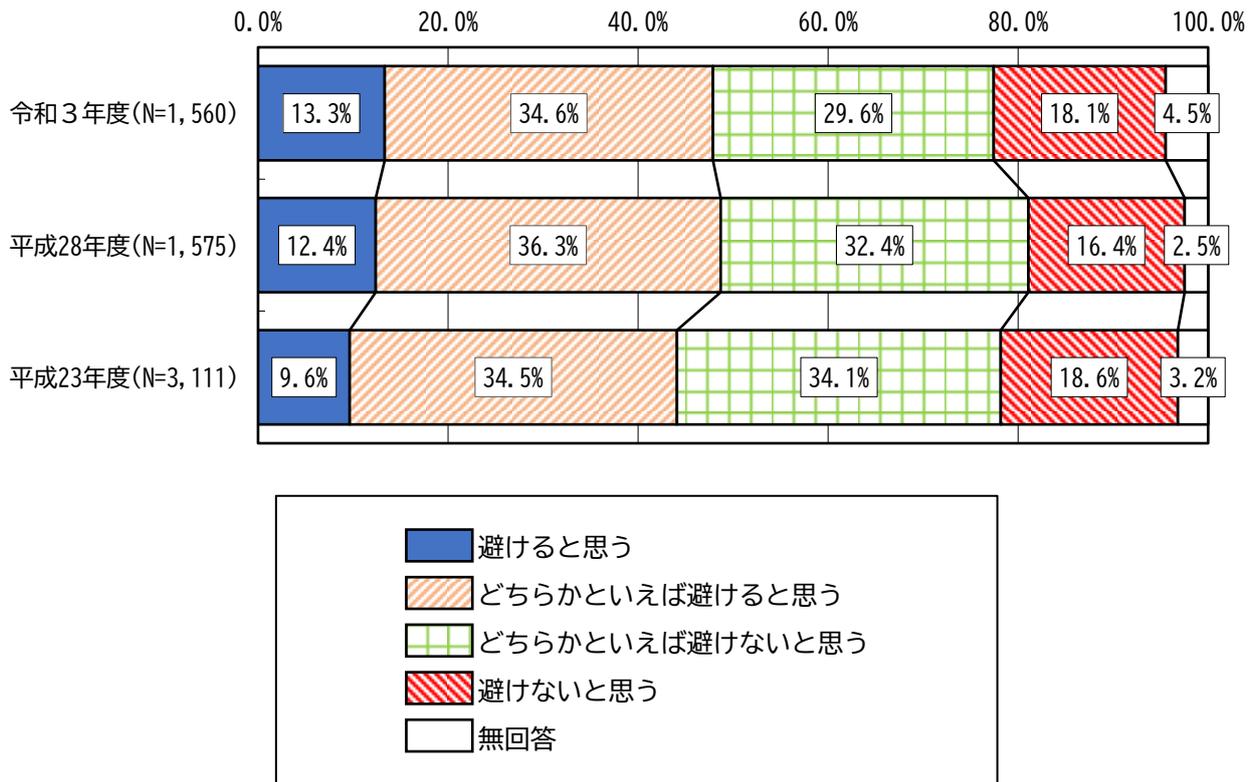


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、30歳代では“避ける”が“避けない”を13.7ポイント上回っているが、その他の年代では“避けない”が上回っている。

(イ)近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

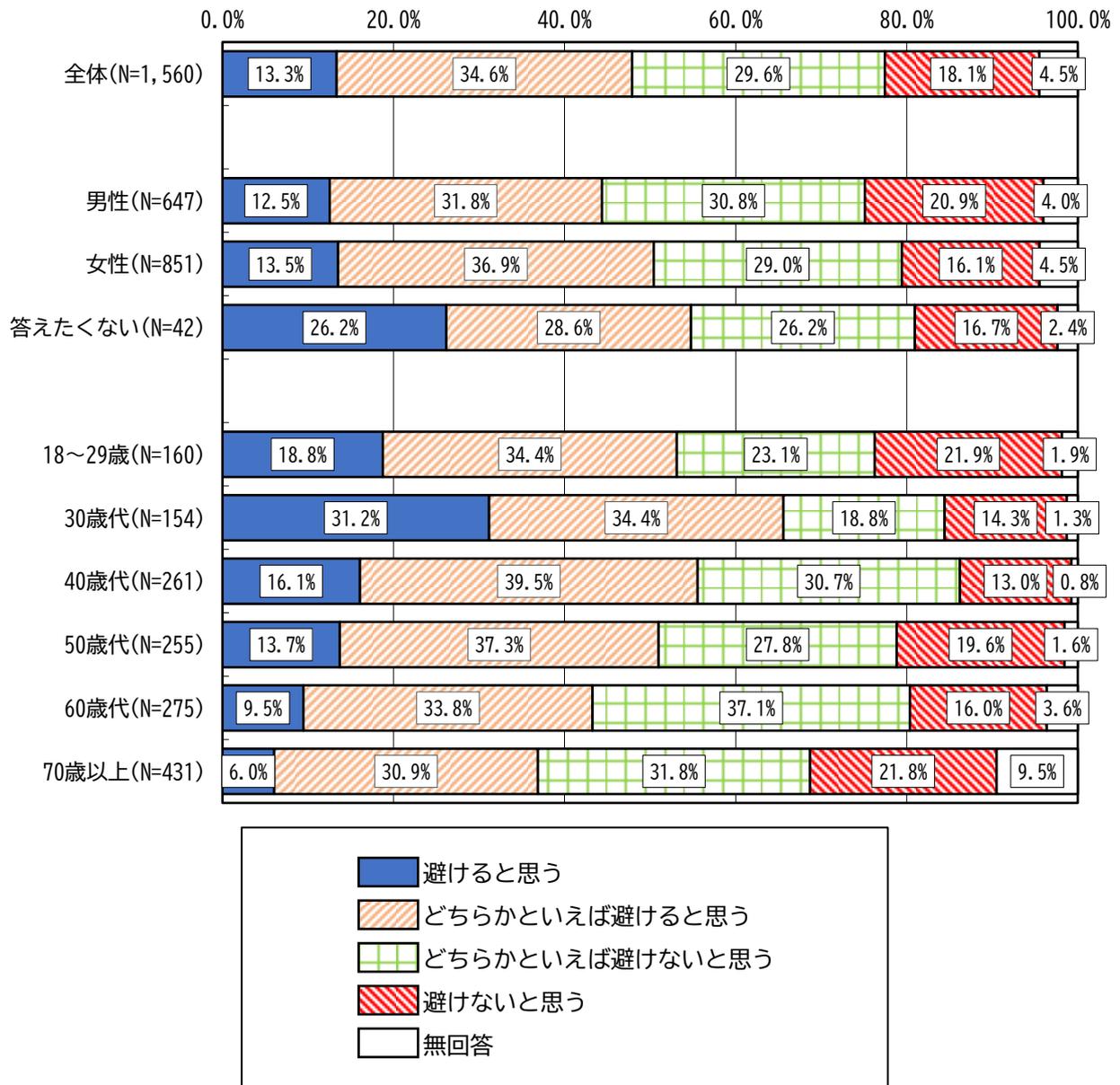
図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる



「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”が 47.7%で、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”が 47.9%で、大きな差異は見られない。

前回、前々回の調査結果と比べると、大きな変化は見られない。

図 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる—性別・年齢別

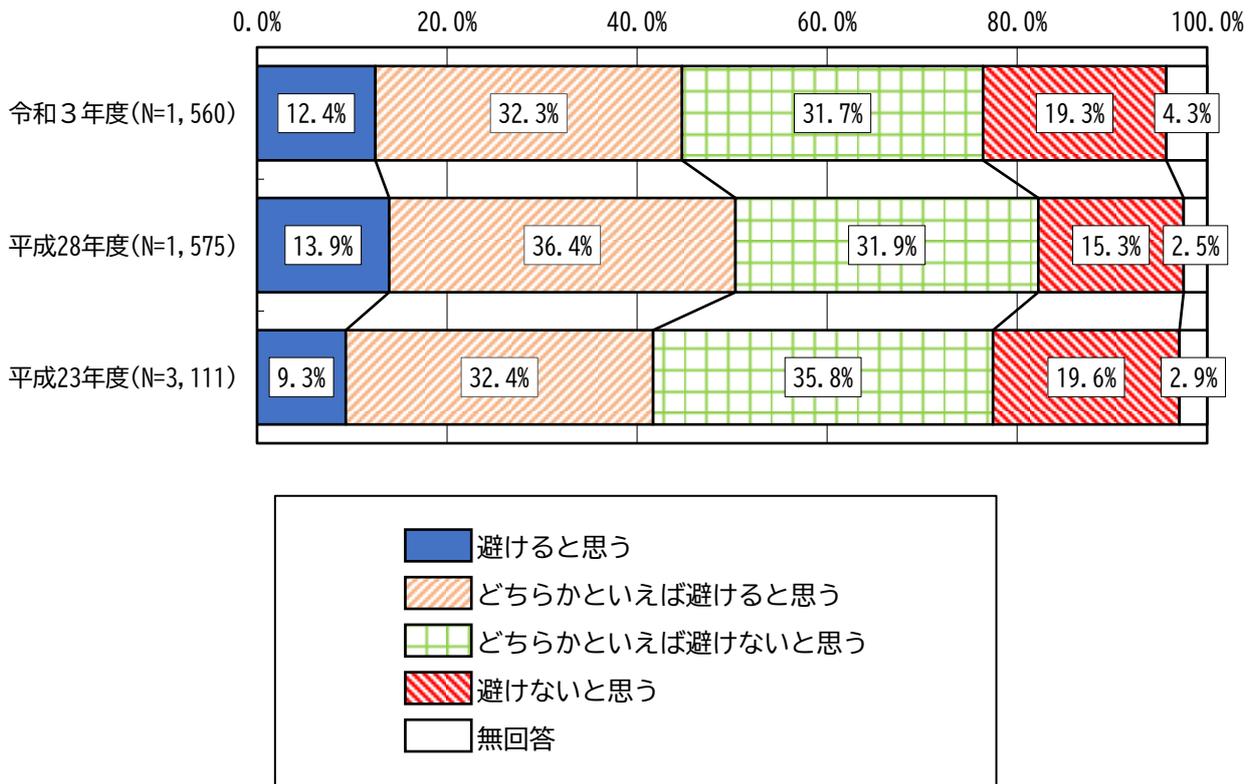


性別で見ると、“避ける”と答えた人の割合は女性の方が6.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、18～29歳から50歳代は“避ける”が“避けない”を上回り、60歳代から70歳以上は“避けない”が“避ける”を上回っている。中でも30歳代は“避ける”（65.6%）が“避けない”（33.1%）を32.5ポイント上回っている。

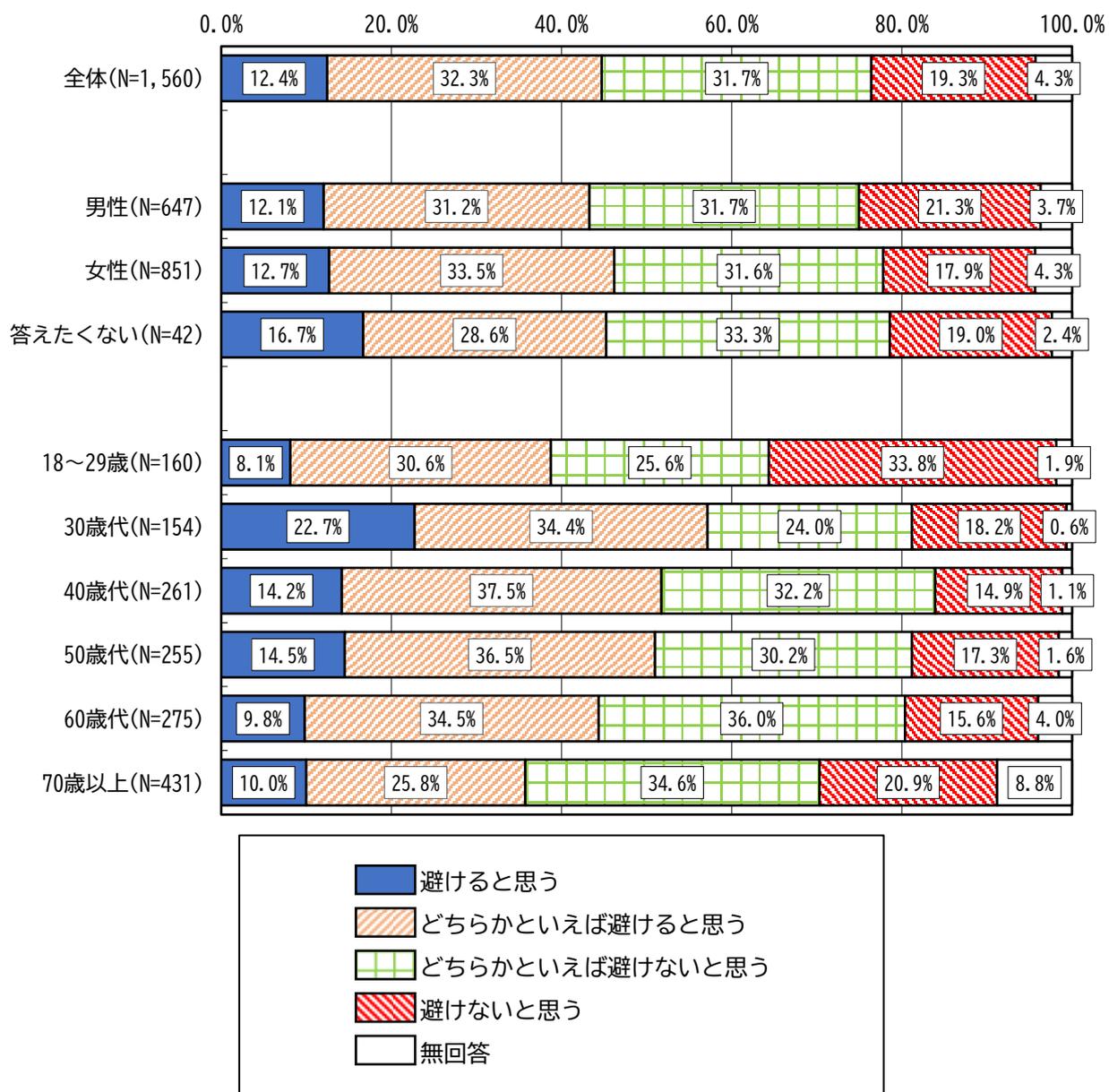
(ウ)近隣に外国人住民が多く住んでいる

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 近隣に外国人住民が多く住んでいる



「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”（51.0%）が、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”（44.7%）を6.3ポイント上回っている。前回の調査結果と比べると、“避ける”が5.6ポイント減少している。

図 近隣に外国人住民が多く住んでいる—性別・年齢別

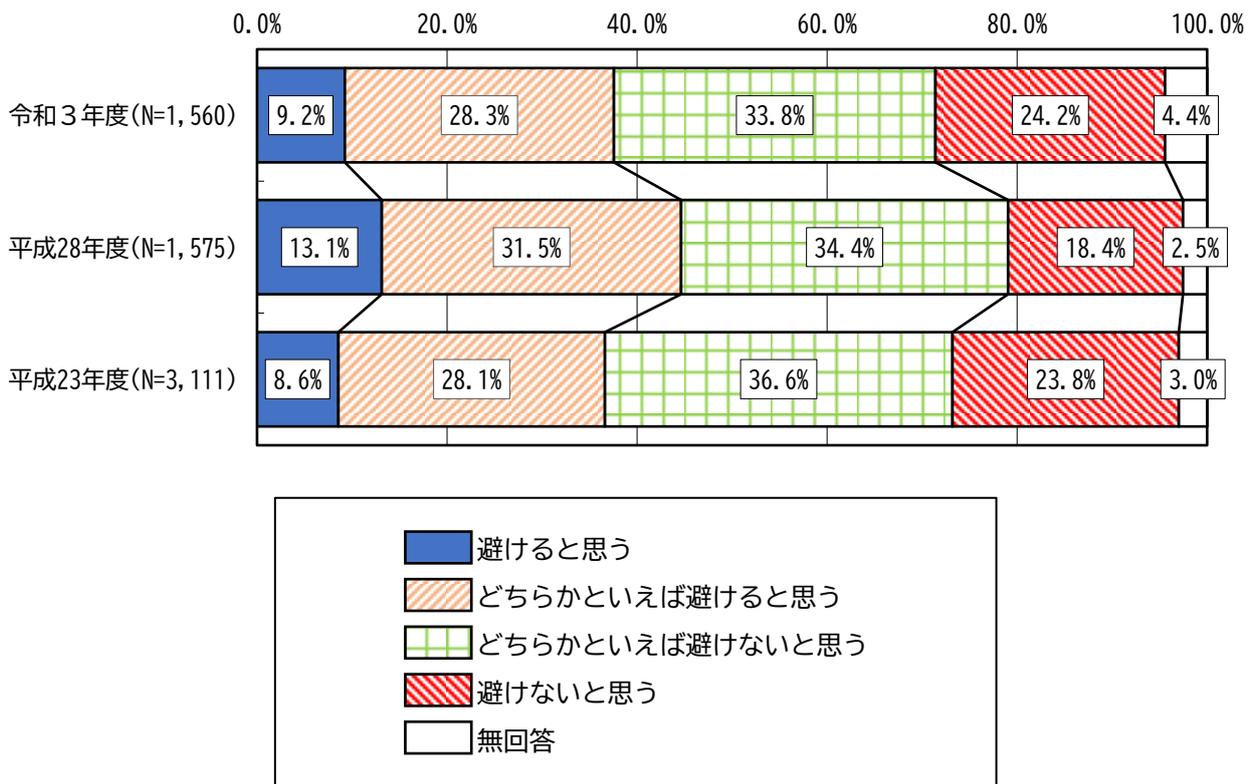


性別で見ると、男女による大きな差異はない。

年齢別で見ると、18～29歳と60歳代から70歳以上は“避けない”が“避ける”を上回り、その他の年代は“避ける”が“避けない”を上回っている。中でも18～29歳は“避けない”（59.4%）が“避ける”（38.7%）を20.7ポイント上回っている。一方、30歳代は“避ける”（57.1%）が“避けない”（42.2%）を14.9ポイント上回っている。

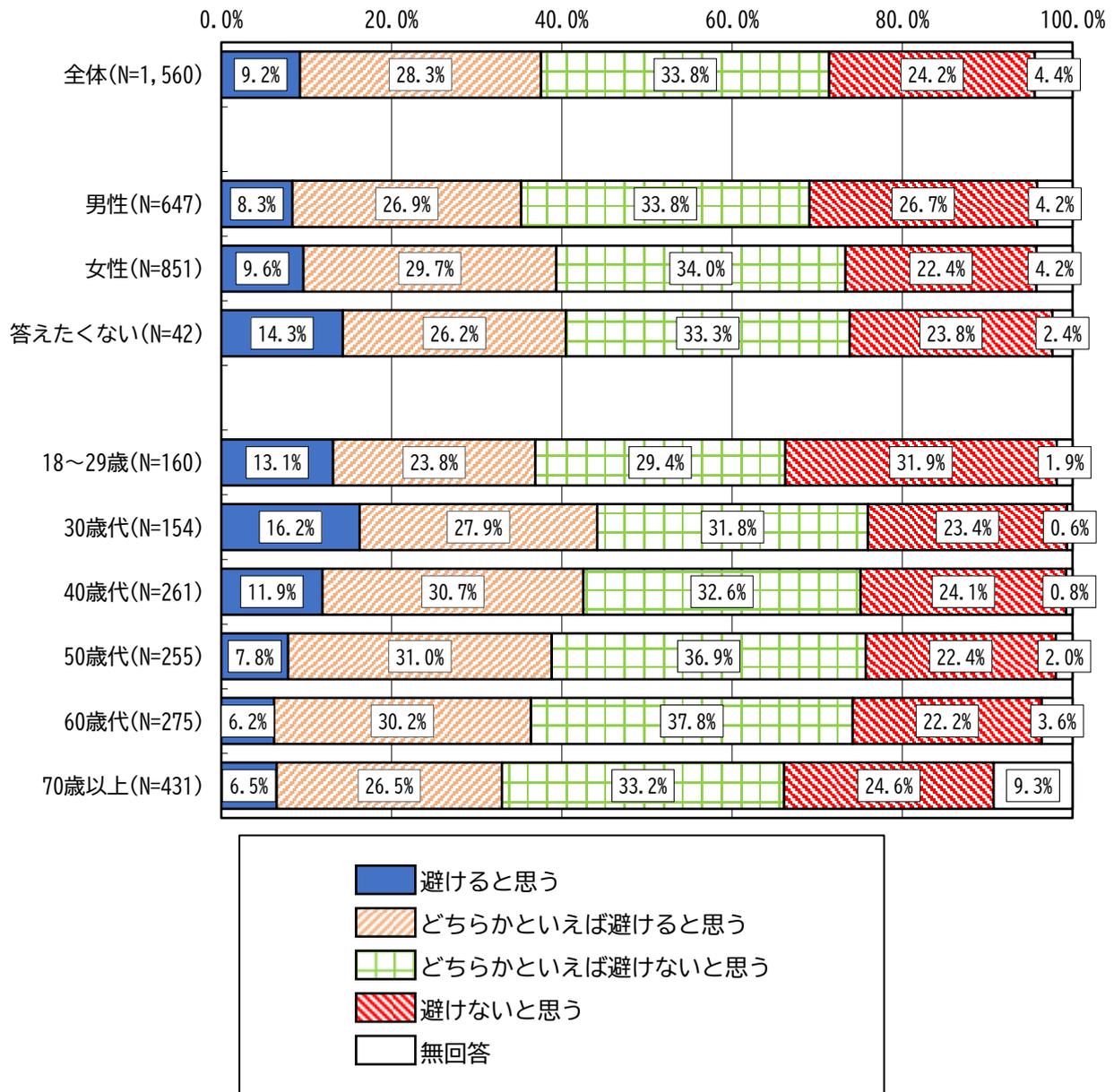
(工)近くに精神科病院や障害者施設がある

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 近くに精神科病院や障害者施設がある



「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”（58.0%）が、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”（37.5%）を20.5ポイント上回っている。
 前回の調査結果と比べると、“避ける”が7.1ポイント減少している。

図 近くに精神科病院や障害者施設がある—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

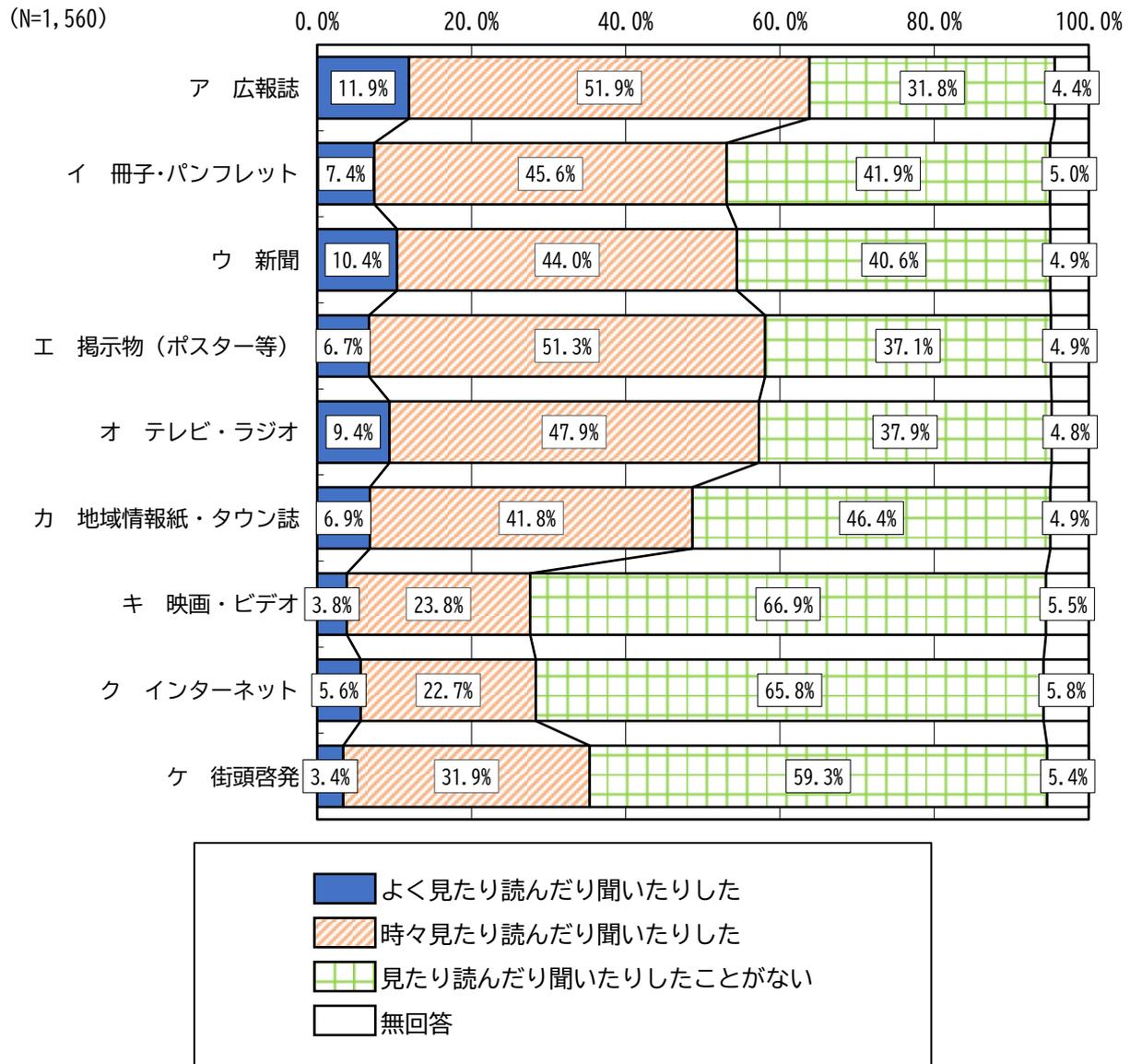
年齢別で見ると、各年代とも“避けない”が“避ける”を上回っており、30歳代以上では年代が高くなるほど“避ける”が低くなる傾向がある。

7. 人権啓発について

(1) 啓発活動への接触状況

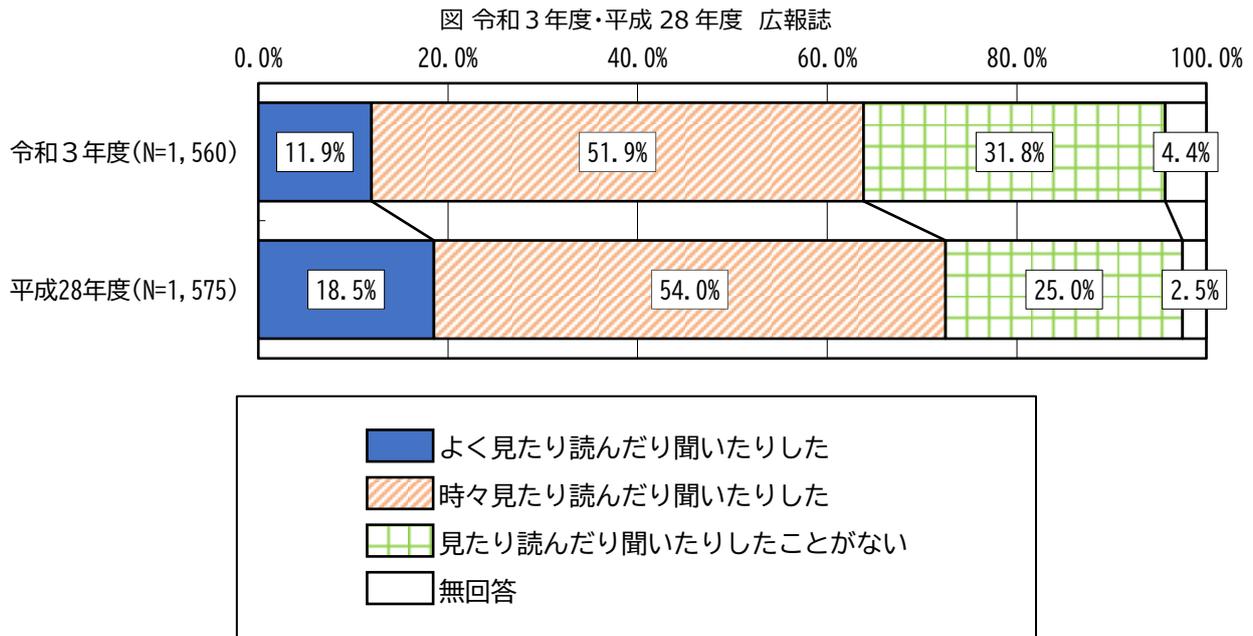
問 25 人権問題の解決のために、県や市町において次のような方法で啓発活動を行っています。あなたは最近1年ぐらいの間に、どの程度これらを見たり読んだり聞いたりしましたか。アからケのそれぞれについて、1つずつ選んで○をつけてください。

図 人権啓発活動への接触状況



啓発活動への接触状況についてたずねたところ、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」と答えた人の割合は、広報誌が63.8%で最も高く、次いで掲示物（ポスター等）（58.0%）、テレビ・ラジオ（57.3%）の順となっている。

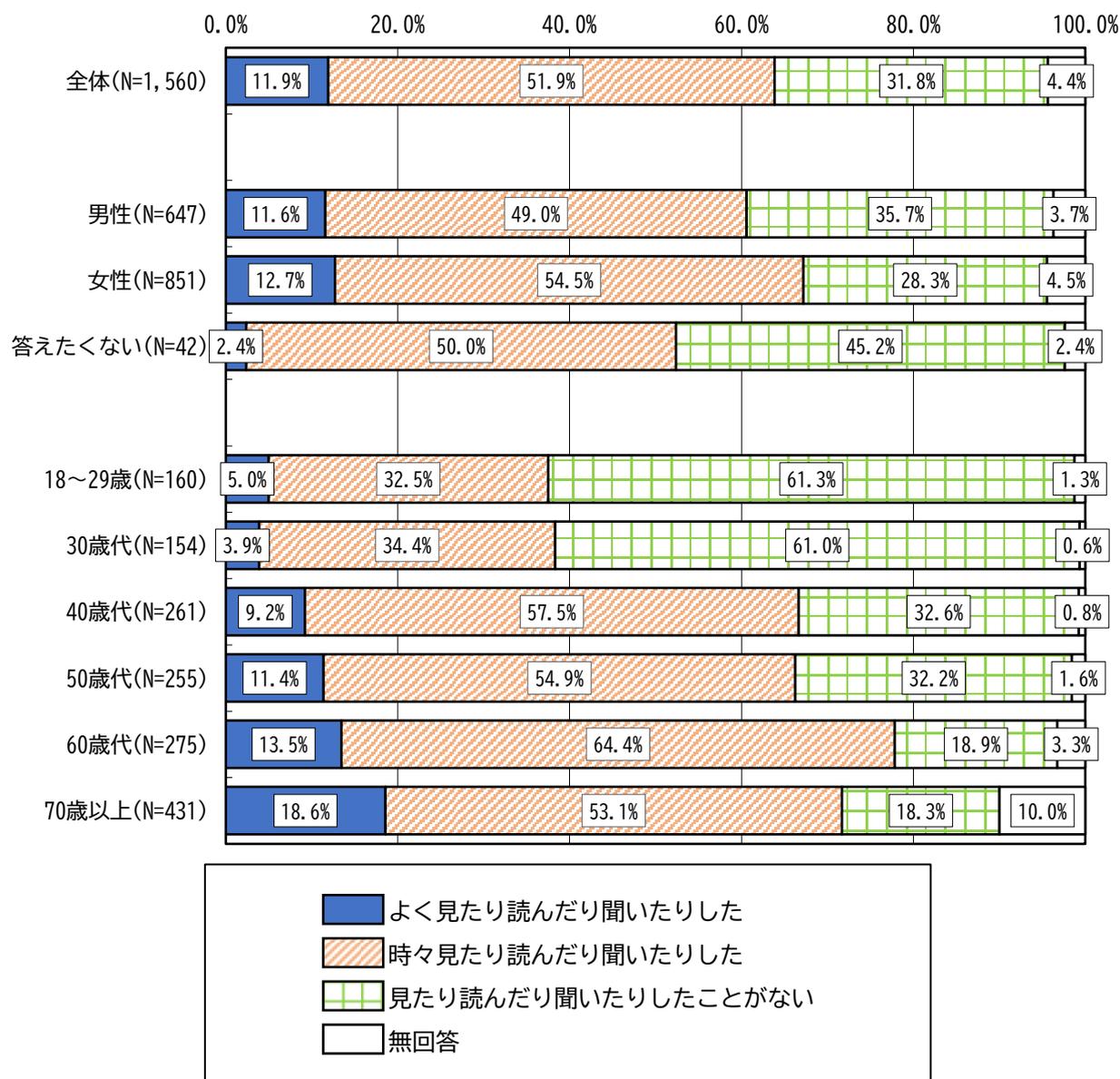
(ア)広報誌



「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした” (63.8%) が、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」 (31.8%) を上回っている。

前回の調査結果と比べると、“見たり読んだり聞いたりした”が 8.7 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 6.8 ポイント高くなっている。

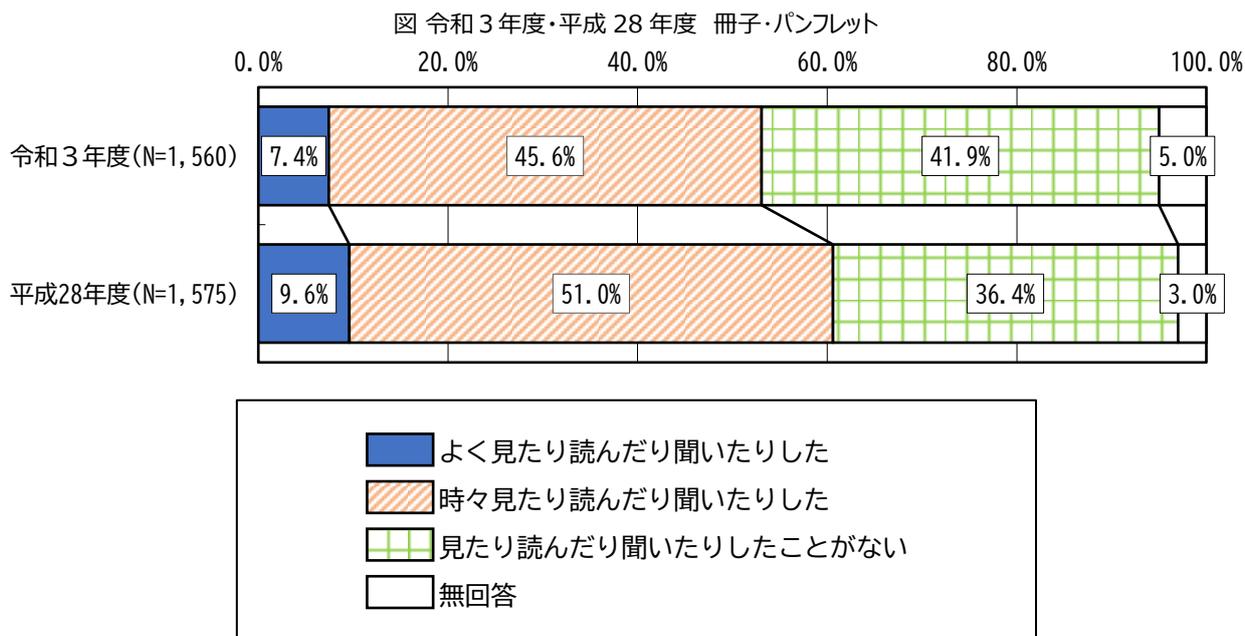
図 広報誌一性別・年齢別



性別で見ると、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」は男性の方が 7.4 ポイント高く、「見たり読んだり聞いたりした」は女性の方が 6.6 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70 歳以上を除いて、概ね「見たり読んだり聞いたりした」は、年代が高くなるほど高くなる傾向が見られる。

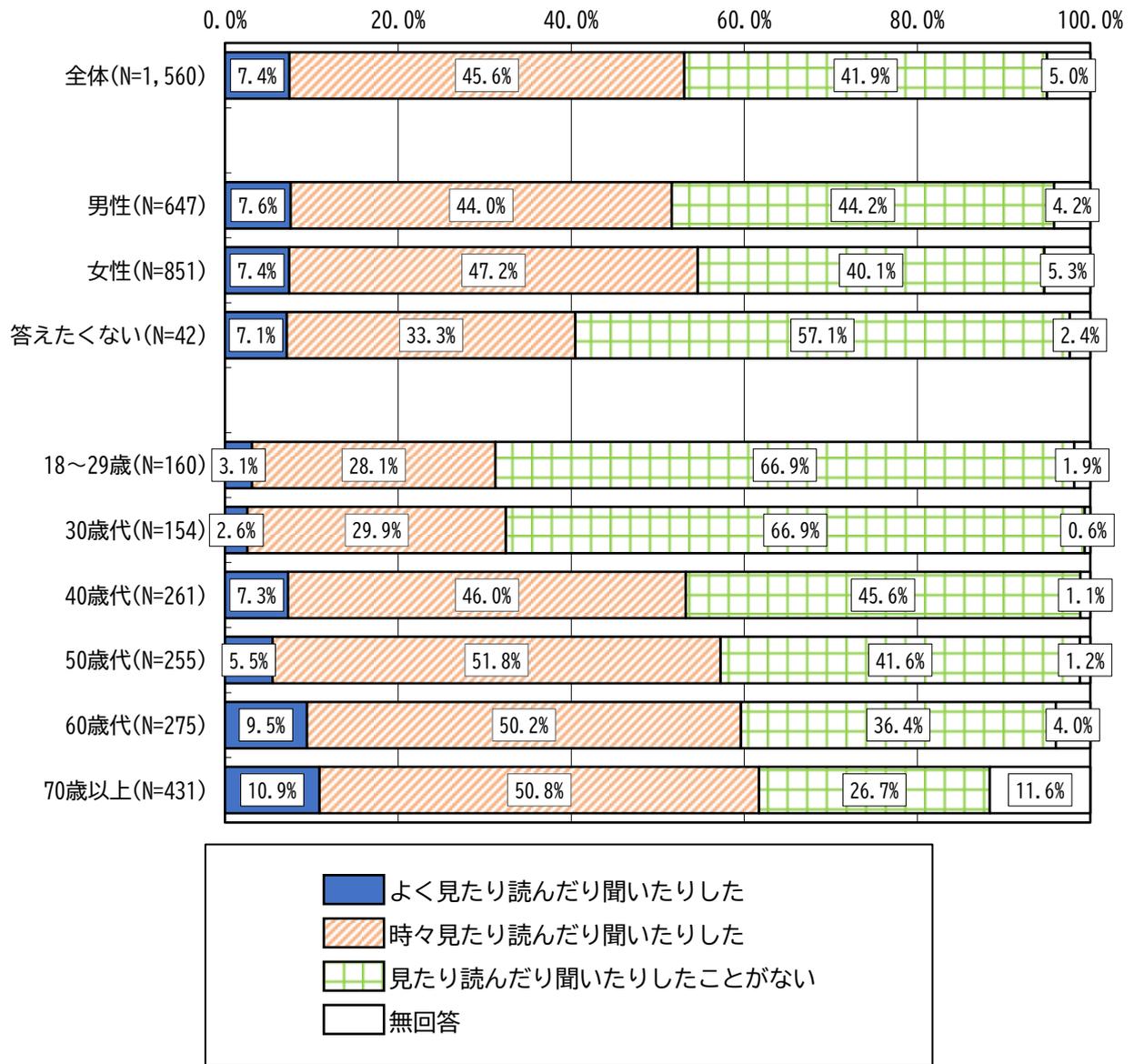
(イ) 冊子・パンフレット



「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした” (53.0%) が、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」 (41.9%) を上回っている。

前回の調査結果と比べると、“見たり読んだり聞いたりした”が 7.6 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 5.5 ポイント高くなっている。

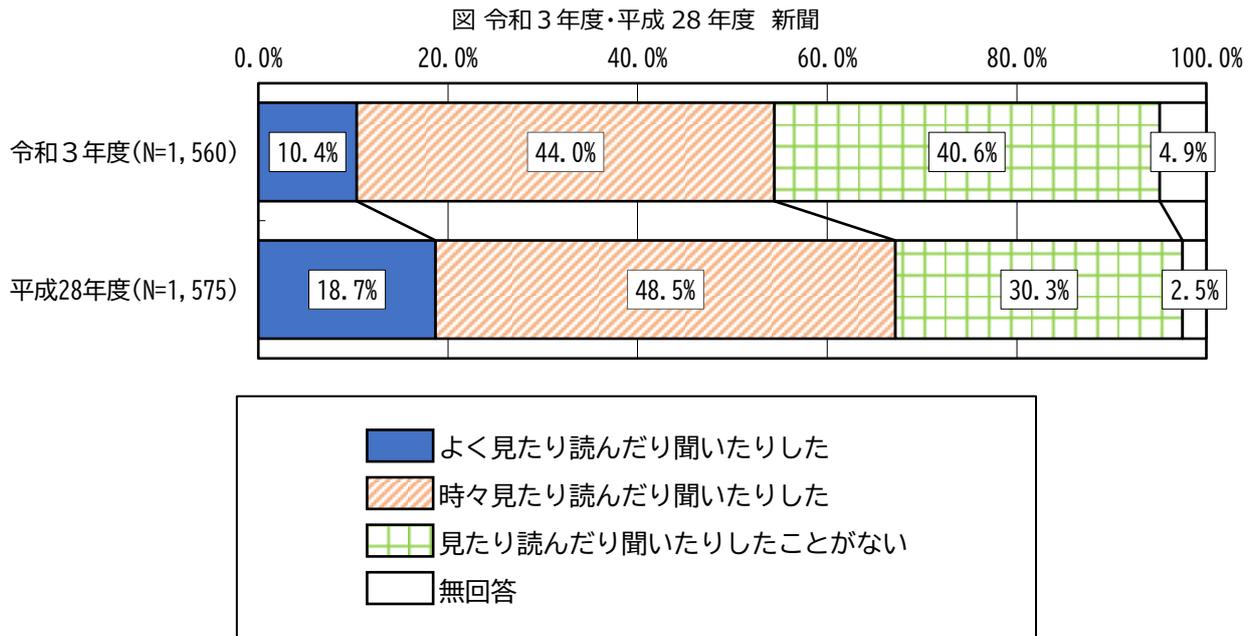
図 冊子・パンフレット—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、“見たり読んだり聞いたりした”は、年代が高くなるほど高くなる傾向が見られる。

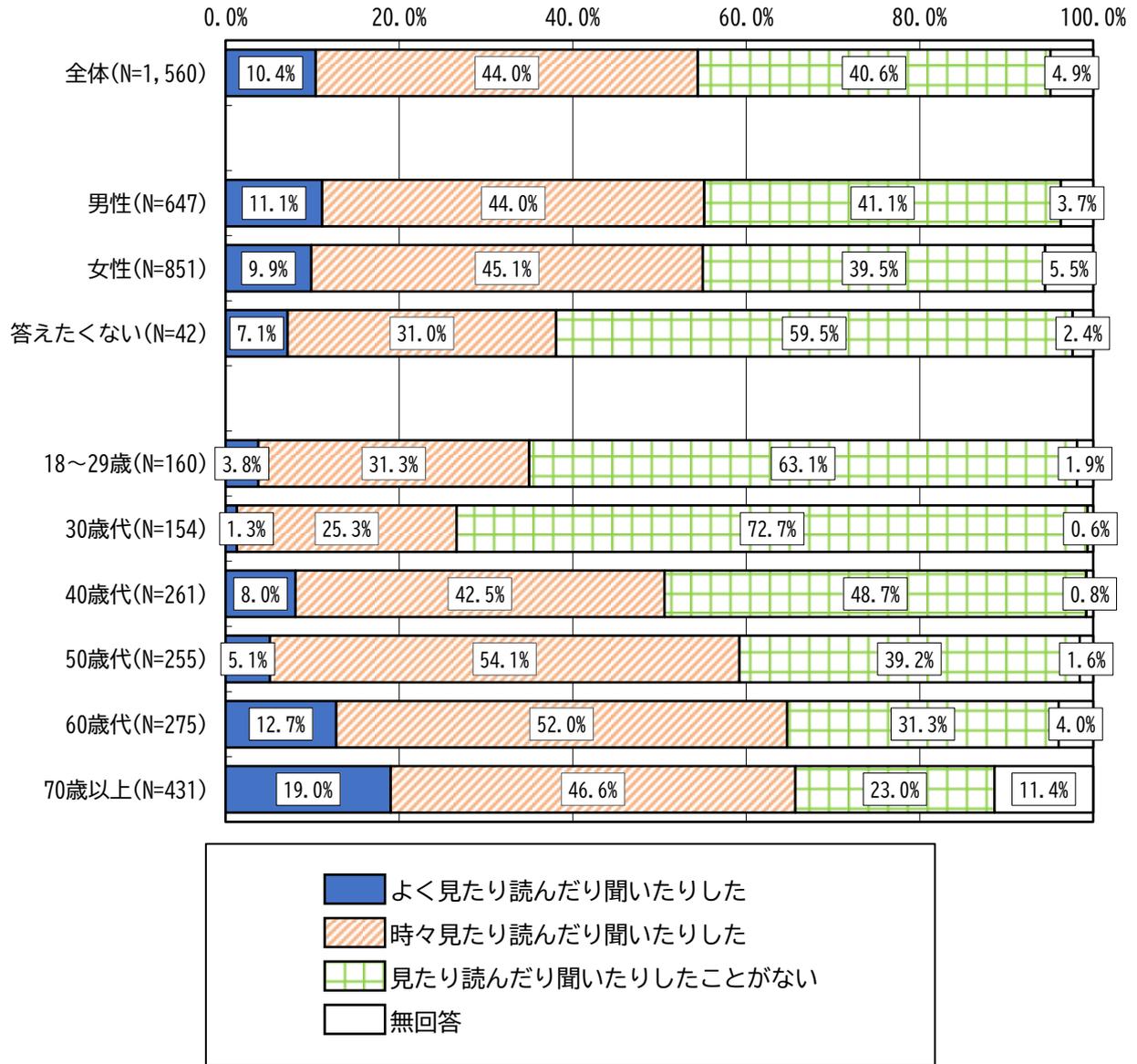
(ウ) 新聞



「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした” (54.4%) が、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」 (40.6%) を上回っている。

前回の調査結果と比べると、“見たり読んだり聞いたりした”が 12.8 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 10.3 ポイント高くなっている。

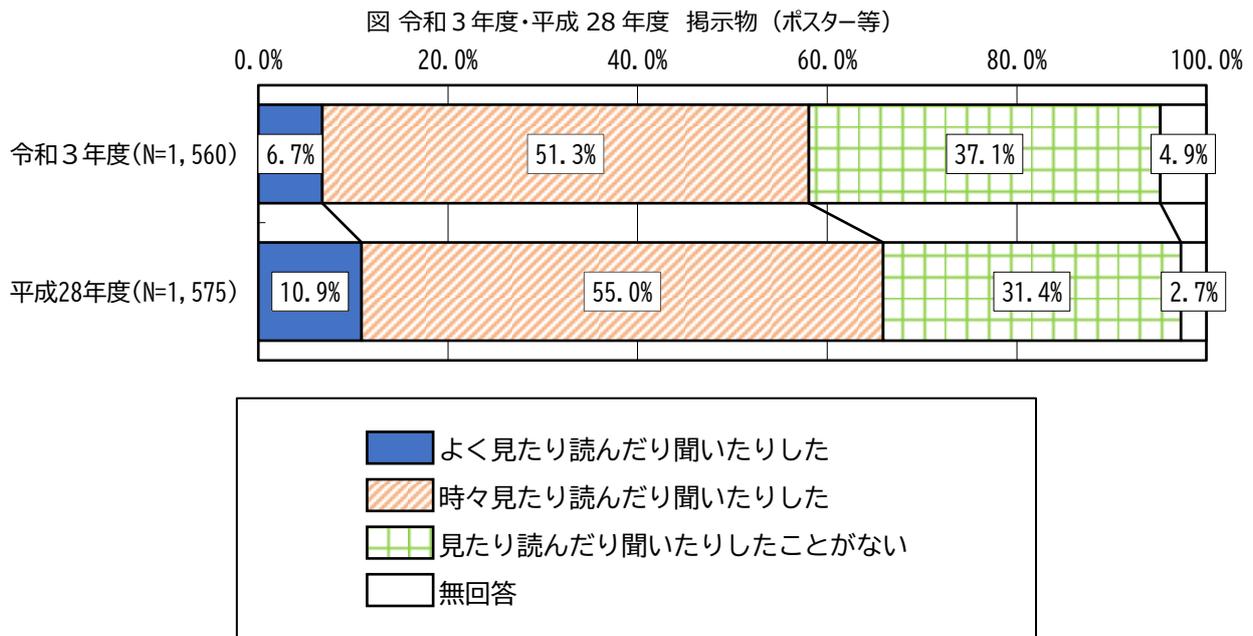
図 新聞—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」は、30歳代を除いて、年代が高くなるほど高くなる傾向が見られる。

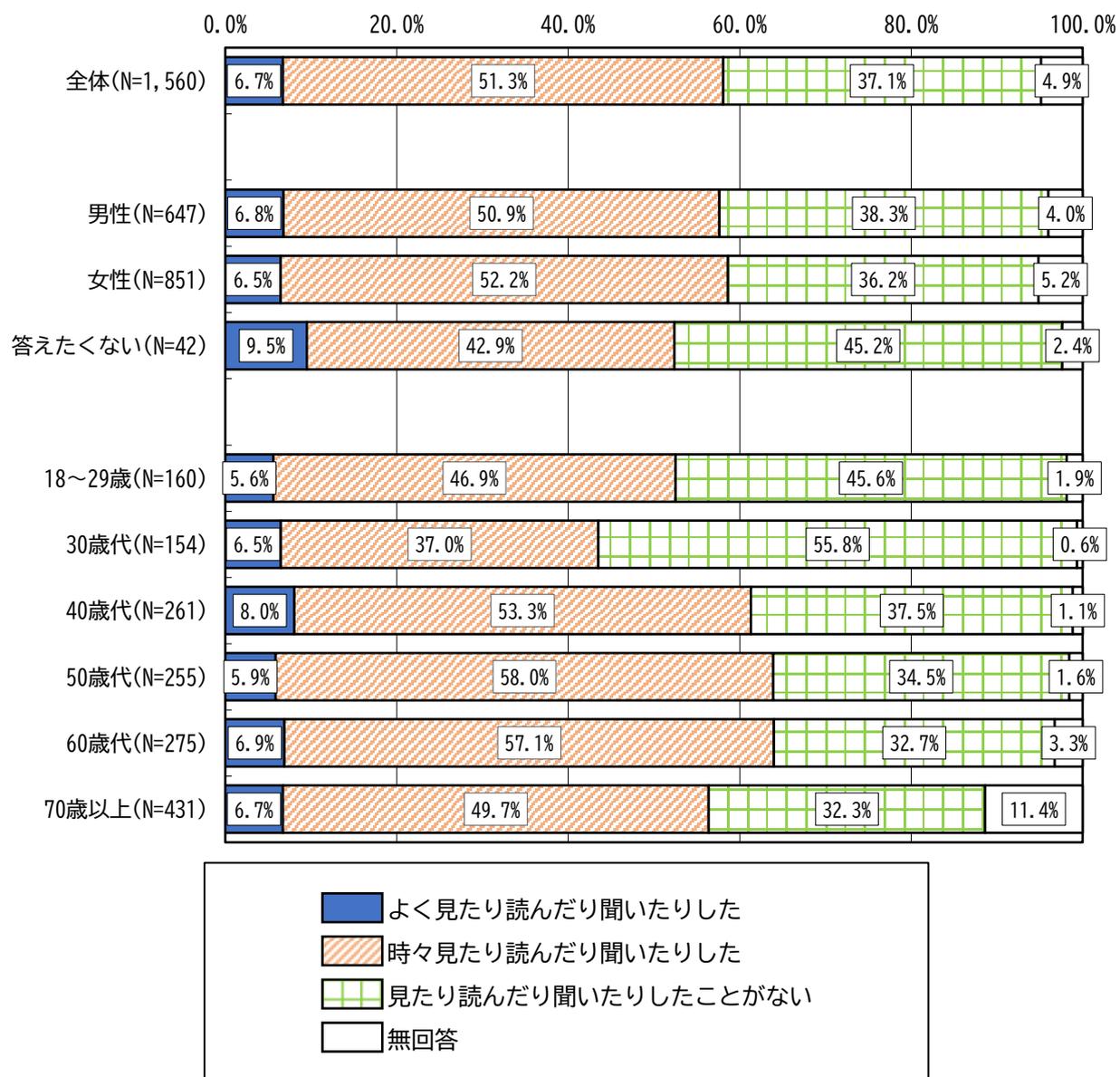
(工) 掲示物（ポスター等）



「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした”（58.0%）が、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」（37.1%）を上回っている。

前回の調査結果と比べると、“見たり読んだり聞いたりした”が 7.9 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 5.7 ポイント高くなっている。

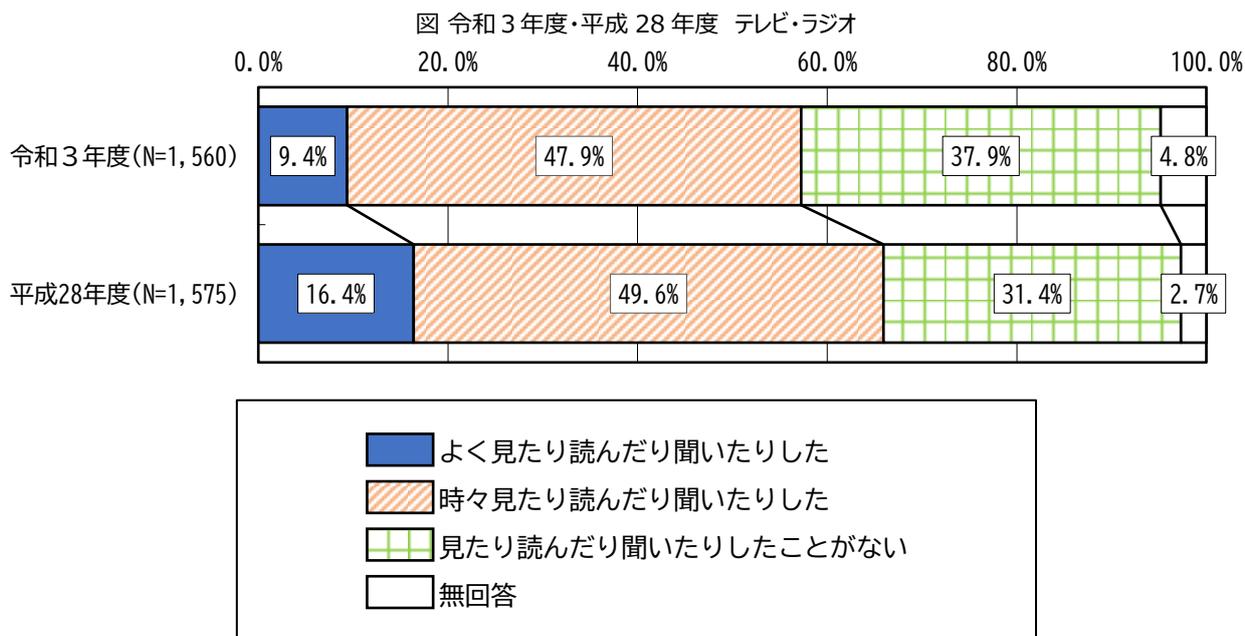
図 掲示物（ポスター等）—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした”は30歳代を除く各年代で5割を超えているが、30歳代では“見たり読んだり聞いたりしたことがない”（55.8%）が“見たり読んだり聞いたりした”（43.5%）を上回っている。

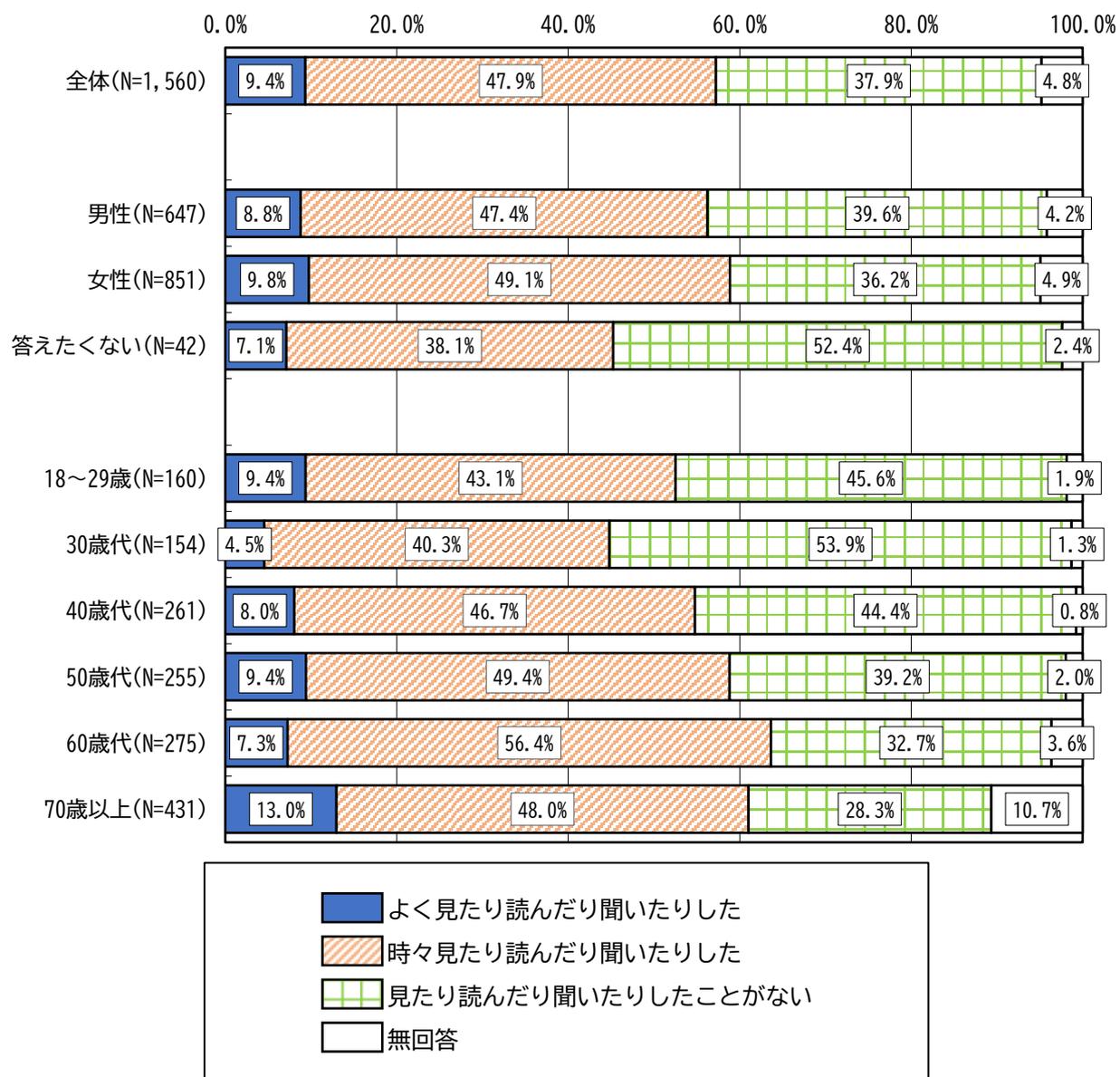
(オ) テレビ・ラジオ



「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした”（57.3%）が、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」（37.9%）を上回っている。

前回の調査結果と比べると、“見たり読んだり聞いたりした”が 8.7 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 6.5 ポイント高くなっている。

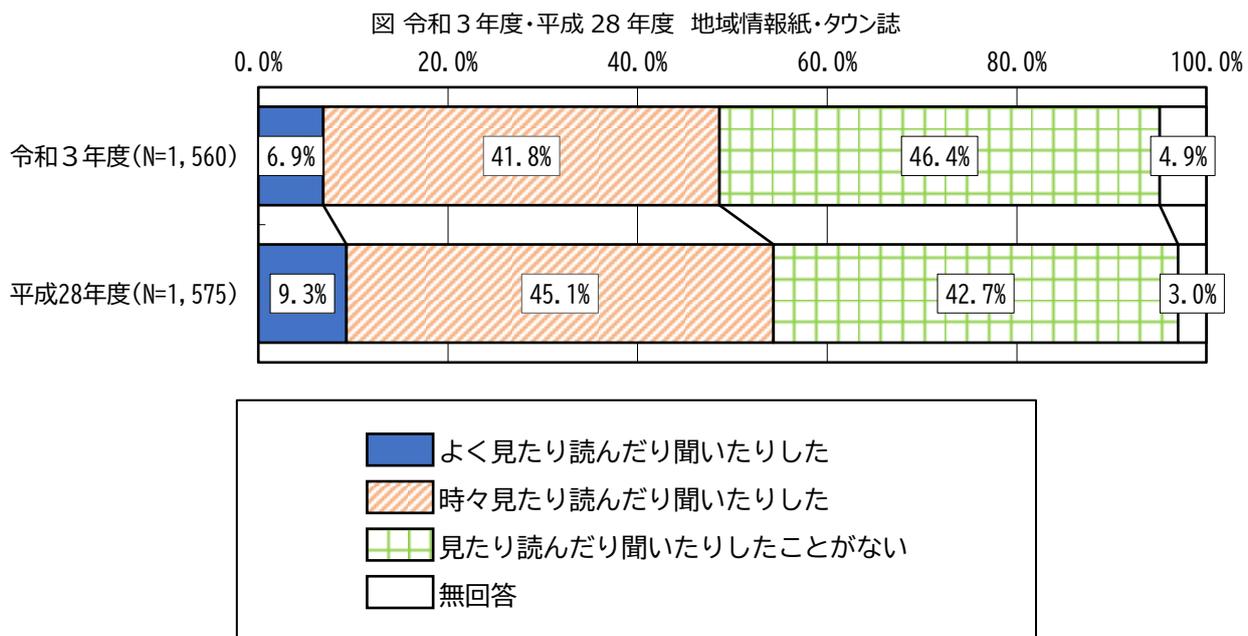
図 テレビ・ラジオ—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

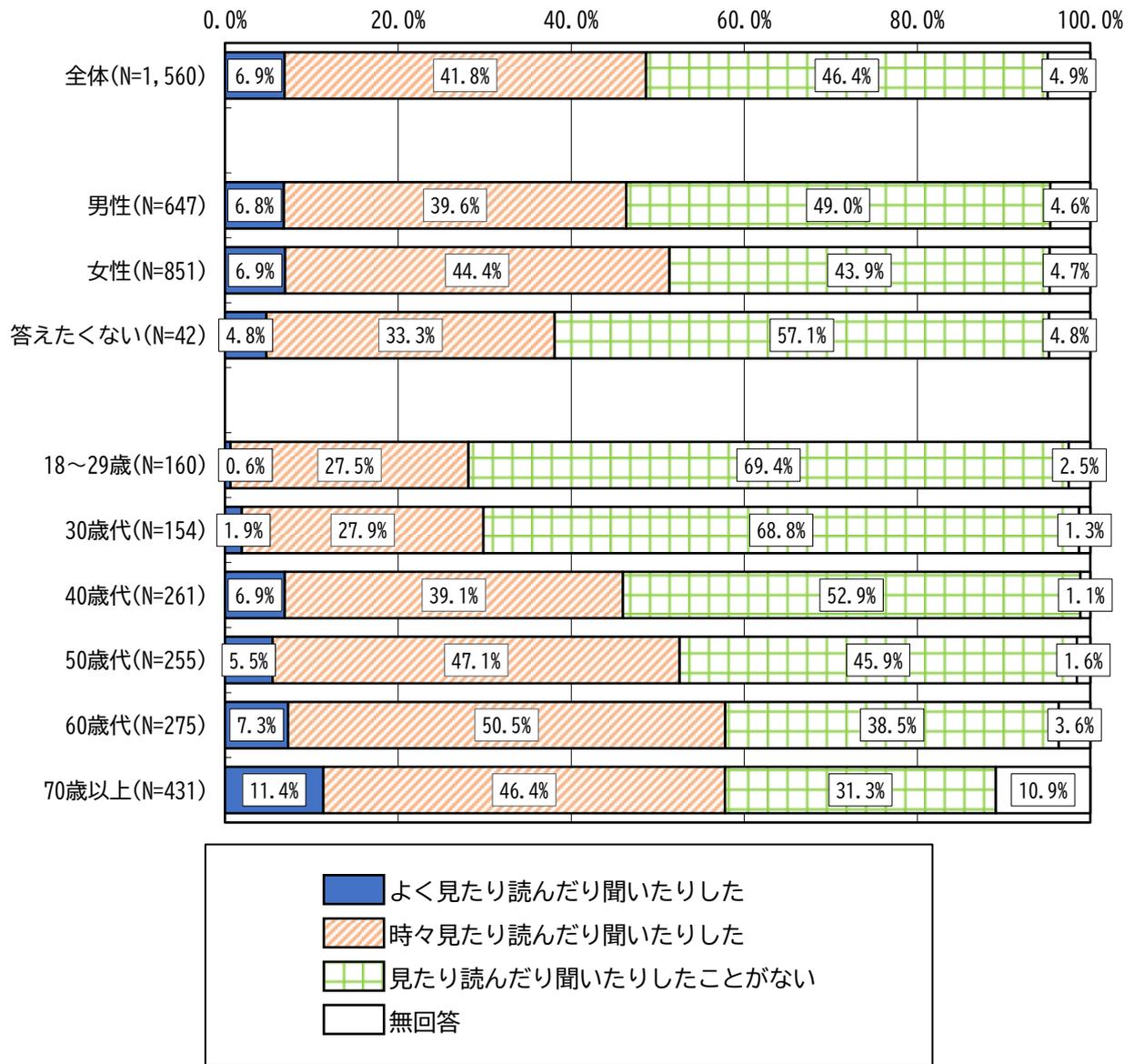
年齢別で見ると、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした”は30歳代を除く各年代で5割を超えているが、30歳代では“見たり読んだり聞いたりしたことがない”（53.9%）が“見たり読んだり聞いたりした”（44.8%）を上回っている。

(カ) 地域情報紙・タウン誌



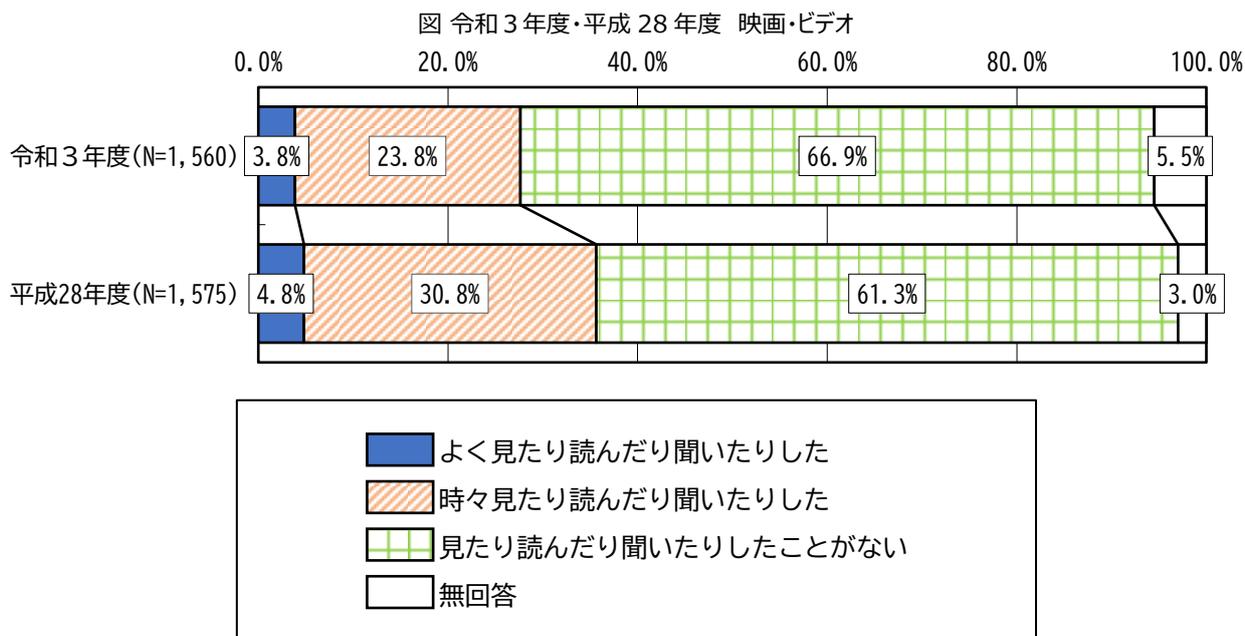
「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」(48.7%)が、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」(46.4%)を上回っている。前回の調査結果と比べると、「見たり読んだり聞いたりした」が5.7ポイント低くなっている。

図 地域情報紙・タウン誌—性別・年齢別



性別で見ると、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」は男性の方が 5.1 ポイント高くなっている。
 年齢別で見ると、“見たり読んだり聞いたりした”は、概ね年代が高くなるほど高くなる傾向が見られる。

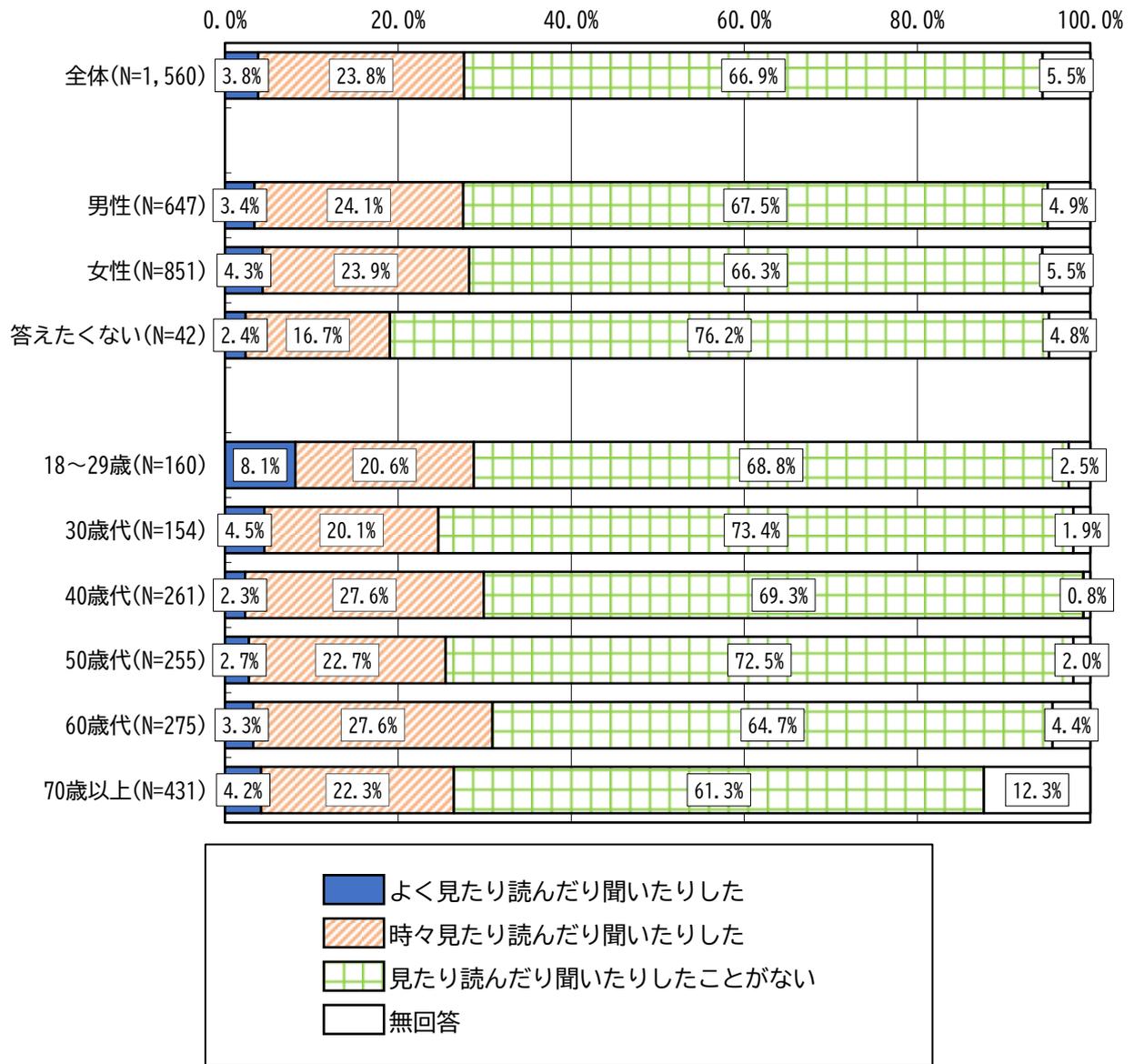
(キ) 映画・ビデオ



「見たり読んだり聞いたりしたことがない」(66.9%)が、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」(27.6%)を上回っている。

前回の調査結果と比べると、「見たり読んだり聞いたりした」が 8.0 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 5.6 ポイント高くなっている。

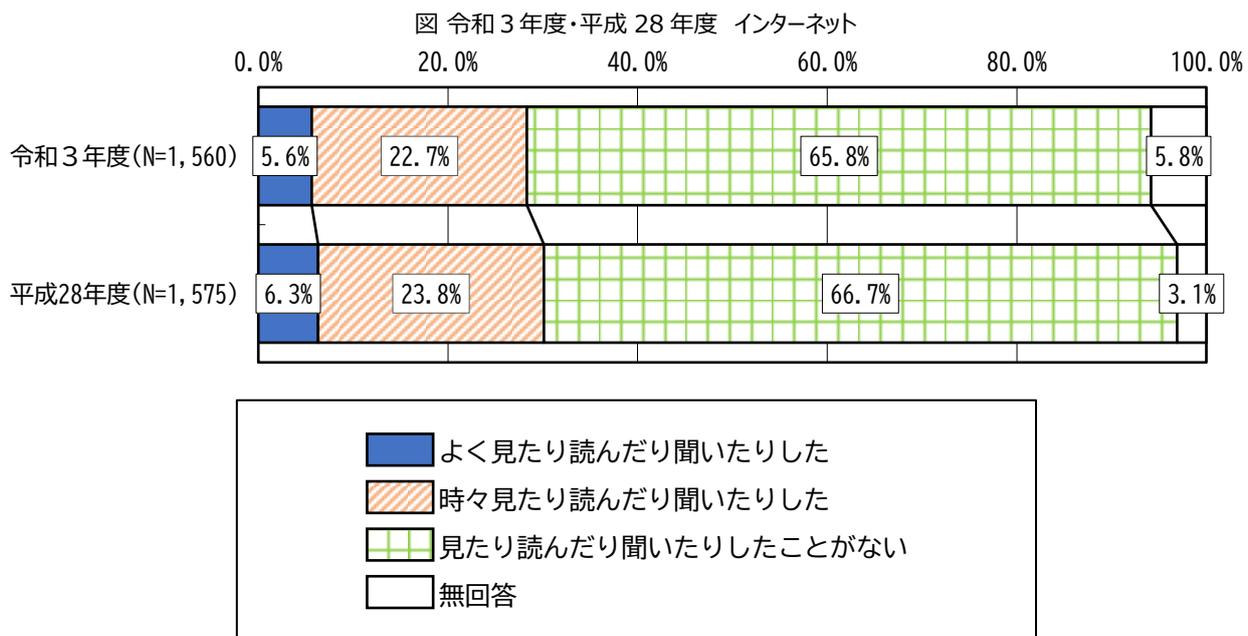
図 映画・ビデオ—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた“見たり読んだり聞いたりした”は各年代とも低く、3割程度となっている。

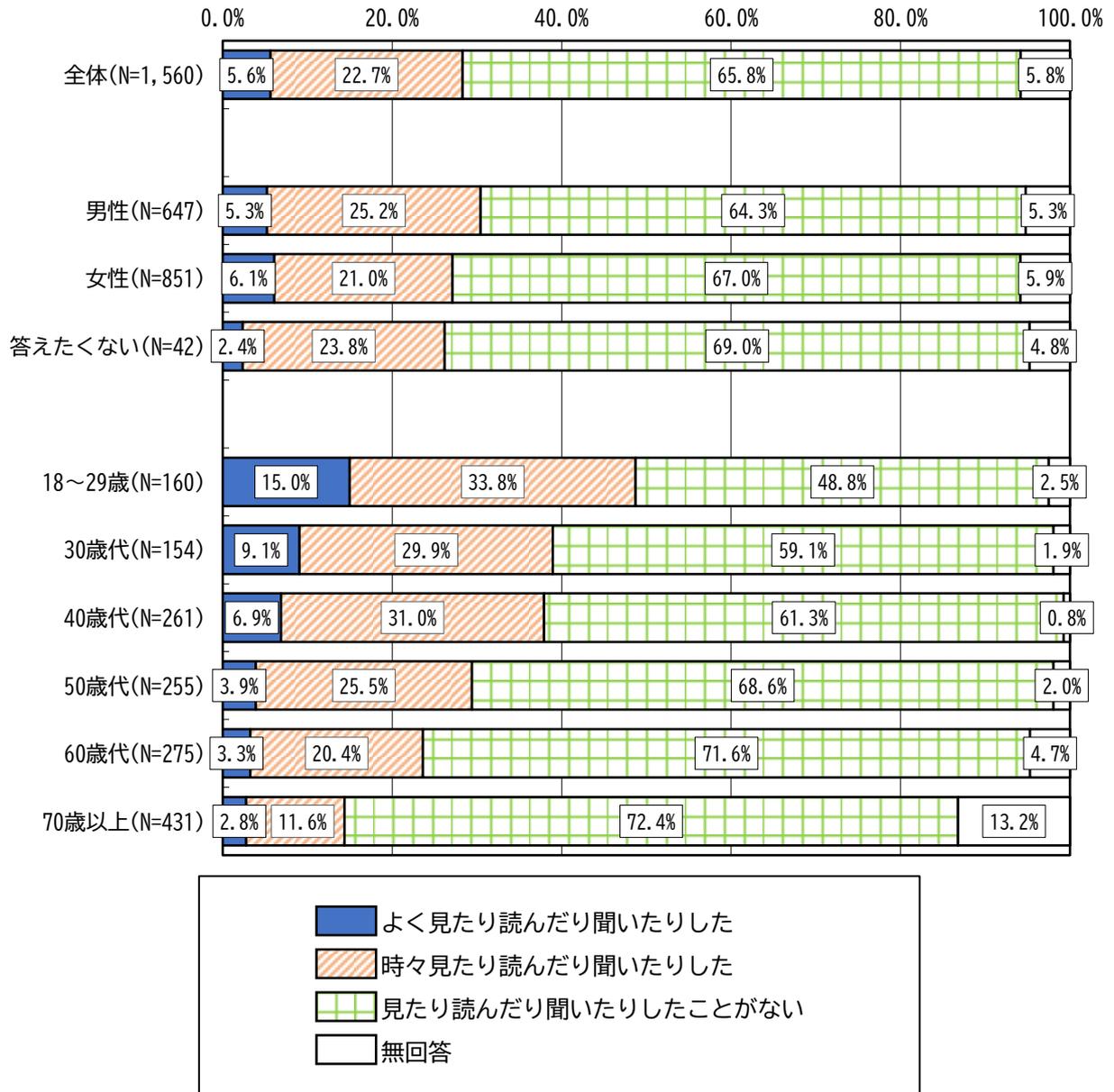
(ク) インターネット



「見たり読んだり聞いたりしたことがない」(65.8%)が、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」(28.3%)を上回っている。

前回の調査結果と比べると、大きな変化は見られない。

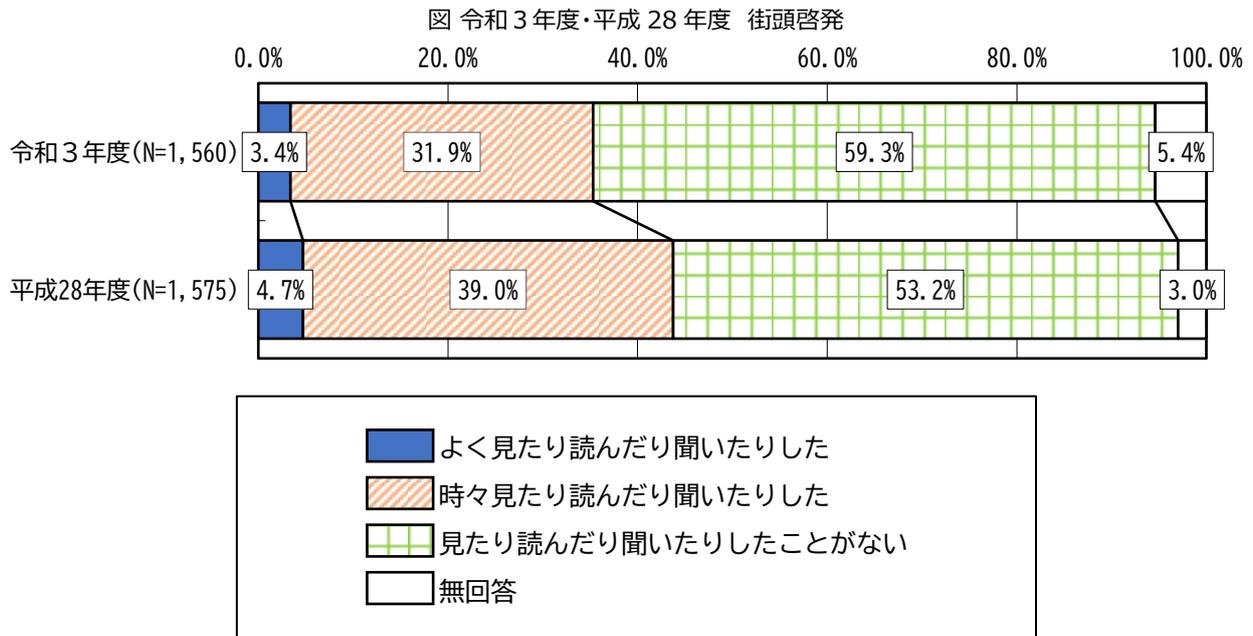
図 インターネット—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、“見たり読んだり聞いたりした”は年代が高くなるほど低くなっており、他の媒体とは接触状況の傾向が異なっている。

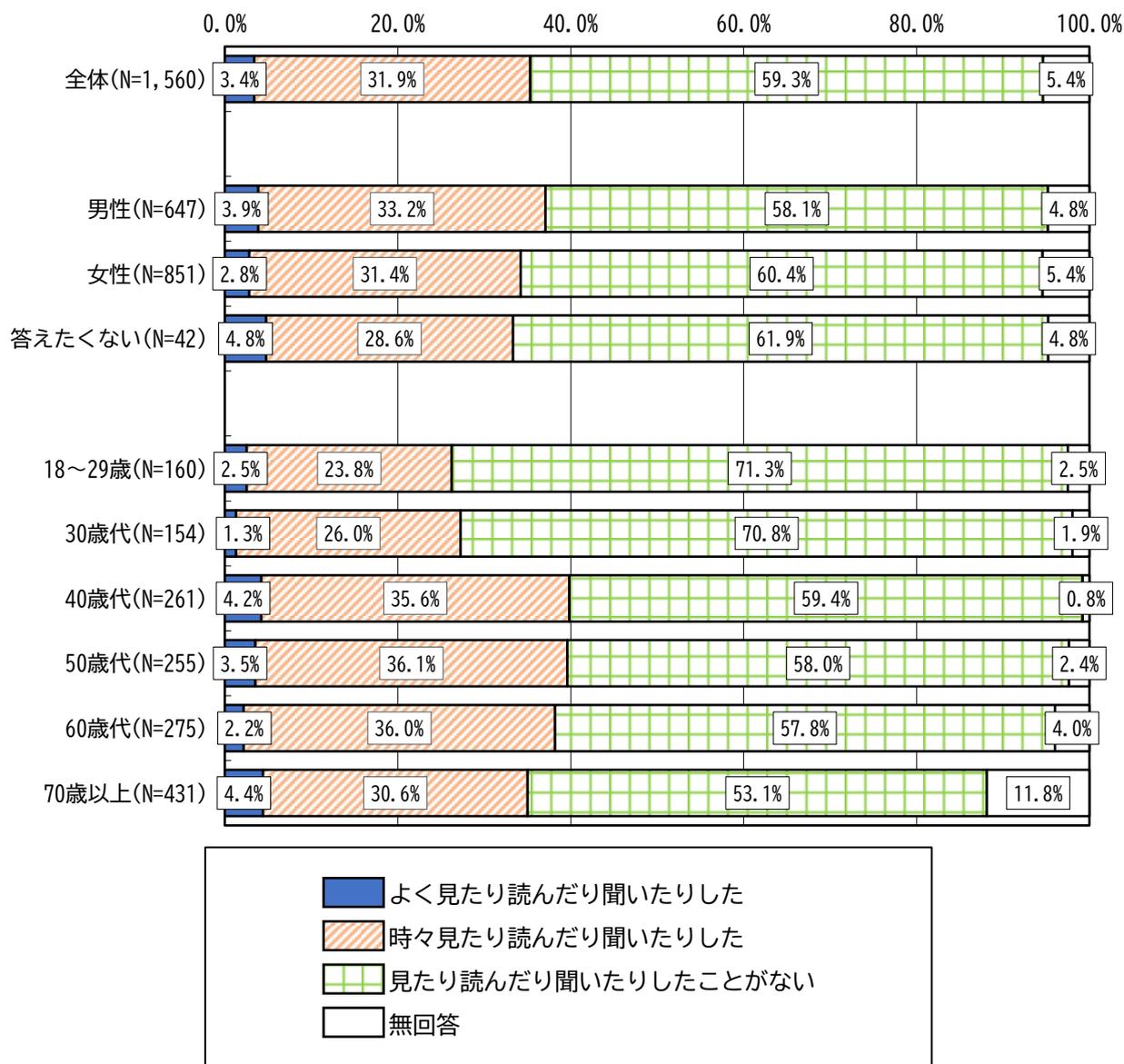
(ケ) 街頭啓発



「見たり読んだり聞いたりしたことがない」(59.3%)が、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」(35.3%)を上回っている。

前回の調査結果と比べると、「見たり読んだり聞いたりした」が 8.4 ポイント低くなり、「見たり読んだり聞いたりしたことがない」が 6.1 ポイント高くなっている。

図 街頭啓発—性別・年齢別



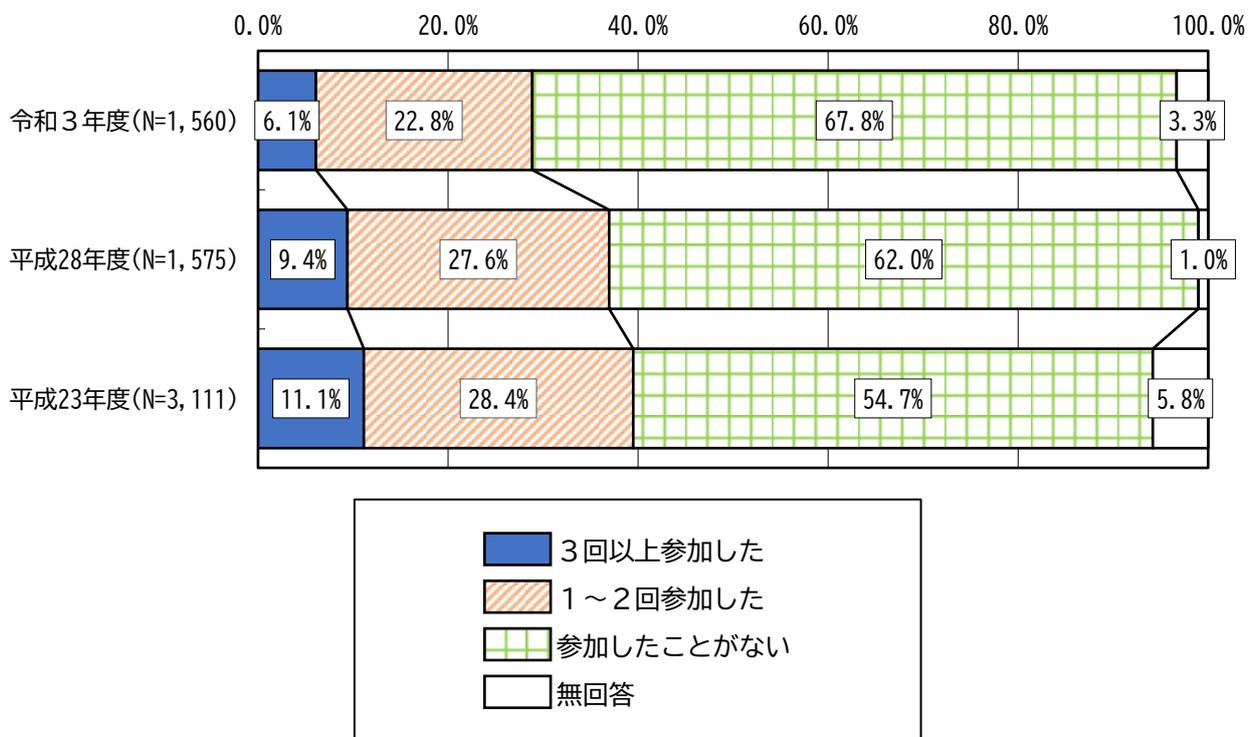
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」を合わせた「見たり読んだり聞いたりした」は2割から4割程度となっている。

(2) 講演会・研修会等への参加状況

問 26 過去3年ぐらいの間に、人権に関する講演会や研修会等へ、あなたはどの程度参加しましたか。1つだけ選んで○をつけてください。

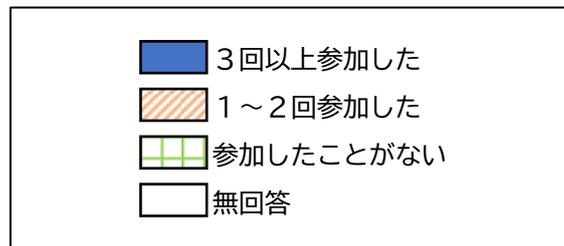
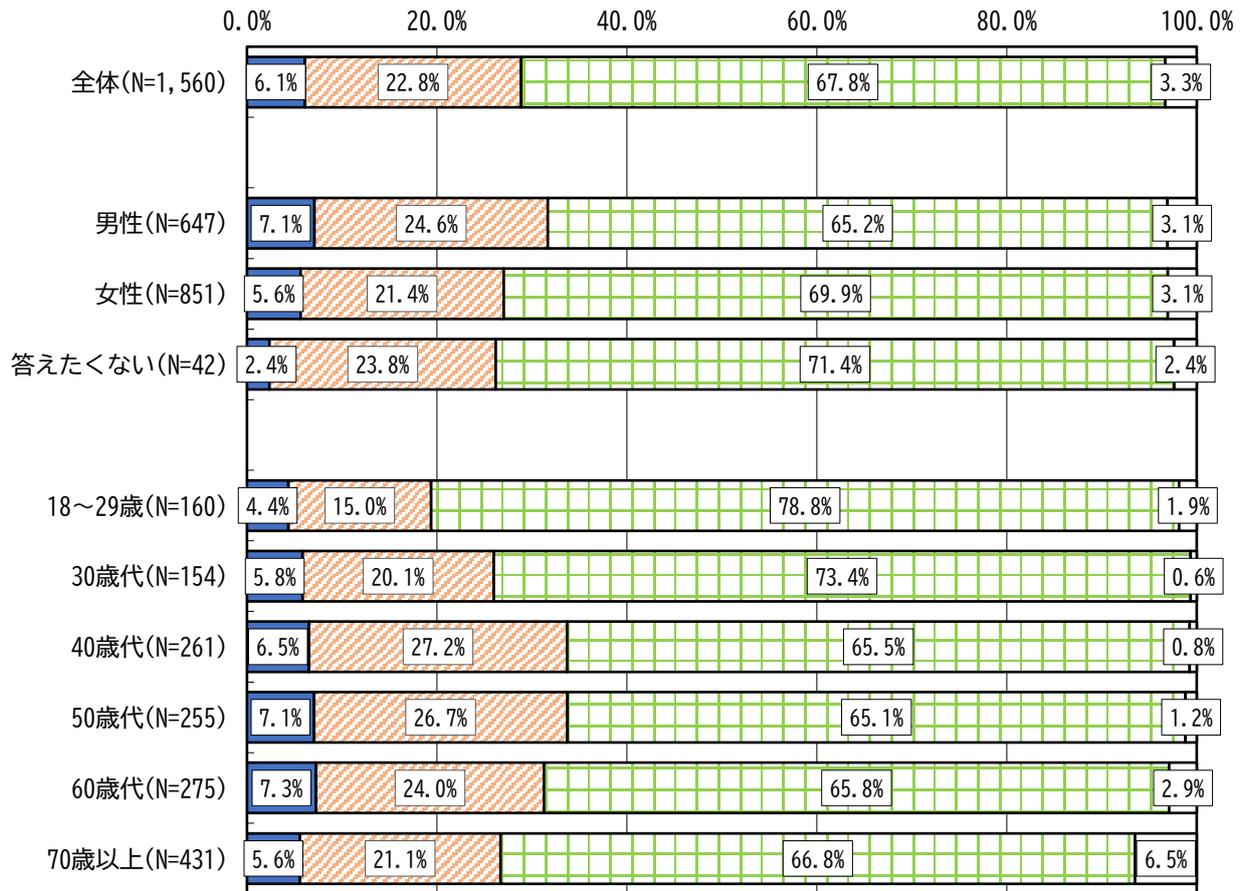
図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 講演会・研修会等への参加状況



人権に関する講演会や研修会等への参加状況についてたずねたところ、「参加したことがない」が67.8%で最も高く、次いで「1～2回参加した」(22.8%)、「3回以上参加した」(6.1%)の順となっている。

前回、前々回の調査結果と比較すると、「参加したことがない」と答えた人の割合が高くなっている。

図 講演会・研修会等への参加状況一性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

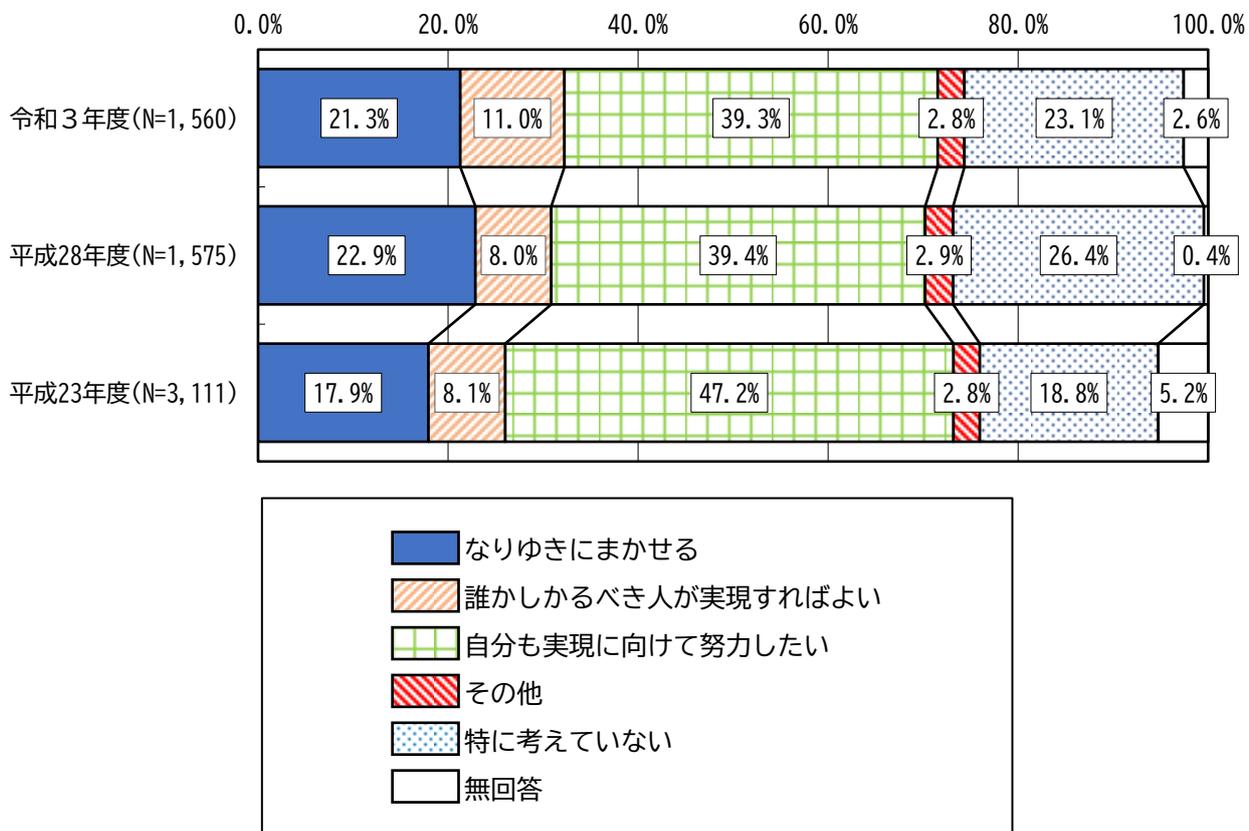
年齢別で見ると、各年代とも「参加したことがない」が65%を上回っており、特に30歳代以下は70%を上回っている。

8. 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方

(1) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方

問 27(1) 「人権が尊重される社会」の実現に向けて、あなたの思いに近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

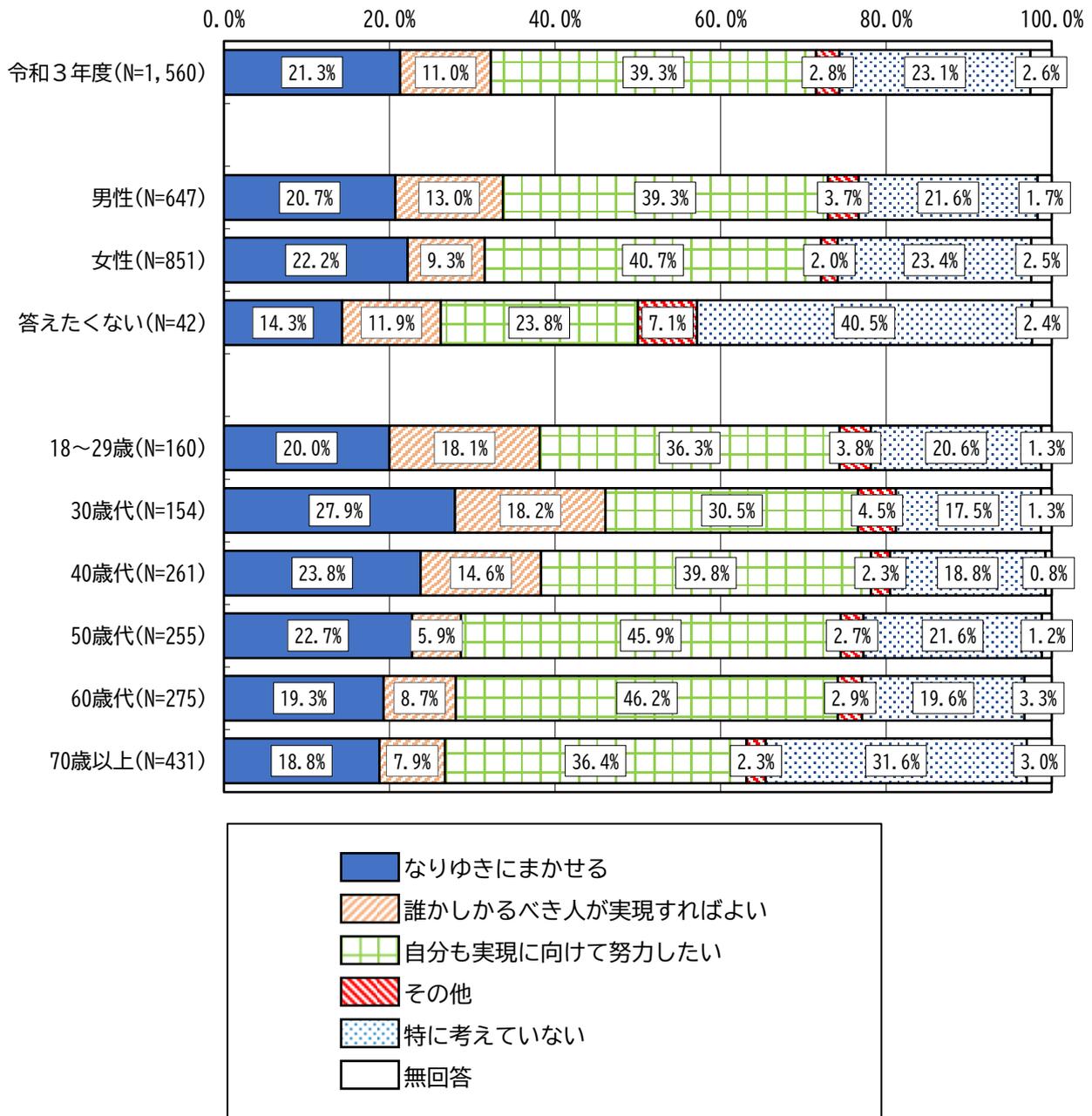
図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方



人権が尊重される社会の実現に向けての考え方についてたずねたところ、「自分も実現に向けて努力したい」と答えた人の割合が 39.3%で最も高く、次いで「特に考えていない」（23.1%）、「なりゆきにかかせる」（21.3%）の順となっている。

前回の調査結果と比較すると、どの項目も大きな変化は見られない。

図 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方—性別・年齢別



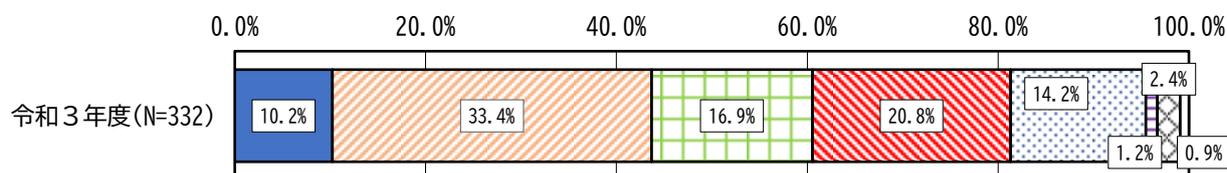
性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、各年代とも「自分も実現に向けて努力したい」と答えた人の割合が最も高く、70歳以上は「特に考えていない」が、その他の年代よりも高くなっている。

(2) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由

問 27(2) (1)で「1. なりゆきにまかせる」とお答えになった方におたずねします。なぜそのように思われますか。以下の中からあなたの思いに最も近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

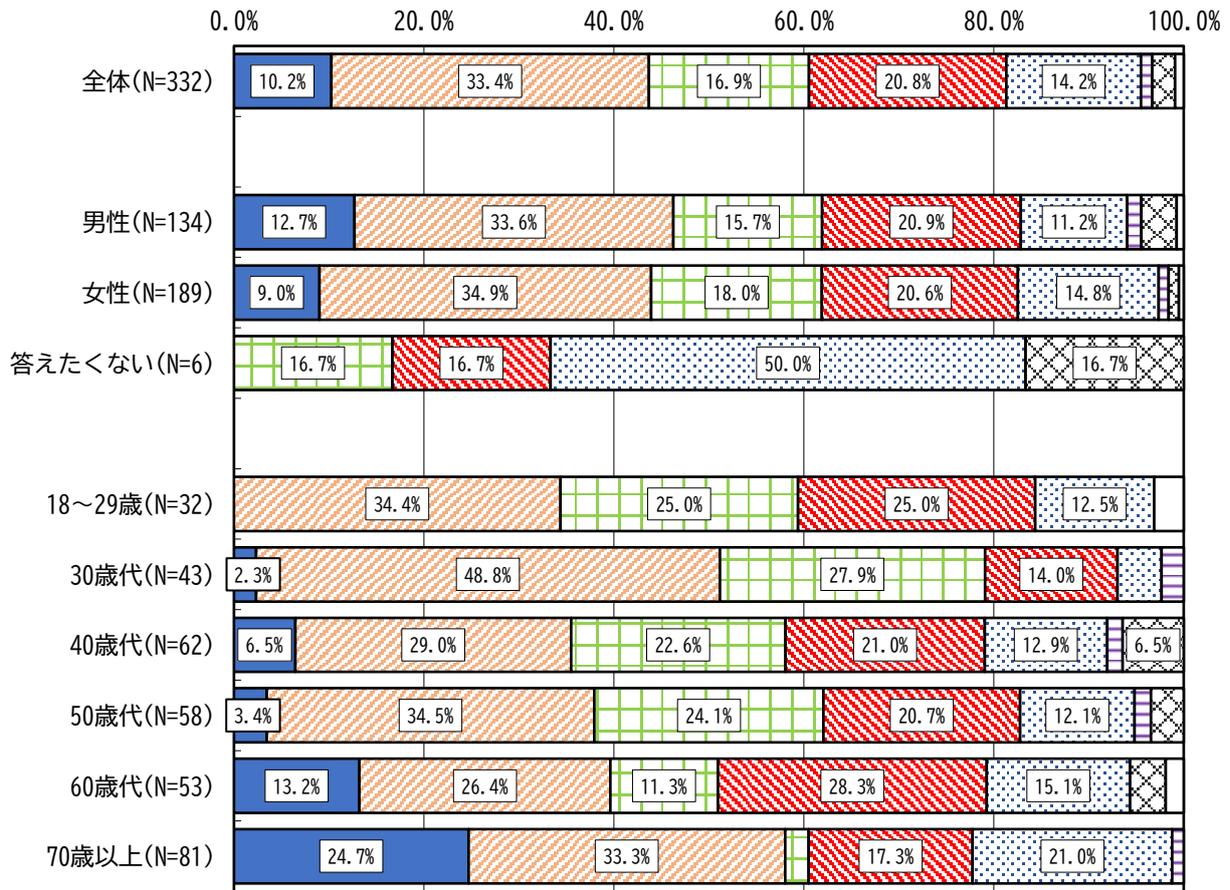
図 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由



- 既に「人権が尊重される社会」が実現しており、自分が努力する必要性を感じないため
- 「人権が尊重される社会」がどのようなものなのかが想像できず、自分が何をすればよいかかわからないため
- 仕事や学業、日常生活等で忙しく、他のことを考えている余裕がないため
- 自分一人が努力してもどうにもならないと感じるため
- 個人ではなく、行政が取り組むべき課題であると思うため
- 「人権が尊重される社会」に特に関心がないため
- その他
- 無回答

なりゆきにまかせる理由についてたずねたところ、「「人権が尊重される社会」がどのようなものなのかが想像できず、自分が何をすればよいかかわからないため」と答えた人の割合が 33.4%で最も高く、次いで「自分一人が努力してもどうにもならないと感じるため」(20.8%)、「仕事や学業、日常生活等で忙しく、他のことを考えている余裕がないため」(16.9%)の順となっている。なお、「既に「人権が尊重される社会」が実現しており、自分が努力する必要性を感じないため」と答えた人の割合は 10.2%であり、「「人権が尊重される社会」に特に関心がないため」と答えた人の割合は 1.2%となっている。

図 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由—性別・年齢別



- 既に「人権が尊重される社会」が実現しており、自分が努力する必要性を感じないため
- 「人権が尊重される社会」がどのようなものなのかが想像できず、自分が何をすればよいかかわからないため
- 仕事や学業、日常生活等で忙しく、他のことを考えている余裕がないため
- 自分一人が努力してもどうにもならないと感じるため
- 個人ではなく、行政が取り組むべき課題であると思うため
- 「人権が尊重される社会」に特に関心がないため
- その他
- 無回答

性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、60歳代を除いて、各年代とも「人権が尊重される社会」がどのようなものなのかが想像できず、自分が何をすればよいかかわからないため」と答えた人の割合が最も高く、特に30歳代は約半数がそう答えている。また、70歳以上は「既に「人権が尊重される社会」が実現しており、自分が努力する必要性を感じないため」や「個人ではなく、行政が取り組むべき課題であると思うため」が、その他の年代に比べて高くなっている。

9. 自由記述

人権に関する意見や要望について、自由記述として寄せられた意見や要望等は全体で368件となっており、その内容を、人権全般、人権教育、女性、子ども、障害者、同和問題、外国人、性的指向・性自認、インターネット・メディア、就労問題、新型コロナウイルス感染症、行政への意見・要望等、調査について分類した結果は以下のとおりとなっている。

分類	記述概要	件数
1 人権全般	1-1 望む社会像	
	人権問題は簡単には解決しないと思う	8
	全ての人々が平等な社会を望む	8
	差別・偏見のない社会を望む	6
	自分がされて嫌なことはしないようにしている、そのような社会を望む	3
	性別による区別・差別のない社会を望む	2
	一人ひとりが自分らしく暮らせる社会を望む	1
	小計	28
	1-2 人権問題の解決に向けて必要なこと	
	個々人の行動・意識が大事	6
	個人を尊重することが大事	6
	人権は尊重されるべきものである	6
	お互いの思いやりや優しさが大事	6
	「人権」という大きなくくりではなく、もっと細分化して問題提起すべき	6
	人権問題や支援制度を悪用して利益を得ようとするのが許せない	5
	話し合いが重要	4
	人権問題に敏感になりすぎても逆効果になるのではないか	3
	貧困・格差をなくすことに力を入れてほしい	3
	お互いの理解が大切	2
	人権問題に触れることが差別の助長に繋がっているのではないか	2
	「人権」は常に自戒を要する概念だと思う	1
	バランスの取れた人権活動が必要	1
	もっと人権問題について情報発信してほしい	1
	押し付けはよくない	1
	差別されない努力も必要	1
	人権問題の解決のためには相手の立場になって考えることが大事	1
	人権問題は日々過ごす中で対処することも必要	1
	偏見はあっても差別がなければ良いと思う	1
	小計	57
	1-3 人権問題に対する自身の姿勢・思い	
	もっと人権問題に関心を持ちたい	2
	自分ができていることをしていきたい	2
	自分は普通の暮らしができればよい	2

分類	記述概要	件数
1 人権全般	自分も人権啓発を行っていきたい	2
	面倒くさい、よくわからない	2
	自分が差別を受けたらどう思うか考えるようにしている	1
	協力したいが難しい	1
	小計	12
	1-4 人権問題への所感・実感	
	年代が高いほど差別意識があるように感じる	7
	人権問題は非常に難しい問題である	3
	人権意識が高まっているのを感じる	3
	人権意識が低くなっているのを感じる	2
	人権侵害が少なくなっているように感じる	2
	人権侵害が多くなっているように感じる	1
	「人権」について騒ぎすぎであると感じる	1
	差別される側に問題がある	1
	人権に過剰に配慮しなければならないのが息苦しい	1
	地方ほど差別意識があるように感じる	1
	年代が下がるほど人権問題が忘れられているように感じる	1
	小計	23
	1-5 人権に関係する概念・用語について	
	都合のいい「平等」に違和感を覚える	2
	「人権」が何を指しているのかわからない	1
	差別と区別の違いがわからない	1
	平等と公平、差別と区別は違うものである	1
人権とは人生である	1	
小計	6	
1-6 人権侵害を受けた・見た経験		
かつて人権侵害を受けていた	1	
人権侵害があった現場にいたことがある	1	
人権侵害を受けた経験を聞いたことがある	1	
小計	3	
1-7 昔からある伝統・習慣について		
伝統は重んじるべき	1	
伝統を重んじるかどうかは人による	1	
六曜の入ったカレンダーはなくてよい	1	
小計	3	
合計	132	
2 人権教育	差別解消には子どものころからの教育が必要不可欠である	17
	教育をきっかけに差別が生まれるのではないか	4
	現在の人権教育の方法に疑問がある・改善を望む	4

分類	記述概要	件数
2 人権教育	子どもだけでなく、大人も人権教育を受けるべき	4
	正しい情報・知識の発信を行うことが大切	4
	人権教育を行う教職員の質の向上を望む	3
	人権啓発の機会を充実させてほしい	3
	人権問題について学ぶ機会がない・研修会に行かなくなった	3
	研修会に参加しやすくなるような工夫をしてほしい	2
	所得格差による教育の不平等をなくしてほしい	2
	人権教育を続けていくべき	2
	人権教育は行われているが実績をつくっているだけのように感じる	1
	人権教育は日常的に行われるべきである	1
	人権問題に関して学ぶ機会を作ってほしい・参加したい	1
	差別に関して学ぶ機会を作ってほしい・参加したい	1
合計	52	
3 女性	職場内での男女差別がある	3
	男女差別は減ってきているように感じる	2
	女性の社会進出を活発に進めるべき	2
	女性の社会復帰がしやすい社会・制度をつくってほしい	2
	夫婦別姓を認めてほしい	2
	家庭内での男女差別が残っていると感じる	1
	宗教で女性差別が残っている	1
	男性も育休を取りやすい環境をつくってほしい	1
合計	14	
4 子ども	子どもの人権侵害（貧困、虐待、いじめ、ヤングケアラー等）にもっと真剣に取り組んでほしい	14
	近くで虐待・いじめが起きている	2
	子どもの人権侵害に関わる情報の発信をしてほしい	1
合計	17	
5 障害者	障害者への理解を深められるような社会を望む	4
	障害者が住みやすい環境・制度づくりをしてほしい	3
	障害のある人とない人の間の人に対する支援が何もない	1
	作業所の存在自体が差別ではないか	1
	障害者が住みやすい環境・支援づくりをしてほしい	1
	障害のある人もない人もお互いに謙虚さを持つべき	1
合計	11	
6 同和問題	同和問題の話をすることが逆効果になっていると感じる・触れないでほしい	12
	同和地区の人が優遇されており、平等でないと感じる	8
	同和地区出身の人が周りにいる（いた）が気にしていない	7
	未だに同和問題があることが残念	4
	高齢者に差別意識が残っていると感じる	3

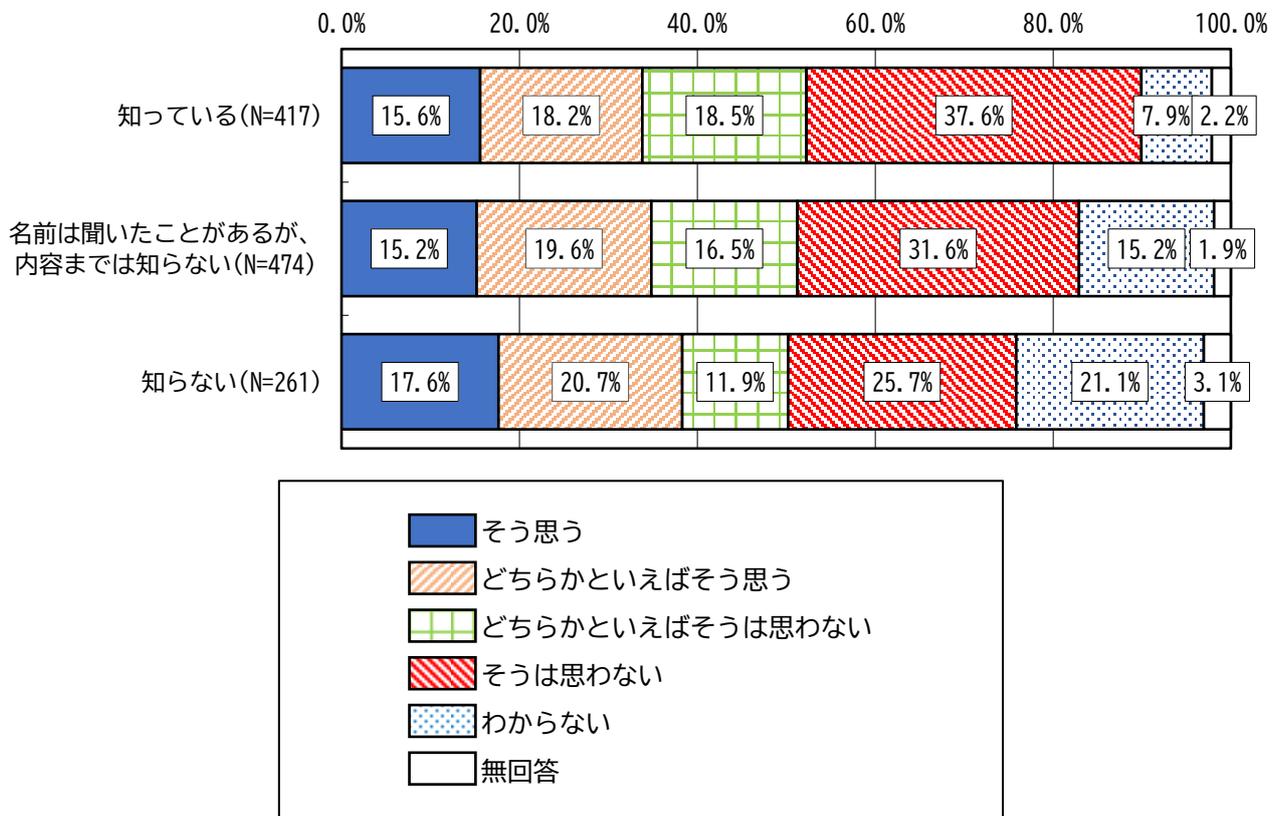
分類	記述概要	件数
6 同和問題	どこが同和地区なのか知らない	3
	同和地区に対して悪い印象がある	3
	インターネットで同和地区に関する差別的な情報を見た	2
	えせ同和行為を取り締まってほしい	2
	引越しや結婚の際は同和地区を避けると思う	2
	最近の滋賀県では部落差別が解消しているように思う	2
	同和地区の人から嫌がらせを受けたことがある	2
	同和地区の人が差別を受けた話を聞いたことがある	2
	同和問題はなくなった・聞いたことがない	2
	教育を積み重ねて時間が経てば解決すると思う	1
	同和地区が一括りにされてしまっていることに問題を感じる	1
	同和地区出身の人でも外に出れば分からないと思う	1
	部落差別の経験聞いたことがある	1
	合計	58
7 外国人	外国人への差別に対応してほしい	2
	外国人にも日本のルールに従ってほしい	1
	外国人に対するサポートがしっかりしている	1
	外国人の受け入れをもっと行うべき	1
	合計	5
8 性的指向・性自認	同性婚や同性のパートナーシップ制度を導入してほしい	2
	LGBT との付き合い方が分からない	1
	LGBT については若い人の方が理解がある	1
	LGBT のことを含めた性教育を充実させてほしい	1
	LGBT への偏見をなくす取組をしてほしい	1
	LGBTQ に関する施策がない	1
	子どもが性自認に関して相談できる窓口をつくってほしい	1
	合計	8
9 インターネット・メディア	インターネットでの誹謗中傷や差別的な書き込みに対する規制・罰則が必要	4
	メディアの報道に不信感がある	4
	インターネットの普及で情報が氾濫してしまっている	1
	合計	9
10 就労問題	パワーハラスメントが横行している	2
	合計	2
11 新型コロナウイルス感染症	ワクチンパスポートは導入しないでほしい	3
	ワクチン未接種者への差別を解消してほしい	3
	コロナ禍での自粛のせいで人が健康に暮らす権利が侵害されている	1
	医療従事者への差別を解消してほしい	1
	合計	8

分類	記述概要	件数
12 行政への 意見・要望等	行政側に人権意識がないと感じる	7
	人権問題以外のことにも力を入れてほしい	5
	悩んでいる人のために相談窓口を作ってほしい	3
	行政の人権推進のやり方に疑問がある	2
	社会的な整備（ユニバーサルデザイン等）を推進してほしい	2
	県民の申し出にしっかり対応してほしい	1
	行政のリーダーシップを期待する	1
	市が主体となって推進してほしい	1
	若者への支援に力を入れてほしい	1
	人権問題への早期の対応を望む	1
	合計	24
13 調査につ いて	人権問題に関心を持つきっかけになった	8
	アンケートの意図が不明瞭である・アンケートがどう活かされているのか知りたい	4
	このアンケートが差別につながっているのではないか・設問が差別的である	4
	アンケートの内容・実施方法に疑問がある	3
	回答しにくい設問があった	3
	アンケートが長い・質問数が多い	2
	同和問題に関する質問はなくした方がいい	2
	「障がい」ではなく「障害」と表記されていることが気になった	1
	友引について初めて知った	1
	合計	28
総計	368	

10. 質問間クロス分析

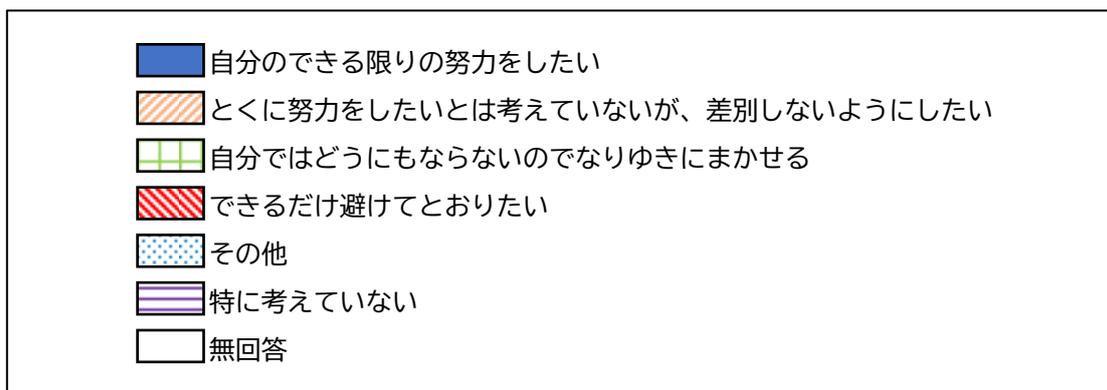
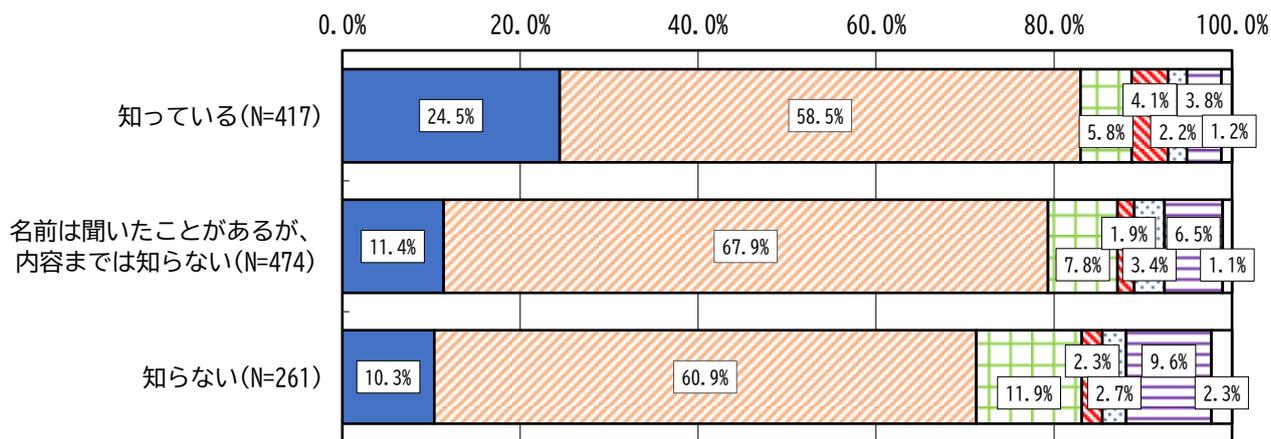
関係法令等の認知度との関連性を見るため、「知っている」と答えた人の割合が最も高い「部落差別解消推進法」と、以下の設問とのクロス分析を行った。

図 問3 関係法令等の認知度 × 問21 同和問題の解決方法についての考え方
 (イ 部落差別解消推進法) (ケ 同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる)



部落差別解消推進法をよく知っている人ほど、「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」という考え方について「そうは思わない」と答えた割合が高くなっている。

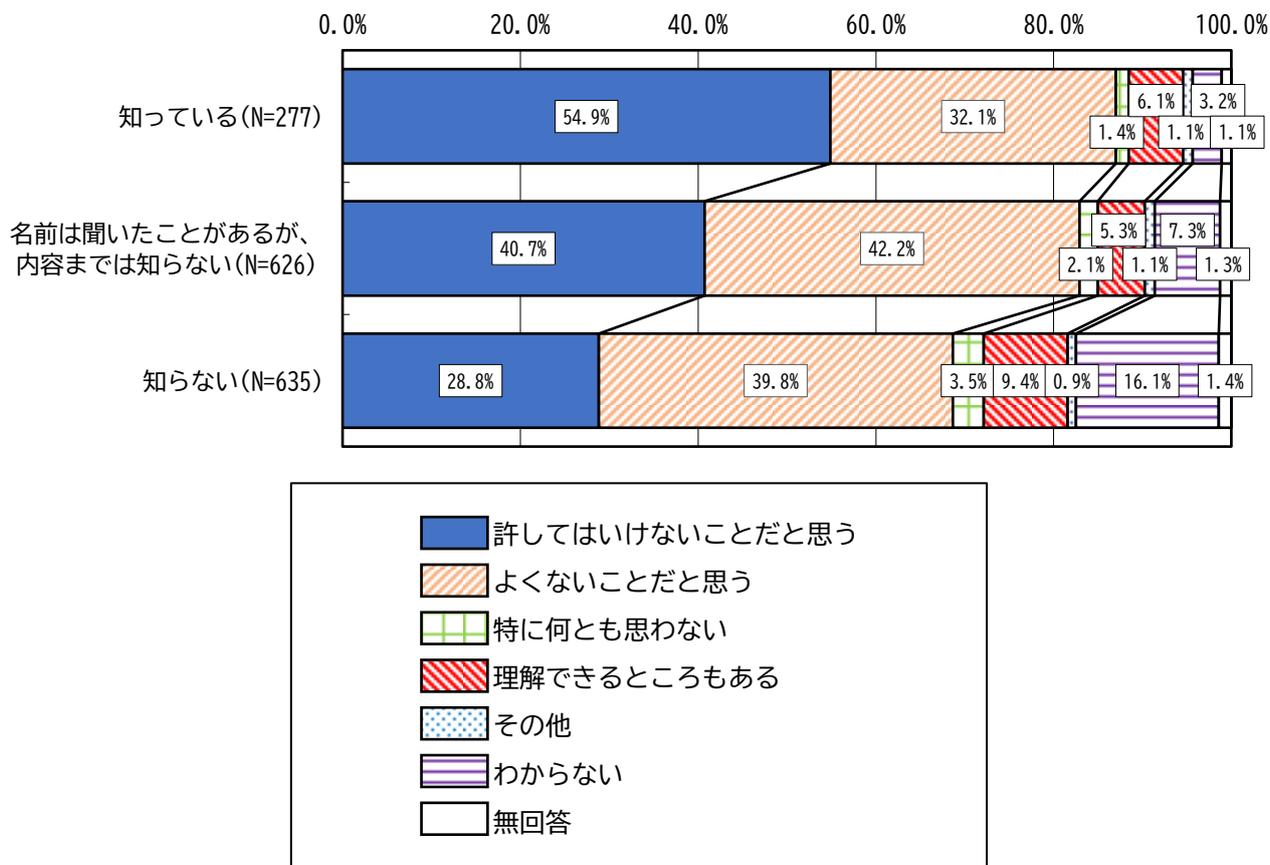
図 問3 関係法令等の認知度 × 問22 同和問題解決に向けての思い
 (イ 部落差別解消推進法)



部落差別解消推進法をよく知っている人ほど、同和問題の解決に向けて「自分のできる限りの努力をしたい」と答えた割合が高くなっている。

関係法令等の認知度との関連性を見るため、「ヘイトスピーチ解消法」と、以下の設問とのクロス分析を行った。

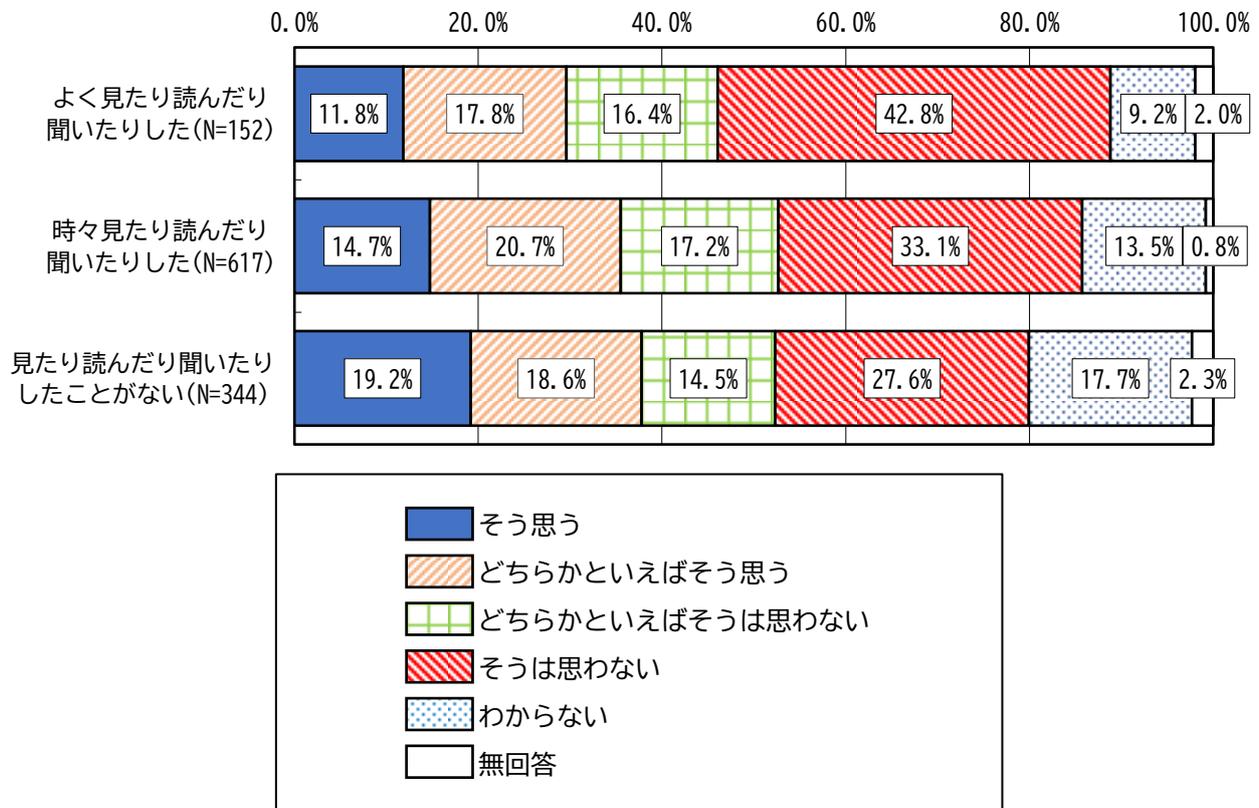
図 問3 関係法令等の認知度 × 問10(2) ヘイトスピーチについてどう思うか
(ウ ヘイトスピーチ解消法)



ヘイトスピーチ解消法をよく知っている人ほど、ヘイトスピーチについて「許してはいけないことだと思う」と答えた割合が高くなっている。

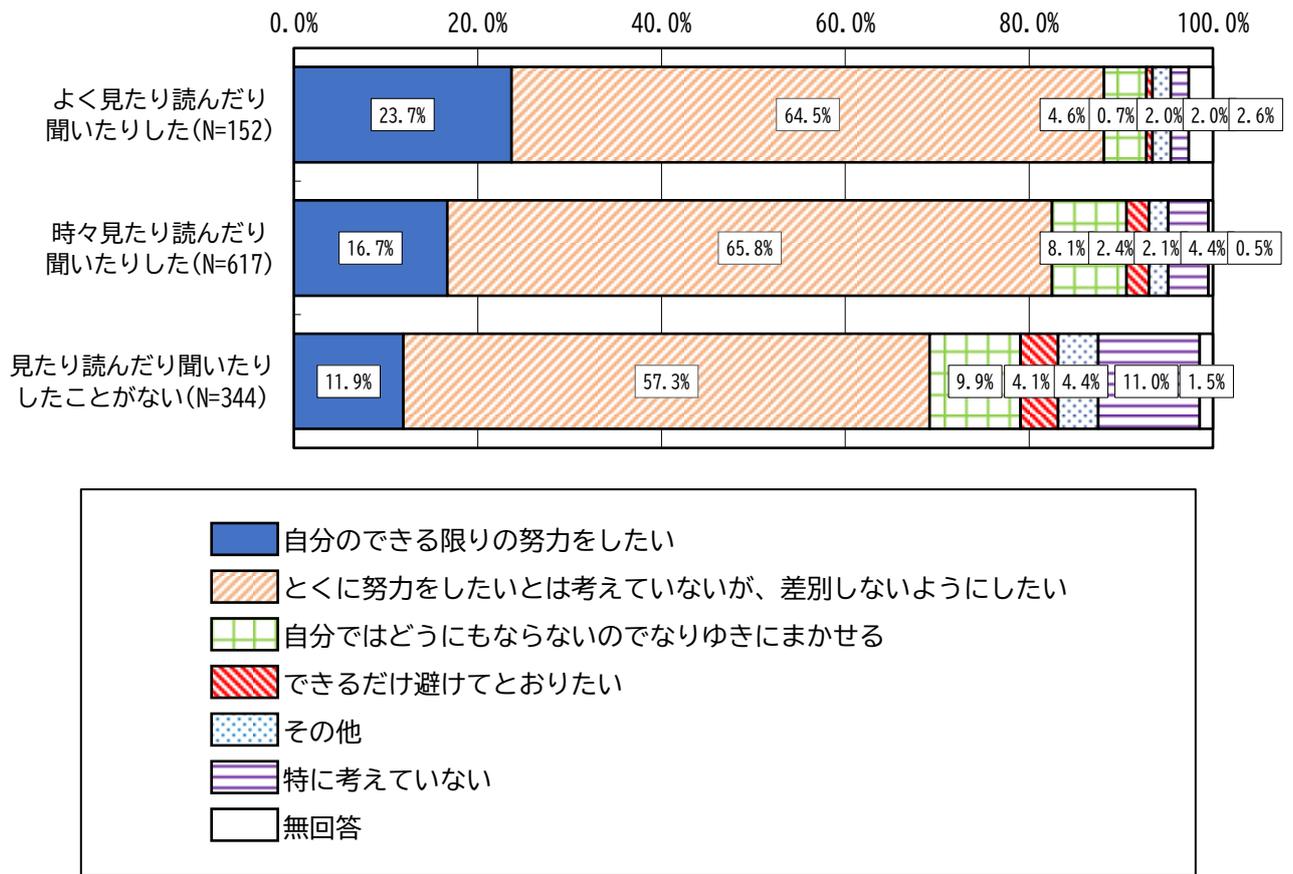
啓発活動への接触状況との関連性を見るため、「見たり読んだり聞いたりした」と答えた人の割合が最も高い「広報誌」と、以下の設問とのクロス分析を行った。

図 問 25 啓発活動への接触状況 (ア 広報誌) × 問 21 同和問題の解決方法についての考え方 (ケ 同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる)



広報誌への接触状況が高い人ほど、「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」という考え方について、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた「そう思わない」と答えた人の割合が高くなっている。

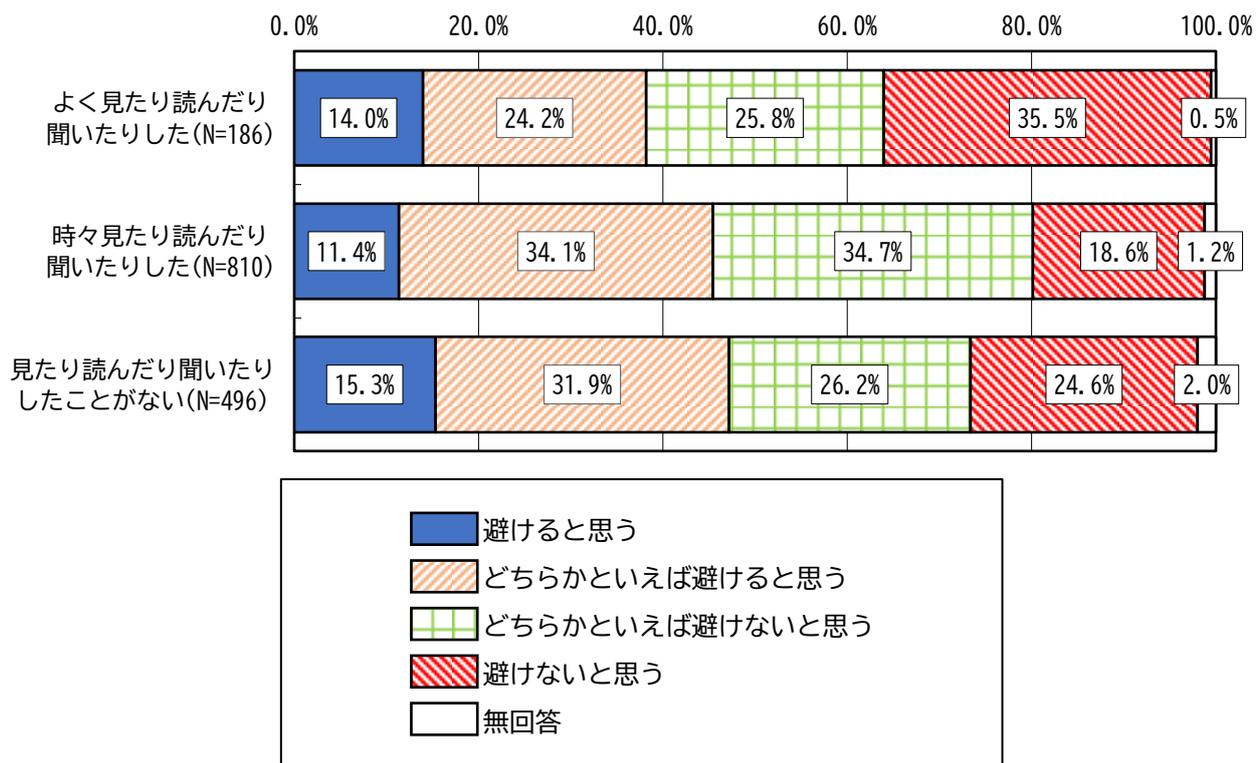
図 問 25 啓発活動への接触状況（ア 広報誌） × 問 22 同和問題解決に向けての思い



広報誌への接触状況が高い人ほど、同和問題の解決に向けて「自分のできる限りの努力をしたい」と答えた人の割合が高くなっている。

図 問 25 啓発活動への接触状況
(ア 広報誌)

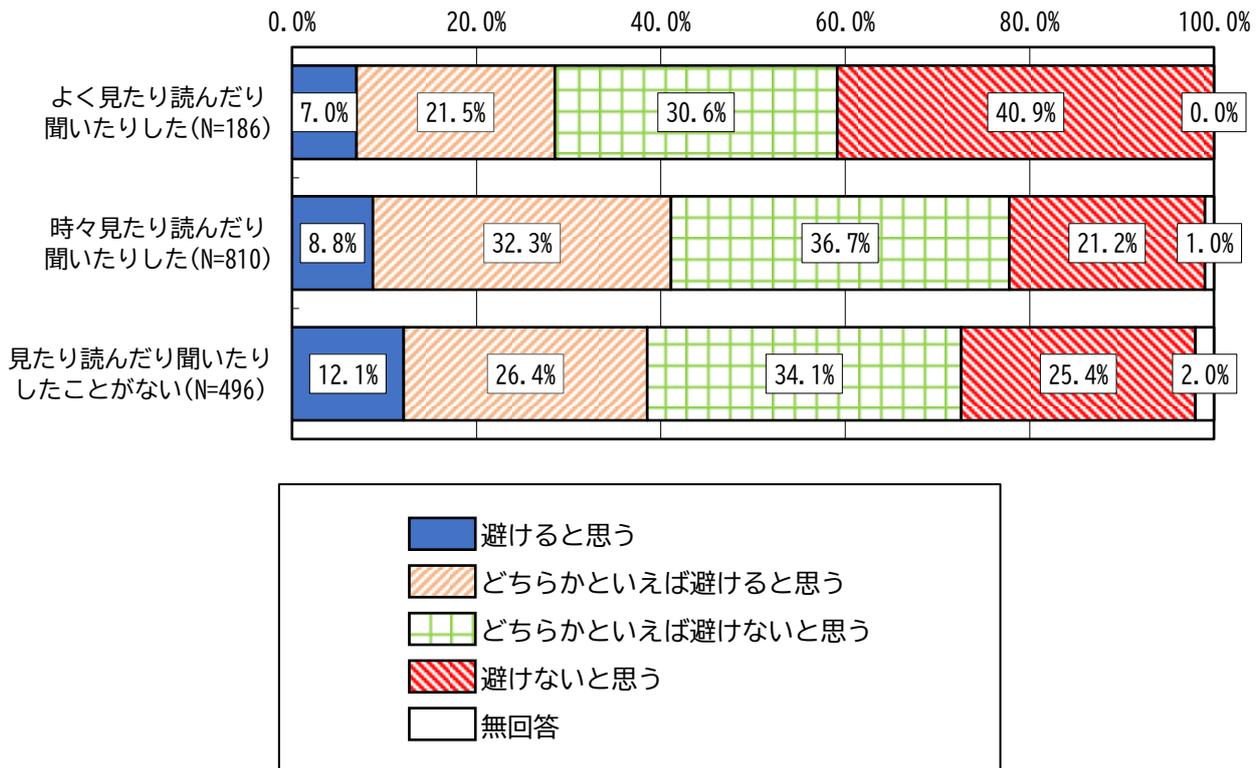
× 問 24 住宅を選ぶ際に忌避する条件
(ア 近隣に同和地区がある)



広報誌を「よく見たり読んだり聞いたりした」人は「時々見たり読んだり聞いたりした」「見たり読んだり聞いたりしたことがない」と比べ、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”と答えた人の割合が高くなっている。

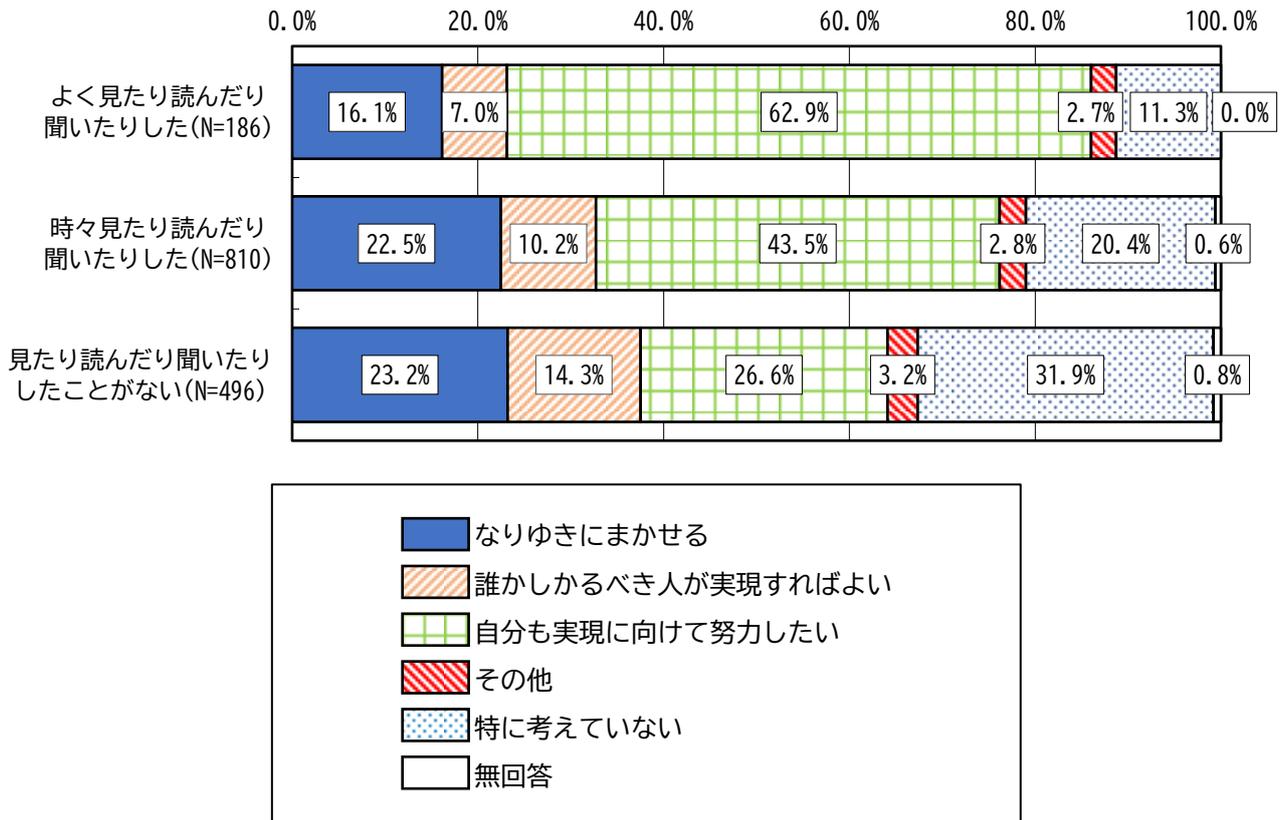
図 問 25 啓発活動への接触状況
(ア 広報誌)

× 問 24 住宅を選ぶ際に忌避する条件
(エ 近くに精神科病院や障害者施設がある)



広報誌を「よく見たり読んだり聞いたりした」人は「時々見たり読んだり聞いたりした」「見たり読んだり聞いたりしたことがない」人と比べ、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”と答えた人の割合が高くなっている。

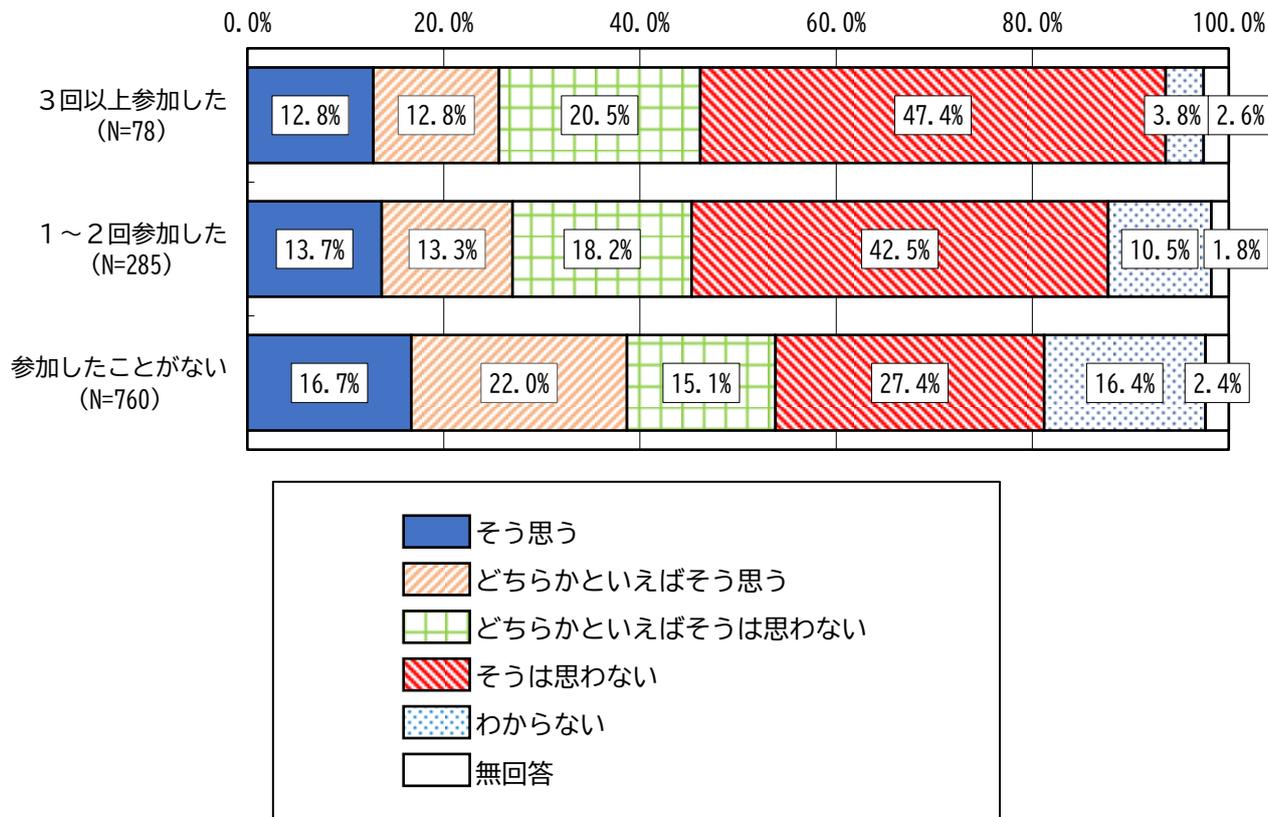
図 問 25 啓発活動への接触状況（ア 広報誌） × 問 27(1) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方



広報誌の接触状況が高い人ほど、人権が尊重される社会の実現に向けて「自分も実現に向けて努力したい」と答えた人の割合が高くなっている。

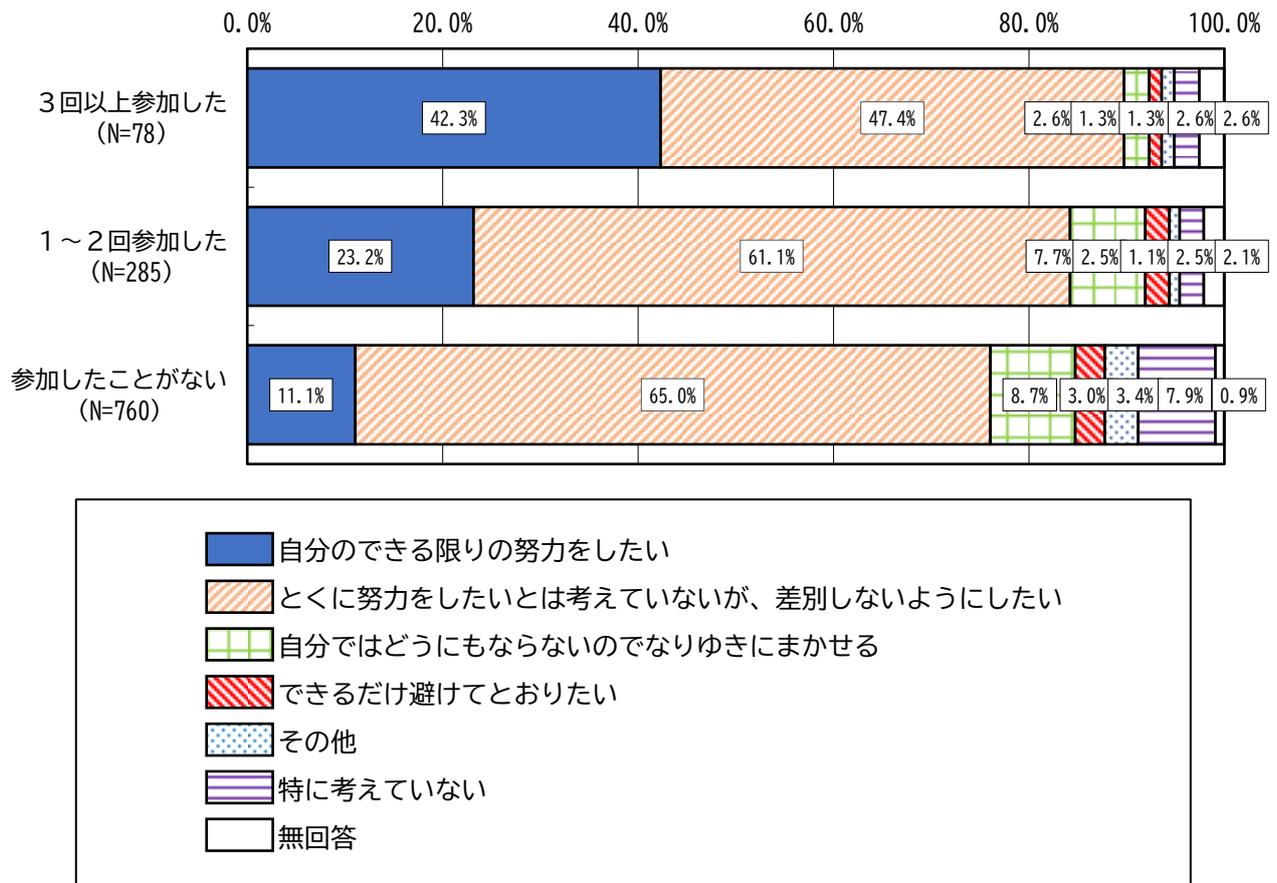
講演会・研修会等への参加状況との関連性を見るため、以下の設問とのクロス分析を行った。

図 問 26 講演会・研修会等への参加状況 × 問 21 同和問題の解決方法についての考え方
 (ケ 同和問題のことなど口に出さず、そっとおけば、差別は自然になくなる)



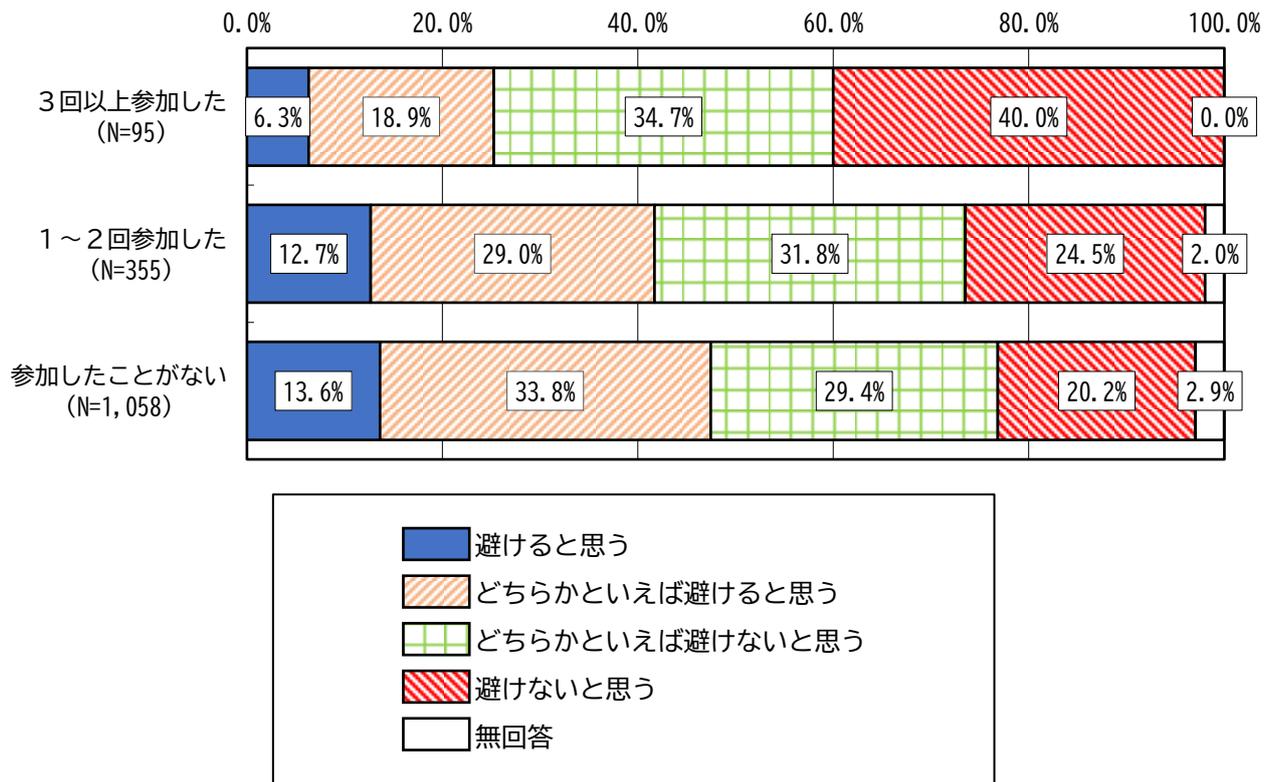
講演会・研修会等に参加する回数が多い人ほど、「同和問題のことなど口に出さず、そっとおけば、差別は自然になくなる」という考え方について、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた「そう思わない」と答えた人の割合が高くなっている。

図 問 26 講演会・研修会等への参加状況 × 問 22 同和問題解決に向けての思い



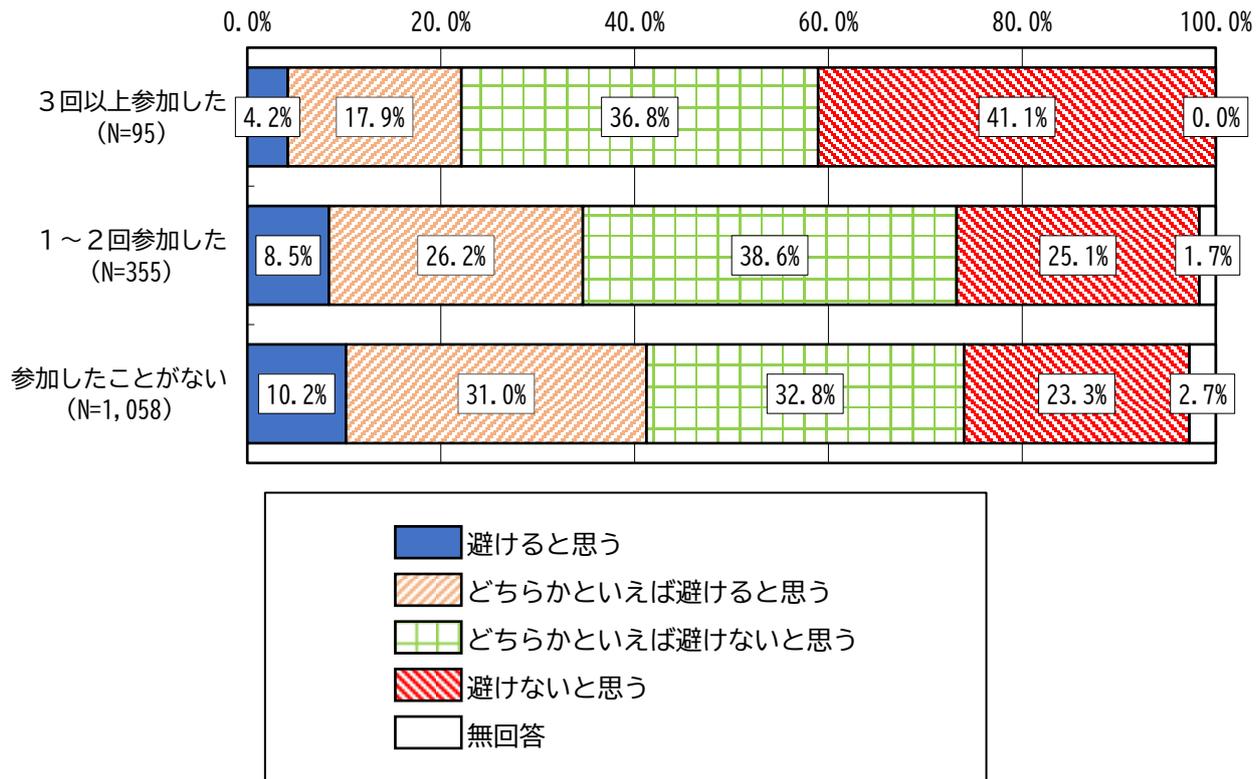
講演会・研修会等に参加する回数が多い人ほど、同和問題の解決に向けて「自分のできる限りの努力をしたい」と答えた人の割合が高くなっている。

図 問 26 講演会・研修会等への参加状況 × 問 24 住宅を選ぶ際に忌避する条件 (ア 近隣に同和地区がある)



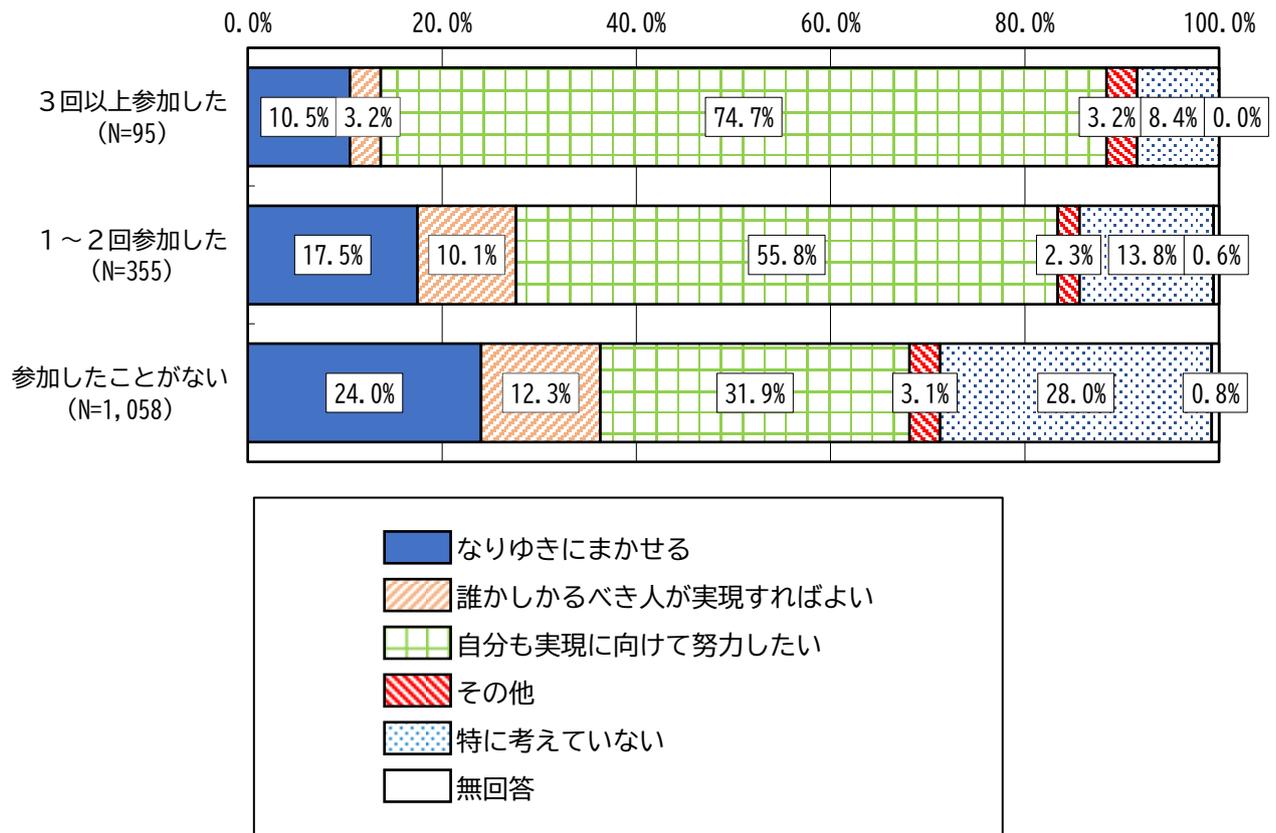
講演会・研修会等に参加する回数が多い人ほど、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた「避けない」と答えた人の割合が高くなっている。

図 問 26 講演会・研修会等への参加状況 × 問 24 住宅を選ぶ際に忌避する条件
 (工 近くに精神科病院や障害者施設がある)



講演会・研修会等に参加する回数が多い人ほど、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”と答えた人の割合が高くなっている。

図 問 26 講演会・研修会等への参加状況 × 問 27 (1) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方



講演会・研修会等に参加する回数が多い人ほど、人権が尊重される社会の実現に向けて「自分も実現に向けて努力したい」と答えた人の割合が高くなっている。